

令和6年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
沖縄・観光分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業

事業報告書

2025年2月

学校法人 KBC学園
インターナショナルリゾートカレッジ

本報告書は、文部科学省の専修学校による地域産業中核人材養成事業による委託事業として、学校法人KBC学園インターナショナルリゾートカレッジが実施した、令和6年度「沖縄・観光分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業」の成果をとりまとめたものです。

目次

1 事業の概要	
1.1 実施体制	1
1.2 事業の趣旨	2
1.3 令和6年度の活動	3
2 第一回連携プログラム開発検討委員会	
2.1 観光系学生のキャリア教育追跡調査と職業観調査について	5
2.2 職場見学・職場体験・インターンシップなどの問題点と キャリア教育効果について	9
2.3 高校生の職業意識に関する調査(前期)	11
2.4 小禄高校の進路希望に関する調査(他事業調査分)	32
2.5 委員意見	34
3 第二回連携プログラム開発検討委員会	
3.1 具志川商業高等学校職業イメージ変容調査 語学を使う仕事	36
3.2 具志川商業高等学校職業イメージ変容調査 ホテルブライダル業	55
3.3 中部商業高等学校 職場見学報告	73
3.4 観光系大学専門学校生のキャリア教育実態調査結果(質問紙)	82
3.5 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校アンケート調査結果	100
3.6 沖縄キリスト教学院大学 アンケート調査結果	107
3.7 Irc インターナショナルリゾートカレッジ アンケート調査結果	112
3.8 観光人材育成の為に産学連携キャリア教育の在り方 意見交換	121
4 第三回連携プログラム開発検討委員会	
4.1 キャリア教育実態調査結果(面接) 沖縄キリスト教学院大学	123
4.2 キャリア教育実態調査結果(面接) Irc	127
4.3 R6年度の事業総括とR7年度事業に向けた意見交換	131
5 第三回連携プログラム開発検討委員会以降に実施した調査	
5.1 具志川商業高等学校職業意識プログラム前後調査	133
5.2 インターンシップ・ジョブシャドウイング受入企業調査	154

議事録

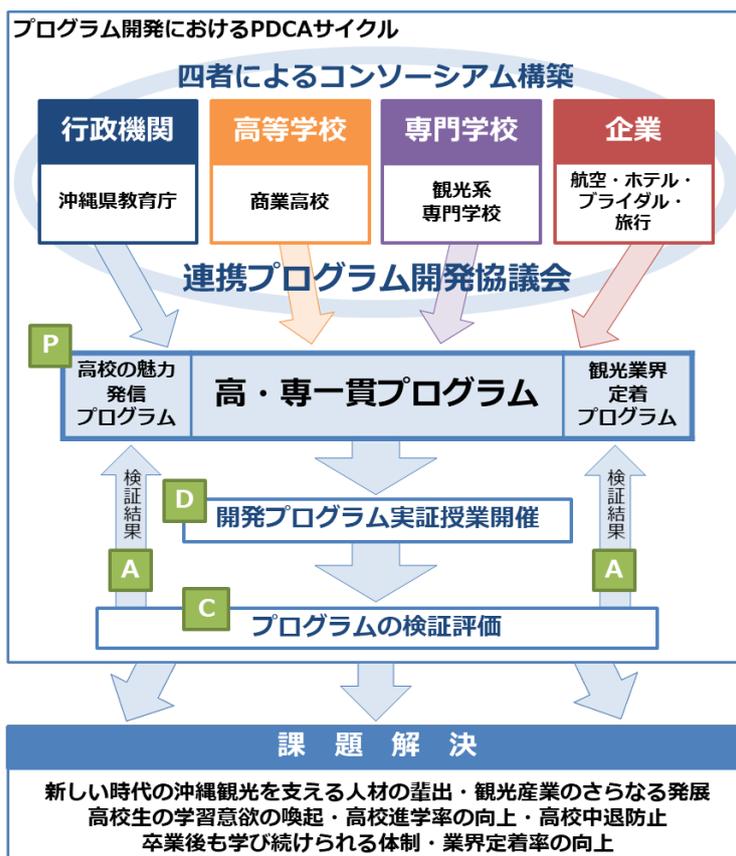
第1回プログラム検討委員会	183
第2回プログラム検討委員会	189
第3回プログラム検討委員会	195

1 事業の概要

1.1 実施体制

行政機関、高等学校、企業、専門学校四者によるコンソーシアムを構築。「連携プログラム開発協議会」を設立し、高・専一貫プログラムの計画を立案する。

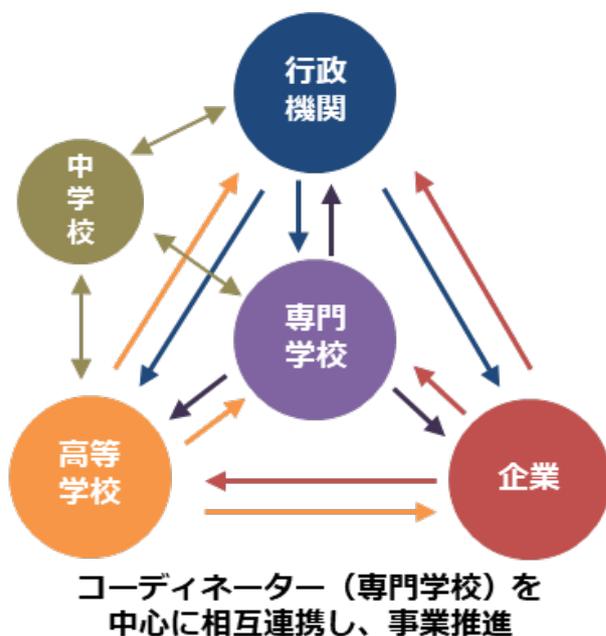
計画を基に開発プログラム実証授業を開催し、プログラムの検証評価委員会によってプログラムの評価を行う。検証結果を基に新たな計画に反映させ実証授業を行う。このPDCAサイクルを有機的に機能させ、実効性・教育効果の高い連携プログラムを開発する。



1.2 事業の趣旨

開発プログラムは「高校生」「専門学校生」はもちろん、高校と専門学校の前後に位置する「中学生」及び「社会人」も包括する。時系列に見ると、中学と高校の橋渡しとして「高校の魅力発信プログラム」を開発。開発プログラムにより中学生にとっても魅力的な高校となり、地域課題である高校進学率の向上、高校中退防止に繋げる。次に、高校と専門学校で5年かけて学ぶ「高・専一貫プログラム」を開発。共通目標と一貫したカリキュラムを構築し、県経済をけん引する沖縄の観光産業を支える専門人材を育成する。そして、専門学校卒業後も学び続けられる体制づくりとして「観光業界定着プログラム」を開発。離職を減らし、観光業界への定着率を向上する。卒業生の業界での活躍は高・専一貫プログラムで学ぶ高校生と専門学校生の身近な将来像であり、将来像の明確化は共通の目標設定や一貫したカリキュラムの重要な要素となる。

開発プログラムにより沖縄の自然や文化等ソフトパワーを生かした高付加価値の新しいツーリズムが開拓されること、そして、沖縄の自然や文化を守りながら沖縄が世界から選ばれる持続可能な観光地となることに寄与したい。



1.3 令和6年度の活動

1.3.1 令和6年度スケジュール

時期	連携プログラム開発協議会	高校向け実証授業	プログラム開発 (オンライン教材) (キャリア教材)	コーディネーター 業務
5月		実証授業		
6月		カリキュラム開発		
7月		実証授業		高校・行政・企業への周知、連携プログラム開発協議会運営 連携校、連携企業の開拓
8月	第1回開催			
9月				
10月		実証授業	(キャリア教材)	
11月	第2回開催	実証授業	(キャリア教材) (オンライン教材)	
12月		実証授業	(キャリア教材) (オンライン教材)	
1月	第3回開催	実証授業	(キャリア教材)	
2月				事業報告書作成

1.3.2 連携プログラム開発協議会の開催

高等学校、行政、専門学校、企業の四者による高専連携プログラム開発に向けた協議会を発足、プログラム開発に向けた委員会を開催する。ヒアリング調査の分析、課題及びニーズ整理、開発内容の選定を行う。

また、開発プログラムの課題整理、導入に向けた手順を整理する。

第1回委員会(8月開催):今年度スケジュール紹介、開発プログラム概要

第2回委員会(11月開催):実証授業開催報告、開発プログラム紹介

第3回委員会(1月開催):今年度成果報告、次年度方向性確認

<連携プログラム開発協議会委員>

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 大城 圭恵	沖縄県立具志川商業高等学校 教諭	委員	沖縄県
2 上里 勝紀	沖縄県教育庁県立学校教育課 産業教育班 指導主事	委員	沖縄県
3 立石 公平	学校法人静岡理工科大学静岡インターナショナル・エア・リゾート 専門学校教務課長	委員	静岡県
4 山城 秀康	株式会社国際旅行社 取締役総務部長	委員	沖縄県
5 高橋 俊博	タビック沖縄株式会社 ユニチホテル南城 管理部 戦略人事課長	委員	沖縄県
6 上本 貴史	沖縄ワタベウェディング株式会社 社長室 室長	委員	沖縄県
7 金城かおり	JAL スカイエアポート沖縄株式会社 地域事業推進室 室長	委員	沖縄県
8 永村 勇樹	学校法人KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ 事務 局長	委員長	沖縄県
9 田村 明子	学校法人KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ 教務 部長	委員	沖縄県
10 新里 玲子	学校法人KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ 教務 課長	委員	沖縄県
11 吉原亜矢子	学校法人KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ 教務 課長	委員	沖縄県
12 宮城 良之	学校法人KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ 就職 担当	委員	沖縄県
13 国仲陵太郎	学園本部 経営企画室 支援部 部長	委員	沖縄県
14 仲宗根 真	学園本部 経営企画室	事務局	沖縄県
15 玉城 薫	学園本部 地域創生室	委員	沖縄県

1.3.3 実証授業の開催

具志川商業高校にて実証授業を開催(令和5年5月、7月、10月、令和6年1月予定)

高校1年生向け:1回開催

高校2年生向け:4回開催

インターナショナルリゾートカレッジにて実証授業を開催(令和5年12月予定)

専門学校生向け:年 1 回開催

1.3.4 プログラム開発

観光分野職業理解ための高校生向けキャリア教育教材制作(50分授業×3コマ分)
キャリア教育のための観光業界周知インタビュー動画制作(5セット)

1.3.5 コーディネーター業務

連携校・連携企業の開拓、高等学校・行政・企業の橋渡し

2 第一回連携プログラム開発検討委員会

令和6年度事業計画の検討、キャリア教育調査、ジョブシャドウイング、実証授業結果報告と検討を行った。

2.1 観光系学生のキャリア教育追跡調査と職業観調査について

①Web調査について

Q1、Q2は、「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書(2013):国立教育政策研究生徒指導・進路指導研究センター」の調査項目より抜粋し、観光系に進学した学生の高校キャリア教育の追跡調査を行います。この結果を、令和6～8年度文科省事業「高専連携」で実施する、高校に行うキャリア教育プログラムに反映させます。

Q3は、進路動機に関する調査、Q4は、学生の職業意識調査で、大学や専門学校に進学した学生の差や専門学校間の差を明らかにします。(資料1参照)

Q5は、令和5年度より沖縄の高校生(具志川商業・南部商業・中部農林)に実施している職業意識調査です。(国立青少年教育振興機構:「高校生の進路と職業意識に関する国際比較(日本・米国・中国・韓国)調査」の調査項目より抜粋しています)

②グループ面接調査について

大学生(1年生) 3人1グループを、3グループ(計9名)実施(1グループ 30分)

専門学校(1年生) 3人1グループを、3グループ(計9名)を2校実施(1グループ 30分)

調査対象

いわゆる「優秀」な学生に偏らないように、ご配慮願います。可能な限り教員から見て目的意識がはっきりしている学生のグループ、普通の学生のグループ、あまり持っていない学生のグループで組んでください。

時期

3校の調査時期は、夏休み明け(秋)を想定しています。3校の調査は同時期(1ヶ月内)に行います。

観光系学生のキャリア教育追跡調査と職業観(Web 調査項目)

Q1 高校時代、進路や将来の生き方、職業を考える上で役に立った学習や指導は何ですか？当てはまるものにチェックをしてください。

	役に立った	役に立たなかった	受けていない
1 日々の授業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 クラスの委員会活動や生徒会活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 部活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 職場の見学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 職場の就業体験(インターンシップ)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 ボランティア活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 大学や専門学校へのオープンキャンパス	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 大学や専門学校への体験入学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 社会人や職業人の講話・講演	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 大学や専門学校の先生の講話・講演	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 卒業生の話し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 先生の話し	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 学ぶことや働くことの意義の授業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 自分の個性や適正を見つめる学習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 卒業後の進路(就職・進学)相談	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 将来の職業選択や人生設計	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 大学や専門学校の合格可能性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 社会人のマナーや常識	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q2 高校時代、進路や将来の生き方、職業を考える上で、指導して欲しかった・受けたかった授業は何ですか？当てはまるものはいくつでもチェックしてください。

	指導して欲しかった・受けたかった授業
1 実際の企業で働く人の様子を近くで見えたかった(職場見学)	<input type="checkbox"/>
2 実際の企業の中で、一緒に働いてみたかった(就業体験)	<input type="checkbox"/>
3 社会人や職業人の講話・講演が聞きたかった	<input type="checkbox"/>
4 大学や専門学校の先生の講話・講演が聞きたかった	<input type="checkbox"/>
5 卒業生の話しが聞きたかった	<input type="checkbox"/>
6 学ぶことや働くことの意義や意味を考える授業	<input type="checkbox"/>
7 自分の個性や適正を見つめる授業	<input type="checkbox"/>
8 卒業後の進路(就職・進学)相談	<input type="checkbox"/>
9 将来の職業選択や人生設計の方法が知りたかった	<input type="checkbox"/>
10 社会人としての常識やマナー	<input type="checkbox"/>
11 大学や専門学校の教育内容や特色の比較の仕方	<input type="checkbox"/>
12 産業のしくみや世の中の仕事の種類	<input type="checkbox"/>
13 働くことのつらさやよろこび	<input type="checkbox"/>

Q3 現在の観光系の大学・専門学校で学ぼうと思った理由を教えてください。当てはまるものにいくつでもチェックしてください。

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 観光の勉強をしたかったから | <input type="checkbox"/> |
| 2 歴史や文化の勉強をしたかったから | <input type="checkbox"/> |
| 3 希望する職業に就きたかったから | <input type="checkbox"/> |
| 4 語学を身に付けたかったから | <input type="checkbox"/> |
| 5 ホスピタリティを身に付けたかったから | <input type="checkbox"/> |
| 6 留学をしたかったから | <input type="checkbox"/> |
| 7 観光業界は将来性があるから | <input type="checkbox"/> |
| 8 自分の長所が生かせそうだから | <input type="checkbox"/> |
| 9 高校の先生の勧めで | <input type="checkbox"/> |
| 10 自分に学力に合っていたから | <input type="checkbox"/> |
| 11 第一志望の進学先に落ちたから | <input type="checkbox"/> |
| 12 その他 | <input type="checkbox"/> |

Q4 現在、就職を希望している業界を教えてください。当てはまるものにいくつでもチェックしてください。

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| 1 宿泊業界(ホテル・旅館など) | <input type="checkbox"/> |
| 2 旅行業界(旅行会社・旅行代理店など) | <input type="checkbox"/> |
| 3 プライダル業界 | <input type="checkbox"/> |
| 4 航空業界(CA, GS, GH[グランドハンドリング]など) | <input type="checkbox"/> |
| 5 語学を使う仕事 | <input type="checkbox"/> |
| 6 スポーツ・レジャー・エンターテインメント業界 | <input type="checkbox"/> |
| 7 ツアーガイド | <input type="checkbox"/> |
| 8 公務員・団体職員 | <input type="checkbox"/> |
| 9 観光業界にこだわっていない | <input type="checkbox"/> |
| 10 まだ考えていない | <input type="checkbox"/> |

Q5 あなたは、現在自分には下のような力がどのくらいあると思いますか。それぞれの力について当てはまるところにチェックをつけてください。

※以下の項目をとともある、まあある、あまりない、全くないの4段階でチェック

- 1.人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力
- 2.目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力
- 3.言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力
- 4.目標を達成するために解決すべき問題を見つける力
- 5.目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力
- 6.解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力
- 7.自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力
- 8.人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力
- 9.自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力
- 10.グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力
- 11.集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力
- 12.自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力
- 13.学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力
- 14.自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力
- 15.伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力

②観光系学生のインタビュー調査基本項目(グループ面接)

1. 高校時代、進路や将来の生き方、職業を考える上で役に立った学習や指導、体験は何ですか？
例) 自己分析、オープンキャンパス、先生の進路相談、職場見学、職業人講話など

2. 高校時代、進路や将来の生き方、職業を考える上で時間を取って欲しかったことは何ですか？
例) 自己分析、オープンキャンパス、先生の進路相談、職場見学、職業人講話など

3. ジョブ・シャドーイング(職場見学)をするとしたら、どんな職場のどんな職業の人を観察したいですか？
※ジョブ・シャドーイング:2時間程度、学びの対象の人(ロールモデル)の「行動」「態度」「言動」「対応」「現場の雰囲気」を影のように間近で観察し、「仕事の内容や意義」「自分に足りない能力」に気づき学ぶこと

4. インターンシップ(就業体験)をするとしたら、どんな職場のどんな仕事をどのくらい(期間)、体験したいですか？

5. 今、あなたが自覚している、仕事をする上で特に足りないと思う能力は何ですか。3つ選んでください。

1. 人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力
2. 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力
3. 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力
4. 目標を達成するために解決すべき問題を見つける力
5. 目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力
6. 解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力
7. 自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力
8. 人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力
9. 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力
10. グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力
11. 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力
12. 自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力
13. 学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力
14. 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力
15. 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力

2.2 職場見学・職場体験・インターンシップなどの問題点とキャリア教育効果について

①受入側(企業)・体験側(学生生徒)・コーディネート側(教員)の目的のミスマッチ

大学インターンシップの例

企業側視点(東京大学社会科学研究所 2014)

- ①新卒採用効果(56%)
- ②従業員の指導力育成効果(42%)
- ③会社の認知度向上(40%)
- ④職場の活性化(38%)

学生側視点(リクルート調査 2024)

- ①業界・企業・職種理解が深まった(79%)
- ②自己分析を深めた(48%)
- ③就活の予行練習(45%)
- ④社会人とのコミュニケーションに慣れた(32%)

キャリア教育と職業教育の関係

	育成する力	教育活動
キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度	普通教育、専門教育を問わず、様々な教育活動の中で実施される。職業教育も含まれる。
職業教育	一定または特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度	具体の職業に関する教育を通して行われる。この教育は、職業的、社会的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成する上でも、極めて有効である。

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成 23 年1月 31 日)より プランプラン編集部が作成

②高校生の職業観形成効果(高校生の職業形成におけるインターンシップの効果:信州大学大学院ほか 2007)

1. 自分の能力や適性にあった職業を知っていますか
2. 他人の考えや個性を尊重しますか
3. 互いに支えあい分かり合える友人がいますか
4. 自分の意見を他人に伝え他人の意見を理解できますか
5. リーダーやフォロワーになり、チームワークを大切にできますか
6. 新しい人間関係や環境にすぐに慣れますか
7. 卒業後の進路、職業や産業の動きを知る情報収集しましたか
8. 職業に就く手続き・方法がわかっていますか
9. 調べたことをまとめたりして発表できますか
10. 仕事体験や学習体験(大学など)に取り組みましたか
11. 社会規範・ルール・マナー等の大切さがわかりますか
12. 職業や勤労(働くこと)についての理解がありますか
13. 与えられた仕事や役割をやりとげますか
14. 自分の役割と責任を果たしますか
15. 将来設計ができ、そこから自分の学ぶ目的を作れますか
16. 生きがいを活かせる進路を考えていますか
17. 将来の計画をたて進路実現しようとしていますか
18. 将来設計、進路計画の見直しや再検討をしていますか
19. 仕事を選ぶ自分の基準=職業観・勤労観がありますか
20. 自分で進路実現に必要な学習を選択しようとしていますか
21. 進路実現のための条件や課題がつかめていますか
22. 進路実現のための課題を作ってその解決を目指していますか
23. 自分の課題を知っていますか
24. 課題や困難を克服するスキル(技術)を持っていますか

もっとも自分に変化があったのはどれですか(ひとつ選択)

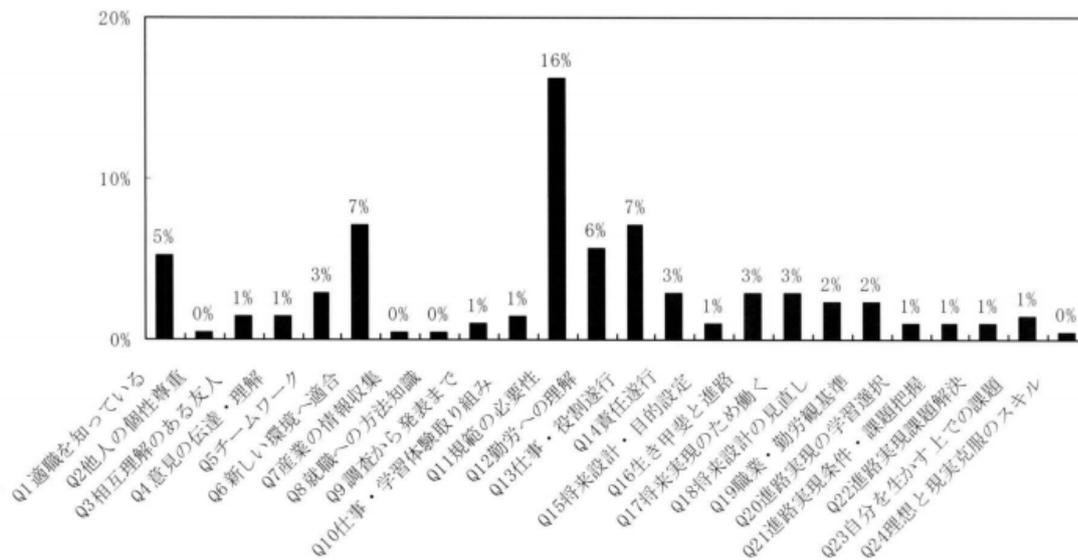


図4 インターンシップ後、もっとも自分に変化があった項目

企業:従業員への指導力、従業員のモチベーションを向上させるプログラム
 高校生:自分を振り返り、自己成長計画を立て実行できるプログラム

2.3 高校生の職業意識に関する調査(前期)

2.3.1 調査の目的

令和5年度「沖縄・観光分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業」の教育効果測定をするために、高校生の職業意識がプログラム前後の変化を調査する。また、独立行政法人国立青少年教育振興機構「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-」の調査項目を一部取り入れ、全国の高校生と比較する。

2.3.2 調査方法等

	南部商業高校	具志川商業高校	国立青少年教育振興機構
調査時期	2023年7月/2月	2023年7月/2月	2022年9~2023年1月
有効回答数	23/	36/	4822
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
調査地域	-	-	全国21地域28校

2.3.3 調査対象基本属性

	南部商業高校	具志川商業高校	国立青少年教育振興機構
男女比	男4% 女96%	男0% 女100%	男47% 女50%
学年	1年:0% 2年:100% 3年:0%	1年:0% 2年:100% 3年:0%	1年:38.8% 2年:31.4% 3年:29.5%

2.3.4 南部商業・具志川商業高校プログラム前調査

南部商業高校

日時 7月10日

対象 観光コース 2年生

人数 23名(男1女22)

具志川商業高校

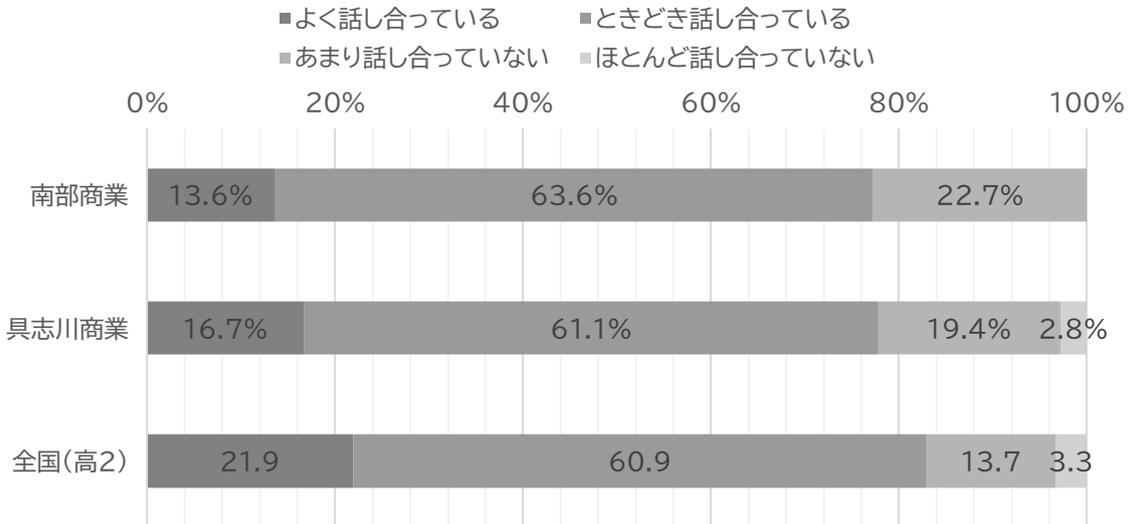
日時 7月20日

対象 リゾート観光科 2年生

人数 36名(男0女36)

2.3.5 将来の生き方や進路についての保護者との会話

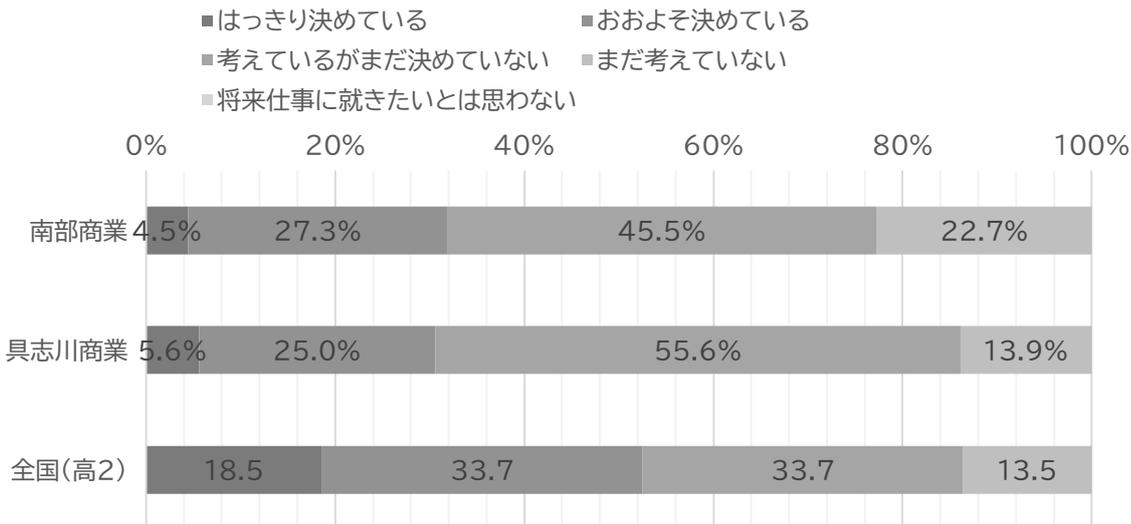
将来の生き方や進路について保護者と「よく話し合っている」「ときどき話し合っている」と回答した割合は約 8 割だった。また、全国と比較すると「よく話し合っている」が低かった。
 ※全国データは、高校2年生のデータ



将来の生き方や進路についての保護者との会話

2.3.6 将来希望する職業を決めているか

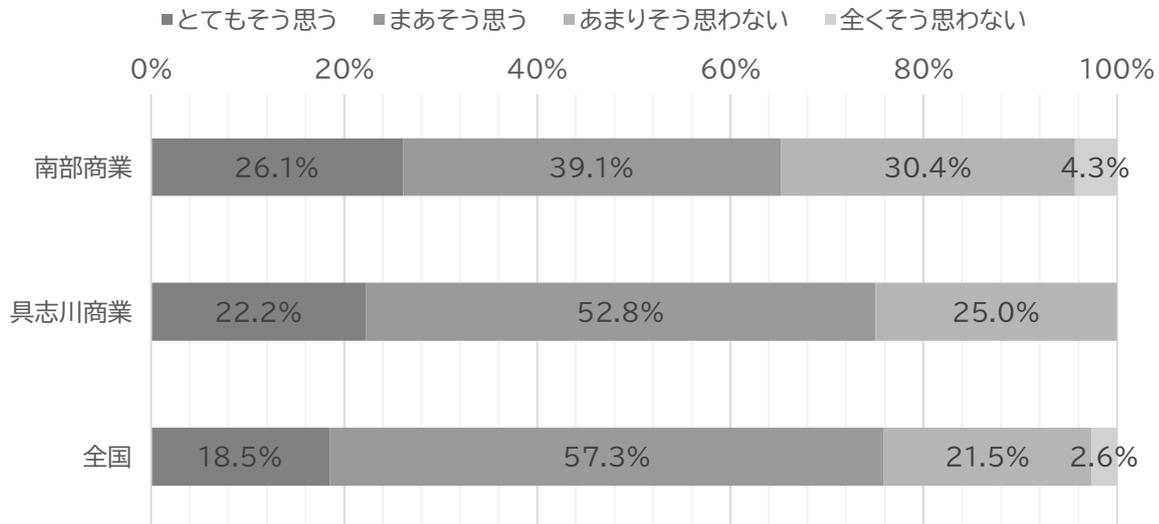
将来希望する職業を、「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と回答した割合は約 3 割だった。全国の半数以上(52.2%)に対し低かった。
 ※全国データは、高校2年生のデータ



将来希望する職業を決めているか

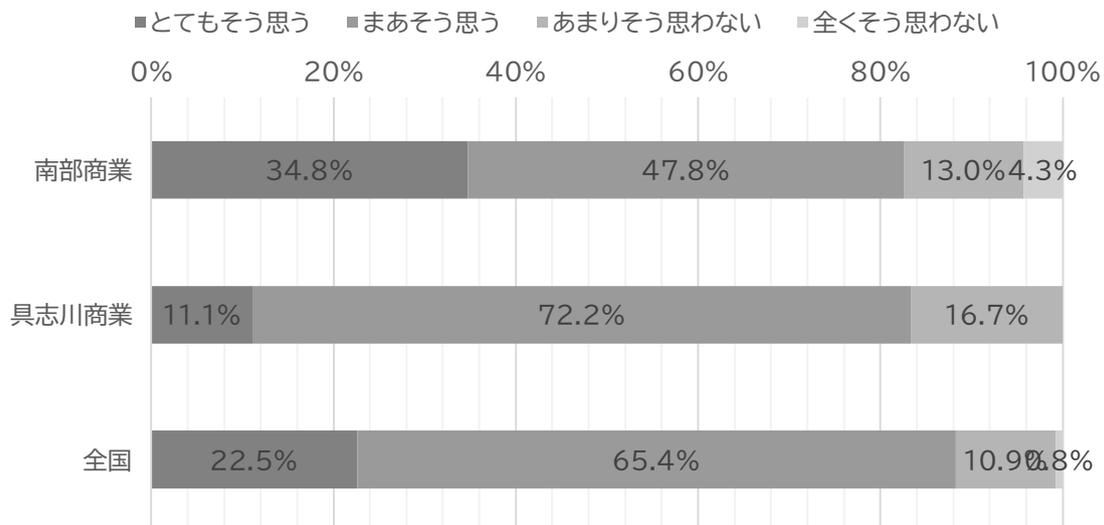
2.3.7 「仕事」「働くこと」のイメージ

「楽しい」について、「とてもそう思う」が全国と比較すると多い。南部商業は、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が34.7%で、全国(24.1%)より多かった。
※全国データは、男女比調整データ



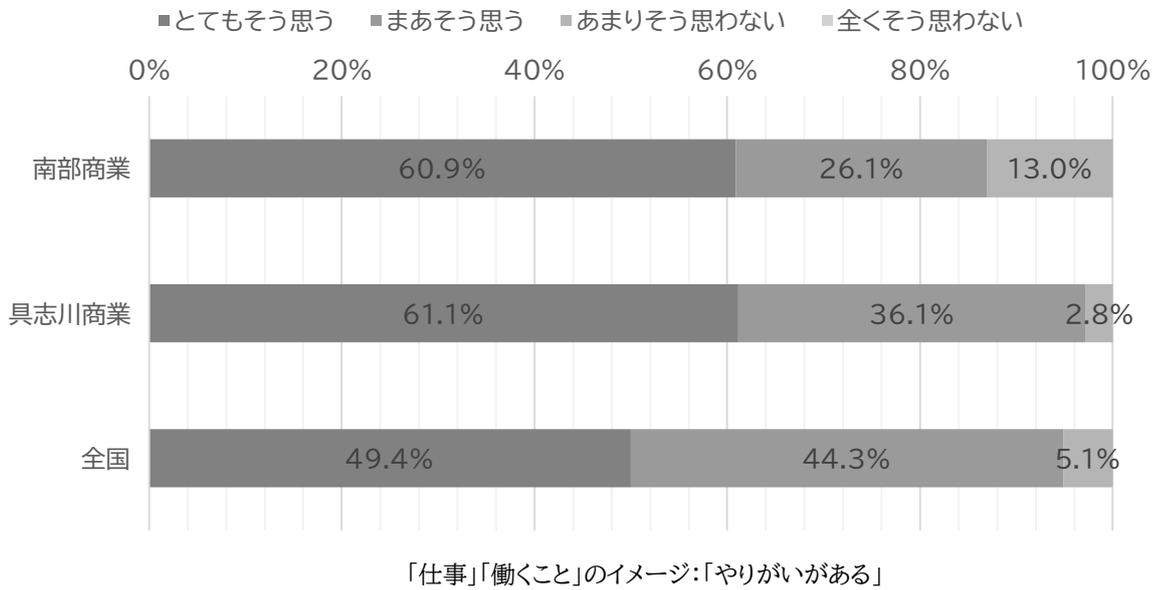
「仕事」「働くこと」のイメージ:「楽しい」

「苦しい」について、「とてもそう思う」が全国と比較すると多かった。南部商業は「とてもそう思う」が多く、具志川商業は「とてもそう思う」が少なかった。
※全国データは、男女比調整データ

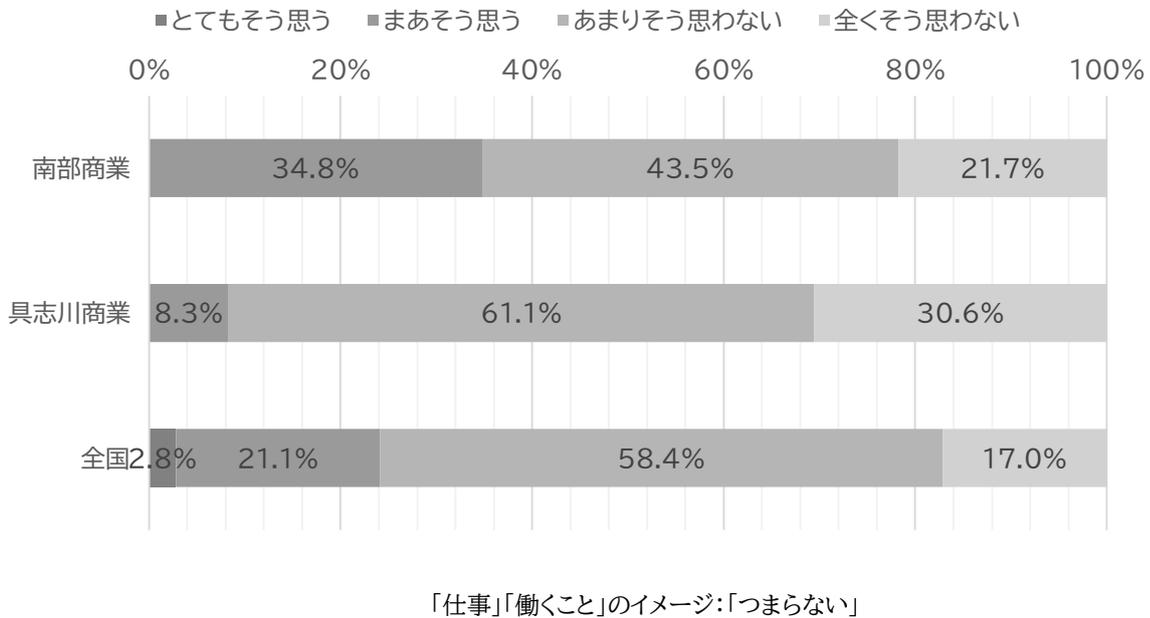


「仕事」「働くこと」のイメージ:「苦しい」

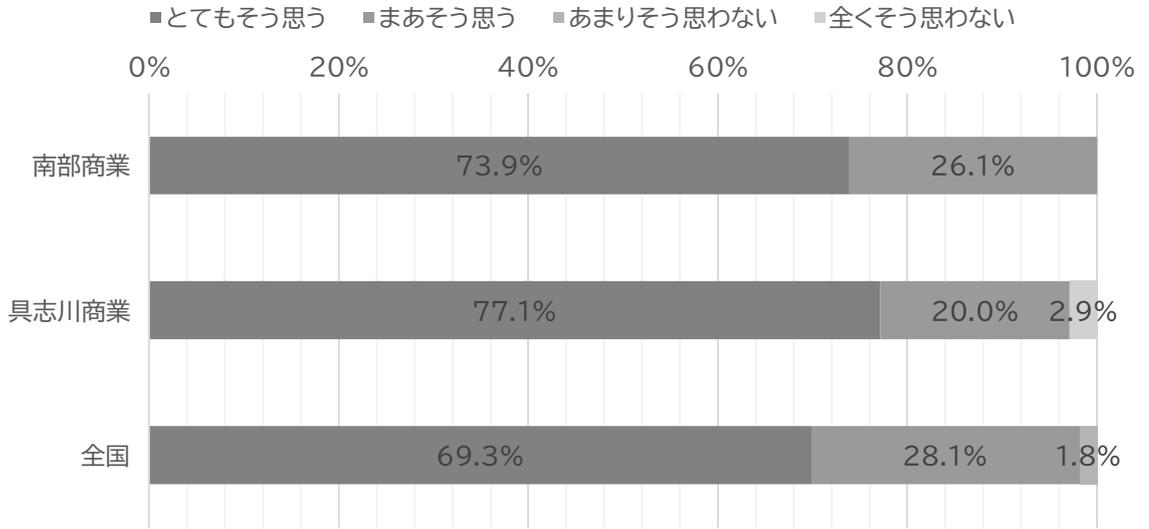
「やりがいがある」について、「とてもそう思う」が全国と比較すると多かった。南部商業は、「あまりそう思わない」が13.0%だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



「つまらない」について、南部商業は、「まあそう思う」が3分の1(34.8%)だった。具志川商業は8.3%で少なく、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が9割を超えた。
 ※全国データは、男女比調整データ

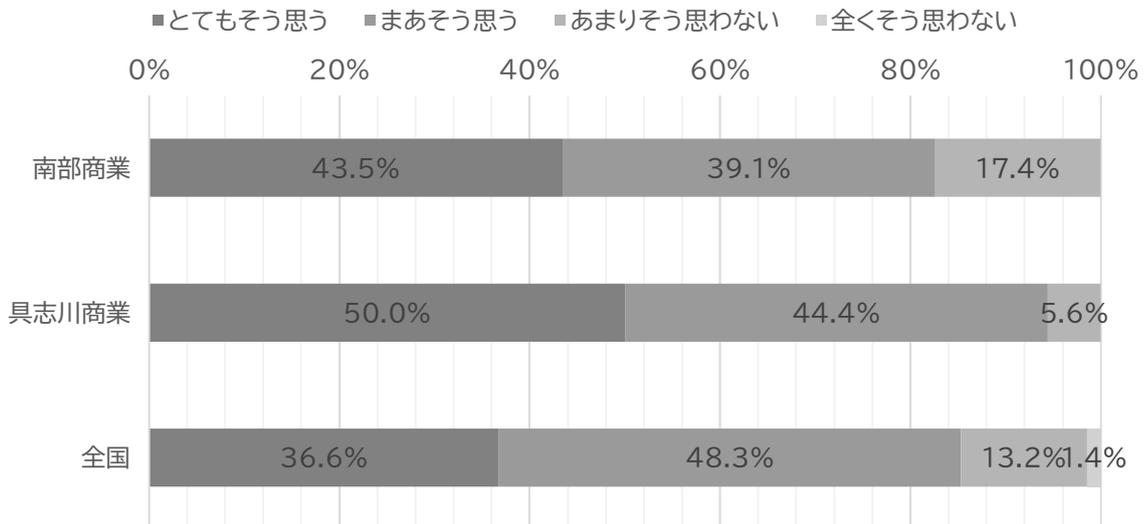


「生活のため」について、「とてもそう思う」が全国より多かった。
 ※全国データは、男女比調整データ



「仕事」「働くこと」のイメージ:「生活のため」

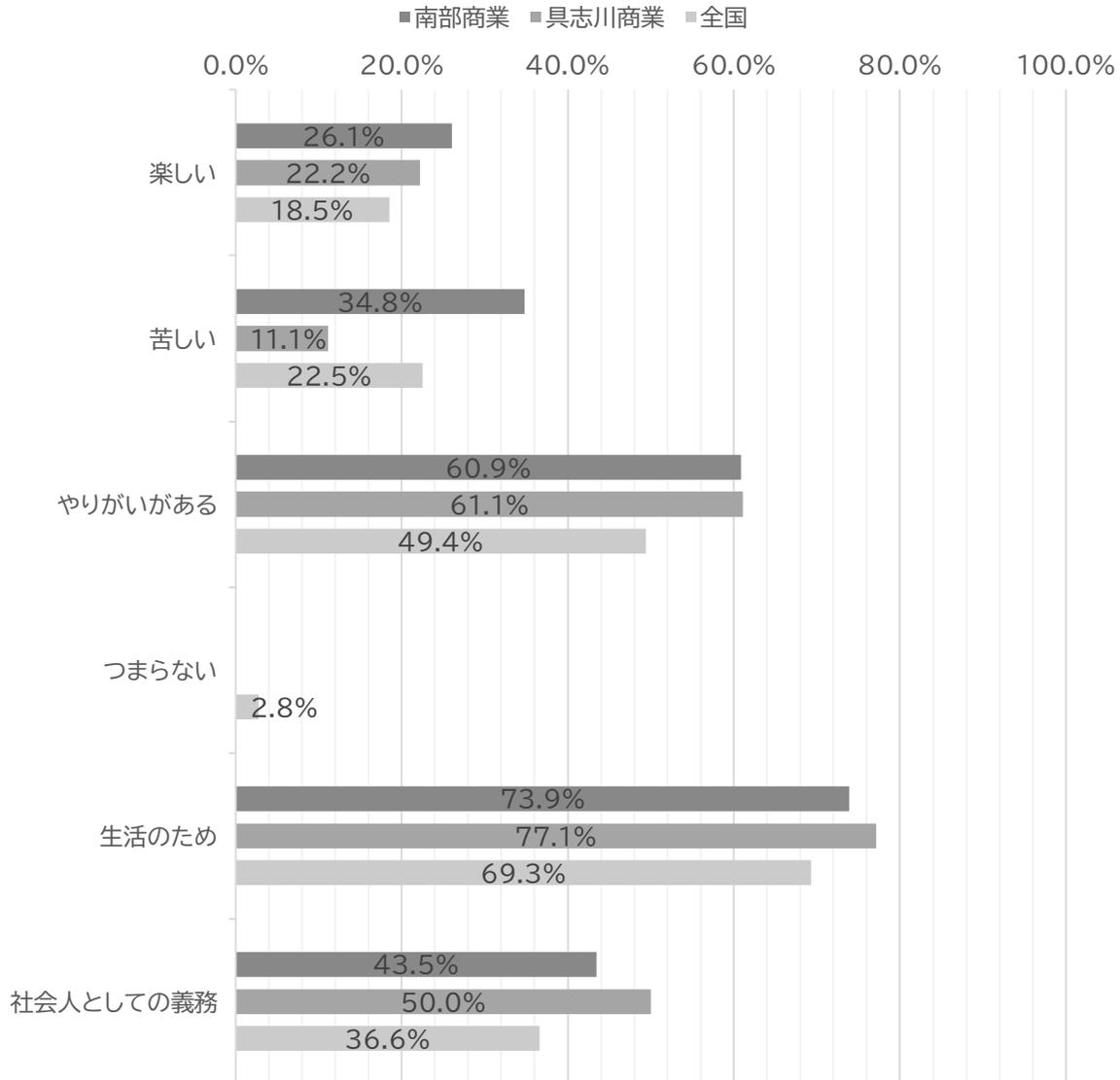
「社会人としての義務」について、「とてもそう思う」が多く、具志川商業は50%だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



「仕事」「働くこと」のイメージ:「社会人としての義務」

働くことのイメージの6項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

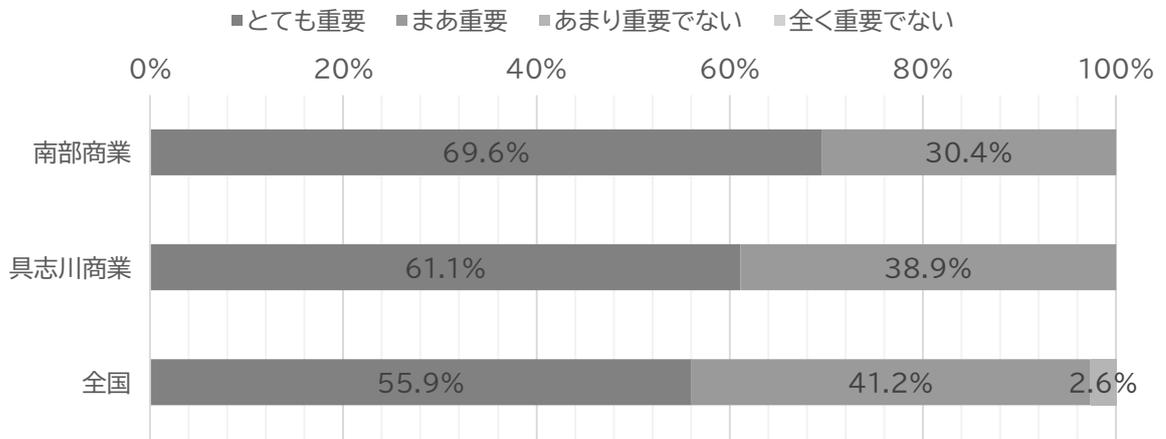
南部商業は、「生活のため」、「やりがいがある」「社会人としての義務」「苦しい」「楽しい」という順番で全国と同じだった。具志川商業は、「楽しい」が「苦しい」を上回った。南部商業の、「苦しい」は全国の1.5倍だった。
※全国データは、男女比調整データ



「仕事」「働くこと」のイメージで「とてもそう思う」と回答した割合

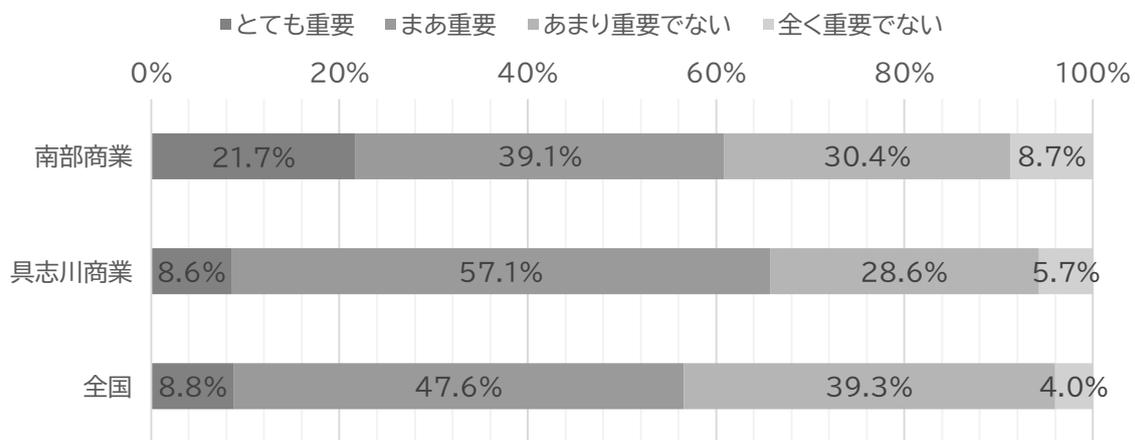
2.3.8 職業を選ぶにあたって重視すること

「収入」について、「とても重要」が全国(55.9%)と比較すると多かった。
※全国データは、男女比調整データ



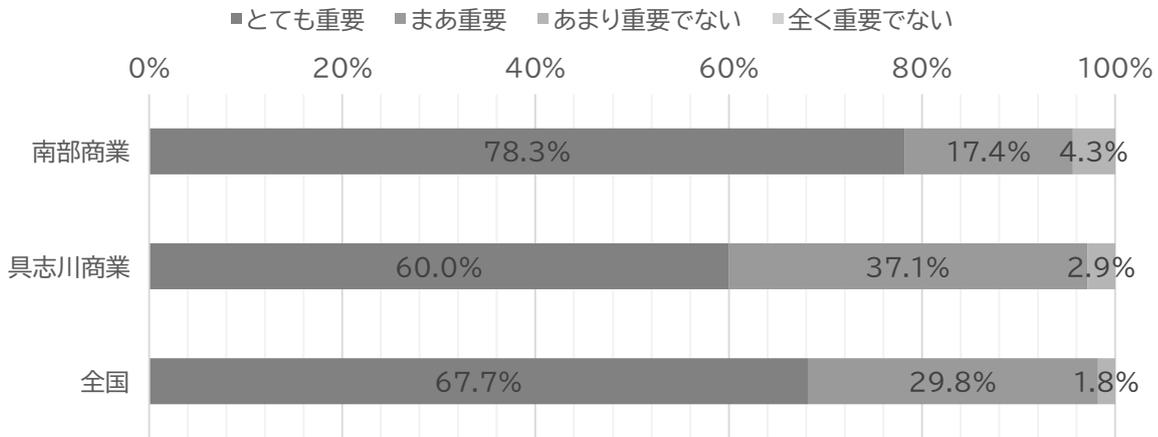
職業を選ぶにあたって重視すること:「収入」

「社会的地位」について、南部商業は「とても重要」が21.7%で全国(8.8%)と比較すると2.4倍多かった。「とてもそう思う」「まあそう思う」は全国より多かった。
※全国データは、男女比調整データ



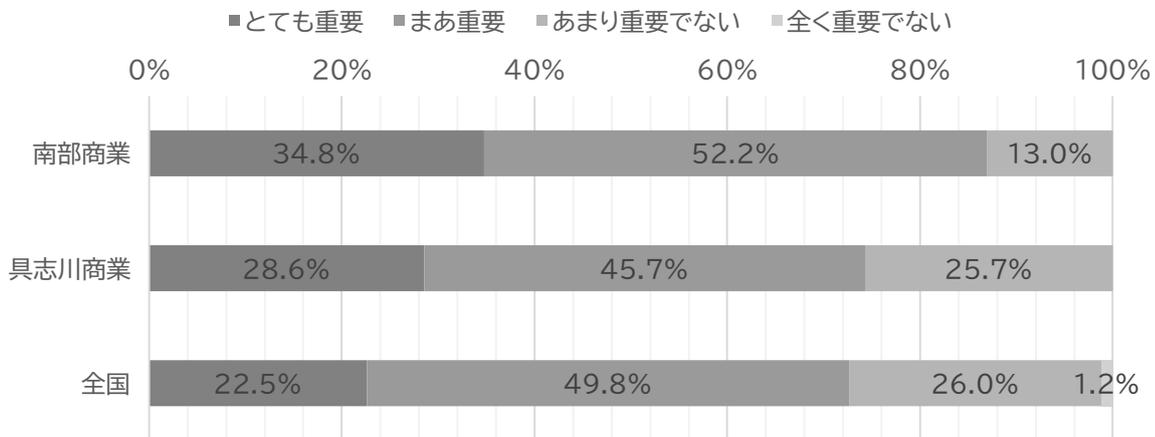
職業を選ぶにあたって重視すること:「社会的地位」

「安定性」について、南部商業は「とても重要」が78.3%で全国(67.7%)と比較すると多かった。
 ※全国データは、男女比調整データ



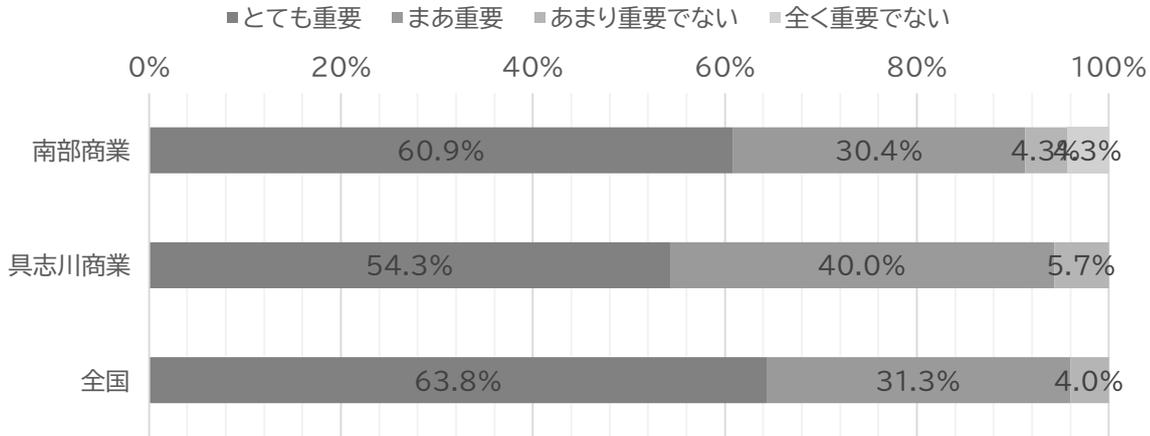
職業を選ぶにあたって重視すること:「安定性」

「仕事の内容ややり方を自分で決められる」について、「とても重要」が全国(22.5%)と比較すると多かった。南部商業は、「やや重要」と合わせると87.0%になり、全国(72.3%)と比較して多かった。
 ※全国データは、男女比調整データ



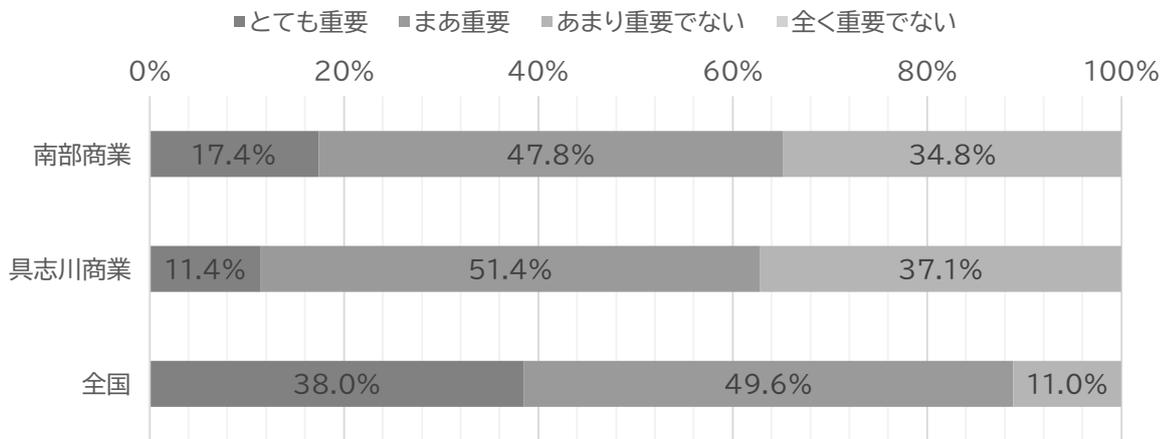
職業を選ぶにあたって重視すること:「仕事の内容ややり方を自分で決められる」

「自分の興味や好みに合っていること」について、「とても重要」は全国と比べ低かった。
 ※全国データは、男女比調整データ



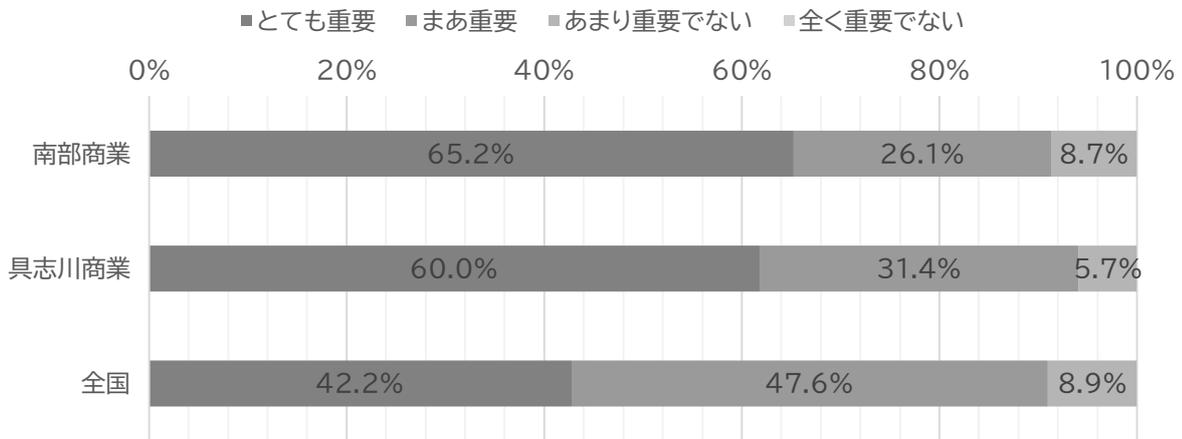
職業を選ぶにあたって重視すること：「自分の興味や好みに合っていること」

「働く時間を自由に決めること」について、「とても重要」が全国(38.0%)と比較して半分以下だった。また、「あまり重要でない」は全国の3倍以上だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



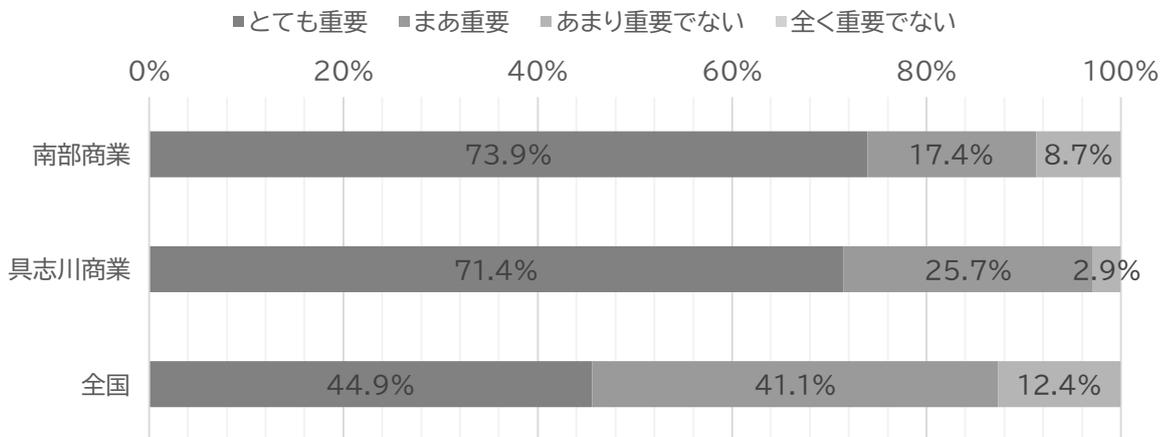
職業を選ぶにあたって重視すること：「働く時間を自由に決めること」

「能力を発揮できること」について、「とても重要」が6割を超え、全国(42.2%)と比較して1.5倍だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



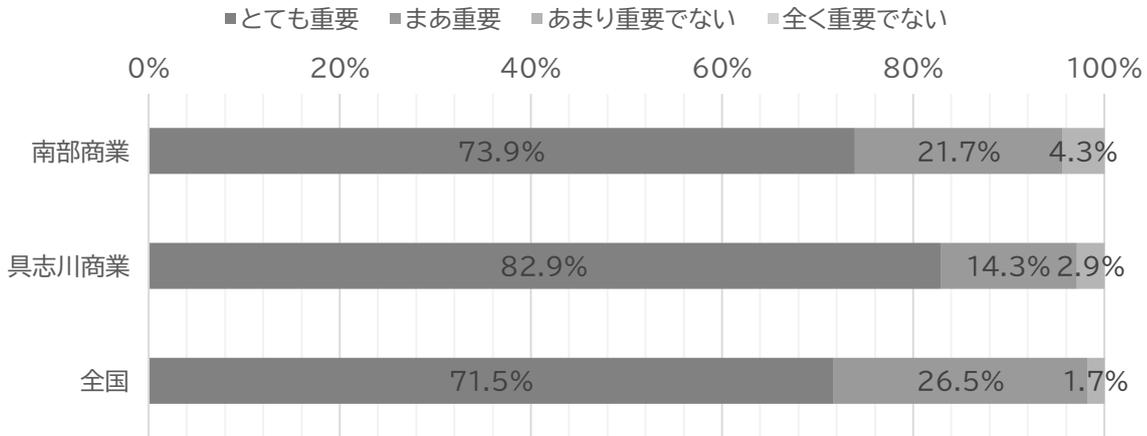
職業を選ぶにあたって重視すること:「能力を発揮できること」

「社会や人のために役立ち貢献できること」について、「とても重要」が7割を超え、全国(44.9%)と比較して1.5倍を超えた。
 ※全国データは、男女比調整データ



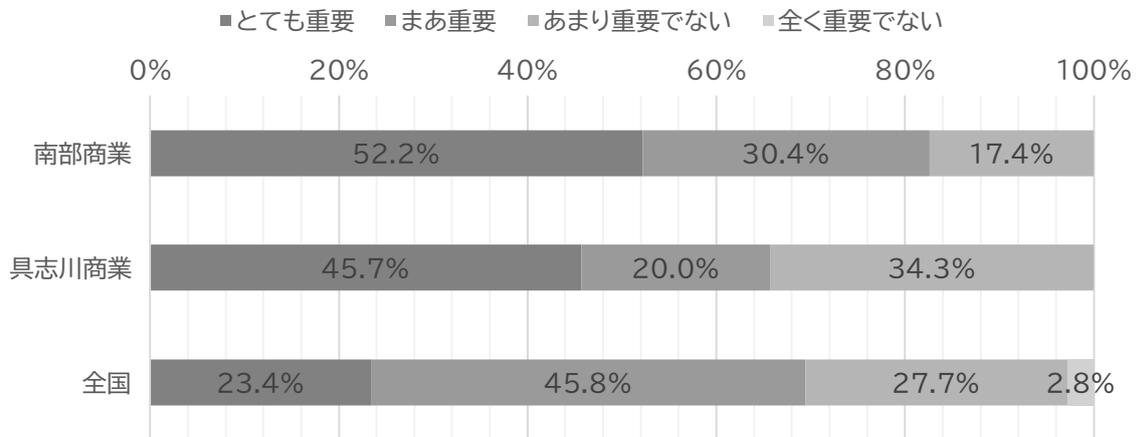
職業を選ぶにあたって重視すること:「社会や人のために役立ち貢献できること」

「働きやすいこと(仕事の環境)」について、「とても重要」が全国より高かった。
 ※全国データは、男女比調整データ



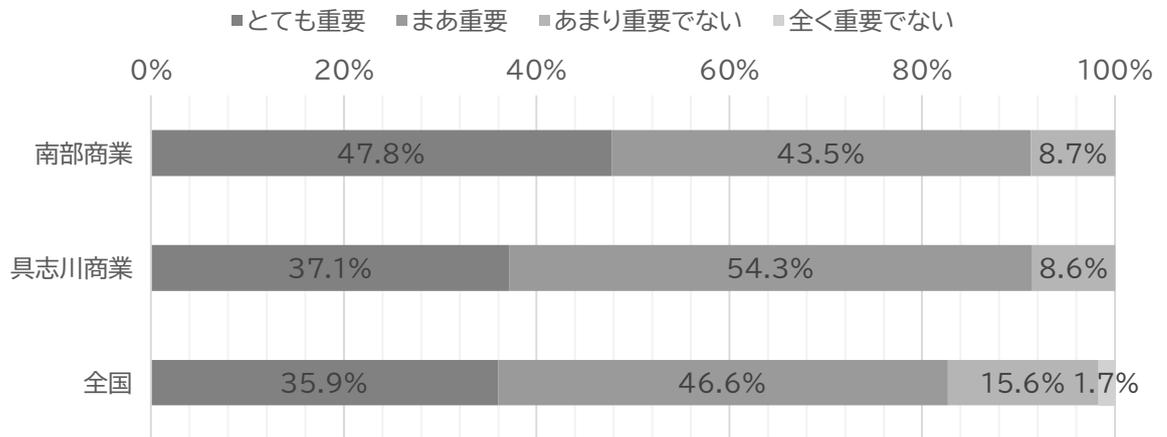
職業を選ぶにあたって重視すること:「働きやすいこと(仕事の環境)」

「新しいことにチャレンジできること」について、「とても重要」が全国(23.4%)の2倍以上だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



職業を選ぶにあたって重視すること:「新しいことにチャレンジできること」

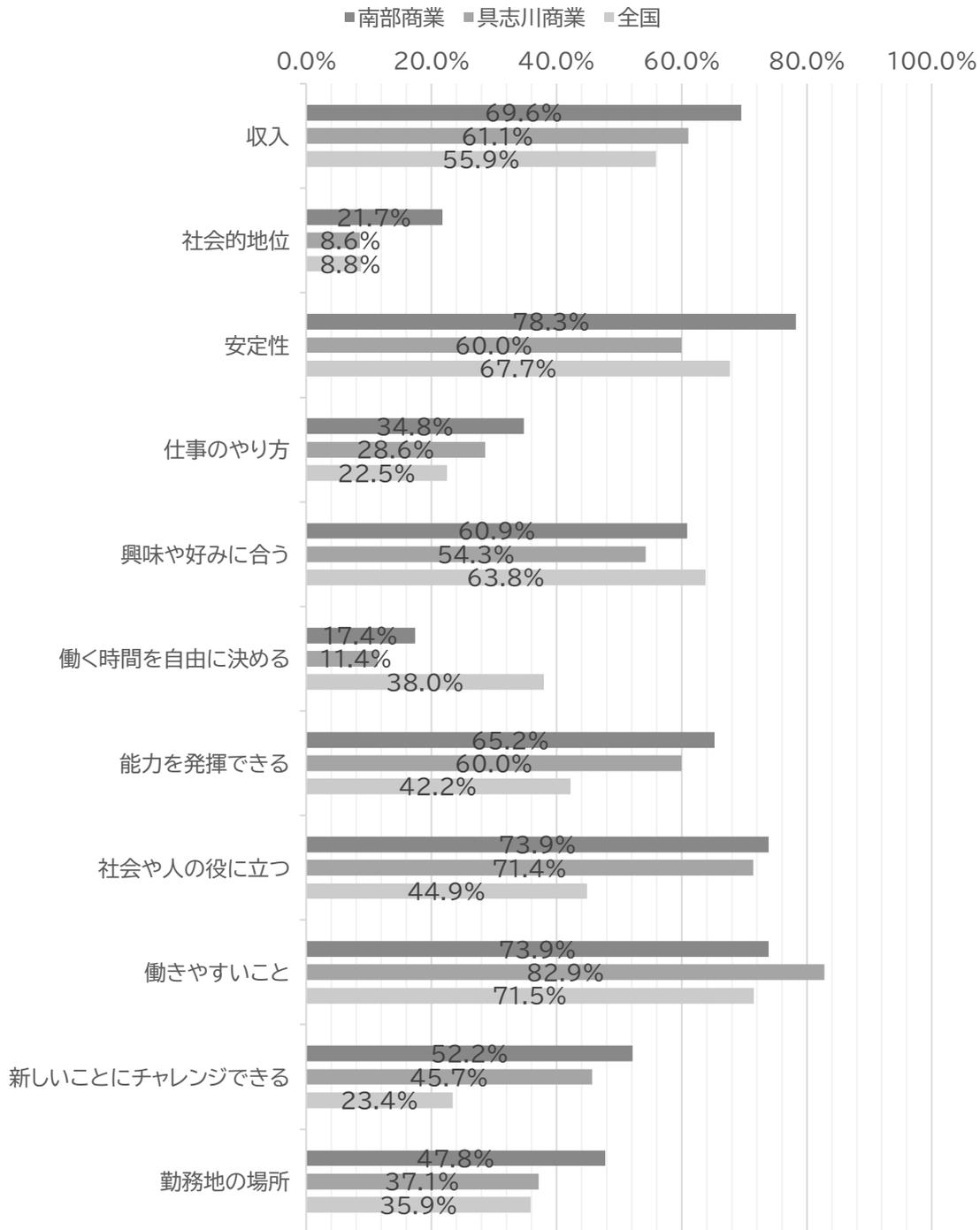
「勤務地の場所」について、南部商業は「とても重要」が47.8%だった。具志川商業とともに、「やや重要」と合わせると9割を超えた。
 ※全国データは、男女比調整データ



職業を選ぶにあたって重視すること：「勤務地の場所」

職業を選ぶ際に重視することの11項目について、「とても重要」と回答した割合

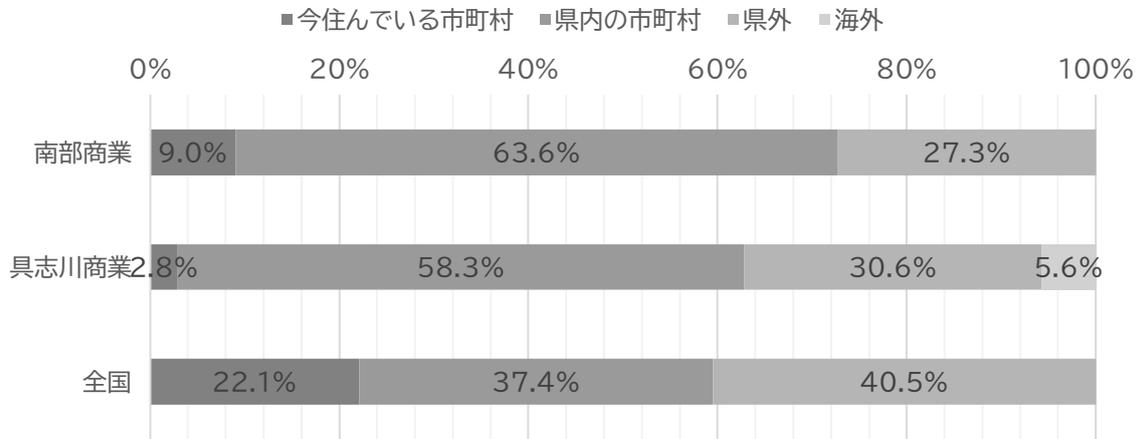
南部商業は「安定性」が一位、具志川商業は「働きやすいこと」が一位だった。「社会や人の役に立つ」「能力を發揮できる」項目が全国の1.5倍高く、「働く時間を自由に決める」は全国を大きく下回った。
 ※全国データは、男女比調整データ



職業を選ぶにあたって重視することで「とても重要」と回答した割合

2.3.9 希望する勤務地

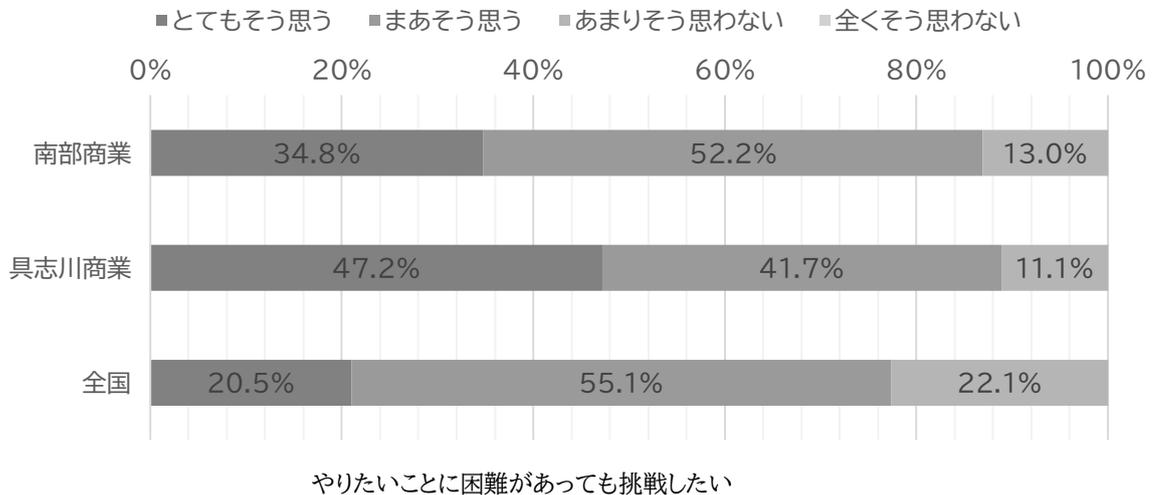
「希望する勤務地」について、「今住んでいる市町村」は低く、「県内の市町村」が高かった。県内就職を6割以上が希望しており全国と比較して県内志向が強い。
 ※全国データは、男女比調整データ



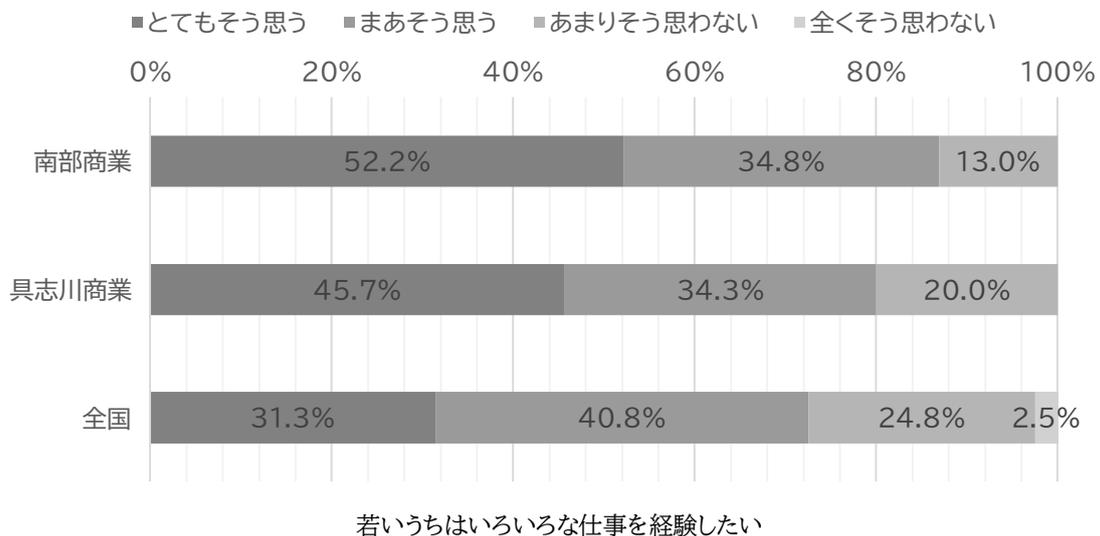
希望する勤務地

2.3.10 仕事に関する意識・考え

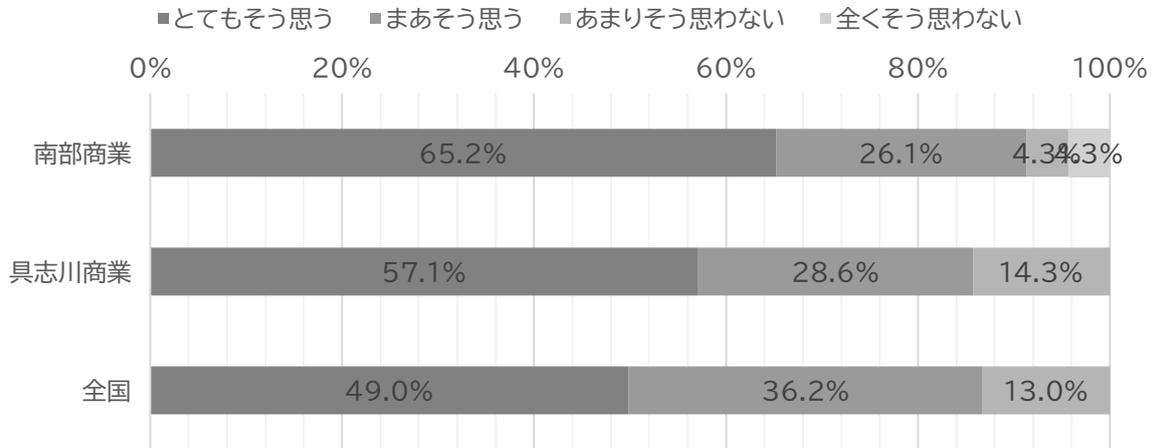
「やりたいことに困難があっても挑戦したい」について、「とてもそう思う」が具志川商業 47.2%、南部商業 34.8%で、全国(20.5%)と比較して多い。
※全国データは、男女比調整データ



「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」について、「とてもそう思う」が南部商業 52.2%、具志川商業 45.7%で、全国(31.3%)と比較して多い。
※全国データは、男女比調整データ

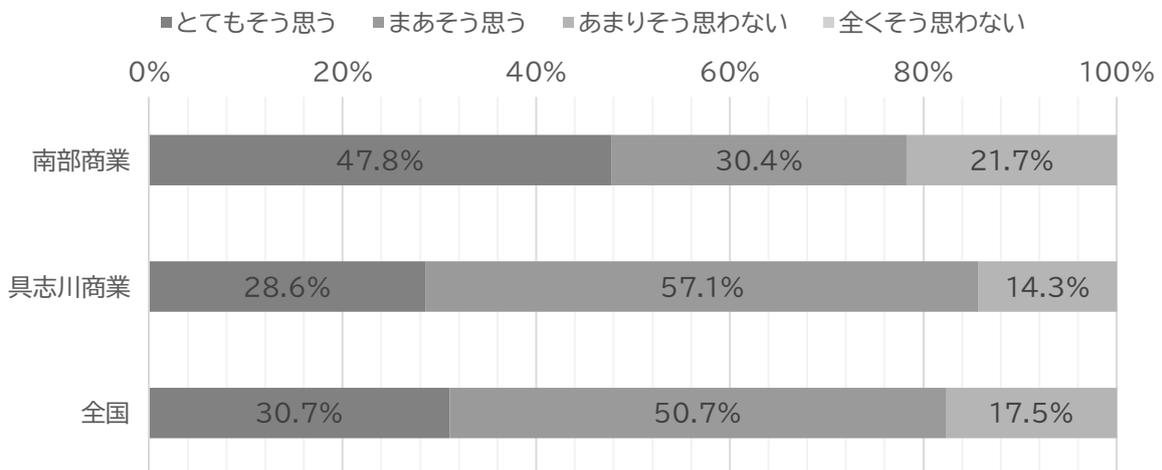


「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 65.2%、具志川商業 57.1%で、全国(49.0%)より多かった。
 ※全国データは、男女比調整データ



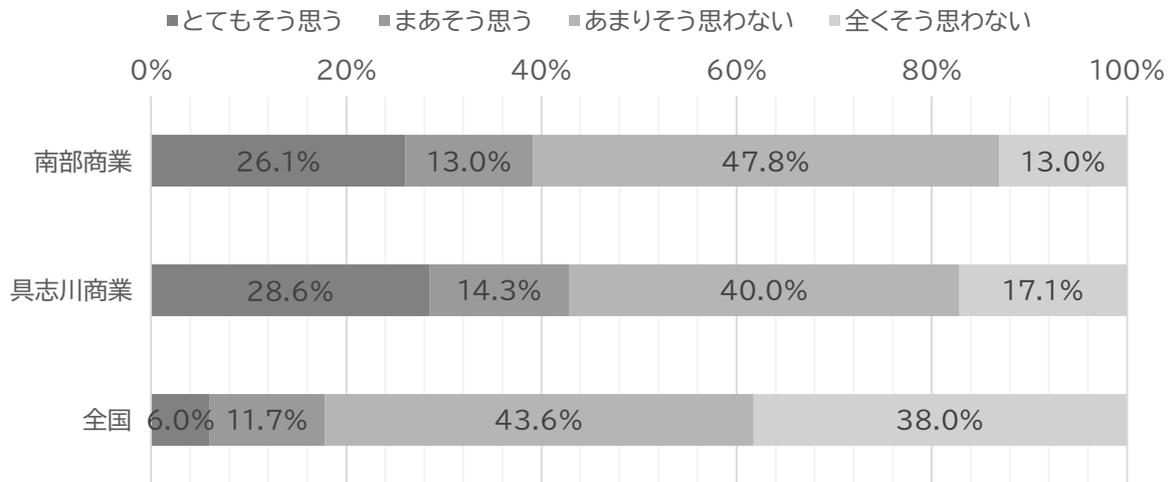
暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい

「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 47.8%で、全国(30.7%)の1.5倍だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



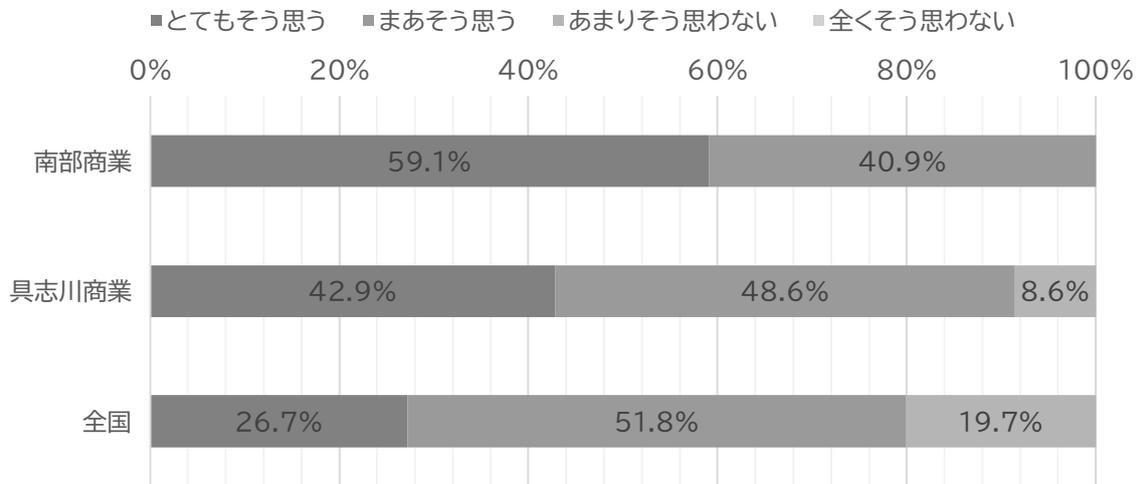
仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい

「自分の会社や店を作りたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 26.1%、具志川商業 28.6%だった。「まあそう思う」を合わせると両校約 40%で、全国(17.7%)の 2 倍以上だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



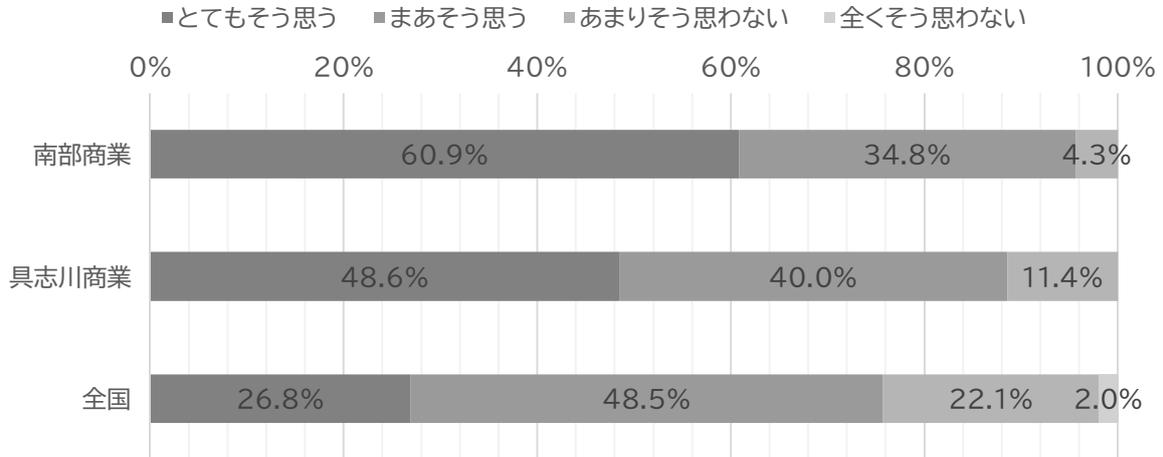
自分の会社や店を作りたい

「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」について、「とてもそう思う」が南部商業 59.1%、具志川商業 42.9%で、全国(26.7%)を大きく上回った。
 ※全国データは、男女比調整データ



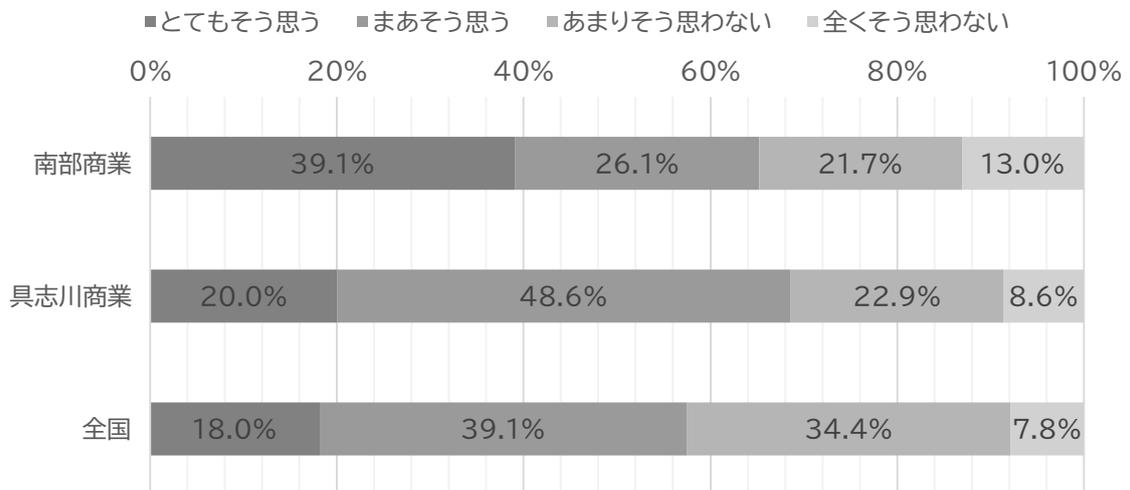
学歴より技術や技能を身につけることが大事だ

「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 60.9%、具志川商業 48.6%だった。全国(26.8%)を大きく上回った。
 ※全国データは、男女比調整データ



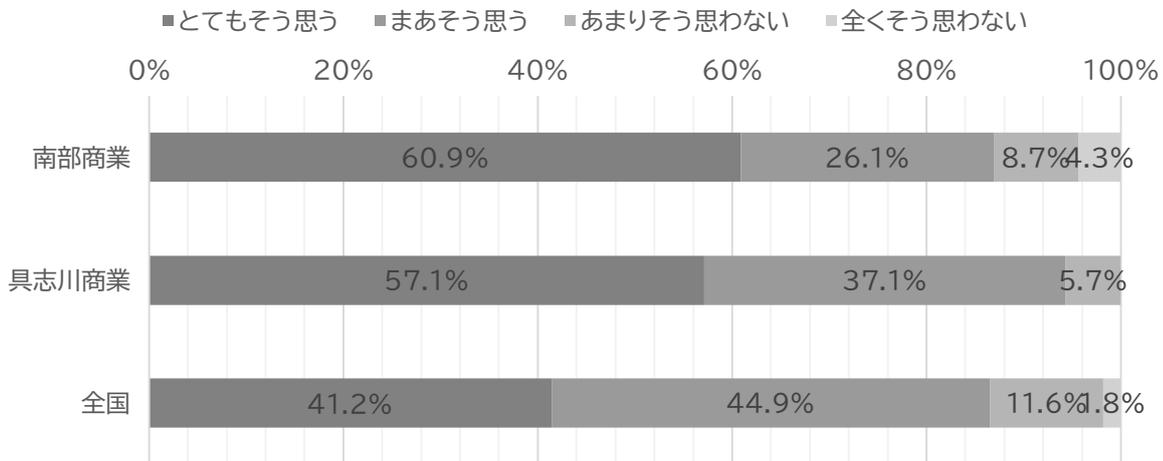
周りに反対されても自分がやりたいことをしたい

「地元で仕事や生活をしたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 39.1%で、全国(18.0%)の2倍だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



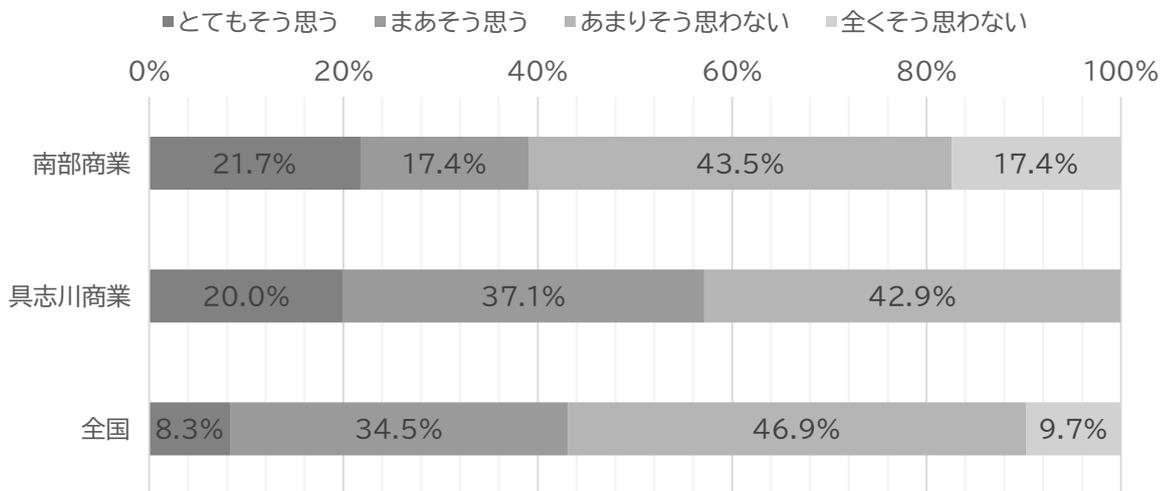
地元で仕事や生活をしたい

「社会に役立つ仕事をしたい」について、「とてもそう思う」が両校約 60%で、全国(41.2%)の 1.5 倍だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



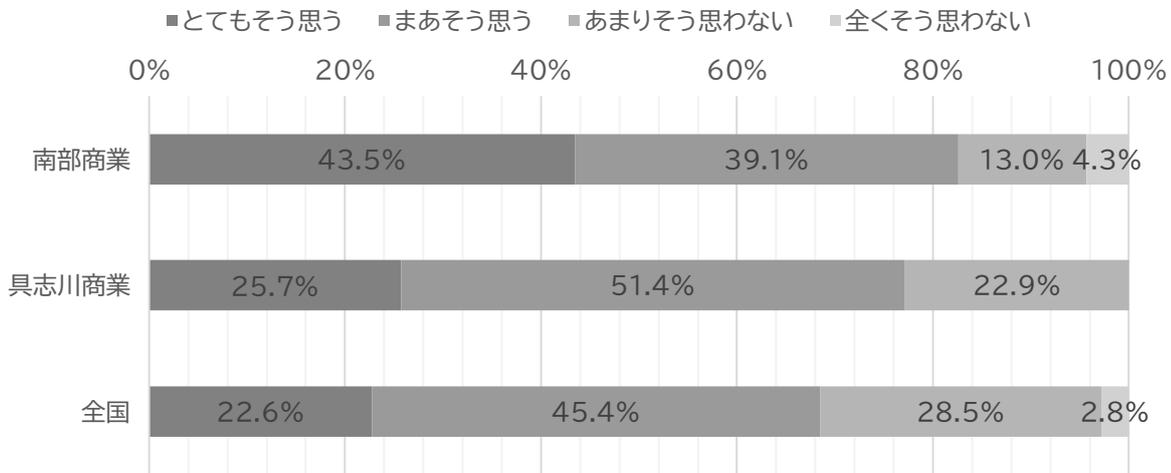
社会に役立つ仕事をしたい

「できるだけ高い地位につきたい」について、「とてもそう思う」が両校約 20%で、全国(8.3%)の 2.5 倍だった。
 「まあそう思う」を含めると具志川商業で 6 割近かった。
 ※全国データは、男女比調整データ



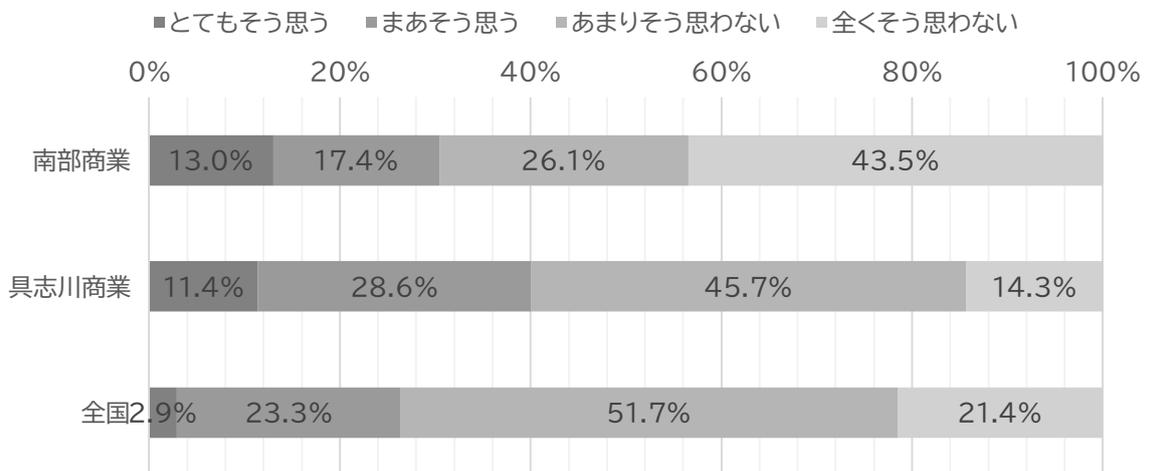
できるだけ高い地位につきたい

「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」について、「とてもそう思う」が南部商業 43.5%で、全国 (22.6%)の2倍だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい

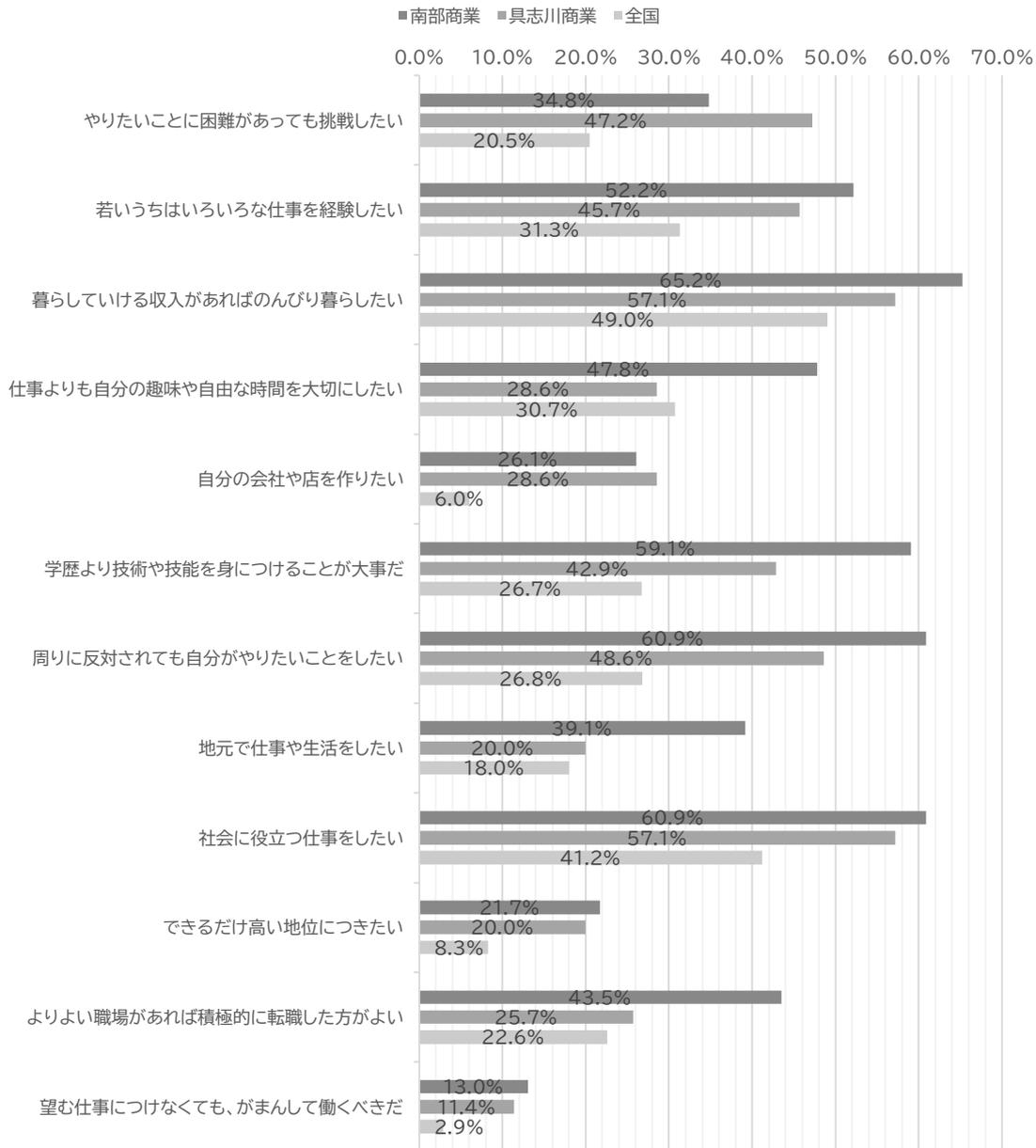
「望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ」について、「全くそう思わない」が南部商業 43.5%で、全国 (21.4%)の2倍だった。一方、「とてもそう思う」が13.0%で全国(2.9%)と比較して4倍だった。
 ※全国データは、男女比調整データ



望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ

仕事に関する意識・考えの12項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

両校の共通の特徴として、全国と2倍以上の差がある項目は、「自分の会社や店を作りたい」、「望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ」、「できるだけ高い地位につきたい」だった。
 約1.5倍以上の差がある項目は、「やりたいことに困難があっても挑戦したい」、「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」、「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」、「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」だった。
 「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」「社会に役立つ仕事をしたい」は全国より高かった。



仕事に関する意識・考えで「とてもそう思う」と回答した割合

2.4 小禄高校の進路希望に関する調査(他事業調査分)

小禄高等学校 職業講話

日時 令和6年6月28日(金)午後2コマ

対象 沖縄県立小禄高等学校 情報ビジネス科 3年生

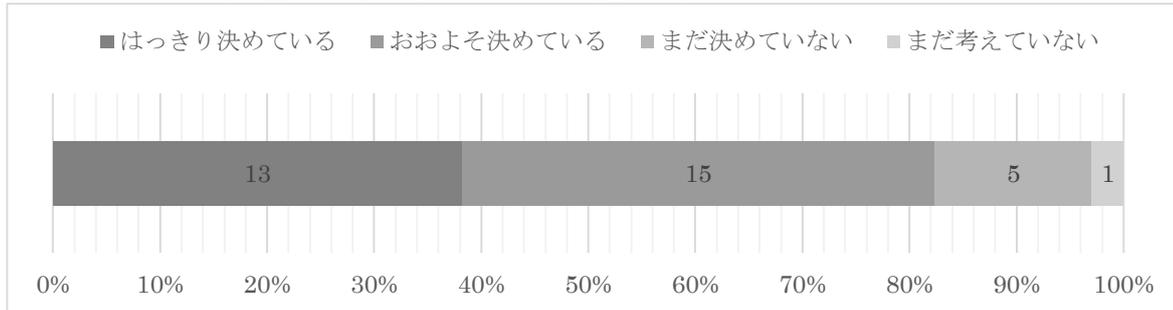
人数 34名(男16、女17、無回答1)

講師 KBC学園 花城奈美子

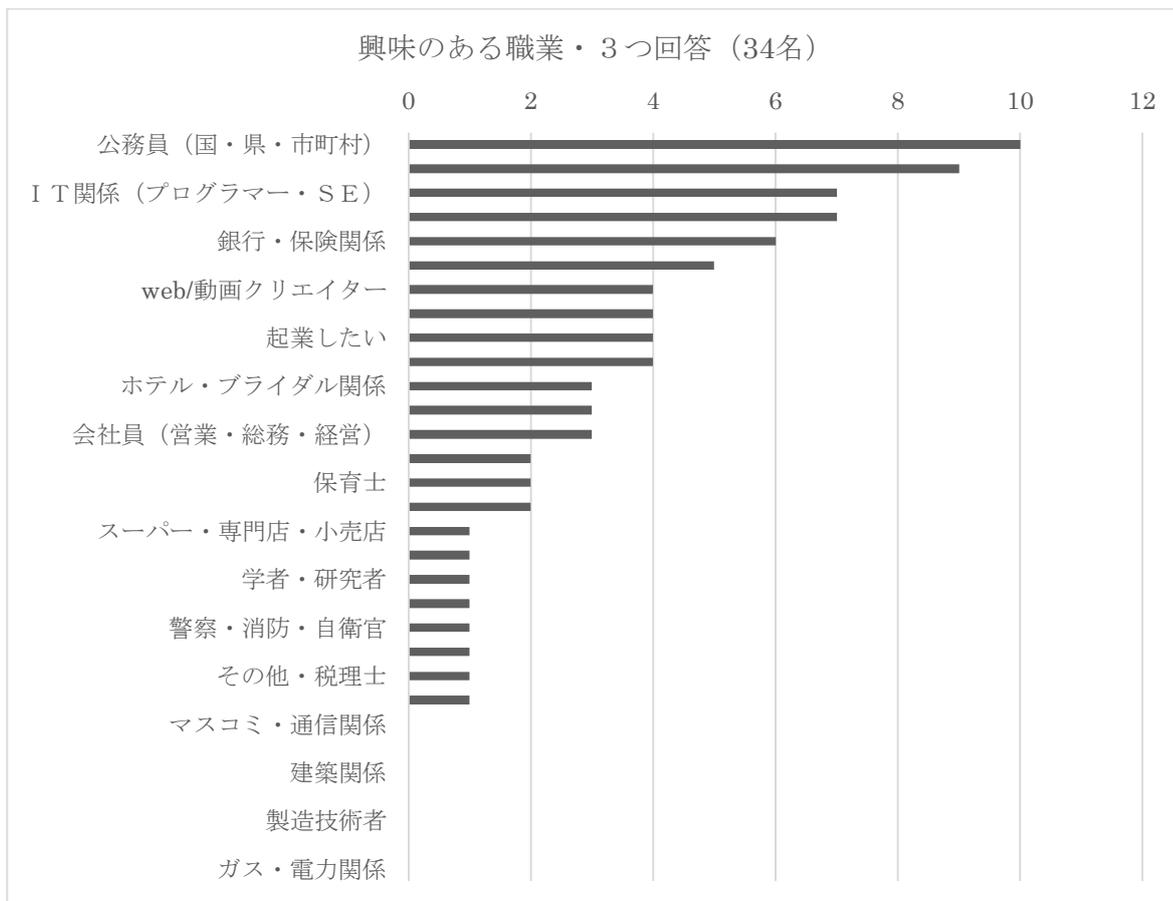
内容 「面接試験対策講座」

2.4.1 生徒アンケート結果

質問 「あなたは今、希望する職業を決めていますか。」(平均 4.2)



質問 「あなたが今、興味のある職業は何ですか？当てはまるものの番号に3つ〇をつけてください。」



質問 「今後、授業で取り上げて欲しい仕事内容や職業に必要なことなどがあれば自由に書いてください。」

<キャリア形成に関わること>		
自分に合った仕事・職業のを見つけ方		7
起業の仕方		3
収入が高いなど様々な仕事		1
転職について知りたい		1
<仕事のノウハウ>		
電話対応		5
マナー・接遇・座り方・服装	3	
話し方		1
読みやすい字の書き方		1
<面接対策>		
面接で質問の答え方		4
自己PRの仕方		1
<業界に関すること(詳しく知りたい)>		
金融		2
旅行・空港		2
医療・福祉		2
食品		1
IT		1
<職種に関すること(詳しく知りたい)>		
経理		1
営業		1

2.5 委員意見

- ・対象校が中部商業高校、具志川商業高校、南部商業高校だが、観光コースのある浦添商業高校にも「このような授業ができますよ」という形で負担のない範囲内で導入を検討したい。
- ・先日、事前となる「キャリア教育のすすめ」にあたり、企業の代表として高校生に講話を行った。事前準備は非常に大事だと思っている。
- ・何かきっかけとなり、それが自分にとって大事だと分かる段階があり、次に職業を選ぶために自分が何をすればよいかを考える。ネットで調べればよいか、先生に聞けばよいか。そういえばインターンシップがあるって言っていたな。といった感じで連動していくプログラムが必要だと思っている。
- ・私たちが高校で行う講話も「仕事の大切さ」だけの話ではなく、その後の進め方やインターンシップ後、もしもう1度行けるとしたら何が必要だと感じたかといった形で、小さな火種を大きな炎にしていく、1度ついた火を消さないといった部分が大切かなというイメージを持っている。
- ・インターンシップやジョブシャドウイングの期間によって学んでくることも違う。やはり送り出す側の事前指導によって、何を学んでくるものかを明確化していく。インターンシップを通し生徒たちに何を学んでほしいかを明確化していくことが重要かと思う。
- ・コロナ禍が明けて、インターンシップの再構築を行っている。コロナ禍前でいうと事前学習に3コマ程度とっていた。事前学習用の冊子を作り、言葉使い、会社での過ごし方、得た情報、配られたプリントなどの処理、仕事後に先輩らと食事に行った際にお客様について話をしないとといった会話内容といったさまざまな内容で事前学習を行っている。個人面談では目標シートを作り、インターンシップでつきたい力などの目標を記入して、人事を通して現場のマネージャーに渡してもらっている。
- ・昨年度までいた那覇商業高校では2年生の全クラスで一学期は全てインターンシップに向けて行っていた。立石委員からもあったよう、冊子を作り、マナーや挨拶の方法、メモの取り方など全般を7月の開始に合わせて、だいたい5月から実施していた。課題研究という授業が多い学科で週二時間、少ない学科でも一時間あったので、この時間で準備する。来年からはインターンシップが全校必須でなくなる。選択になるので普通高校は少なくなると思う。

- ・普通高校についてはわからないが、商業高校なのでマナー等は行う。高校生が一番ショックを受けてくるのは「仕事内容」である。思っていたものと違う、本当に忙しいという点を肌で感じてくる。とても良いことだと思う。受け入れる大人も理想と現実はしっかりさせ、ウェルカムではなく、しっかりとした気持ちを持って、子どもたちにはインターンシップに臨ませることが良いと思う。
- ・多くの受け入れを行っているホテルだと思う。プログラムがセット化しているところがあり、私が中心に行っている。高校生をすぐに現場へ入れることはせず、はじめに説明を行う。フロントはジョブシャドウイングで忙しい様子を見せてもらう、レストランでは就業体験をしてもらう、できればこのような仕事をしている様子を見せてほしい、といった点を含めて対応している。終了後も私が振り返りを行う「インターンシップパック」といったなかでフォローはできていると思う。
- ・以前、西原高校で行ったアンケートで観光系を希望する子が145名中2名しかいないという衝撃的な結果を聞いたが、今回も同じような結果が出ていた。給与、所得面を上げていくことも同時にやらないといけない。また、そういった意識を向けてもらえるように頑張らないといけないことを改めて思った次第である。
- ・観光業界へ行きたがらない様子を身に迫るように感じている。先日も小学校でマナー講習を頼まれ、とにかく楽しそうな大人を演じた。「なぜいつもニコニコしているのだろう」といった感じの部分をとにかく伝え続ける。インターンシップに来た学生にも必ずこの仕事のよいところ、お客様の笑顔のお手伝いをする仕事だから、世界一楽しい仕事であること、平日は映画館に並ばず観られるといった土日が休みでないことは悪いことではない、といった言葉を変えながら伝えている。
- ・アンケートの結果より、企業と学生の思惑がこのように違う所がある点が参考になった。また34名中10名ほどが公務員やITといったなかで、旅行が残っていてよかったと思った。なぜ公務員が1番にあるのか、ITなのかといった彼らの持っている情報はどこで蓄積し、このアンケート結果になったのか興味を持った。
- ・初めて参加したが素晴らしいプログラムと思った。特に授業のコンテンツが充実しており、私も那覇商業高校にいたらやりたかったと思う。嬉しかったのは「キャリア教育」という言葉が出ていたことが本当に印象的であった。
- ・私自身も商業高校出身なので、ぜひこのプログラムを広げ、観光に従事する人材を育てたいと思った。これまでに1年間ではあるが、ホテルの予約課で働いていた。結構華やかで楽しかったことを授業でも話していた。第二回も楽しみにしている。

3 第二回連携プログラム開発検討委員会

実証授業結果報告、職業イメージ変容調査報告、職場見学実施報告、観光系学生キャリア教育調査報告と検討、キャリア教育に関する意見交換を行った。

3.1 具志川商業高等学校 職業イメージ変容調査

3.1.1 実施概要

日時 令和6年10月16日
 対象 沖縄県立具志川商業高等学校リゾート観光科 2年生
 人数 34名
 講師 インターナショナルリゾートカレッジ
 内容 語学を活用する仕事について

3.1.2 語学を活用する仕事に関する、興味度と理解度

3.1.3 「この仕事に興味がありますか？/興味をもちましたか？」

「大変興味をもつ」生徒が9人から13人(1.4倍)になった。興味関心度は、20ptから34ptに上昇した。(R5の同コース生徒の興味関心度は40pt)

興味関心度は「大変興味がある/大変興味をもった」を2点、「やや興味がある/やや興味をもった」を1点、「興味がない/興味をもたなかった」を-1点とし、回答数を乗じた。

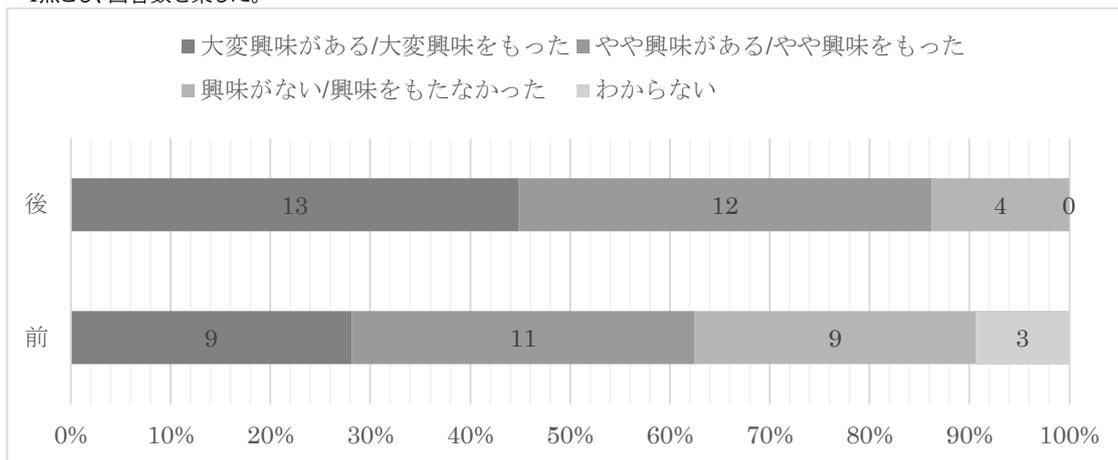


図1 この仕事に興味がありますか？/興味をもちましたか？

3.1.4 「仕事内容を友達や後輩に説明できますか？」

説明できなかった生徒が16人いたが、1人になった。よく説明できる、だいたい説明できる生徒が4人から17人になった。理解(説明)度は、20ptから50ptに上昇した。(R5の同コース生徒の理解度は63pt)。理解(説明)度は「よく説明できる」を3点、「だいたい説明できる」を2点、「少し説明できる」を1点とし回答数を乗じた。

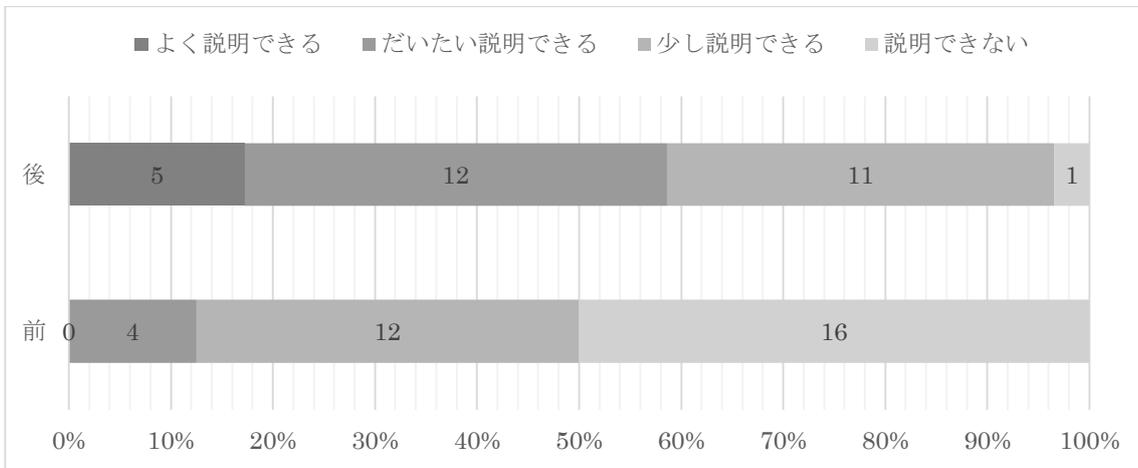


図2 仕事内容を友達や後輩に説明できますか？

3.1.5 「仕事に必要な能力を友達や後輩に説明できますか？」

説明できなかった生徒が11人いたが、0人になった。よく説明できる、だいたい説明できる生徒が8人から18人になった。理解(説明)度は、31ptから54ptに上昇した。(R5の同コース生徒の理解度は68pt)。理解(説明)度は「よく説明できる」を3点、「だいたい説明できる」を2点、「少し説明できる」を1点とし回答数を乗じた。

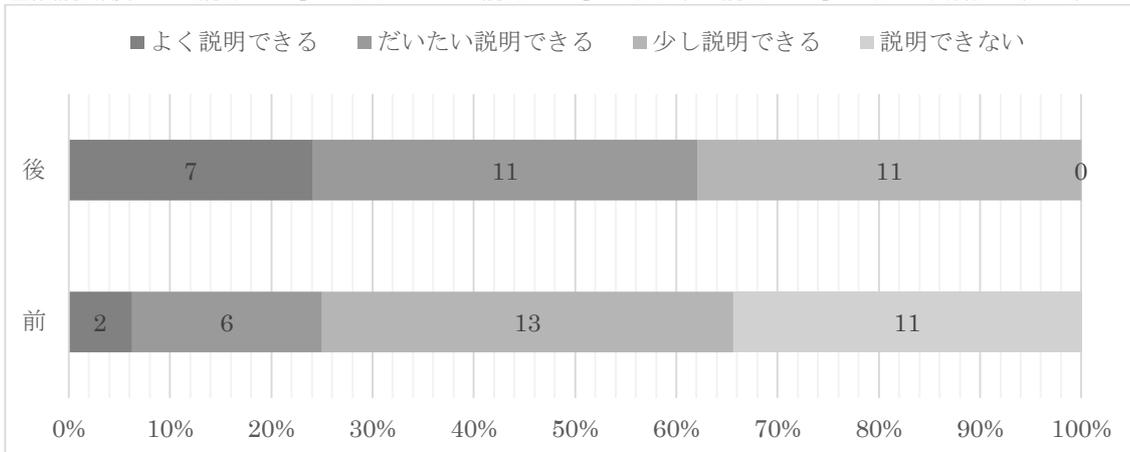


図3 仕事に必要な能力を友達や後輩に説明できますか？

3.1.6 語学を活用する仕事のイメージの変容

「自分にとって楽しく働けそうだ」(前 34 後 30)

ポジティブな意見を持つ生徒が 19 人から 21 人に増えた。職業イメージ度は、21pt から 24pt に変化した。

職業イメージ度:「大変そう思う」を 2 点、「そう思う」を 1 点、「どちらでもない」を 0 点、「そう思わない」を-1 点、全く思わないを-2 点とし回答数を乗じた。

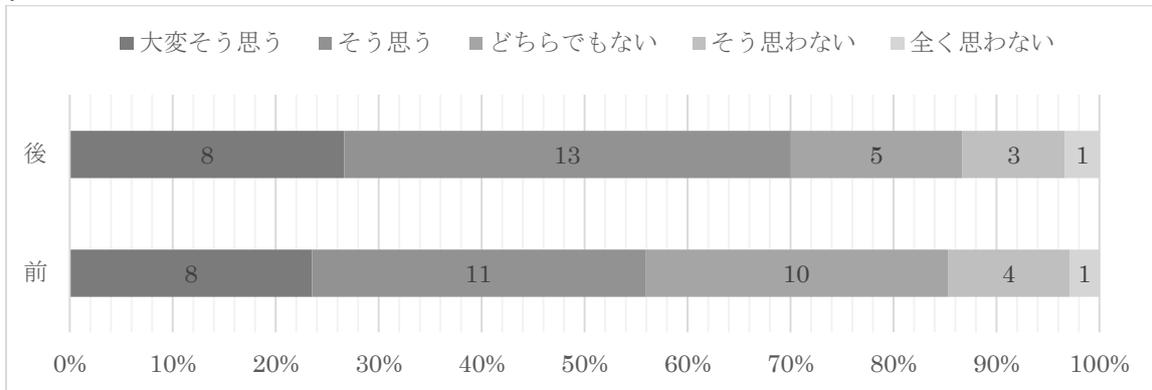


図 4 自分にとって楽しく働けそうだ

「収入が安定してそうだ」(前 34 後 30)

ポジティブな意見を持つ生徒が 23 人から 20 人に減少した。

職業イメージ度は、25pt から 25pt に変化した。

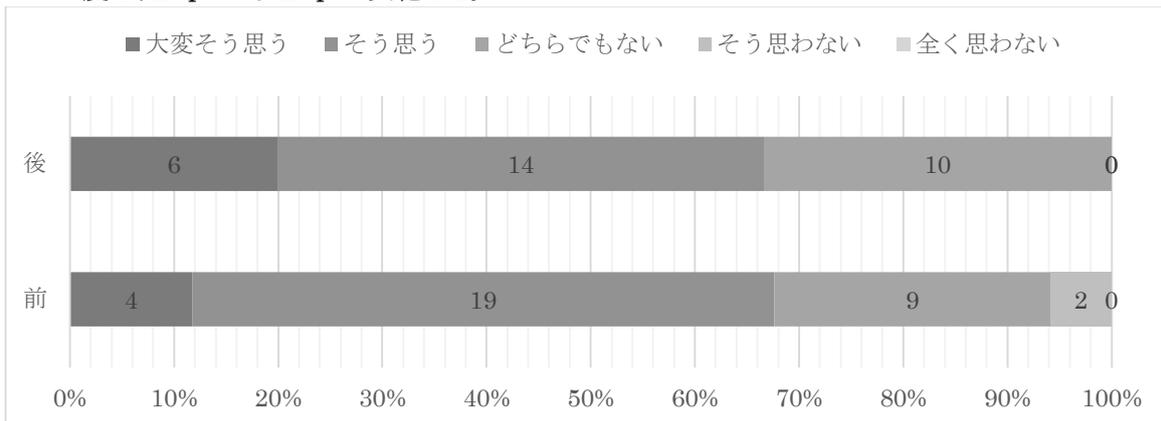


図 5 収入が安定してそうだ

「体力が必要そうだ」(前 34 後 30)
 大変そう思う生徒が 12 人から 8 人に減少した。
 職業イメージ度は、32pt から 28pt に変化した。

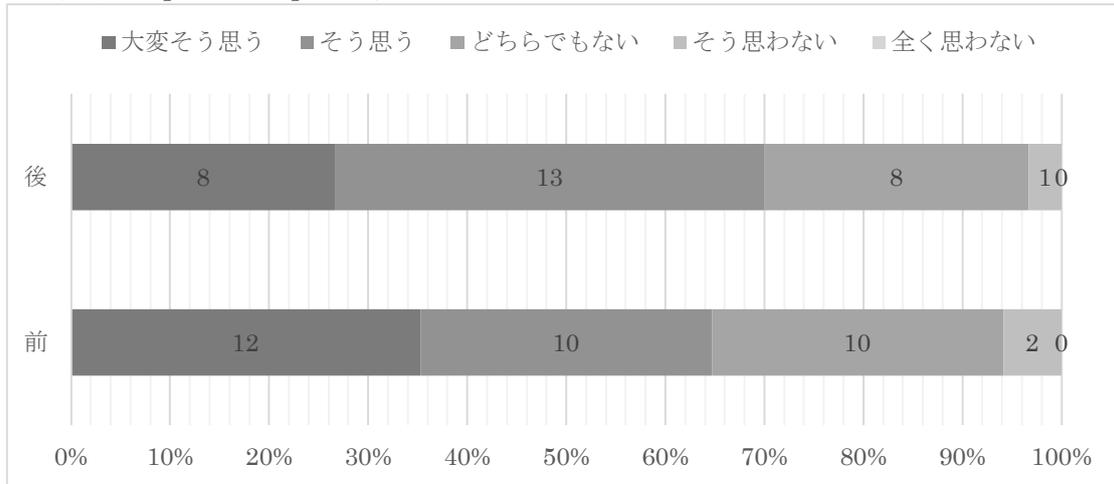


図 6 体力が必要そうだ

「忙しそうだ」(前 34 後 30)
 「大変そう思う」「そう思う」というイメージを持つ生徒が 33 人から 26 人に減少した。
 職業イメージ度は、49pt から 36pt に変化した。

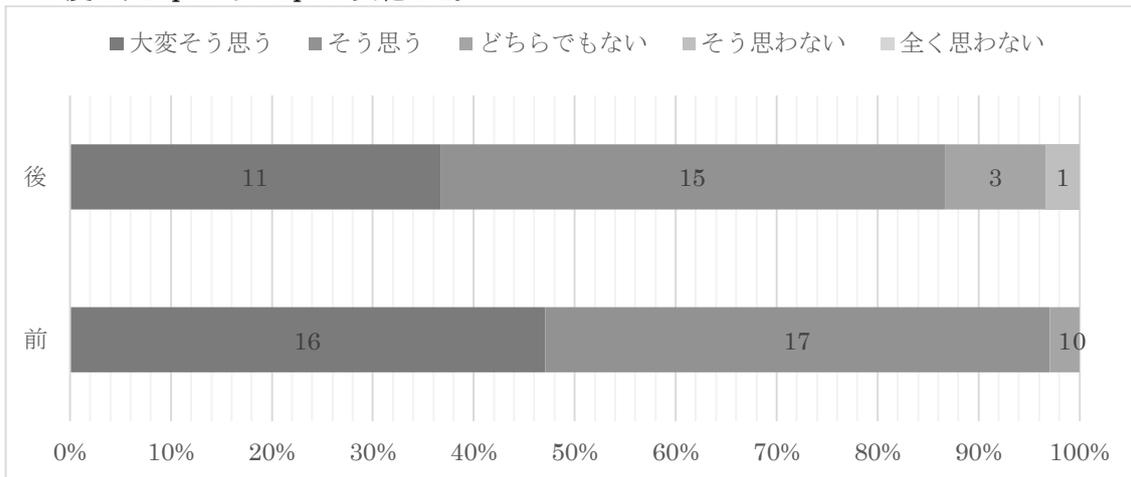


図 7 忙しそうだ

「給料が高そうだ」(前 34 後 30)

ポジティブなイメージを持つ生徒が前後とも 23 人だった。

職業イメージ度は、27pt から 31pt に変化した。

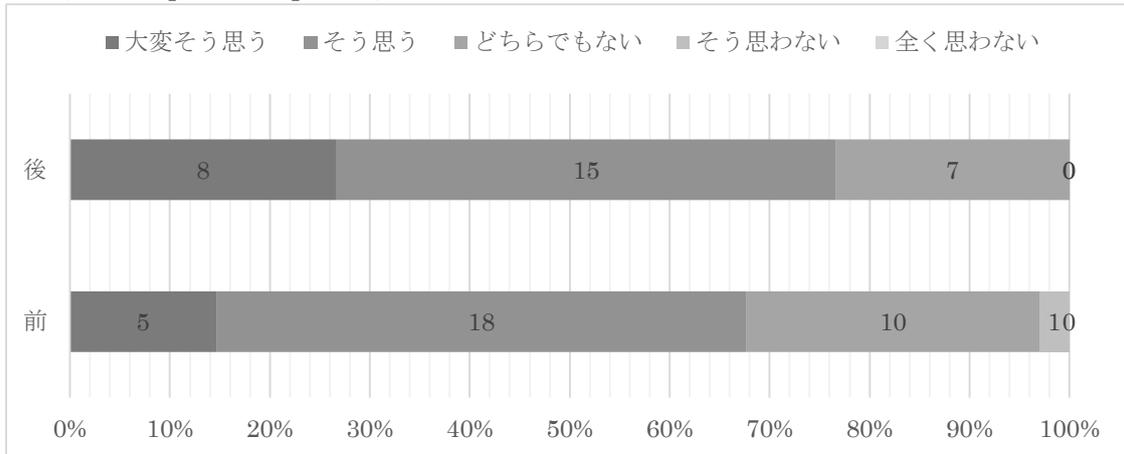


図 8 給料が高そうだ

「私生活とのバランスがとれそうだ」(前 34 後 30)

ポジティブなイメージを持つ生徒が 11 人から 18 人に増加した。

職業イメージ度は、12pt から 19pt に変化した。

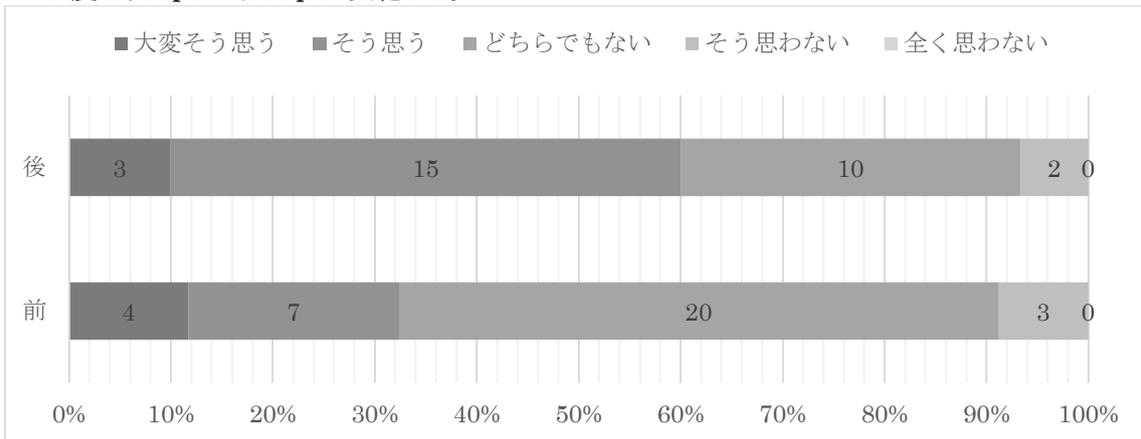


図 9 私生活とのバランスがとれそうだ

「歳をとっても働けそうだ」(前 34 後 30)
 ポジティブなイメージを持つ生徒は前後とも 24 人だった。
 職業イメージ度は、29pt から 30pt に変化した。

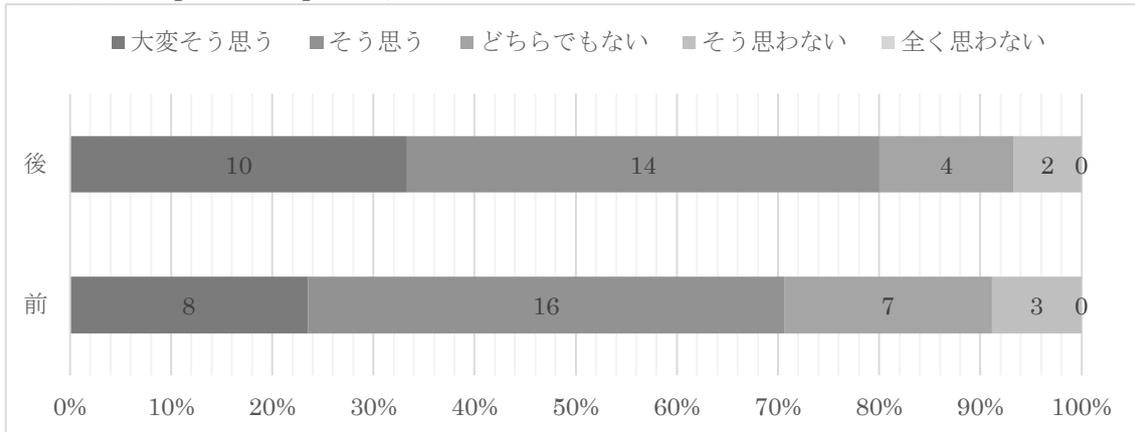


図 10 歳をとっても働けそうだ

「やりがいがありそうだ」(前 34 後 30)
 大変そう思う生徒が 32 人から 29 人に減少した。
 職業イメージ度は、46pt から 45pt に変化した。

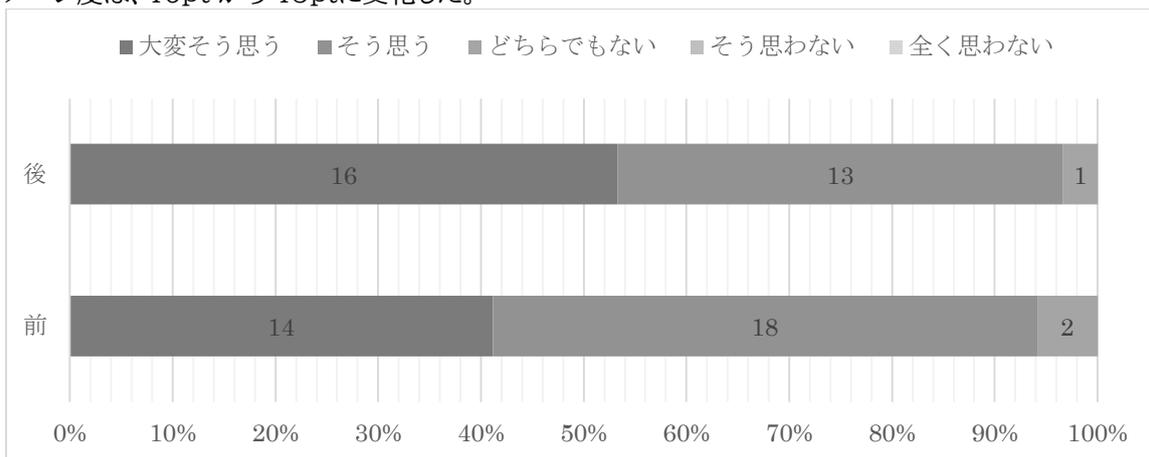


図 11 やりがいがありそうだ

「世の中のためになりそうだ」(前 34 後 30)
 ポジティブなイメージを持つ生徒が 31 人から 28 人に減少した。
 職業イメージ度は、46pt から 43pt に変化した。

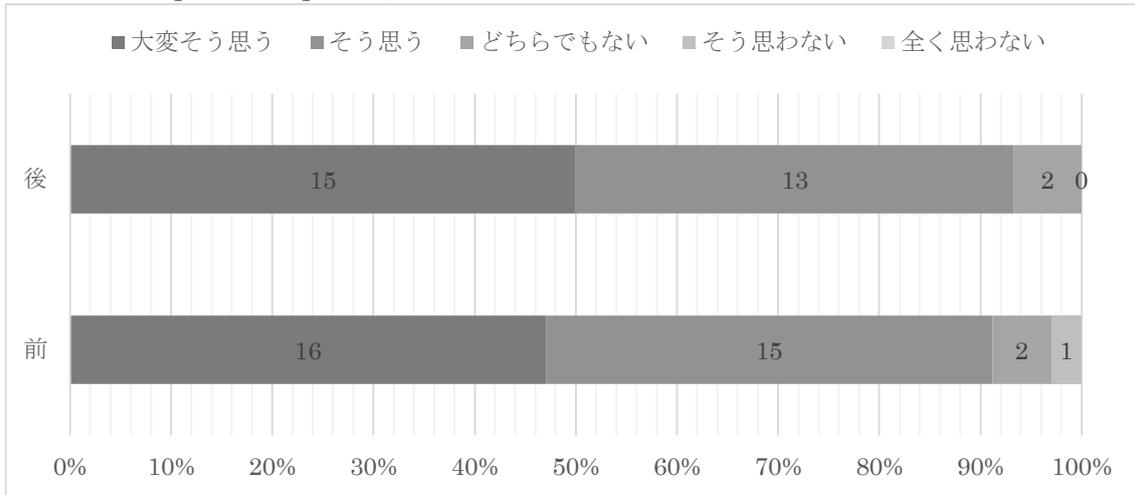


図 12 世の中のためになりそうだ

「自分の能力が生かせそうだ」(前 34 後 30)
 ポジティブなイメージを持つ生徒が前後とも 20 人だった。一方、ネガティブなイメージを持つ生徒が 6 人から 3 人に減少した。
 職業イメージ度は、24pt から 27pt に変化した。

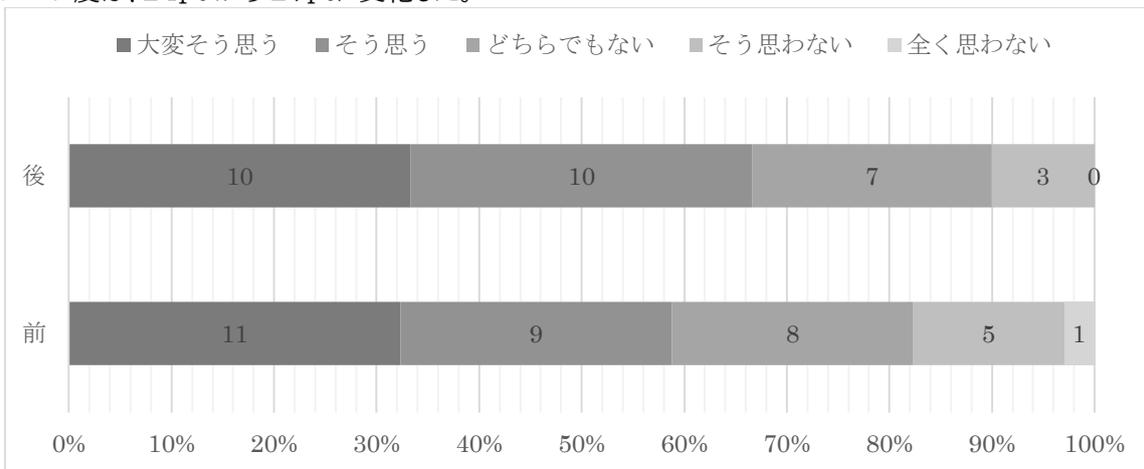


図 13 自分の能力が生かせそうだ

「専門的な知識がいきりそうだ」(前 34 後 30)
 大変そう思う生徒が 19 人から 17 人に減った。
 職業イメージ度は、48pt から 45pt に変化した。

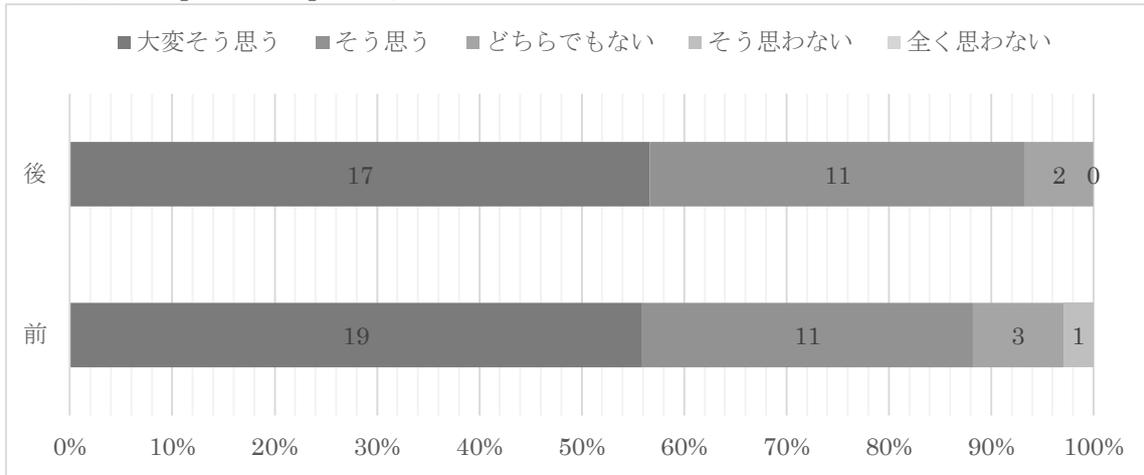


図 14 専門的な知識がいきりそうだ

「失業の心配がなさそうだ」(前 34 後 30)
 ポジティブなイメージを持つ生徒が 17 人から 16 人に減少した。一方、ネガティブなイメージを持つ生徒が 5 人から 6 人に増加した。
 職業イメージ度は、17pt から 16pt に変化した。

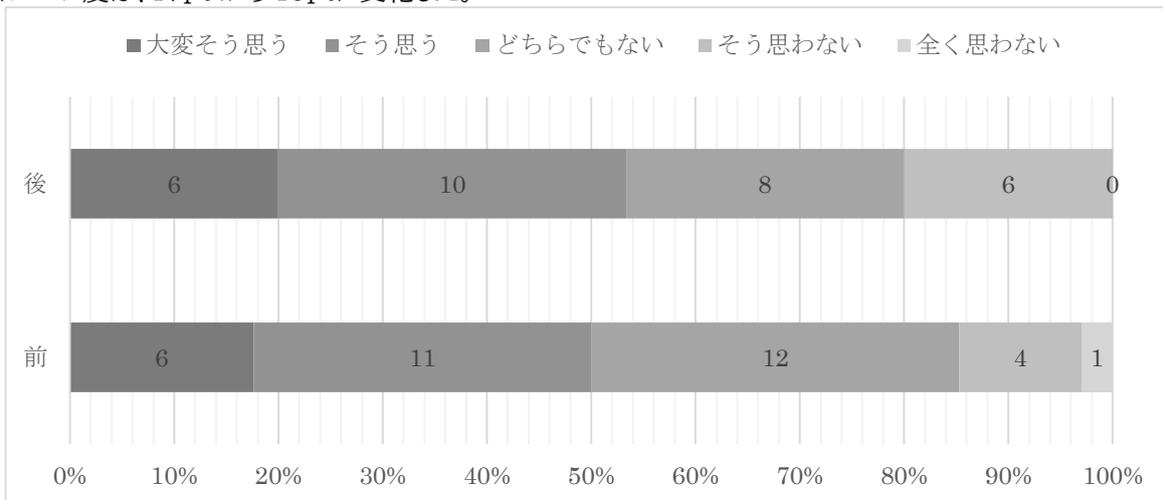


図 15 失業の心配がなさそうだ

「危険が少なく安全に働けそうだ」(前 34 後 30)
 ポジティブなイメージを持つ生徒が 16 人から 18 人に増えた。
 職業イメージ度は、14pt から 21pt に変化した。

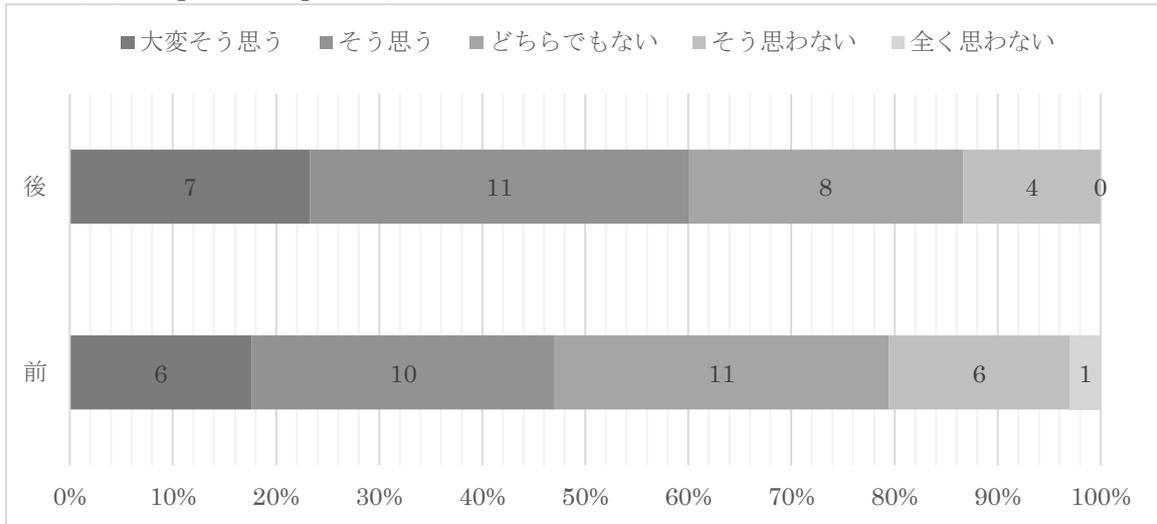


図 16 危険が少なく安全に働けそうだ

「規則や規律が厳しそうだ」(前 34 後 30)
 ポジティブなイメージを持つ生徒が 18 人から 16 人に減少した。
 職業イメージ度は、23pt から 19pt に変化した。

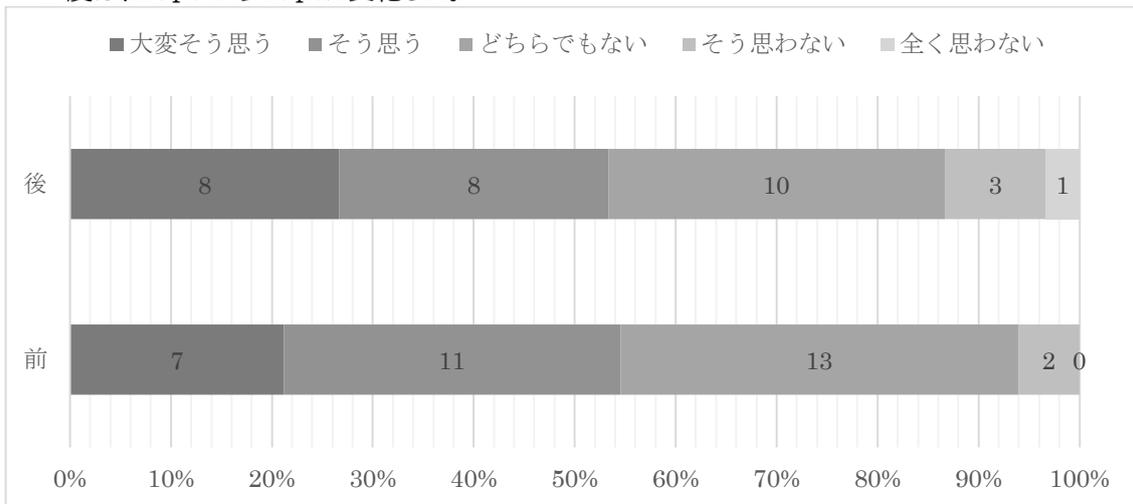


図 17 規則や規律が厳しそうだ

「競争率が高く就職しにくそうだ」(前 34 後 30)
 「大変そう思う」「そう思う」は 18 人から 12 に減った。
 職業イメージ度は、19pt から 10pt に変化した。

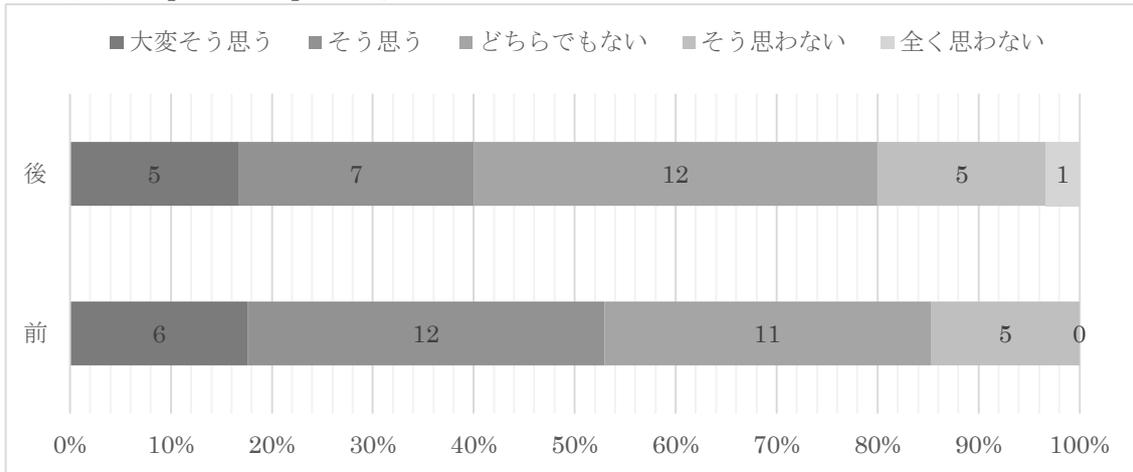


図 18 競争率が高く就職しにくそうだ

「大変そう思う」を選んだ職業イメージ項目

講義後、語学を活用する仕事に持つ職業イメージとして50%以上(15人以上)が選んだのは、「専門的な知識がいりそうだ」「やりがいがありそうだ」「世の中のためになりそうだ」だった。

「私生活とのバランスがとれそうだ」は20%以下(6人以下)だった。

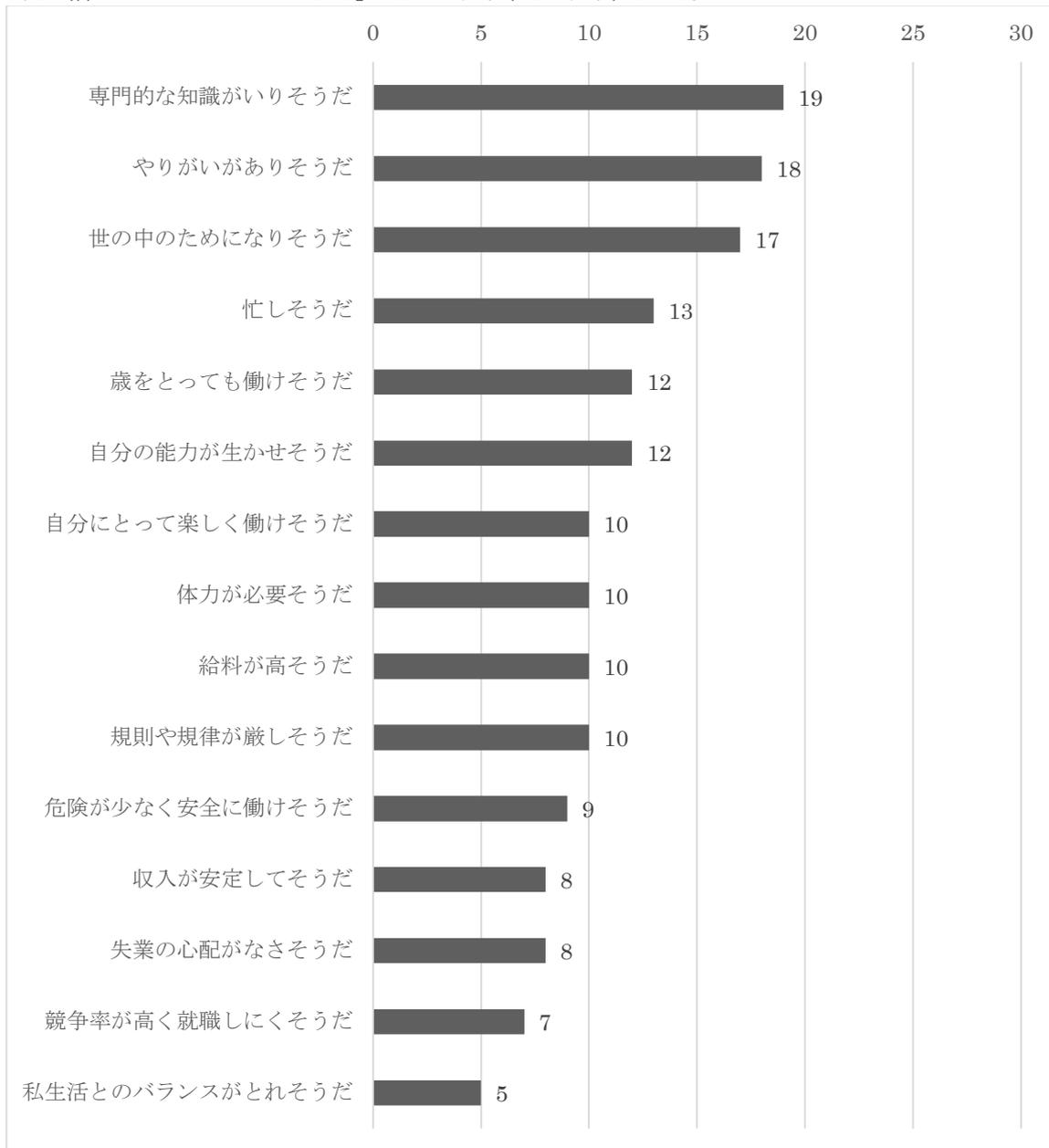


図 19 「大変そう思う」を選んだ職業イメージ項目(R6年度)

R5年度の生徒(35人)と比較すると、50%以上(17人以上)が選んだ項目は変わらなかったが、順位が、「世の中のためになりそうだ」「やりがいがありそうだ」「専門的な知識がいりそうだ」で、1位と3位が入れ替わった。

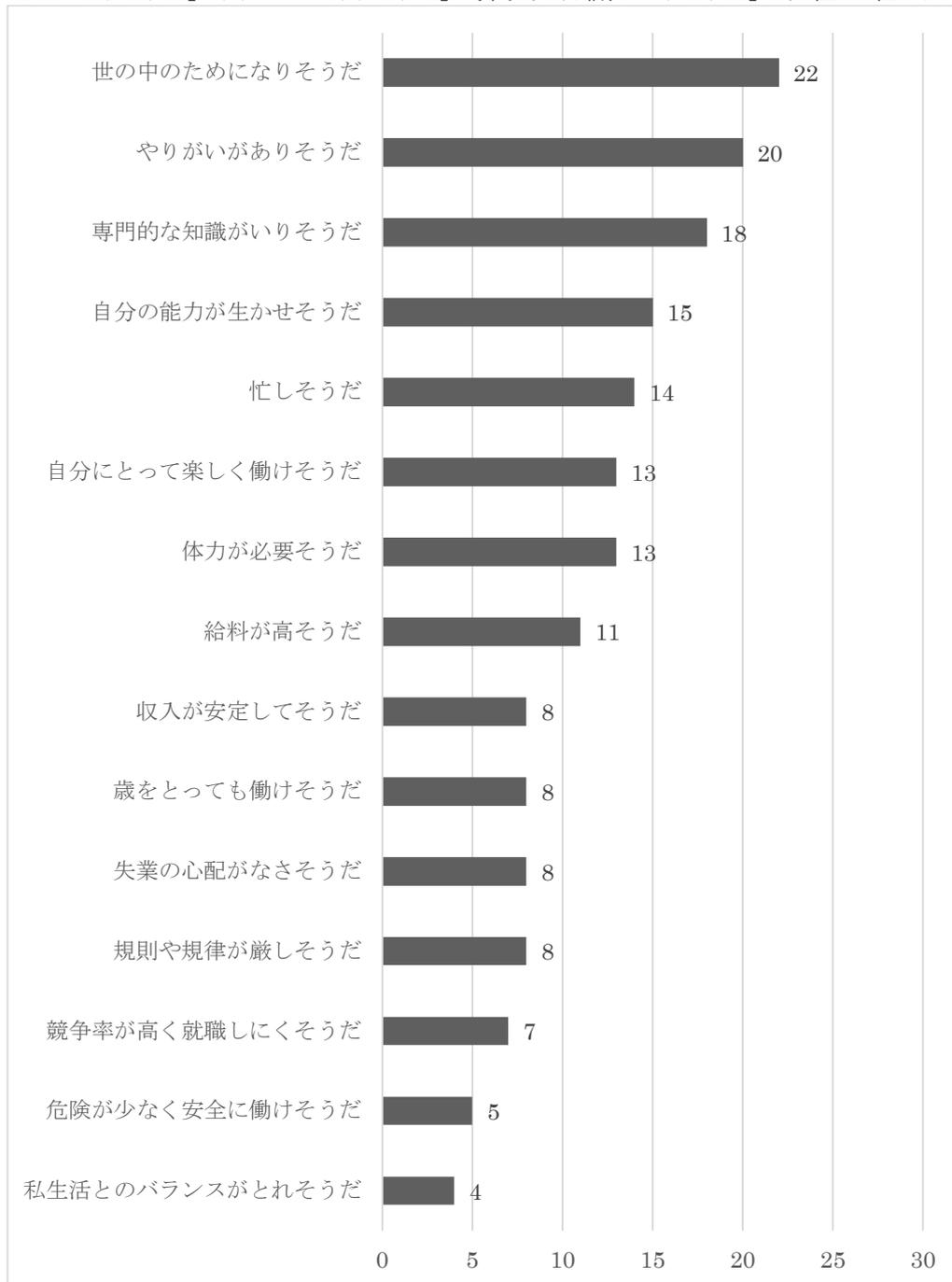


図19 「大変そう思う」を選んだ職業イメージ項目(R5年度)

講義前後での職業イメージ変容度

職業イメージが大きく変容した項目グループは、「危険が少なく安全に働けそうだ」「私生活とのバランスがとれそうだ」だった。(思っていたより安全に働け、私生活とのバランスがとれそうだと感じている)

職業イメージがマイナスに変化した項目グループは、「忙しそうだ」「競争率が高く就職しにくそうだ」だった。(思っていたより、忙しくなく、競争率も高くないと感じている)

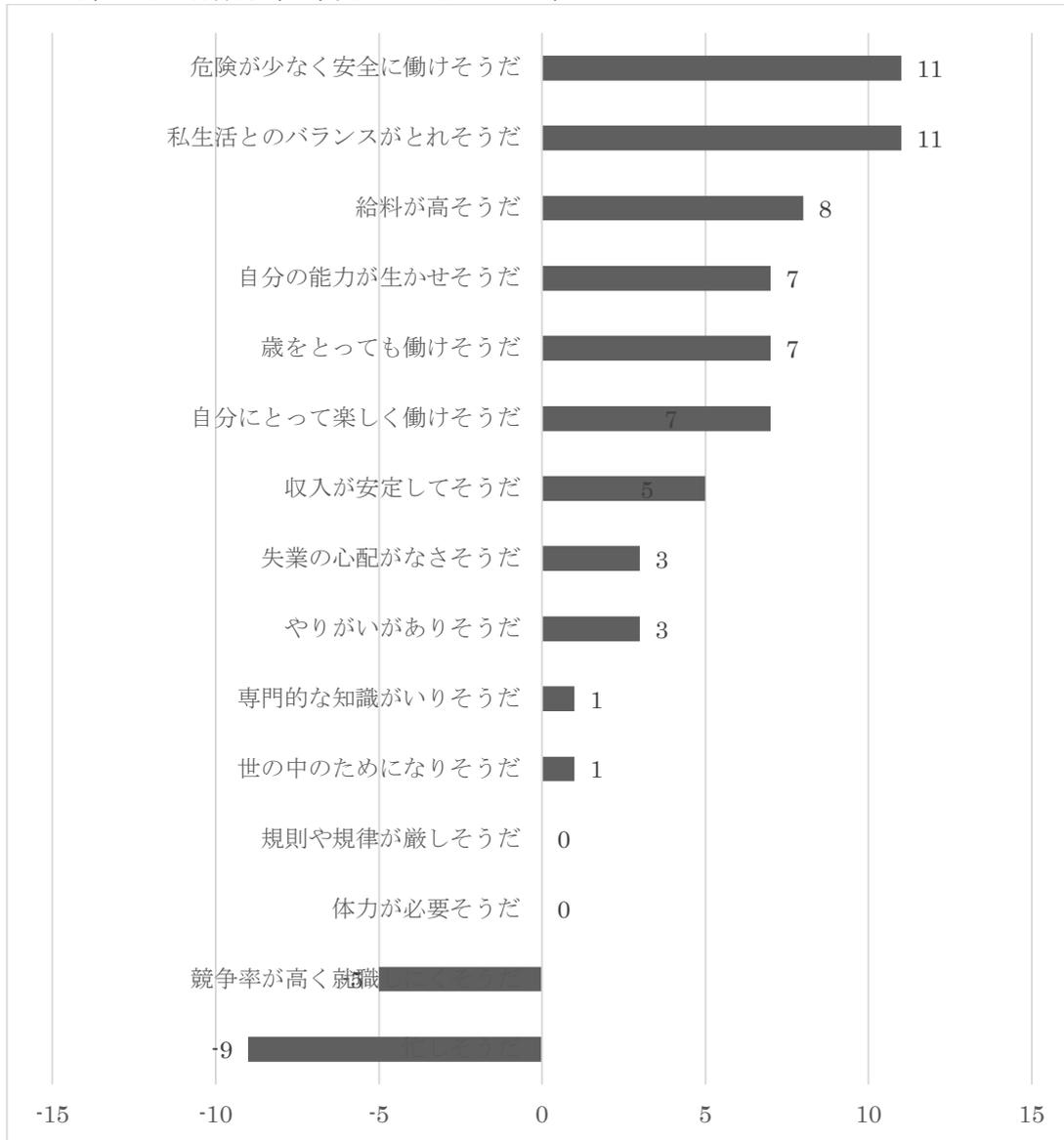


図 20 職業イメージ変容度(R6 年度)

R5年度の生徒(35人)と比較すると、職業イメージが大きく変容した項目グループは、「危険が少なく安全に働けそうだ」「体力が必要そうだ」だった。(思っていたより安全に働け、体力が必要そうだと感じている)
 職業イメージがマイナスに変化した項目グループは、「競争率が高く就職しにくそうだ」だった。(思っていたより、競争率が低いと感じている)

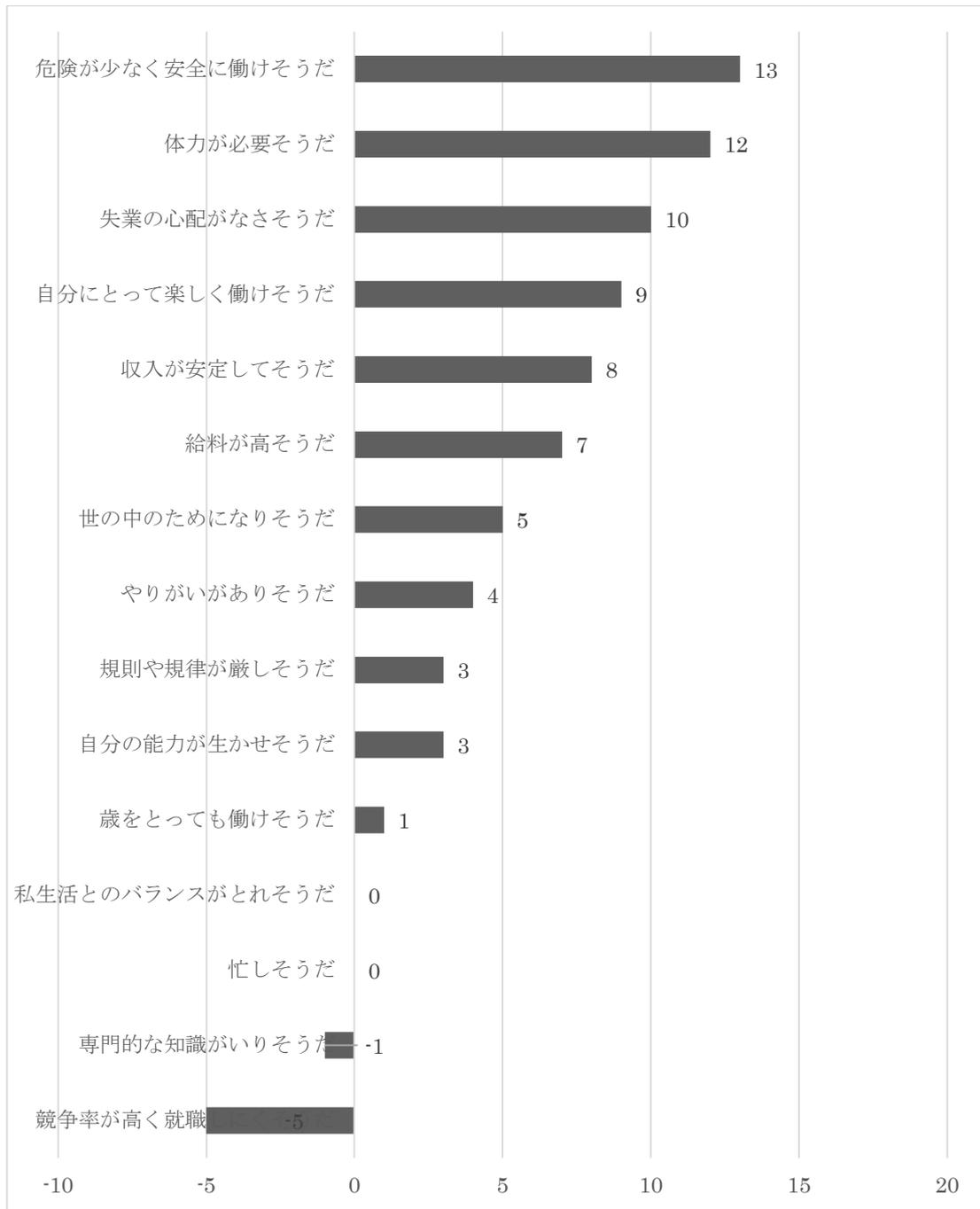


図 20 職業イメージ変容度(R5年度)

3.1.7 今日の講義・講話の中で『はじめて知ったこと、はじめて聞いたこと』

※誤った漢字や送り仮名、ひらがな表記などは訂正せず、可能な限り原文に近い形で表しています。
※ひとりひとりの記述は掲載の順番を変えて、「--」で区切っています。

ギリシャでは、「ストップ」のハンドサインが「くたばれ」という意味になる。

--

高校時代にやっておくことを知れた。

--

セブ島への留学はコスパがよく行きやすい。専門学校を出たら専門士の資格がとれる。

--

語学・留学のお仕事が減ってきている。

--

色んな国のルール

--

海外でやっちゃダメなハンドサインなど

--

国によって、やってはいけないことやマナーなどが全然違って、行く機会があればちゃんと調べて気をつけて。

--

それぞれの国のNGだったり、語学を活かせる職業がどのようなものがあるか、はじめて知りました。

--

はじめて知ったのは、留学とかで考えるとコスパNO1のフィリピンのセブが一番いいということを知りました。

--

留学先人気NO1はカナダ・バンクーバー、コスパNO1はフィリピン・セブ

--

語学をきわめたいと思ったので、専門学校でりゅうがくに行ったほうがいいのかと、スキルもみがけることが分かりました。

--

留学先人気NO1 バンクーバー。留学先コスパNO1 フィリピン・セブ。

--

留学の中でホームステイや寮などがあること

--

パイロットやマーシャラーでも英語が必要だと分かりました。また、留学ではその国の文化や習慣が学べると知りました。

沖縄はハワイよりも観光客が多い。

--

私たち日本人があまりふれない違う言語なので、お仕事も全部かたくるしいのかなと思ったけど、どの仕事も人とのかわりが沢山あり、たのしそーだとおもった。

--

おもっていたより人と関わる仕事だった。

--

自己管理と国語力を高めることが今の自分に必要だなと思いました。

--

留学はカナダでバンクーバーが1位とはじめてわかりました。

--

英語や語学でも沢山の仕事があることがわかった。

--

語学はこれからの社会に可能性を広げる職業

--

語学学校の特色、得意分野をしったり学生に関する情報をしることができた。

--

外資系のお仕事とかは英検とかが必要なことが分かりました。

3.1.8 今日の講義・講話の中で『特に印象に残ったこと』

※誤った漢字や送り仮名、ひらがな表記などは訂正せず、可能な限り原文に近い形で表しています。
※ひとりひとりの記述は掲載の順番を変えて、「--」で区切っています。

実際の留学の映像を見てとっても楽しそうだった。

--

留学に関することを沢山知れて、留学にかかる費用も知ることができた。

--

これからは英語が使える人が重宝される。

--

他の国の異文化理解が大切

--

留学の動画

--

留学のこと、おすすめの場所、どんな人が留学しているか

--

コスパがいい国→フィリピンのセブ

--

高校のうちでやっておいた方がよいことが聞けて、今、自分が普段の生活で意識できていないことが沢山あるなど実感させられました。

--

留学する際に自分の英語のレベルを確認できるということ。

--

英語力のほかにも留学やインターンシップなどの体験と自分から興味関心をもつことと、英語力に+ α のものがあるといい。(中国語、ワープロ、秘書検定など)

--

高校でやっておいたほうがよいこと。自己管理、国語力を高める、経験、基礎学力

--

留学を通して英語力が上がり、それを生かした職業がたくさんある。

--

海外留学も楽しそうだった。

--

じっさいに留学した人の現地の動画をみてすごかったのしそー。行ってみたいと興味がわいた。

--

語学・留学の仕事は思っていたよりたくさん仕事があったのしそーだ。

--

語学はいろんなお仕事に使うことができるのが印象に残りました。

--

自分に合った心理テスト

--

相手の文化・週間に対する理解力が必要になること。

--

将来のためにしておいてほうがよいこと。自己管理、国語力、経験、チャレンジ、労力

--

留学の話してどこが一番いいかとかを話したのが一番印象に残りました。

--

3.1.9 話を聞いてみたい仕事や職業

※誤った漢字や送り仮名、ひらがな表記などは訂正せず、可能な限り原文に近い形で表しています。

※ひとりひとりの記述は掲載の順番を変えて、「--」で区切っています。

パイロット、通訳

--

貿易、外資系企業

--

ホテルスタッフ

--

保育士

--

教員、公務員

--

保育士、エステ

--

グランドスタッフ

--

ホテルマン

--

翻訳、エステ、美容系

--

保育士

--

グラフィックデザイナー

--

CA

--

自分は女なので産休などをとっても仕事復帰しやすい職業を知りたいです。

--

歯科衛生士

--

サービス業、ホテル

--

歯科衛生士

--

看護師

--

外資系

--

話を聞いてみたい仕事や職業(希望職種とは無関係)

	R6年	R5年(現3年生)
ホテル	4	2
保育士	3	5
エステ	2	7
歯科衛生士	2	1
外資系	2	0
看護師	1	4
公務員	1	3
通訳	1	2
教員	1	1
CA	1	1
翻訳	1	1
グラフィックデザイナー	1	0
サービス業	1	0
パイロット	1	0
貿易	1	0
グランドスタッフ	1	0
ブライダル		3
銀行員(事務系)		2
海外営業・経営		2
シェフ		1
経営者		1
モデル		1
弁護士など法律に関わる仕事		1
IT 会社		1
介護士		1
観光		1
建築		1

3.1.10 今日の講義・講話を聞いて、『感じたこと、思ったこと』

※誤った漢字や送り仮名、ひらがな表記などは訂正せず、可能な限り原文に近い形で表しています。

※ひとりひとりの記述は掲載の順番を変えて、「--」で区切っています。

語学が本当に好きで新しい外国語を覚えてみたいりするの好きなので、この仕事にとっても興味があって、もっと知りたくなりました。

--

在学していた生徒の実際の留学したときの動画がとても印象に残った。IRCに行きたいと思っているからより詳しく話を聞いてよかったし、またオープンキャンパスにも行ってもっと話を聞きたいと思った。

--

語学・留学が少なくなってきた中で、とても英検とか大切だなと思いました。他の国の異文化に対する理解力を大切にしていこうと思いました。

--

留学先のことや異文化のことをしてとても留学に興味があった

--

今日の講話を聞いて、語学留学の中でも沢山の仕事があることが分った。また、国によってやっていけないことがあることも分りました。

--

講話を聞いて留学に関することや語学について知る事ができたし、興味をもちました。色んな話を聞いてみたいと思いました。

--

今日の語学留学についての講話を聞いて興味をもった。だから留学についてもっと調べてみて考えてみようと思った。進路についても色々教わったからこれを参考にしたい。

--

海外留学は言葉もあまり通じないので不安しかないと思っていたのですが、動画を見ると楽しそうで自由だと感じました。他にも英語を使った仕事には留学や資格をとることが大事だそうで、これからの学校生活頑張りたいです。

--

もともと興味があった語学のおしごとをじっさいに聞いてきょうみがとてもわきました。

--

自分が合うのは進学か就職かとまずは決めて進学だったら大学か専門か決めて就職だったらお店やきぎょうをみて自分に合うのをきめて人生をきめる

--

留学にすこし興味があったので、今回のお話をきいて、より興味がありました。もう少し英語が得意になったり、好きになったら、留学を視野に入れたいなと思いました。

--

話を聞いて留学に興味なかった人も友だちと一緒に留学したりなど楽しんでいるんだなと思いました。自分もやりたい事に進んで行きたいです。

--

基礎学力を高めたり今とれる検定はとって高校生のうちにできることはやろうと思った。

--

今日の講話で思ったことは、英語や外国語が話せると、とても便利だし有利でとてもいいと思った。

--

自分は将来外国で仕事をしたいので今のうちにやっておいたほうがいいことやどんなけんていをとっていたほうがいいかあるていど分ったのでいいと思いました。

3.2 具志川商業高等学校 職業イメージ変容調査

3.2.1 実施概要

日時 令和6年7月17日
 対象 沖縄県立具志川商業高等学校リゾート観光科 2年生
 人数 31名
 講師 インターナショナルリゾートカレッジ 田村明子先生
 内容 ホテル・ブライダル業界について

3.2.2 ホテル・ブライダル業界に関する、興味度と理解度

「この仕事に興味がありますか？/興味をもちましたか？」

「大変興味をもつ」生徒が4人から9人になった。「わからない」生徒がゼロになり、職業選択判断の材料になった。興味関心度は、25ptから34ptに上昇した。

興味関心度は「大変興味がある/大変興味をもった」を2点、「やや興味がある/やや興味をもった」を1点、「興味がない/興味をもたなかった」を-1点とし回答数を乗じた。

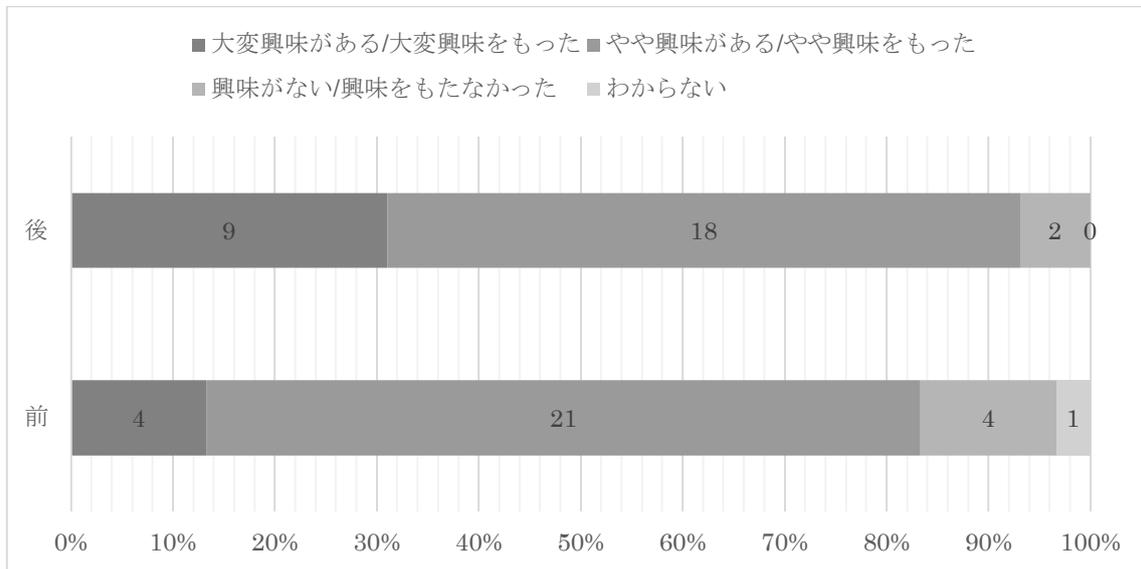


図1 この仕事に興味がありますか？/興味をもちましたか？

3.2.3「仕事内容を友達や後輩に説明できますか？」

説明できなかった生徒が15人いたが1人になった。よく説明できる、だいたい説明できる生徒が5人から20人になった。理解(説明)度は、20ptから50ptに上昇した。

理解(説明)度は「よく説明できる」を3点、「だいたい説明できる」を2点、「少し説明できる」を1点とし回答数を乗じた。

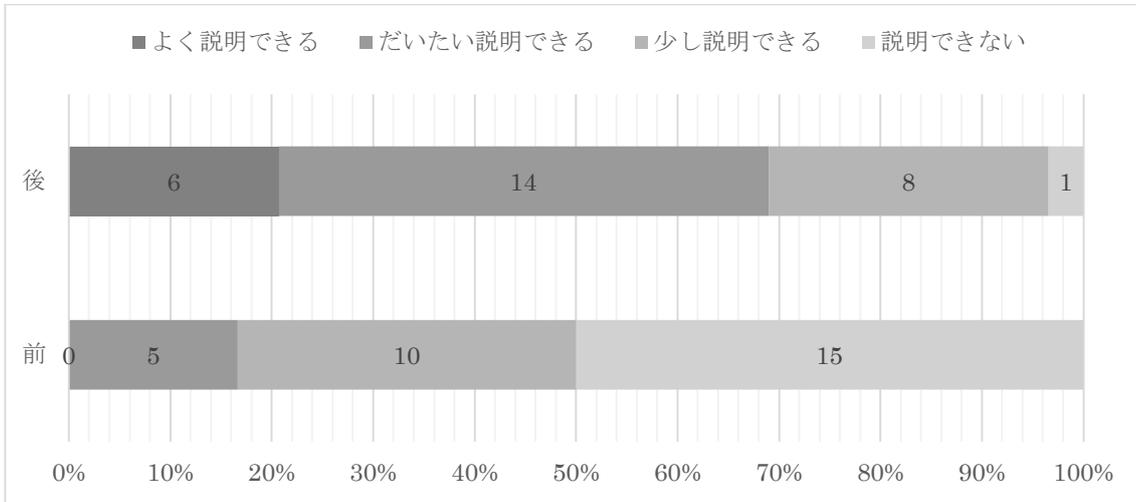


図2 仕事内容を友達や後輩に説明できますか？

3.2.4「仕事に必要な能力を友達や後輩に説明できますか？」

説明できなかった生徒が20人いたが1人になった。よく説明できる、だいたい説明できる生徒が4人から20人になった。理解(説明)度は、15ptから54ptに上昇した。

理解(説明)度は「よく説明できる」を3点、「だいたい説明できる」を2点、「少し説明できる」を1点とし回答数を乗じた。

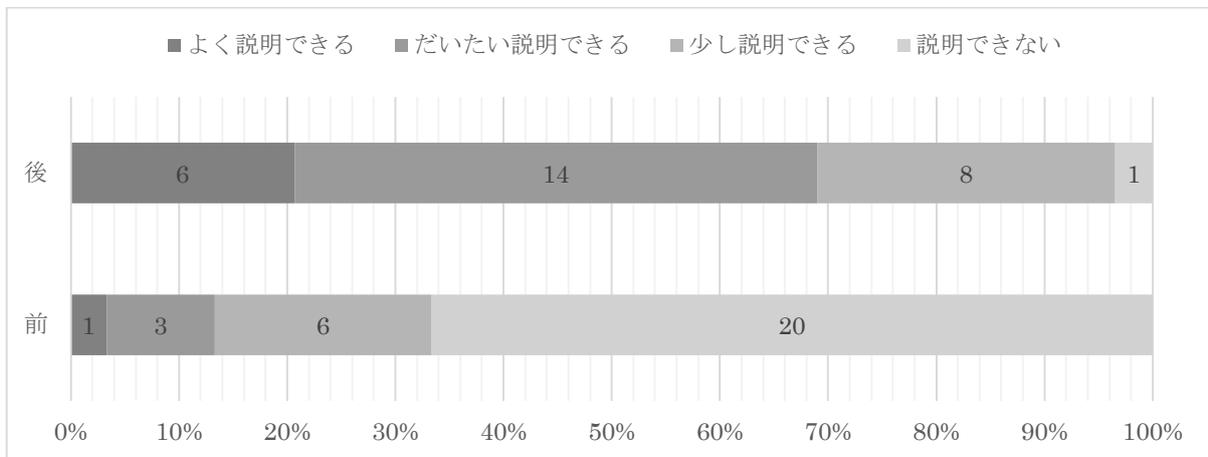


図3 仕事に必要な能力を友達や後輩に説明できますか？

3.2.5 ホテル・ブライダル業界職業イメージの変容

「自分にとって楽しく働けそうだ」

ポジティブな意見を持つ生徒が19人から24人に増えた。

職業イメージ度は、19ptから32ptに変化した。(R5年は47pt)

職業イメージ度:「大変そう思う」を2点、「そう思う」を1点、「どちらでもない」を0点、「そう思わない」を-1点、全く思わないを-2点とし回答数を乗じた。

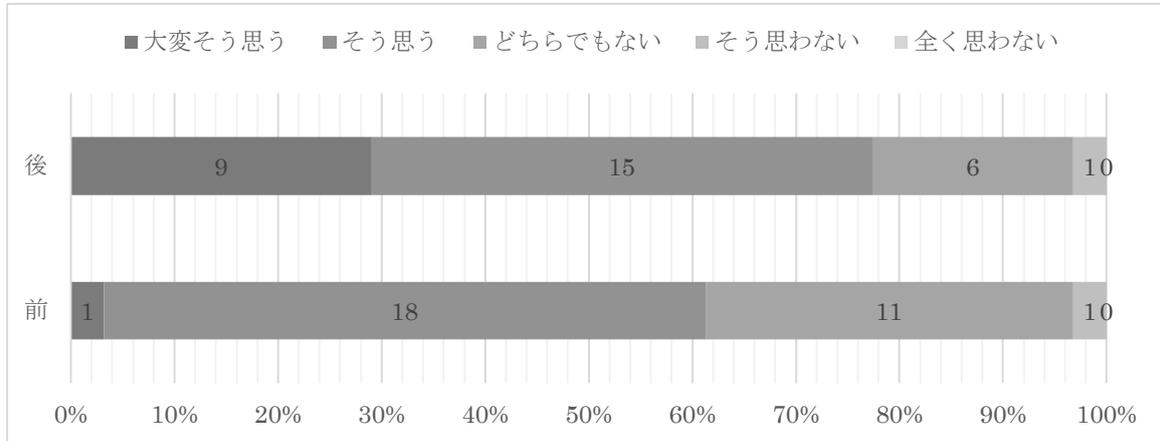


図4 自分にとって楽しく働けそうだ

「収入が安定してそうだ」

ポジティブな意見を持つ生徒が15人から23人に増えた。

職業イメージ度は、11ptから27ptに変化した。(R5年は44pt)

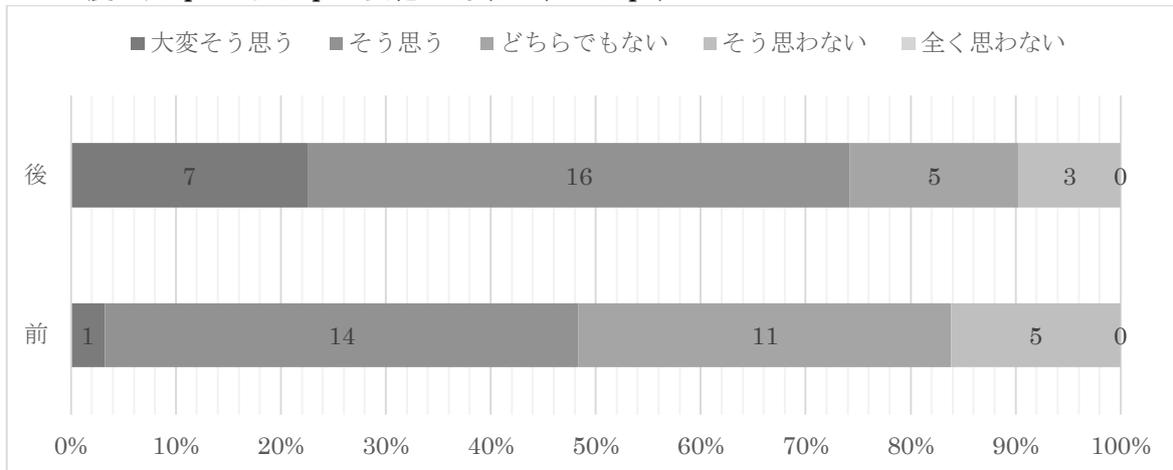


図5 収入が安定してそうだ

「体力が必要そうだ」
 大変そう思う生徒が 14 人から 19 人になった。
 職業イメージ度は、44pt から 47pt に変化した。(R5年は 48pt)

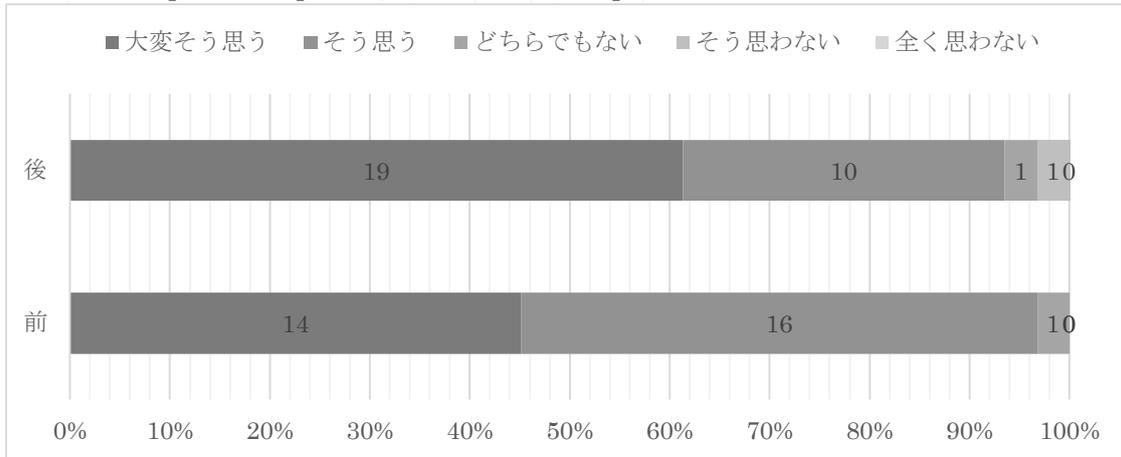


図 6 体力が必要そうだ

「忙しそうだ」
 イメージに変化はなかった。
 職業イメージ度は、47pt から 46pt になった。(R5年は 52pt)

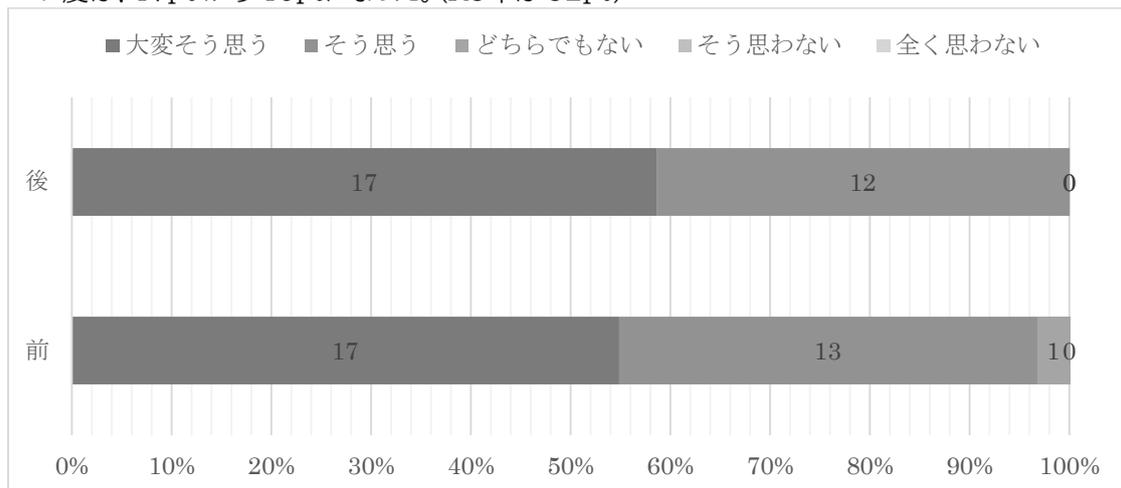


図 7 忙しそうだ

「給料が高そうだ」

大変そう思う生徒が 3 人から 10 人に増えた。

職業イメージ度は、19pt から 31pt に変化した。(R5年は 47pt)

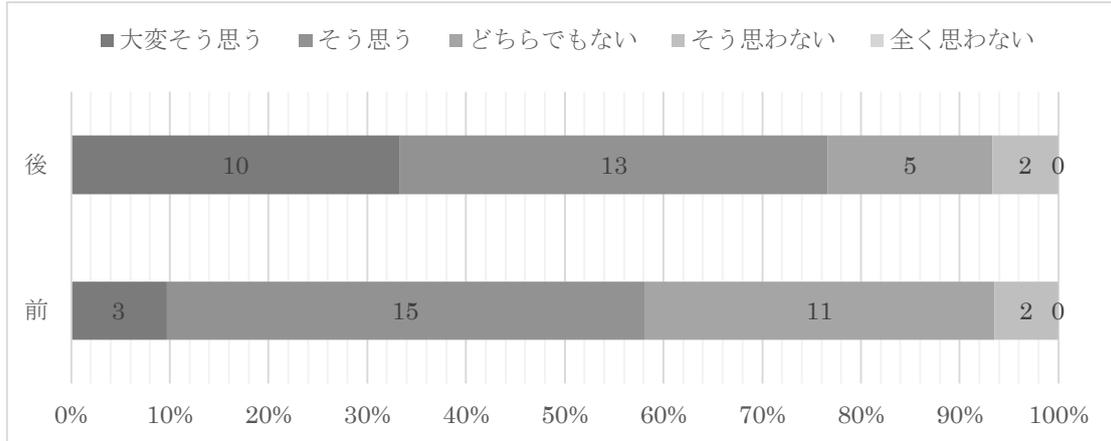


図 8 給料が高そうだ

「私生活とのバランスがとれそうだ」

大変そう思う生徒が 3 から 5 人に増えた。

ネガティブなイメージを持つ生徒が 3 人から 1 人に減った。

職業イメージ度は、16pt から 21pt に変化した。(R5年は 30pt)

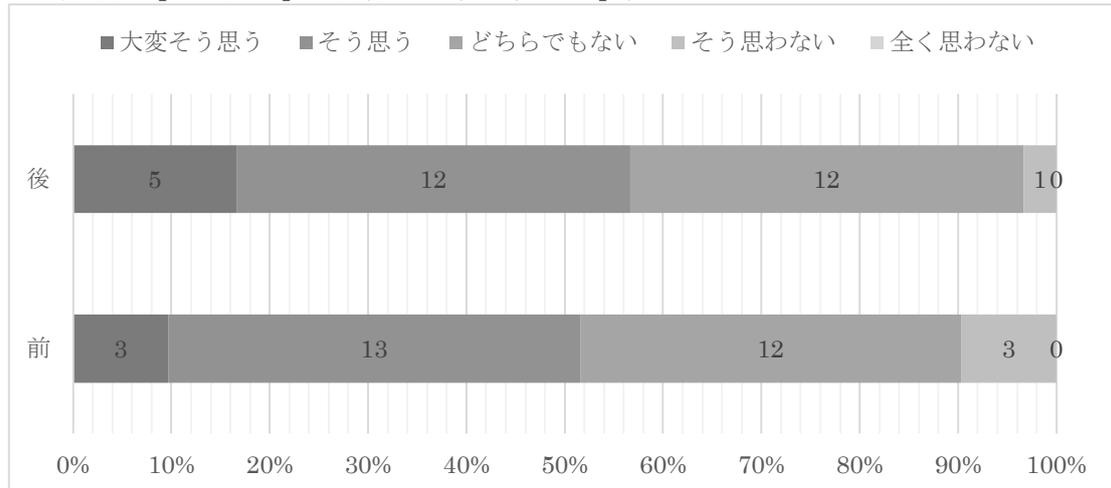


図 9 私生活とのバランスがとれそうだ

「歳をとっても働けそうだ」
 ネガティブなイメージを持つ生徒が3人から0人に減少した。
 職業イメージ度は、21ptから28ptに変化した。(R5年は15pt)

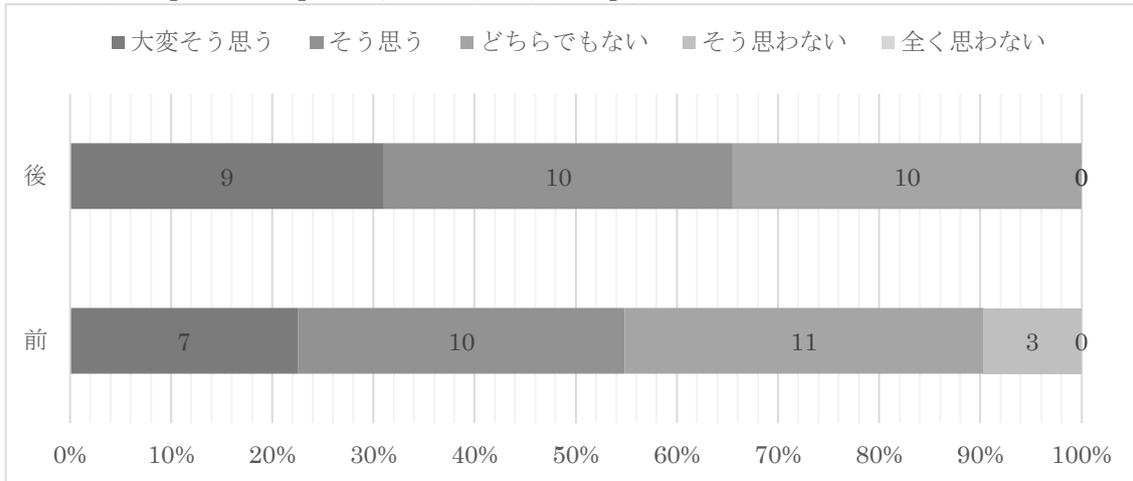


図10 歳をとっても働けそうだ

「やりがいがありそうだ」
 大変そう思う生徒が19人から24人に増えた。
 職業イメージ度は、47ptから54ptに変化した。(R5年は63pt)

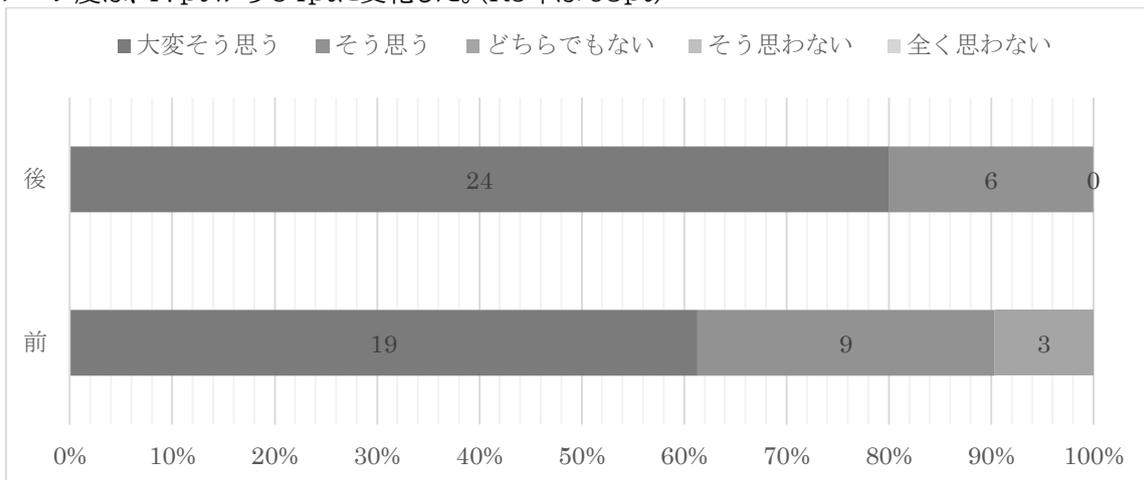


図11 やりがいがありそうだ

「世の中のためになりそうだ」
 大変そう思う生徒が 15 人から 20 人に増えた。
 職業イメージ度は、43pt から 49pt に上昇した。(R5年は 62pt)

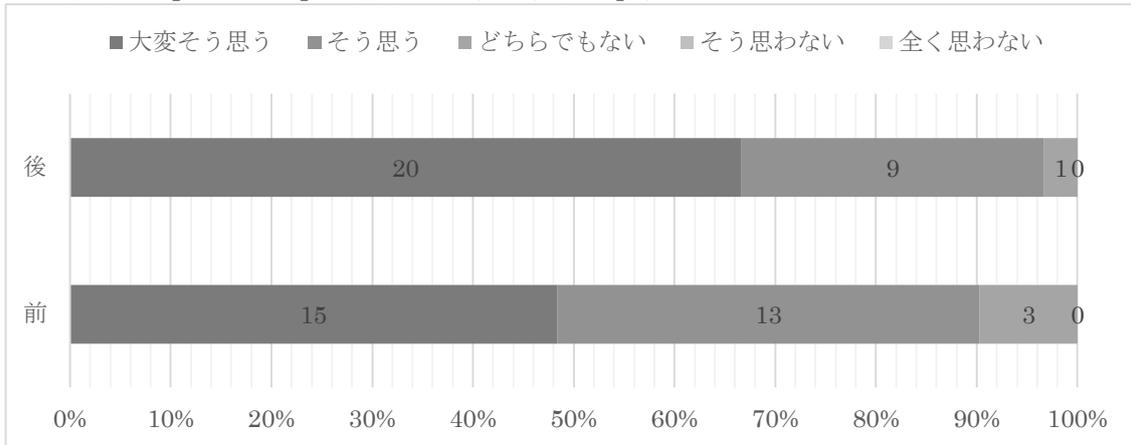


図 12 世の中のためになりそうだ

「自分の能力が生かせそうだ」
 大変そう思う生徒が 6 人から 11 人に増えた。
 職業イメージ度は、23pt から 34pt に上昇した。(R5年は 44pt)

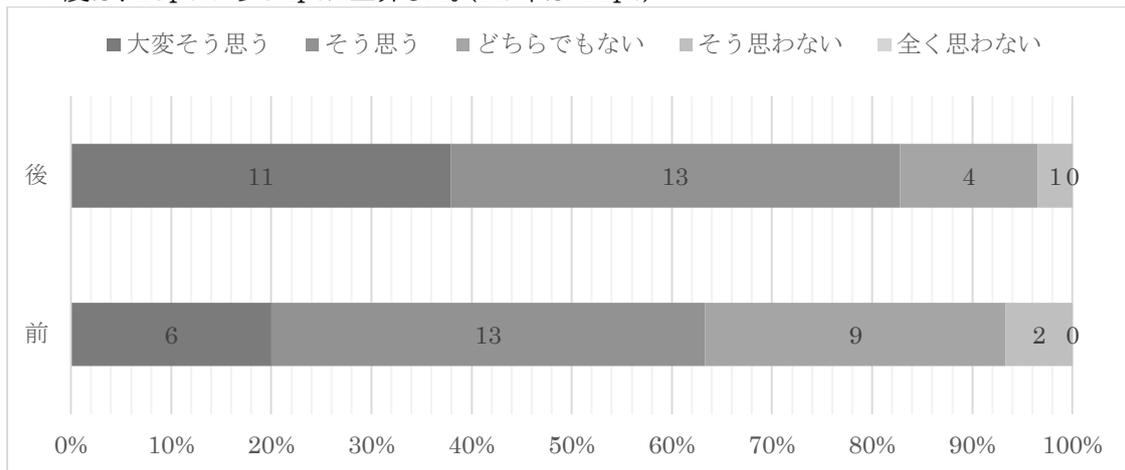


図 13 自分の能力が生かせそうだ

「専門的な知識がいきりそうだ」
 大変そう思う生徒が11人から16人に変化した。
 職業イメージ度は、37ptから41ptになった。(R5年は55pt)

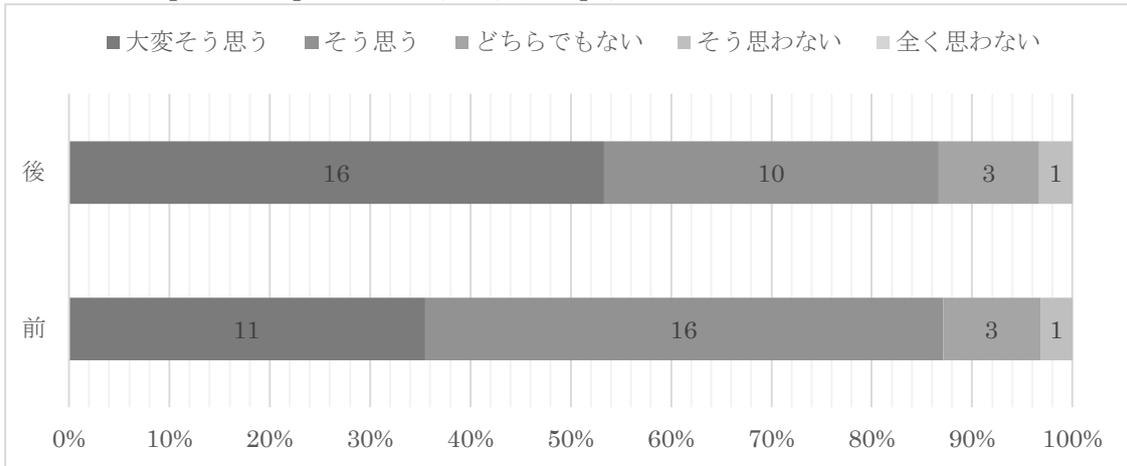


図14 専門的な知識がいきりそうだ

「失業の心配がなさそうだ」
 ポジティブなイメージを持つ生徒が9人から19人に増えた。
 ネガティブなイメージを持つ生徒が7人から3人に減少した。
 職業イメージ度は、4ptから24ptに上昇した。(R5年は37pt)

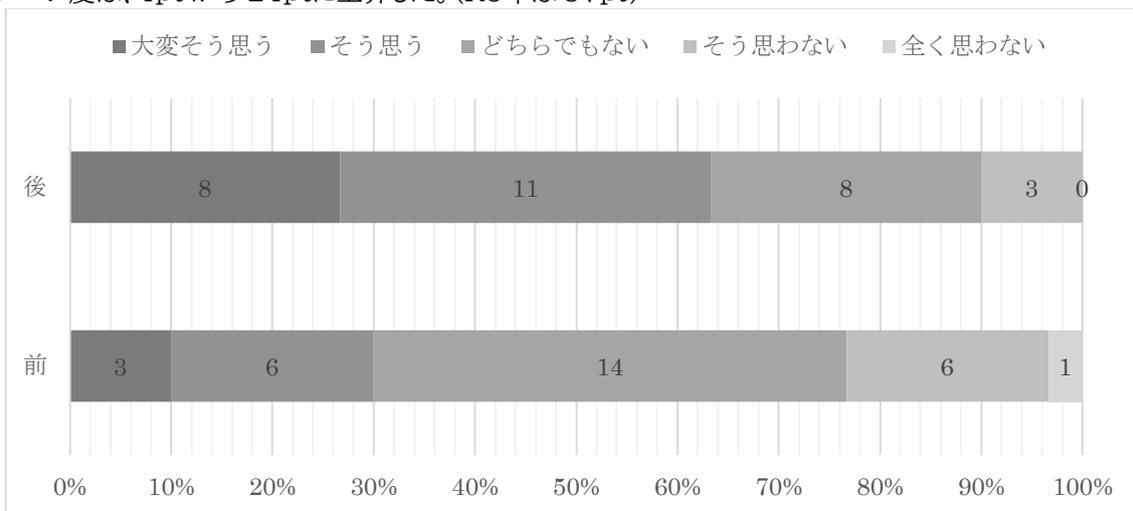


図15 失業の心配がなさそうだ

「危険が少なく安全に働けそうだ」
 大変そう思う生徒が4人から10人に増えた。
 職業イメージ度は、18ptから29ptに上昇した。(R5年は50pt)

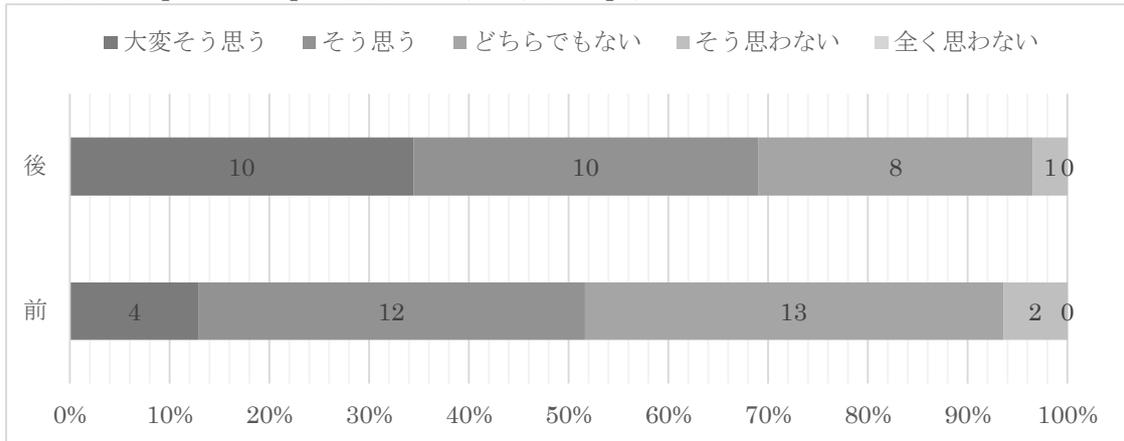


図 16 危険が少なく安全に働けそうだ

「規則や規律が厳しそうだ」
 イメージに大きな変化はなかった。
 職業イメージ度は、39ptから40ptに変化した。(R5年は38pt)

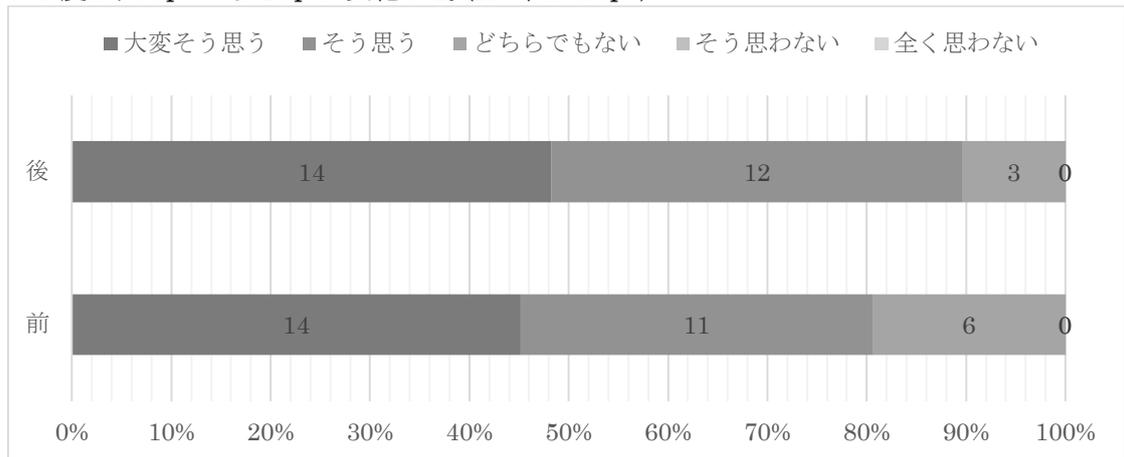


図 17 規則や規律が厳しそうだ

「競争率が高く就職しにくそうだ」
 大変そう思う、そう思うが12人だったが18人に増加した。
 職業イメージ度は、13ptから24ptに増加した。(R5年は33pt)

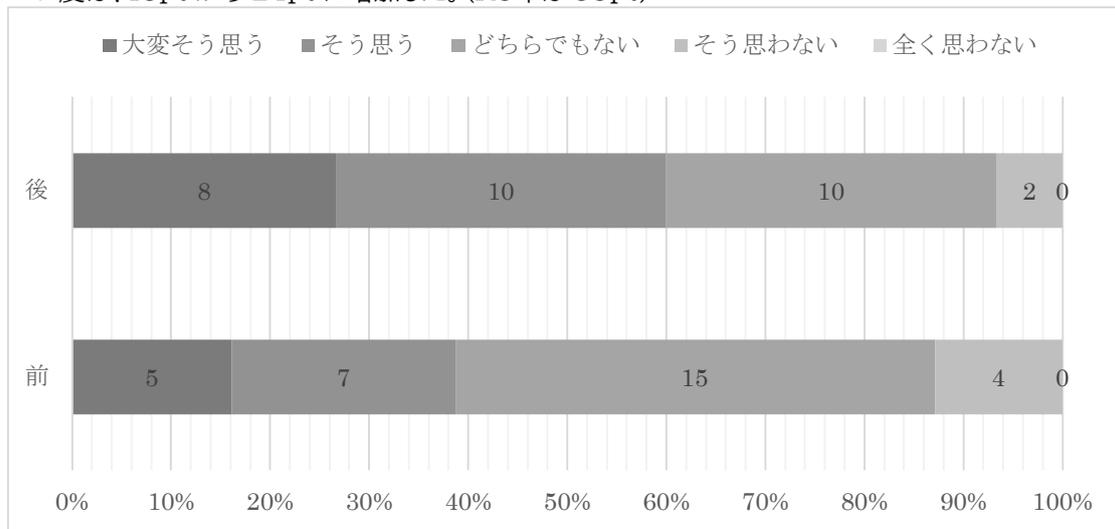


図 18 競争率が高く就職しにくそうだ

「大変そう思う」を選んだ職業イメージ項目

講義後、ホテル・ブライダル業界に持つ職業イメージとして 70%以上(22 人以上)が「大変そう思う」を選んだのは、「やりがいがありそうだ」だった。

50%以上(16 人以上)が選んだのは、「世の中のためになりそうだ」「体力がいりそうだ」「忙しそうだ」「専門的な知識がいりそうだ」だった。

「私生活とのバランスがとれそうだ」は 20%以下だった。

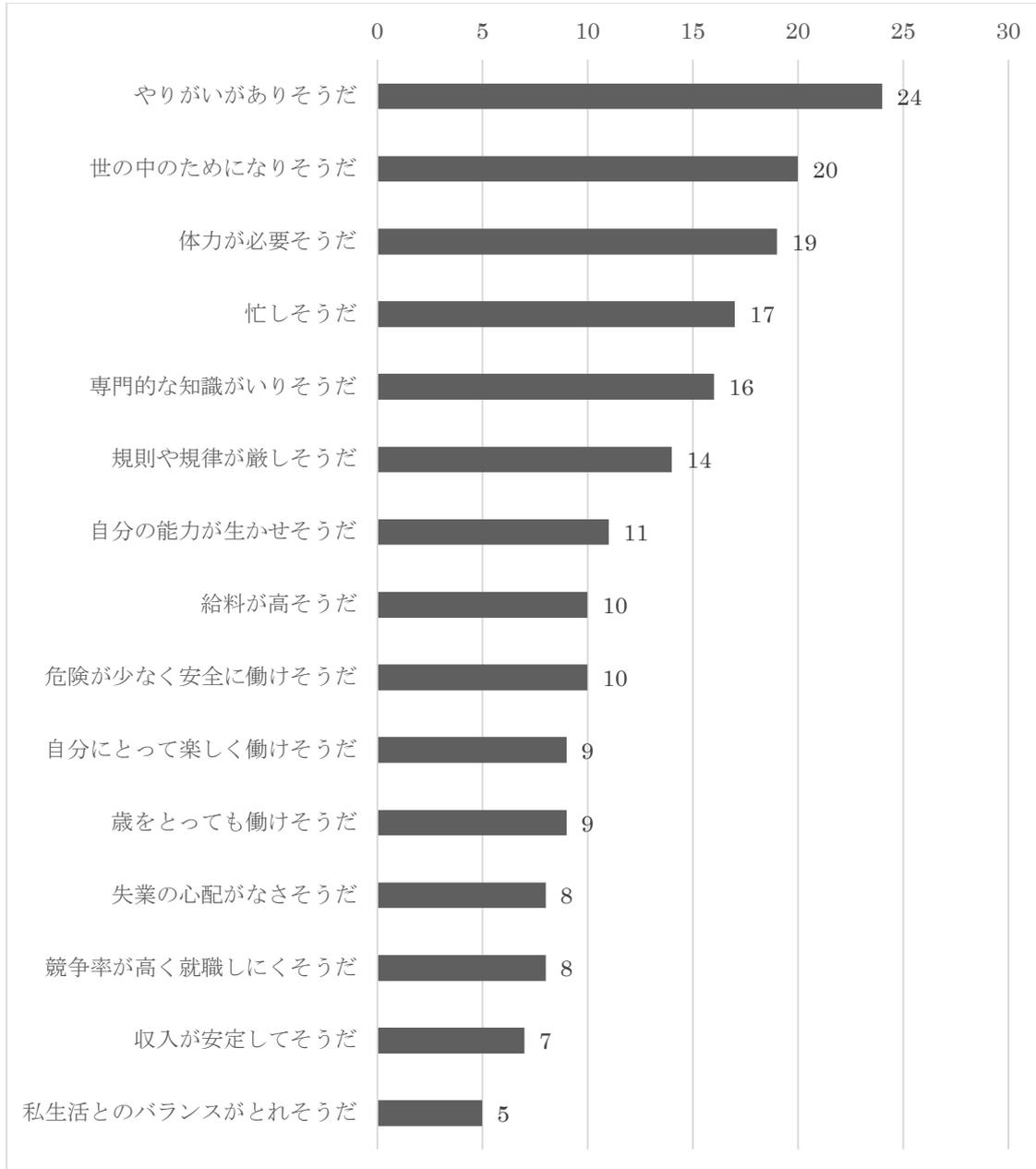


図 19 「大変そう思う」を選んだ職業イメージ項目 (R6 年度)

R5年度の生徒について 70%以上(24人以上)が「大変そう思う」を選んだのは、「世の中のためになりそうだ」「やりがいがありそうだ」だった。
「私生活とのバランスがとれそうだ」と「歳をとっても働けそうだ」は 20%以下だった。

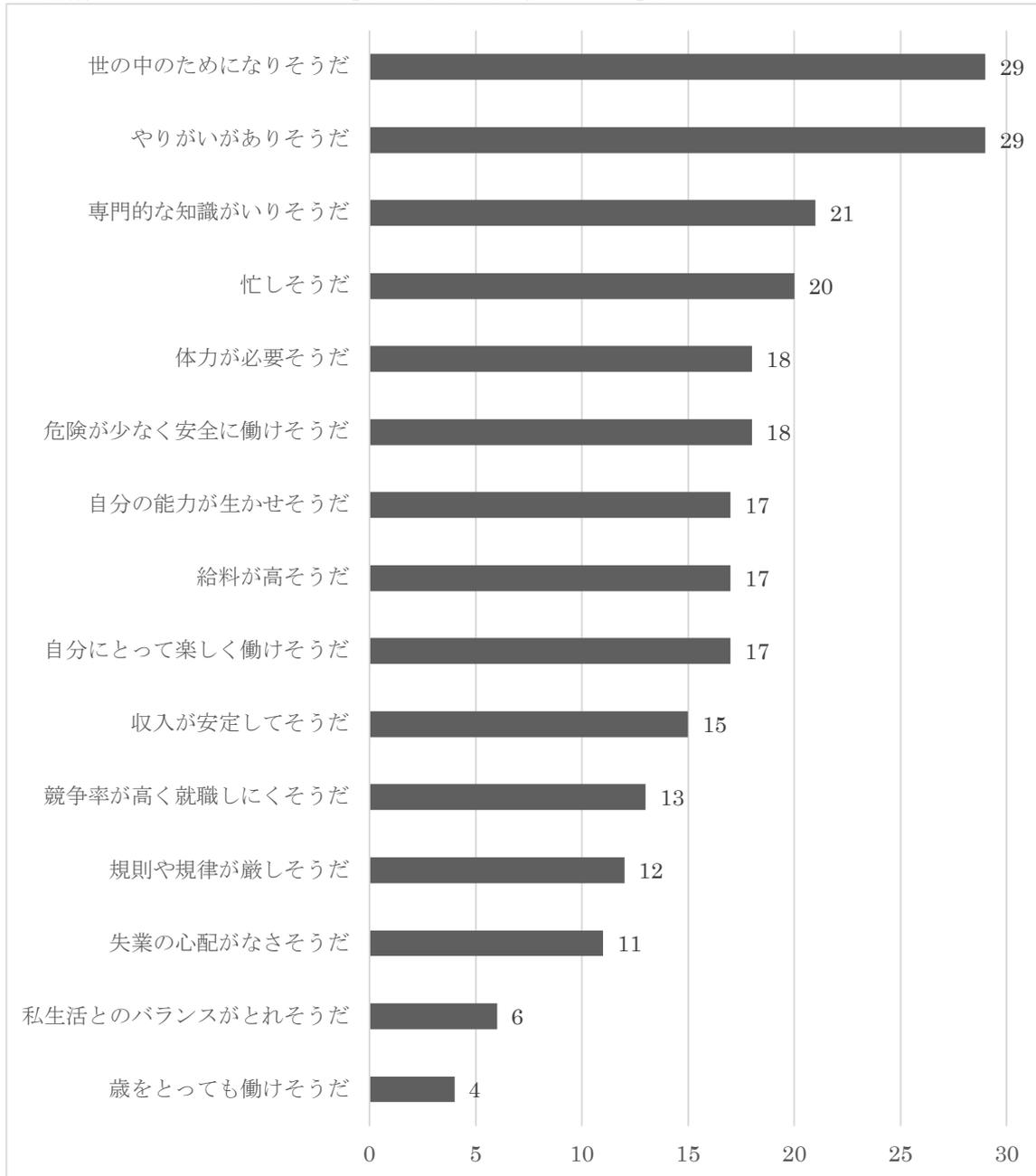


図 19 「大変そう思う」を選んだ職業イメージ項目 (R5 年度)

講義前後での職業イメージ変容度

職業イメージが大きく変容した項目グループは、「失業の心配がなさそうだ」「収入が安定してそうだ」だった。(思っていたより失業の心配が無い、収入が安定している)

職業イメージがマイナスに変化した項目グループは、「忙しそうだ」だった。(思っていたより忙しくない)

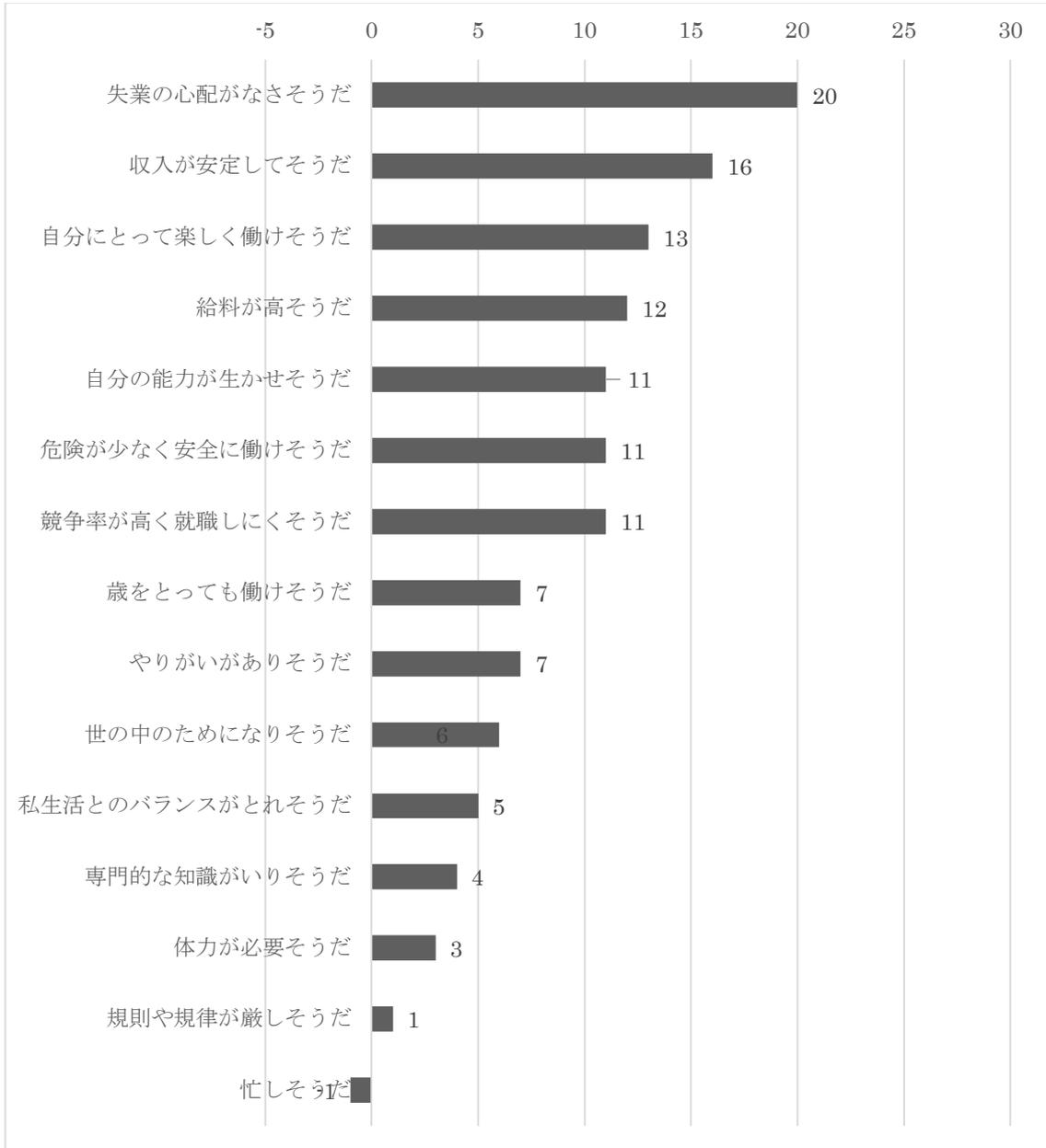


図 20 職業イメージ変容度(R6年度)

R5年度の生徒について職業イメージが大きく変容した項目グループは、「給料が高そうだ」「収入が安定してそうだ」「自分にとって楽しく働けそうだ」だった。

職業イメージがマイナスに変化した項目グループは、「規則や規律が厳しそうだ」「忙しそうだ」だった。

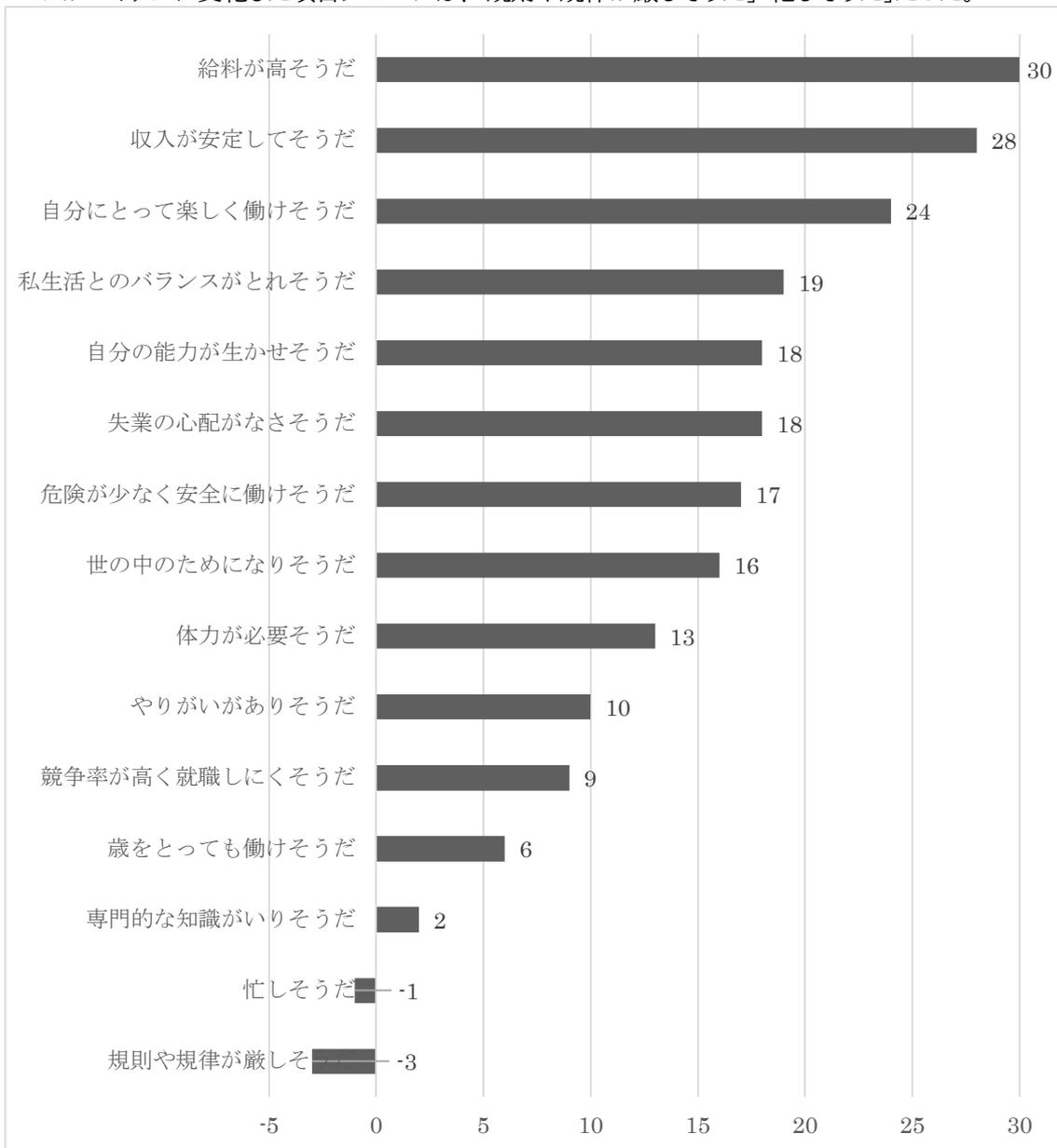


図 20 職業イメージ変容度(R5年度)

3.2.6 今日の講義・講話の中で『はじめて知ったこと、はじめて聞いたこと』

※誤った漢字や送り仮名、ひらがな表記などは訂正せず、可能な限り原文に近い形で表しています。
※ひとりひとりの記述は掲載の順番を変えて、「--」で区切っています。

<記入時間があまりなかったため多くの生徒が記入できていない>

ホテルの仕事はこんなに沢山の種類があるとは思わなかった

--

ブライダルのお仕事は表に出る仕事だけでなく裏でも活躍できることがあるんだなと知りました。

--

沖縄には昔からホテルが少なかったです。だけど、今は年に6個のホテルが建てられています。

--

ブライダルの仕事は結婚式のプランから演出までプロの手でやっていることが分りました。

--

仕事の楽しさ

--

ドアマンのお仕事とベルマンのお仕事がよく分りました。

--

3.2.1.2.6 今日の講義・講話の中で『特に印象に残ったこと』

※誤った漢字や送り仮名、ひらがな表記などは訂正せず、可能な限り原文に近い形で表しています。
※ひとりひとりの記述は掲載の順番を変えて、「--」で区切っています。

<記入時間があまりなかったため多くの生徒が記入できていない>

ホテルはリゾートホテルとシティホテルでは違いがあるんだなと思いました

--

ホテルはお客さんを笑顔にする仕事

--

お客様からたくさんの笑顔やありがとうがもらえること。

--

ホテルもブライダルも感謝される仕事。

--

ウエディングの動画

--

笑顔が見れること

--

3.2.7 話を聞いてみたい仕事や職業

※誤った漢字や送り仮名、ひらがな表記などは訂正せず、可能な限り原文に近い形で表しています。
※ひとりひとりの記述は掲載の順番を変えて、「--」で区切っています。

<記入時間があまりなかったため多くの生徒が記入できていない>

ディズニーリゾート

--

美容師、保育士

--

CA

--

空港の保安検査場の人

--

3.2.8 今日の講義・講話を聞いて、『感じたこと、思ったこと』

※誤った漢字や送り仮名、ひらがな表記などは訂正せず、可能な限り原文に近い形で表しています。
※ひとりひとりの記述は掲載の順番を変えて、「--」で区切っています。

<記入時間があまりなかったため多くの生徒が記入できていない>

人の幸せを仕事にできるのはとてもいい仕事だと思いました。自分も人を幸せにする仕事をしたいです。

--

ホテルの仕事はとっても大事で必要な仕事だと思いました。

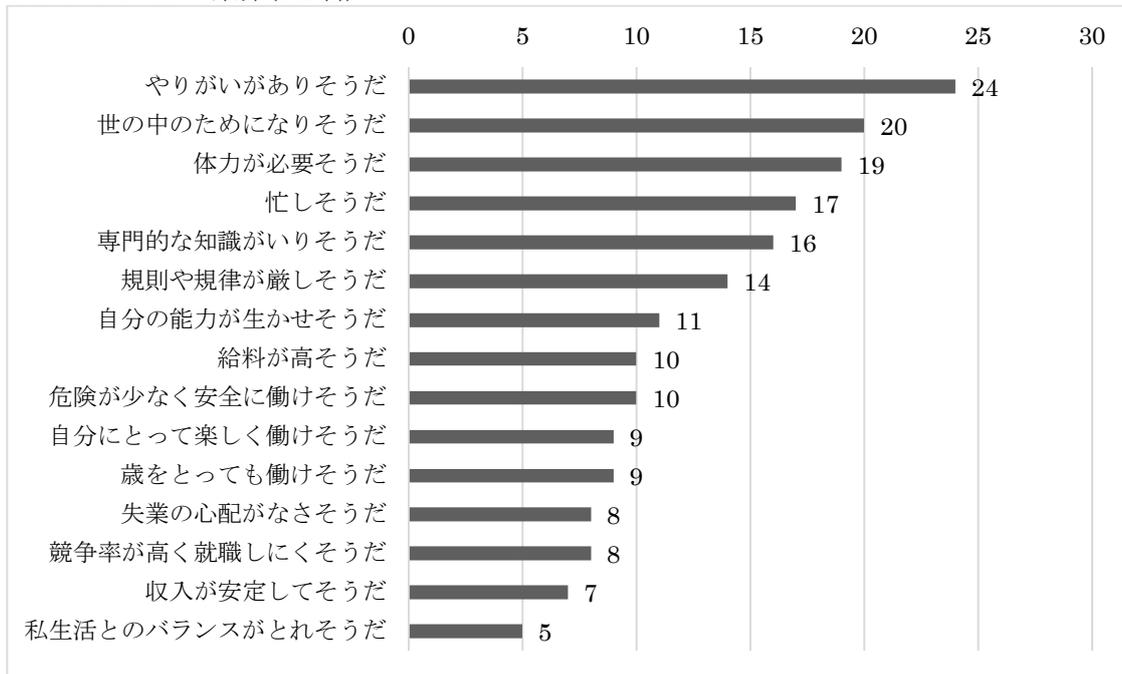
--

おもてなしの心を学ぶことができる機会になりました。

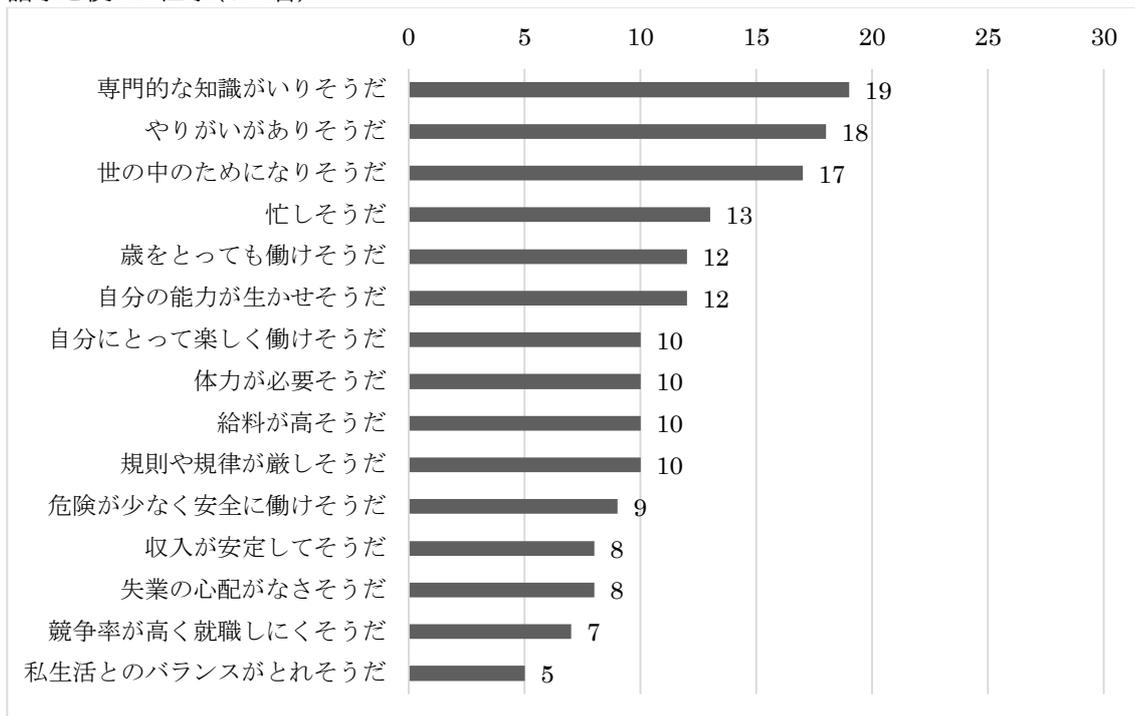
--

3.2.9 職業イメージに対して大変そう思うと回答した人数

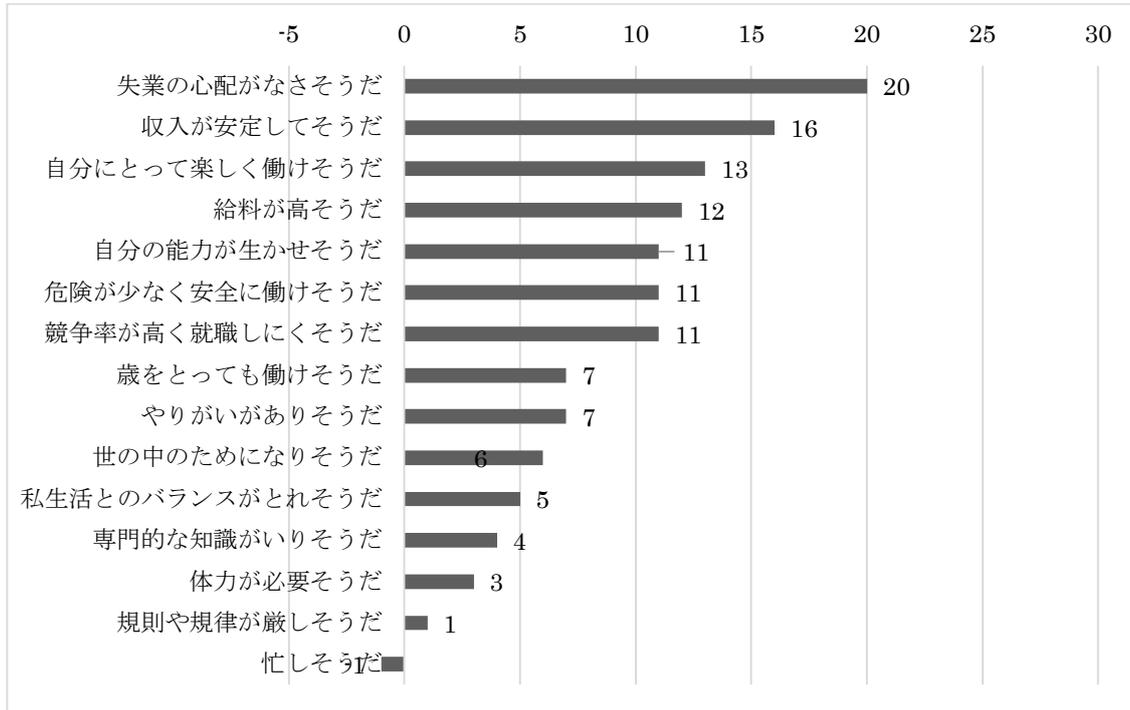
ホテル・ブライダル業界(31名)



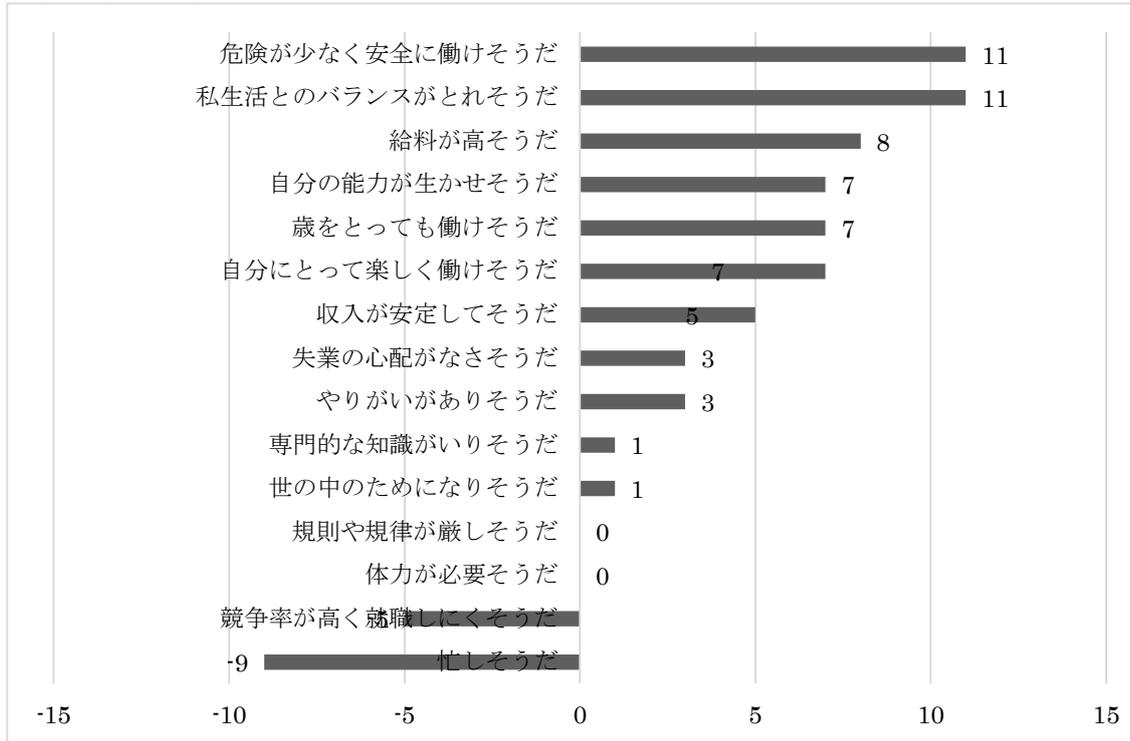
語学を使った仕事(34名)



職業イメージポイント変容度
ホテル・ブライダル業界(31名)



語学を使った仕事(34名)



3.3 中部商業高等学校 職場見学

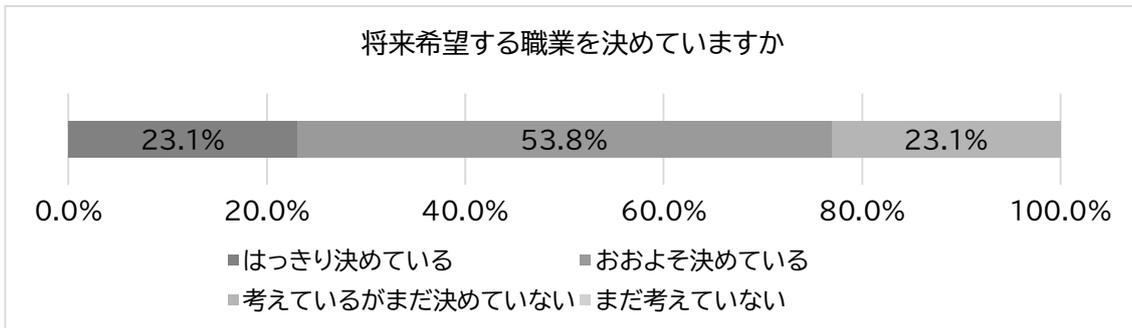
3.3.1 実施日時

日時 令和6年9月11日(水) 10:00~12:00
 対象 沖縄県立中部商業高等学校 国際ビジネス学科 2年生
 人数 13名
 見学先 JAL スカイエアポート沖縄

3.3.2 生徒アンケート結果

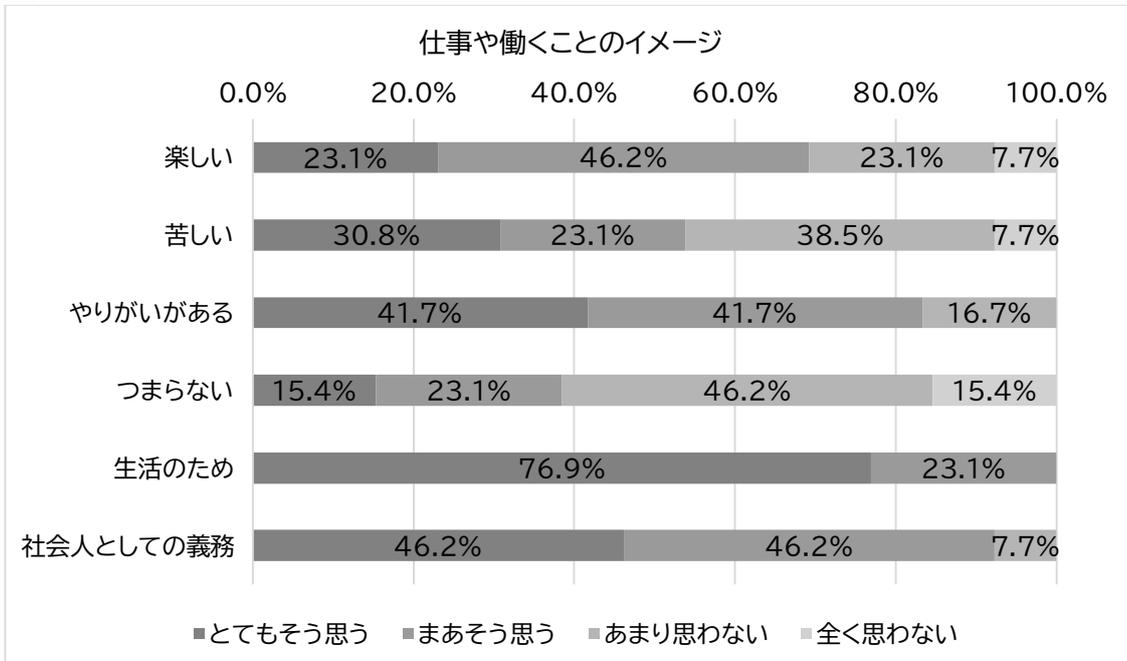
3.3.2.1 将来希望する職業を決めていますか。

「はっきり決めている」「おおよそ決めている」が全体の77%だった。



3.3.2.2 あなたにとって「仕事」や「働くこと」のイメージは？

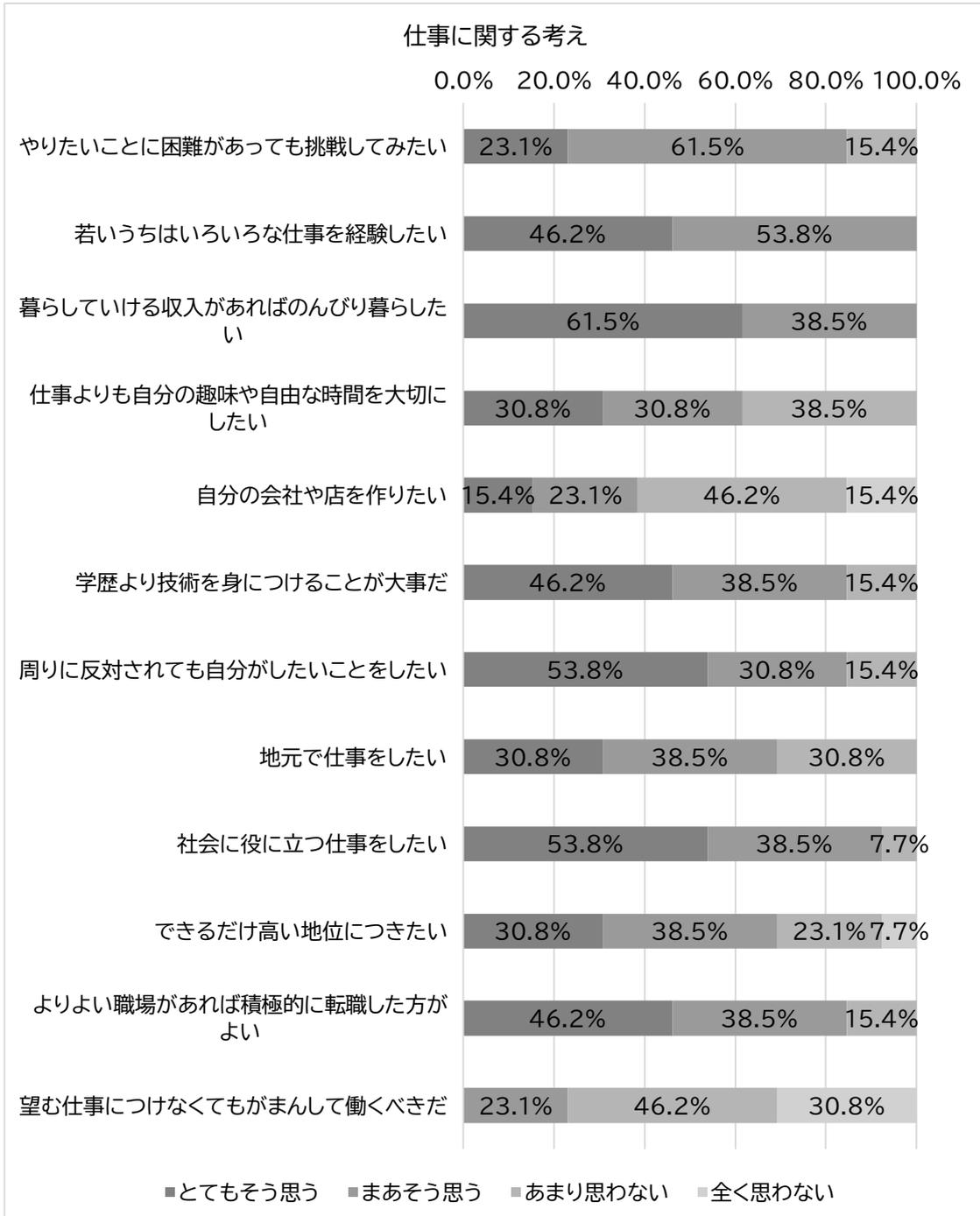
「とてもそう思う」「まあそう思う」の比率は、「生活のため」が100%、「社会人としての義務」が92%、「やりがいがある」が83%だった。「苦しい」イメージを持っている生徒は54%、「つまらない」イメージを持っている生徒が39%いた。



3.3.2.3 仕事に関する考えかたにあなたの考えに近いものはどれですか。

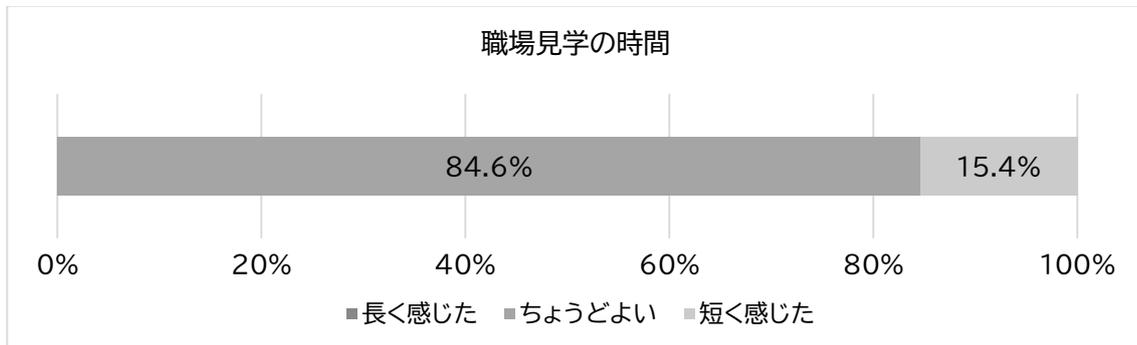
「とてもそう思う」が半数を超えたのは、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」62%、「周りに反対されても自分がしたいことをしたい」「社会に役に立つ仕事をしたい」が共に54%だった。

「あまり思わない」「全く思わない」が多かったのは、「望む仕事につけなくてもがまんして働くべきだ」が77%、「自分の会社や店を作りたい」が62%だった。



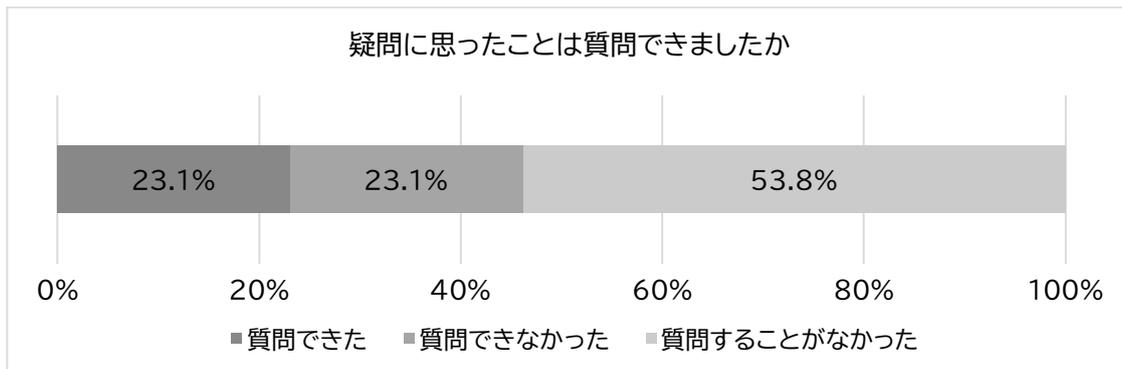
3.3.2.4 職場見学の時間はどうでしたか。

「ちょうどよい」が85%だった。



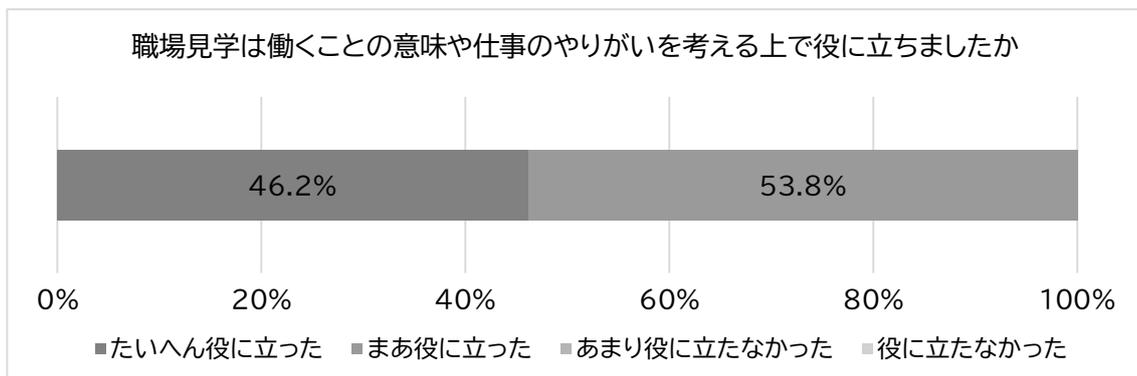
3.3.2.5 職場見学で疑問に思ったことは質問できましたか。

「質問できた」が23%、「質問できなかった」が23%、「質問することがなかった」が54%だった。



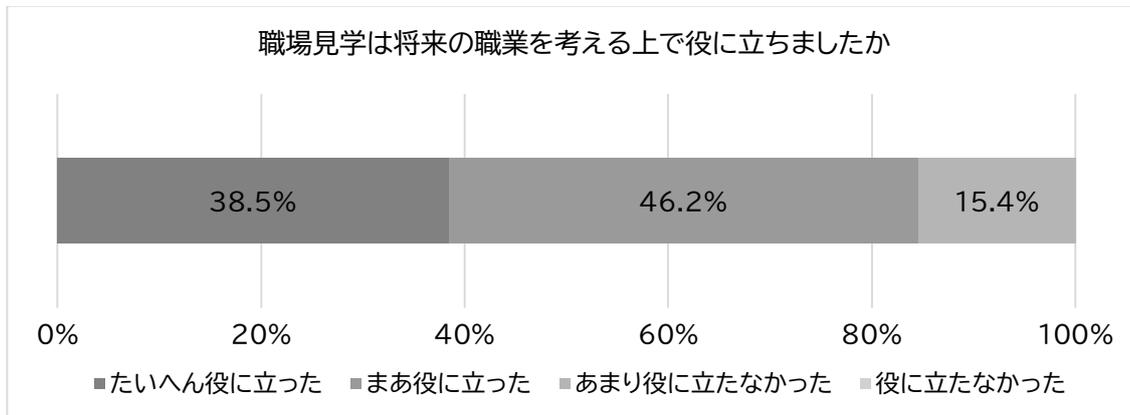
3.3.2.6 職場見学は「働くことの意味」や「仕事のやりがい」を考える上で役に立ちましたか。

「大変役に立った」が46%だった。



3.3.2.7 職場見学は「将来の職業(進路)」を考える上で役に立ちましたか。

「大変役に立った」が39%だった。「あまり役に立たなかった」が15%だった。

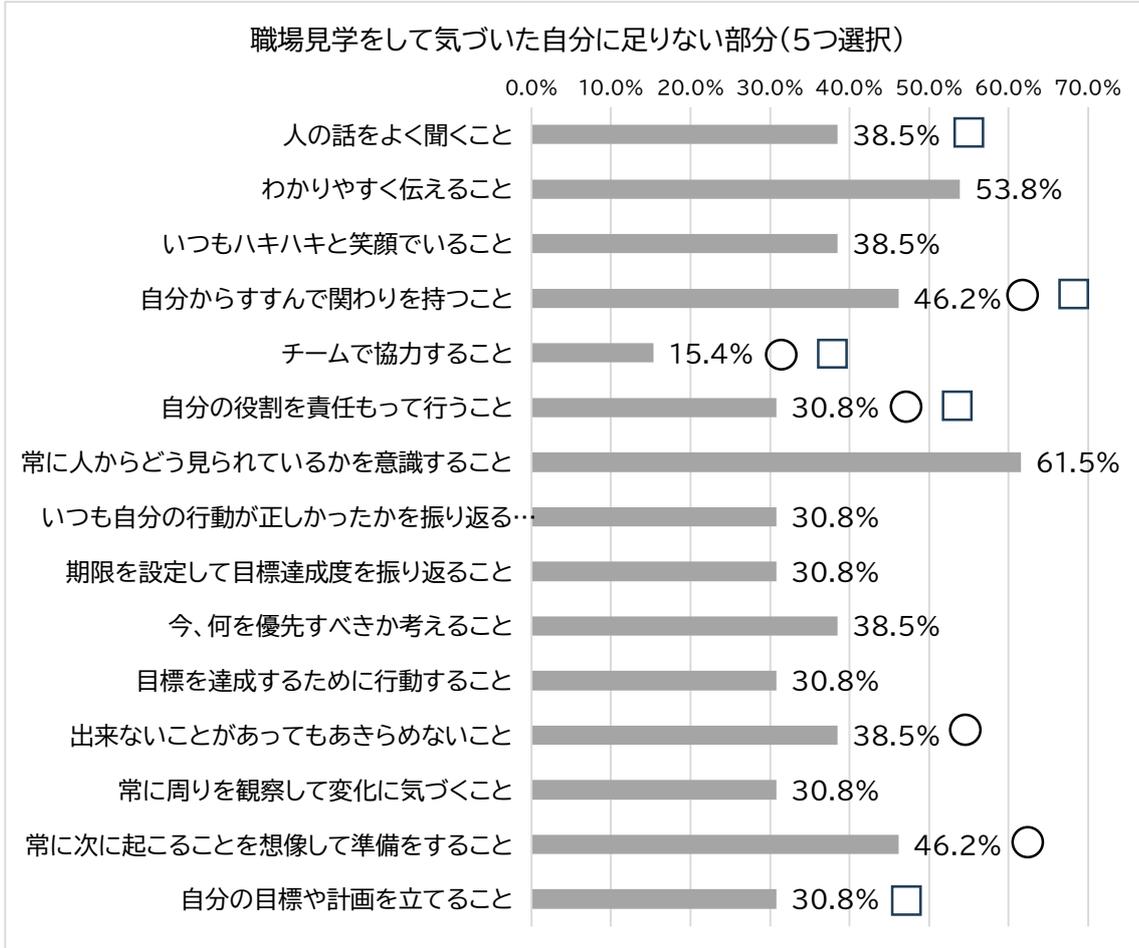


3.3.2.8 職場見学をして気づいた「働く上であなたに足りない部分」を5つ挙げてください。

生徒が気づいたこと

- ・常に人からどう見られているかを意識すること(62%)
- ・わかりやすく伝えること(54%)
- ・自分からすすんで関わりを持つこと(46%)
- ・常に次に起こることを想像して準備をすること(46%)

※職場見学企業担当者が生徒に気づいて欲しいことは○、教員が生徒に気づいて欲しいことは□



職場見学企業担当者が気づいて欲しい5つのこと

- 自分からすすんで関わりを持つこと
- チームで協力すること
- 自分の役割を責任もって行うこと
- 出来ないことがあってもあきらめないこと
- 常に次に起こることを想像して準備をすること

教員が気づいて欲しい5つのこと

- 人の話をよく聞くこと
- 自分からすすんで関わりを持つこと
- チームで協力すること
- 自分の役割を責任もって行うこと
- 自分の目標や計画を立てること

3.3.2.9 職場見学をして「印象に残ったこと」を自由に書いてください。

- ・かげで働く人のかっこよさ・はきはき話せること・ビジネスマナーが知りたい(体験したい)
- ・今自分が思ってる職場の雰囲気と違って、すごくやりがいのある仕事で、みんな楽しそうに働いていると感じました。
- ・ひとつの飛行機のごとではなくその中には色々な役割があるんだなと分かりました。一つ一つ自分の役割をしっかりとすることで成り立っていっていると分かり、自分でやりたいと思った仕事はしっかりとがんばりたいと思えた。
- ・JAL／搭乗手続きについて、様々な会社が国際線では入れかわっているということ、飛行機に乗り込むまで、様々な人が協力して迅速に行動しているということが分かりました。
- ・アウトレットモールあしびなー／外国のお客様へのアプローチをよくしているということ、積極的に若者からの視点をとり入れているということが分かりました。
- ・アウトレットモールあしびなーも JAL スカイエアポートどちらにも共通しているのが、お客さまだけでなく社員にも物心両面の幸福を追求しているのがとてもよかった
- ・雨にぬれながらがんばっているのにお客さんに手を振ってくれるところがすごいと思いました
- ・普段見れない所が見れてとても楽しかったし人を笑顔にするやりがいを感じられた。
- ・普段入れないエリアに特別に入らせてもらって、飛行機の間近で働いてもらっている人達の重要性が印象に残りました。
- ・印象に残ったことは、JAL スカイエアポート沖縄の見学では爆発物検査機があったので一般人では入れないところに来たなと思いました。
- ・普段見る事のできないところを見れたり、飛行機を近くで見ることが出来た事。
- ・JAL ではバスケのチームなどを作って試合に出たりしていることが印象に残った。
- ・スタッフみんながニコニコしていてとても気分がよかった
- ・英語も多いけど、最近は中国語を話せる人を求めているのが増えているんだなと思った。

3.3.2.10 次に職場見学をしたら、どんな職場や業種を見学したいですか。

ホテル	4人	お客様との接し方や、常に意識していることが知りたい
病院	2人	看護師の働き方などが気になる
保育士	2人	
デザイナー	1人	職場がどうゆう所などが知りたい
ペット系	1人	卒業したら働きたい
ツアーガイド	1人	
介護	1人	
美容	1人	
観光スポット	1人	
ブライダル	1人	
ビジネスマナー	1人	

3.3.2.11 あなたが今興味のある職業は何ですか。3つ選んでください。

ホテル・ブライダル	5人
教育関係(教員・講師)	4人
看護師・歯科衛生士	4人
保育士	3人
空港関係(CA・GSなど)	3人
美容師・エステティシャン	3人
公務員(国・県・市町村)	2人
イラストレータ	2人
旅行関係	2人
会社員(会計・経理)	1人
スーパー・小売・専門店	1人
飲食関係	1人
動物関係	1人
学者・研究者	1人
起業したい	1人
わからない	1人

3.3.3 学級担任アンケート

3.3.3.1 生徒の反応で「印象に残ったこと」を自由に書いてください。

企業で働いている人から仕事の話を書き、企業理念や職場で大切にしている事柄など、自分が働いたときにどうすればいいのか考える機会になったと思います。現場も見せていただき、働く人の姿を実際に見ることができて、自分に合った職業を考えることができたと思います。自分の興味のある職業についても見てみたいと思ったようです。真剣に話を聞き、マナーを守って職場見学できたと思います。

3.3.3.2 今回の職場見学を生徒・受け入れ企業の双方がより充実した時間にするための工夫・改善点等をお聞かせください。

まずは時間確保を十分に取るようにしたいです。今回 10:00~12:00 ということでスケジュールを組んでいましたが、制限区域内の見学をした際に、生徒たちは初めてみる光景に周りを見渡して、働いている人を始め飛行機やその他の特殊車両を見ていました。1時間ちょっとの時間設定でしたが、生徒たちはもっと見たい様子でした。実際に現場を見せることは生徒たちにとっても貴重な経験になるので時間確保が大切だと感じました。

次に、企業説明のときにクイズ形式のような生徒が参加するような場面があると、生徒の記憶に残りやすいのかなと思いました。グループ会社の数や従業員数など、簡単に答えられるものがあると集中して考える場面ができて高校生を話に引き込むこともできると思います。

もし、求人票を出しているのであれば、勤務条件の提示や高校生のうちでやっていた方がいいことなど、キャリア教育の視点で高校生が仕事をするうえで重視していることについて実際の話をしてもらえると今後、仕事を探すときの参考になると思います。

3.3.4 企業担当者(メンター)アンケート

3.3.4.1 高校生の反応で「印象に残ったこと」を自由に書いてください。

職場見学を実際にした際に、ランプ制限エリア内で実際に近くで飛行機を見て感動している姿がとても印象に残りました。雨の中、活躍している社員を見ていただき良い刺激になっていれば良いなと思います。

3.3.4.2 職場見学を担当されて、あなた自身が感じた「新しい気づき」があればお教えてください。

今後の進路や就職活動に向けて、マナー講座などを受講してみたいというお声があり、会社の説明ももちろんですが、そういった今後活かせる内容にも興味があるということが新しい気づきでした。

3.3.4.3 今回の職場見学を生徒・受け入れ企業の双方がより充実した時間にするための工夫・改善点等をお聞かせください。

カウンター以外の場所もお見せしたいのですが、制限があり難しい部分もあるのでカウンターに設置している備品などみせても良いかなと思いました。また、ランプ内では時間によって作業の姿を見せられないこともあるので、タイミングを見計らう必要があるかと思いました。学生の皆さんがもっと積極的に質問などできる雰囲気を作れたらと思います。

3.3.5 職場見学の課題と改善策

<課題 1>

教員・企業担当者の「ねらい(学びの目標)」と生徒の「気づき」の相違

生徒が気づいたこと(学んだこと)で最も多かったのは、「常に人からどう見られているかを意識すること(62%)」であり、次いで「わかりやすく伝えること(54%)」だった。教員・企業担当者のねらいとは別な気づきを得ている。

「自分からすすんで関わりを持つこと(46%)」は、教員・企業担当者双方のねらいと合致し、「常に次に起こることを想像して準備をすること(46%)」は、企業担当者のねらいと合致した。

一方、教員・企業担当者双方がねらいとして挙げた、「チームで協力すること(15.4%)」「自分の役割を責任もって行うこと(30.8%)」は、生徒の気づきとしては下位だった。

<改善策>

- ① 教員・企業担当者の職場見学の「ねらい」共有
- ② 「気づきのしかけ」の導入

例えば・・・

(生徒)事前学習として短い職場見学の「観察」ポイント動画

(生徒)見学メモの準備

(企業)見学ルート・説明内容の検討

(参考)10月29日 ANA 職場見学 南部商業3年生

0950	オリエンテーション開始(パワポ)
	0950 会社概要(従業員数、関連企業数、沖縄3空港便数・席数)
	1000 部門毎業務内容
1015	職場見学スタート(2グループ(10名/9名))
1021	チェックカウンター、バゲッジカウンター、プレミアムチェックインカウンターなど
1031	検査場
1034	空港関係者保安検査通過
1037	空港内グランドスタッフの仕事
1050	運航支援室・整備室
1055	建物外に出て到着作業を見学
1105	見学終了
1110	集合場所に戻りあいさつ
1115	解散

- ③ 生徒の「気づき」を生徒自身の目標に言語化

<課題 2>

他観光関連業界への展開

<改善策>

次年度、「職場見学」や「ジョブシャドウイング」の教育プログラム実証をホテル、ブライダル、旅行など他観光関連業界で実施

3.4 観光系大学専門学校生のキャリア教育実態調査結果

3.4.1 調査概要

令和6年9月～11月の期間で、観光系学部学科のある大学1校、専門学校2校の学生を対象にweb調査を実施した。

地域については、大学：沖縄県、専門学校：沖縄県・静岡県で行った。

日時 令和6年9月4日～18日

方法 web調査

地域 静岡県

対象 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 1年生

人数 75名

日時 令和6年10月21日

方法 web調査

地域 沖縄県

対象 沖縄キリスト教学院大学 1年生

人数 45名

日時 令和6年11月5～8日

方法 web調査

地域 沖縄県

対象 ircインターナショナルリゾートカレッジ 1・2・3年生

人数 84名

※各大学・専門学校の設置学部学科

学校法人静岡理工科大学 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校

エアライン科(客室乗務員コース・グランドスタッフコース)

総合観光サービス科

ホテル・ブライダル科

グローバルビジネス科

コンシェルジュ科

国際ホスピタリティ科

沖縄キリスト教学院大学

人文学部 観光文化学科(令和6年4月設置)

学校法人KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ

エアライン科(キャビンアテンダントコース・グランドフタッフコース・グランドハンドリングコース)

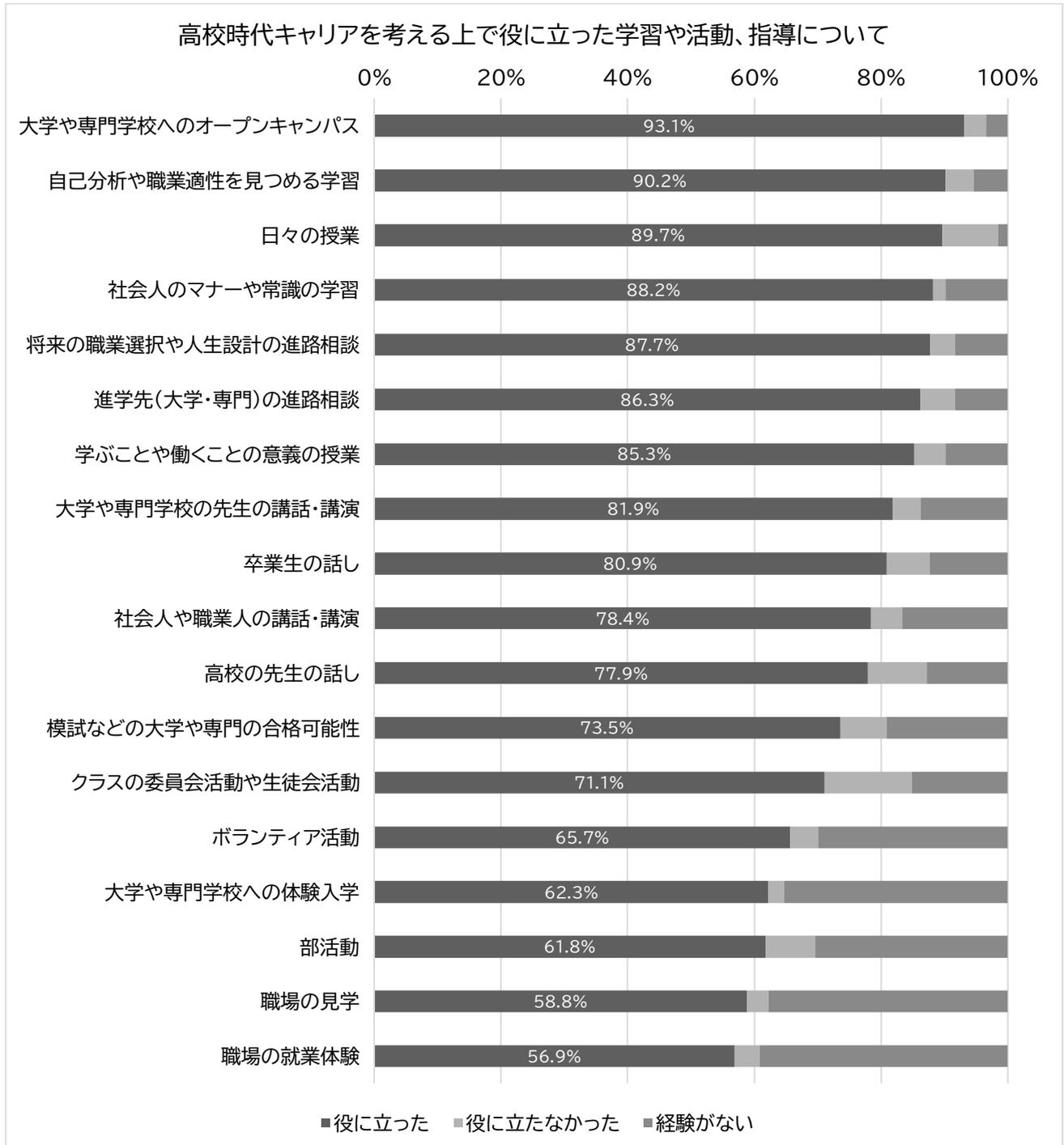
外語ビジネス科

ブライダル・ホテル科

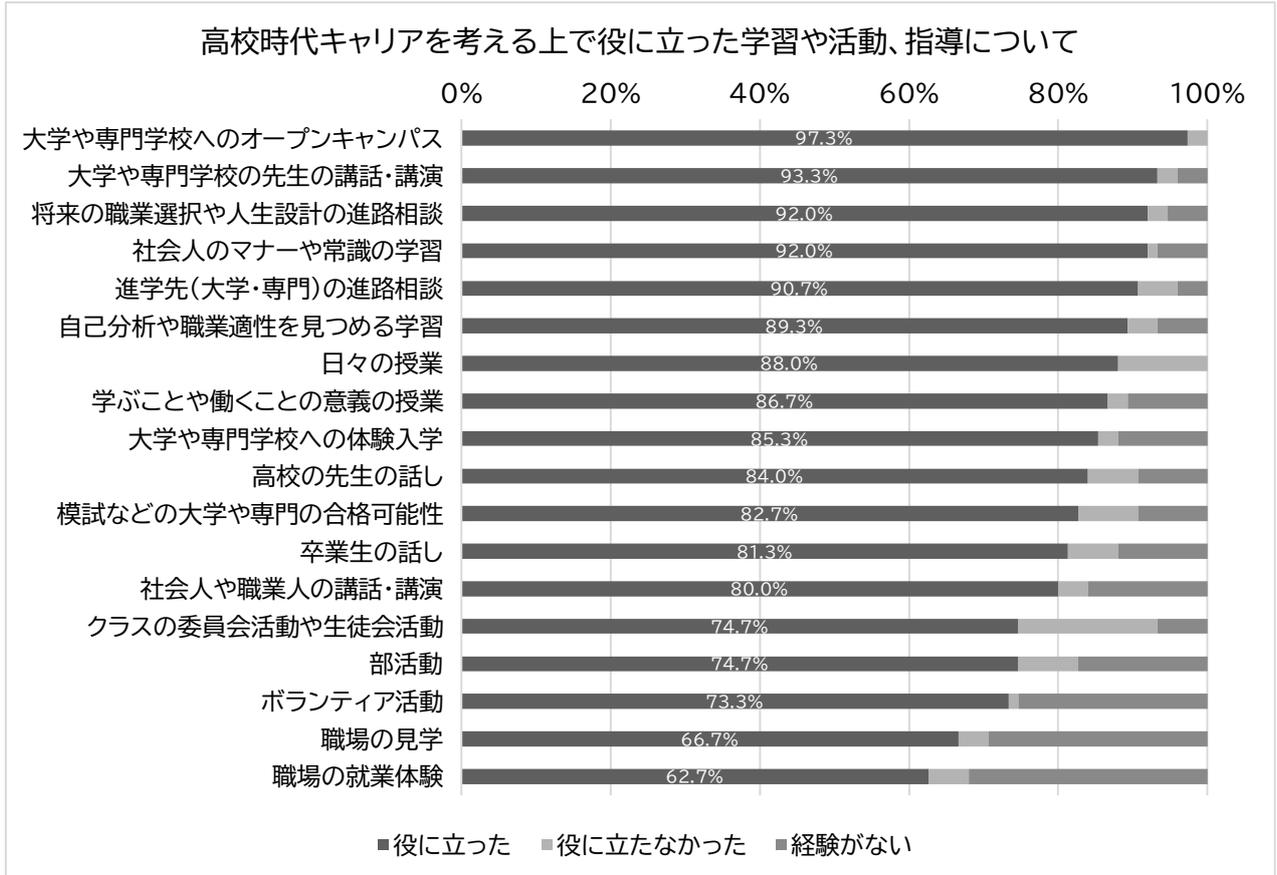
3.4.2 高校時代に、キャリアを考える上で役に立った学習や活動、指導などの体験

オープンキャンパスは93.1%の学生が役に立ったと回答した。

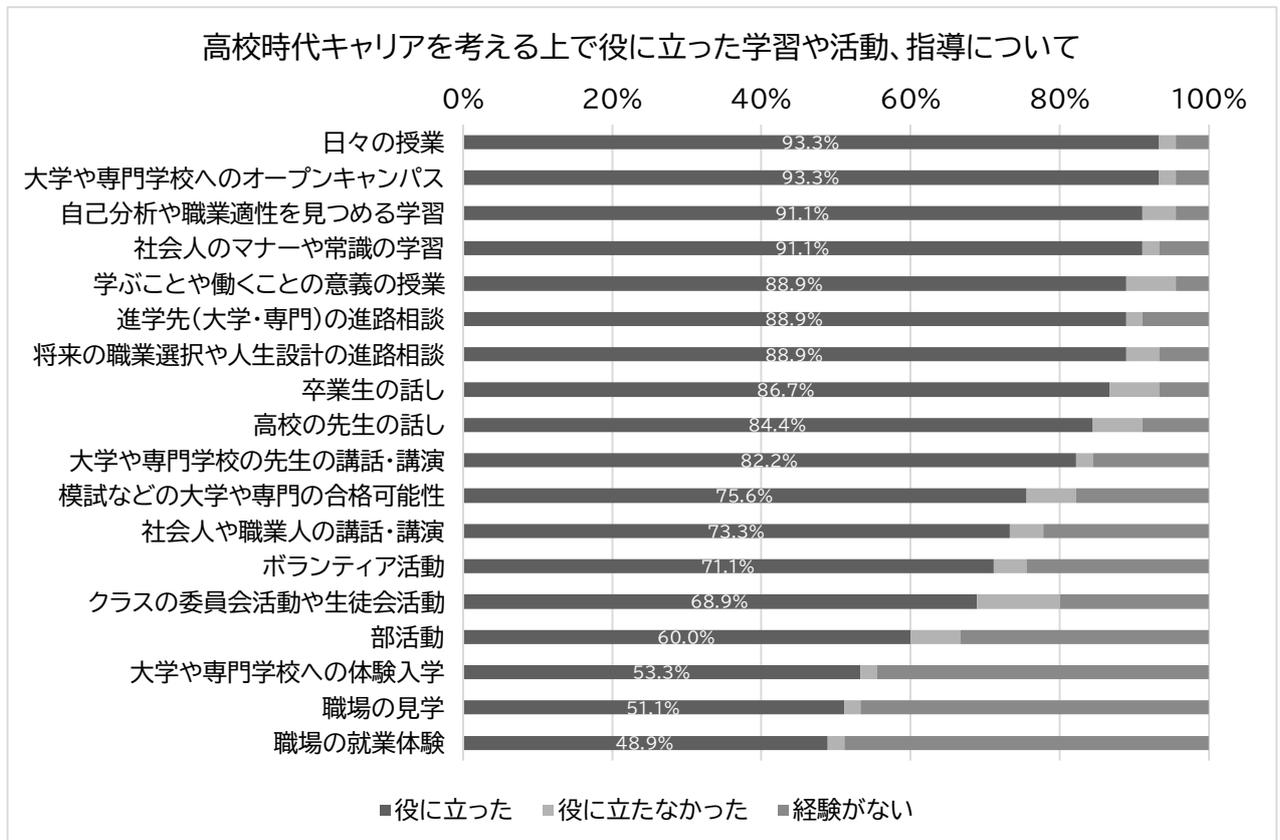
一方、「職場の就業体験」、「職場の見学」、「大学や専門学校の体験入学」、「部活動」、「ボランティア活動」の経験がない学生が30%を超えた。



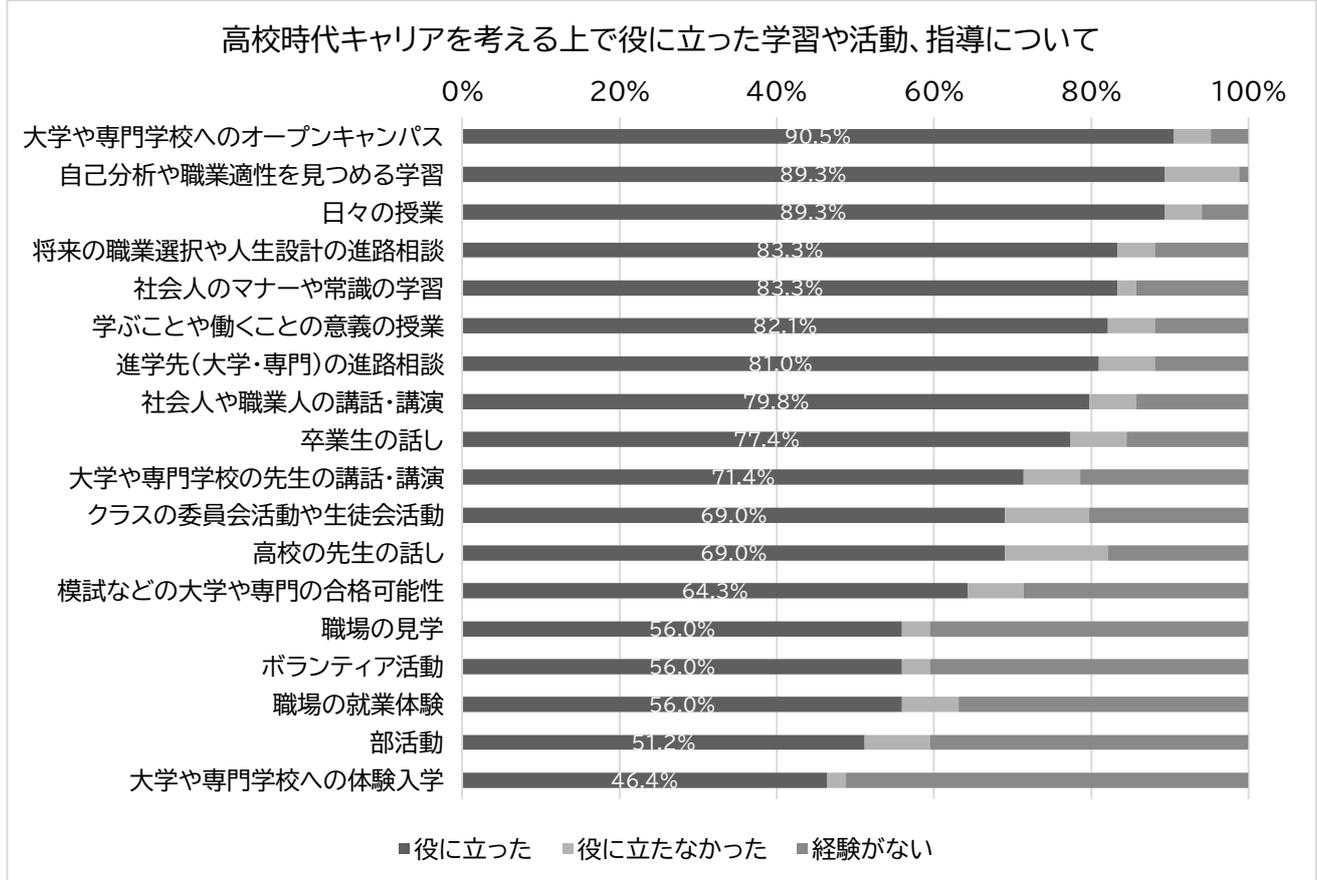
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校



沖縄キリスト教学院大学



Irc インターナショナルリゾートカレッジ



静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校は、全体的に高校生のキャリア形成に影響を与える学習や活動、指導が多く、80%を超えるものが13項目あった。沖縄キリスト教学院大学は10項目、インターナショナルリゾートカレッジは7項目だった。

特に、全員オープンキャンパスに参加しており97.3%がキャリアを考える上で役に立ったと回答があった。また、大学や専門学校の先生の講話・講演が93.3%と大きな影響を及ぼしている。

沖縄キリスト教学院大学は、日々の授業が最も高く、高-大の学びの接続が機能していることがうかがえる。経験がない活動として「就業体験」「職場見学」「大学専門学校への体験入学」が40%を超えている。

インターナショナルリゾートカレッジは、経験がない活動として「大学専門学校への体験入学」「ボランティア活動」「部活動」「職場見学」が40%を超えている。

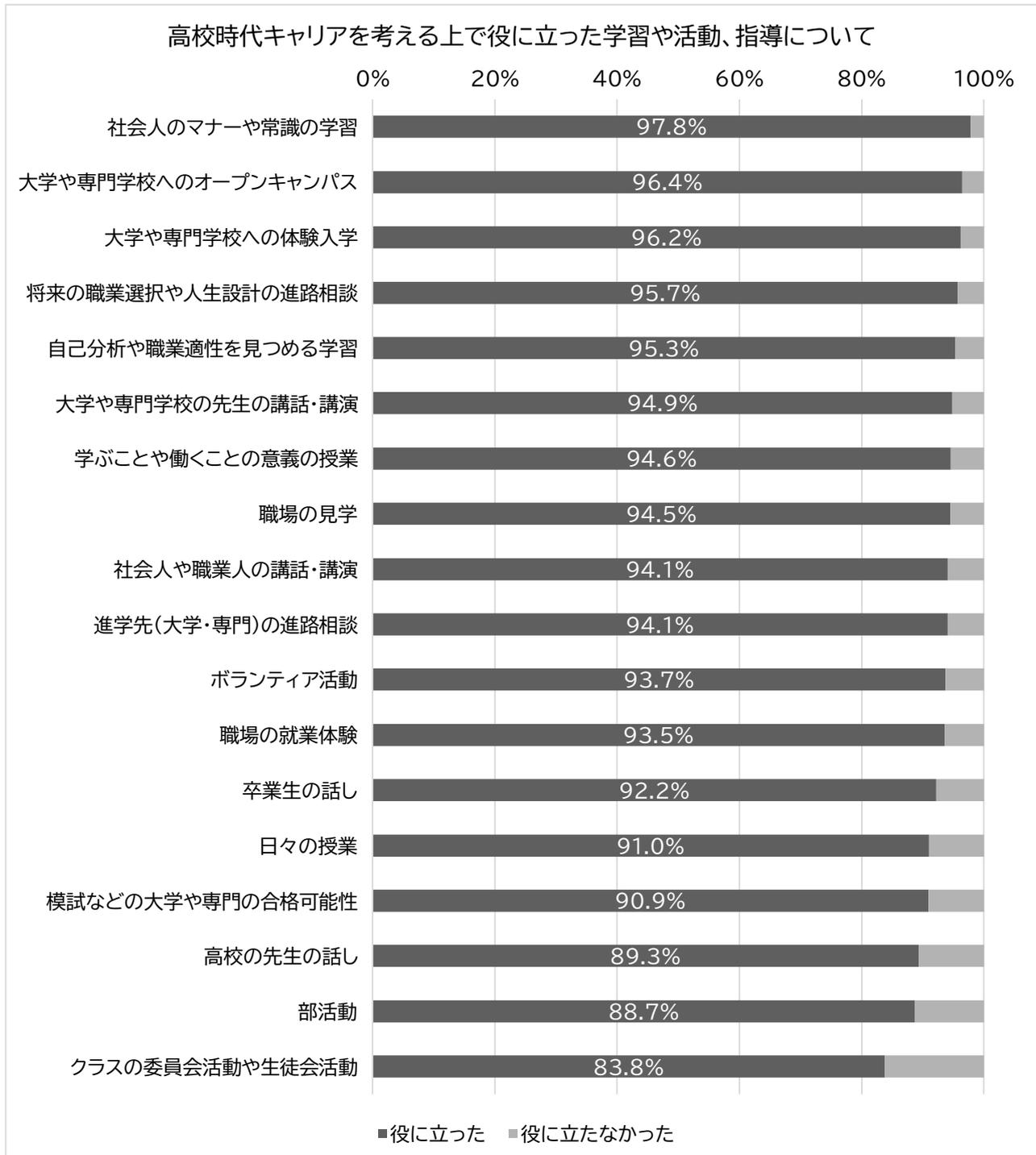
「大学専門学校への体験入学」は静岡県では90%の学生が体験している。

未体験のものを除いた「役に立った-役に立たなかった」比率は、以下の通りになった。

高校生活で日常的に行われている「高校の先生の話」「部活動」「委員会活動」を除いた、キャリア学習や活動・指導の評価は高く90%の学生が役立ったと回答した。また、大学専門学校間に大きな差はなかった。

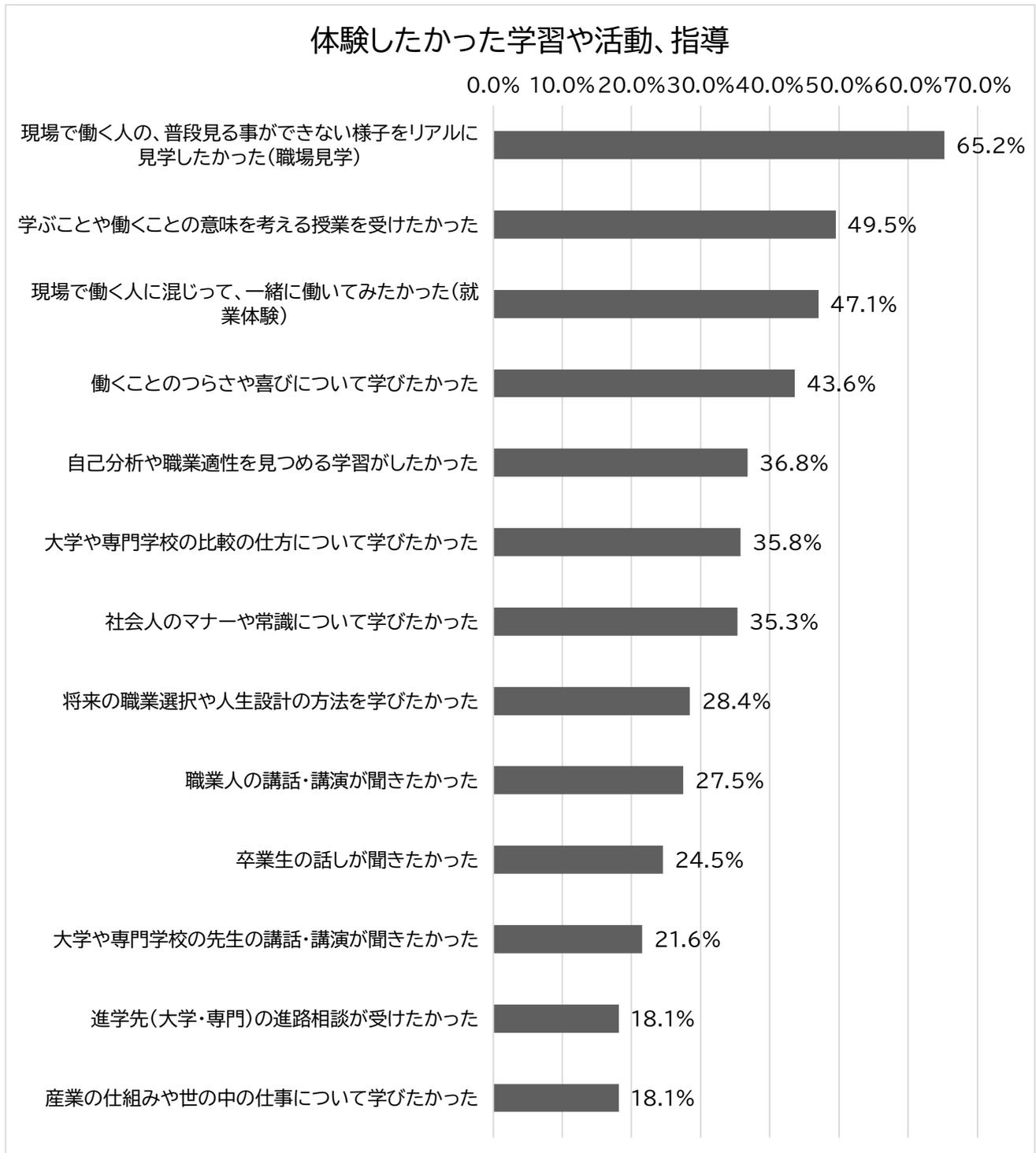
「社会人のマナーや常識の学習」「オープンキャンパス」が特に高かった。「マナー研修」が高校からのニーズが高いことを裏付けている。

沖縄では実施の少ない「体験入学」の効果が高い結果が出ている。

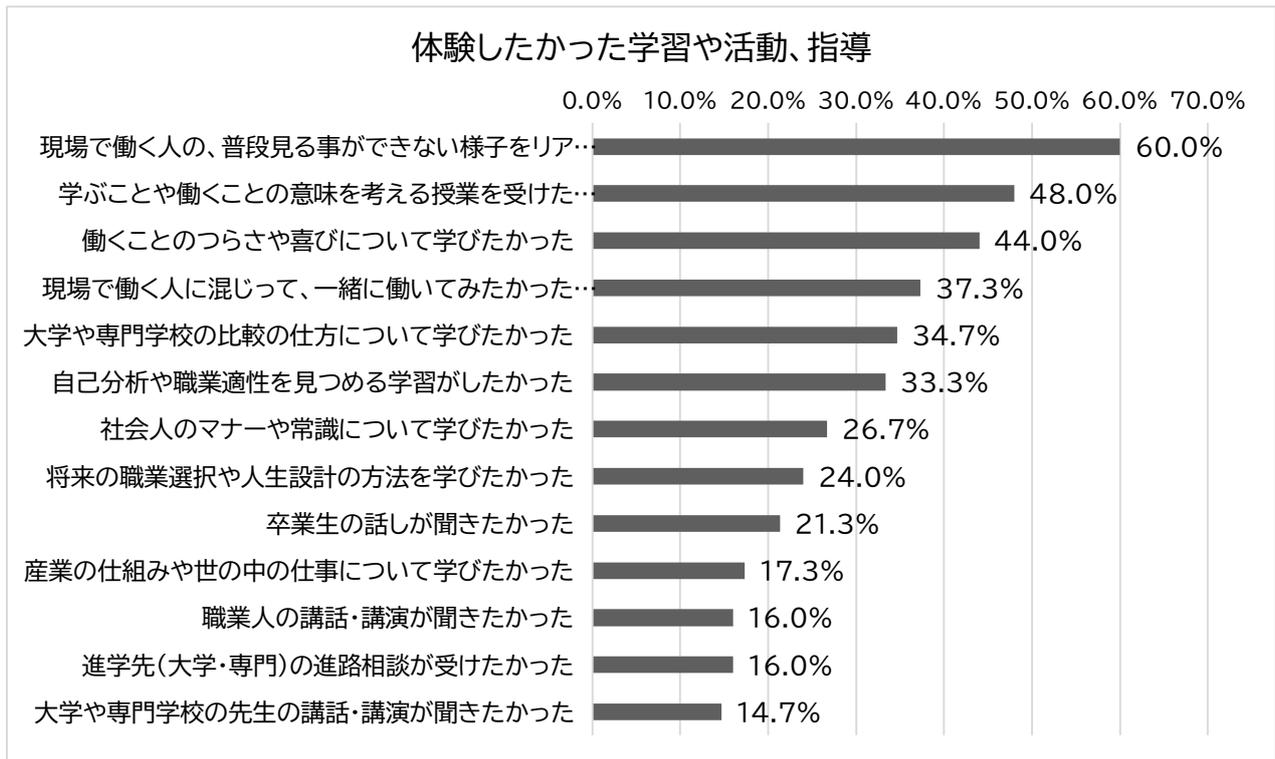


3.4.3 高校時代に、キャリアを考える上で体験したかった学習や活動、指導(複数選択)

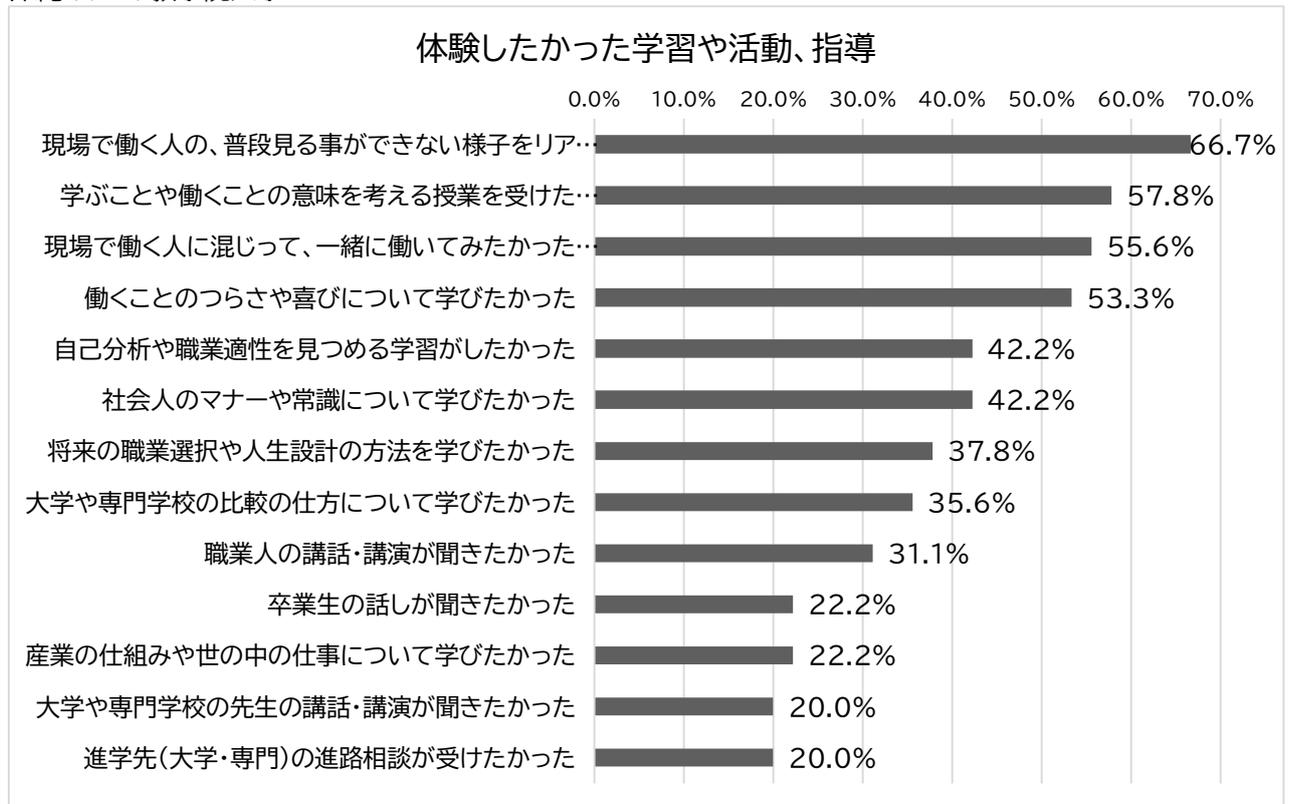
「職場見学」が最も多く65.2%の学生が挙げた。次いで、「学ぶことや働くことの意味」49.5%、「就業体験」47.1%、「働くことのつらさや喜びについて学びたかった」43.6%だった。



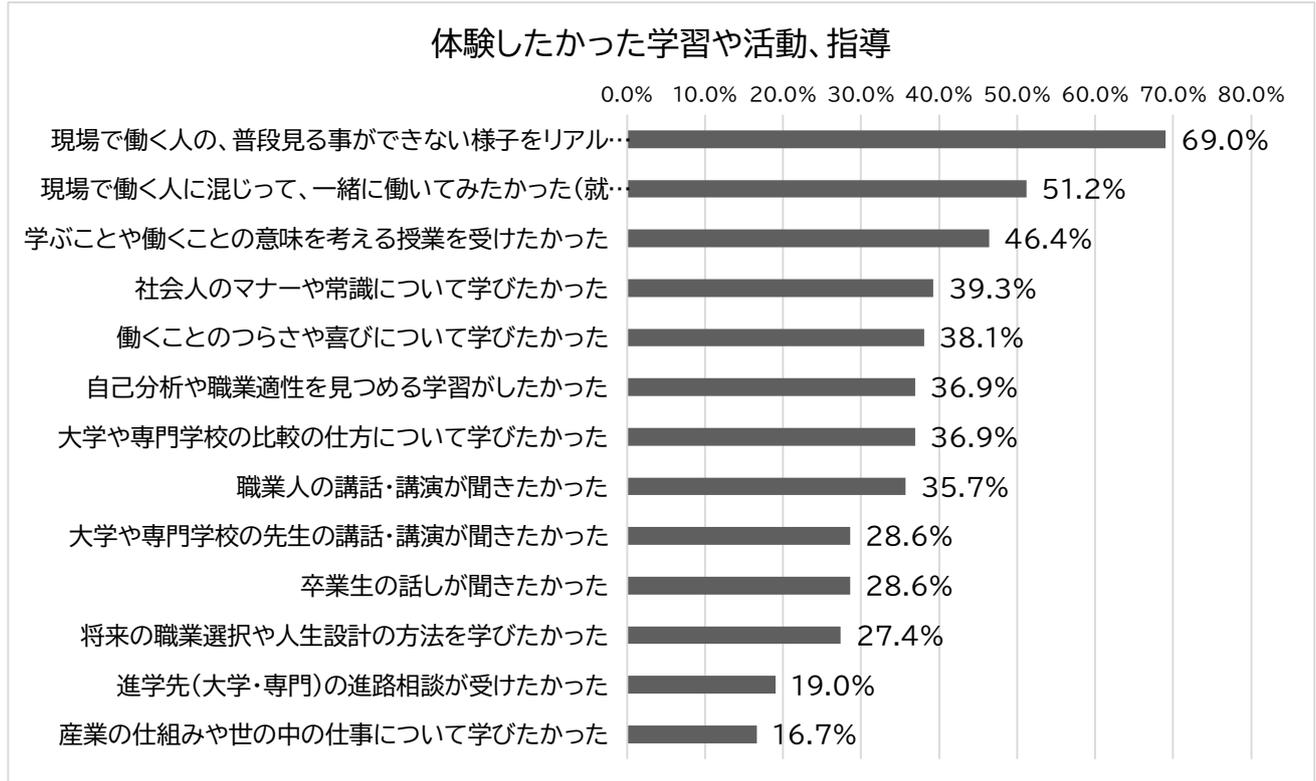
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校



沖縄キリスト教学院大学



irc インターナショナルリゾートカレッジ



静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校は、キャリア形成に影響を与える学習や活動、指導を多く経験しているため、全体的に低かった。

3校ともに「職場見学」を体験したかった学生が60%を超え、特にインターナショナルリゾートカレッジは、69%で高かった。これは専門学校入学後に行った職場見学を高校生時代に体験したかったという気持ちの表れだと考えられる。

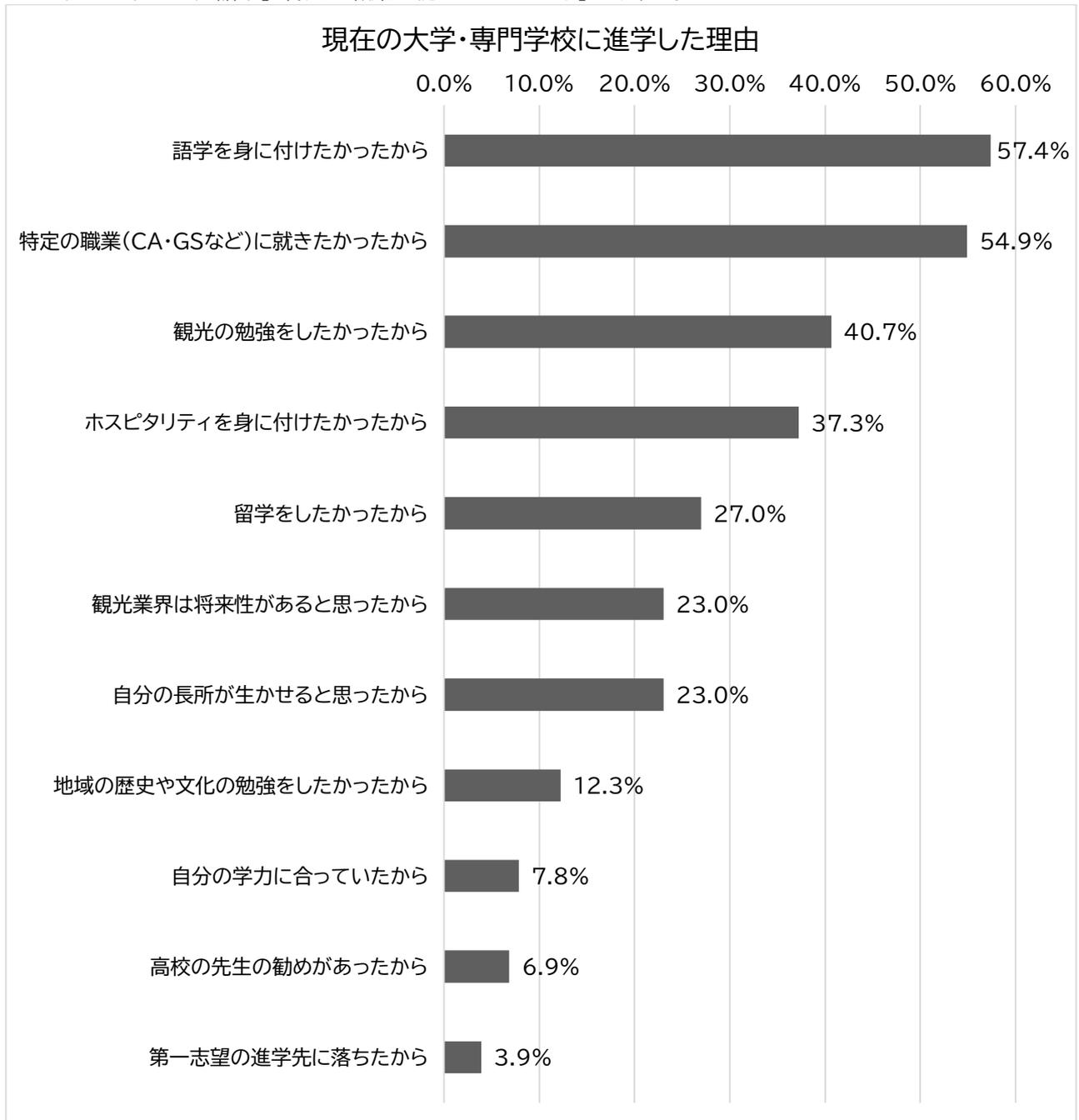
沖縄キリスト教学院大学は、「就業体験」、「学ぶことや働くことの意味」、「働くことのつらさや喜び」が50%を超えた。

インターナショナルリゾートカレッジは、「就業体験」が50%を超えた。

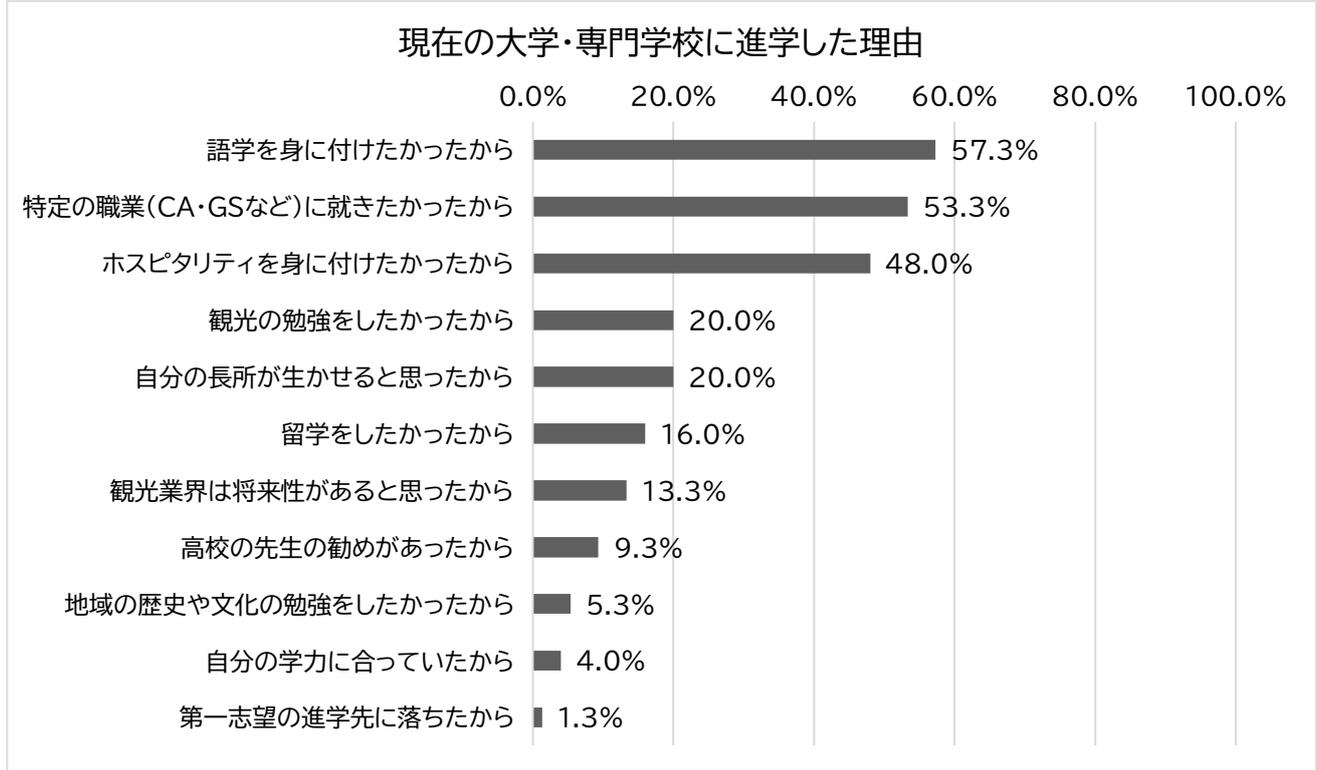
これより、場所を問わず、高校生で経験したかったキャリア学習は、「職場見学」「就業体験」の体験型の活動で、学ぶ内容は、「学ぶことや働くことの意味」や「働くことのつらさや喜び」を感じられるものであることが明らかになった。

3.4.4 現在の大学・専門学校に進学した理由(複数選択)

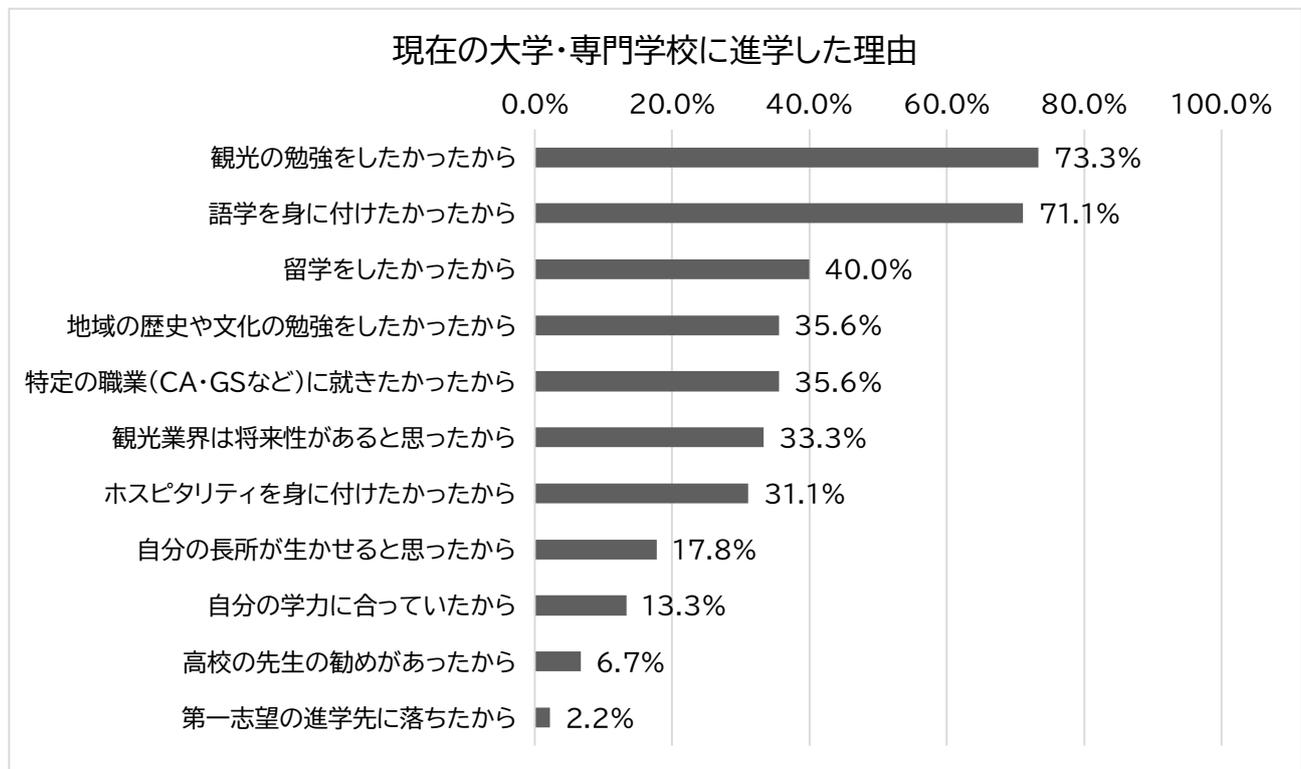
50%以上の学生が、「語学」「特定の職業に就きたかったから」をあげた。



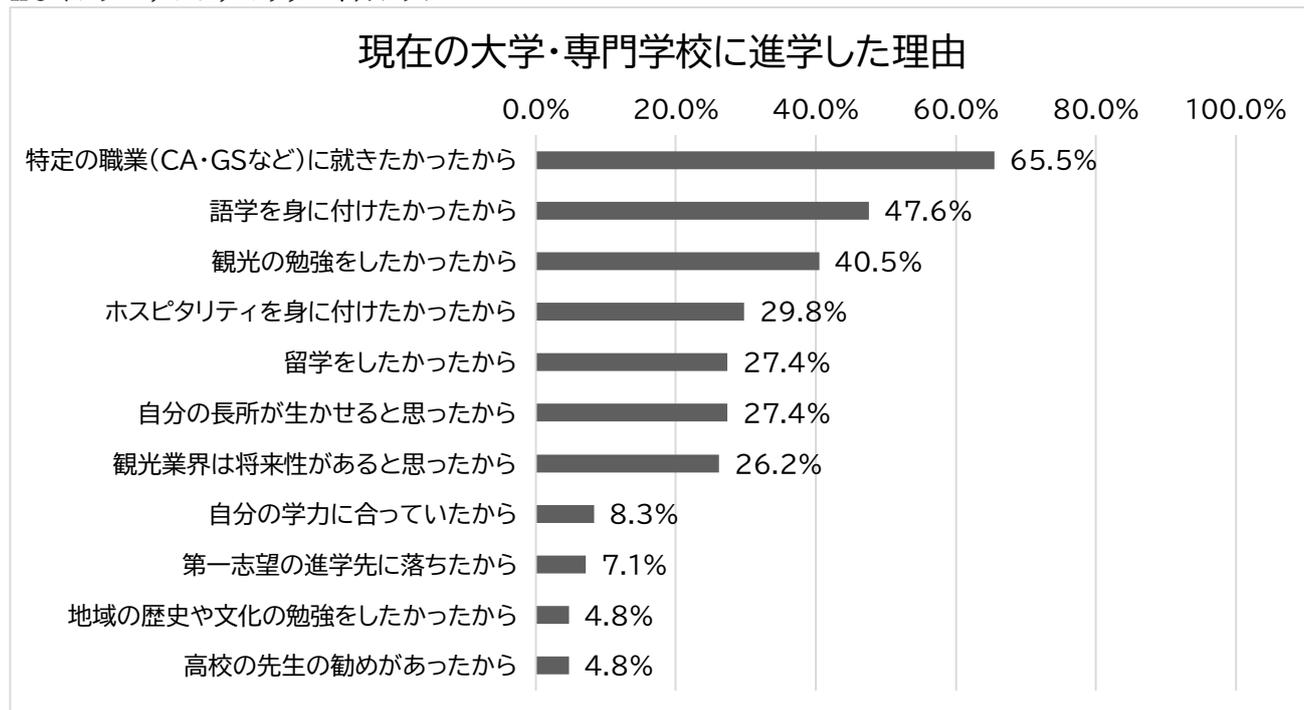
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校



沖縄キリスト教学院大学



Irc インターナショナルリゾートカレッジ



沖縄キリスト教学院大学は、「観光」や「語学」が飛び抜けており、まだ具体的な職業の希望は固まっていないことがうかがえる。

静岡インターナショナル・エア・リゾートは、「語学」「特定の職業」「ホスピタリティ」と設置学科とリンクし職業と結びつく理由が高く、大学で行われる学問としての「観光」と棲み分けがはっきりできている

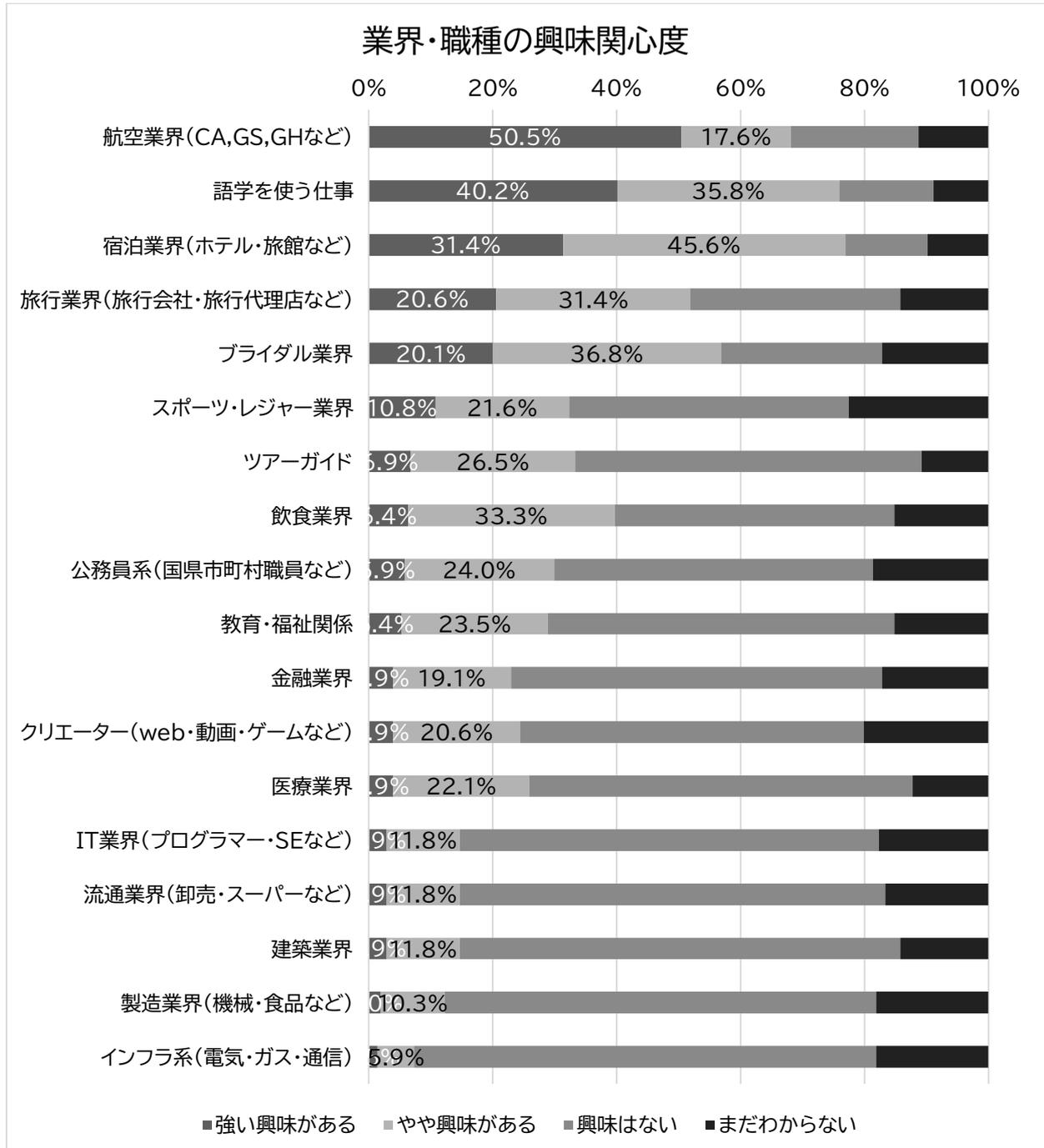
インターナショナルリゾートカレッジは、「特定の職業」が高くなった。第二群の「観光」「語学」は大学と共通している。

3.4.5 就職先として興味のある業界・職種

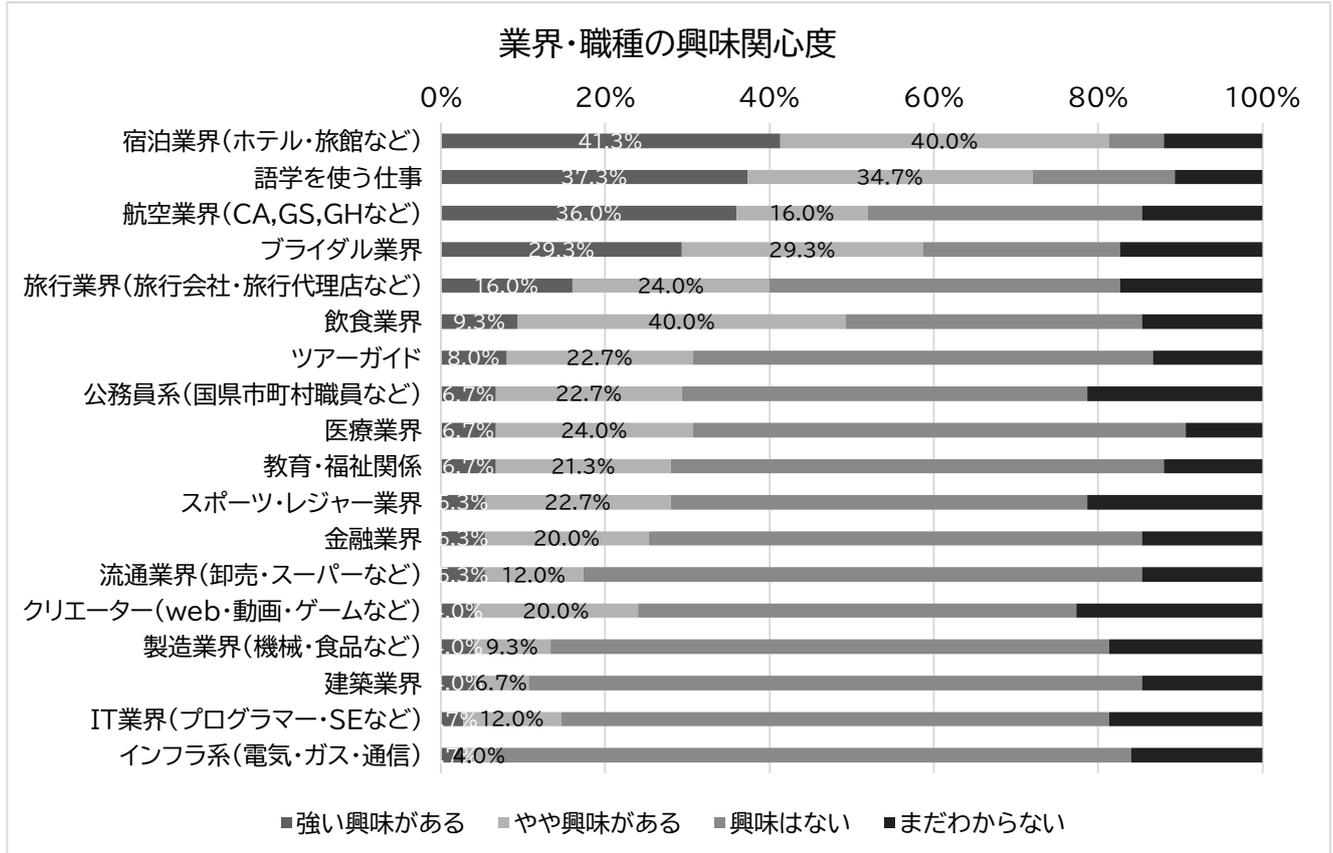
「強い希望がある」が20%を超えた業界・職種は、航空(50.5%)、語学(40.2%)、宿泊(31.4%)、旅行(20.6%)、ブライダル(20.1%)だった。

「やや興味がある」を合わせると、宿泊(77.0%)、語学(76.0%)、航空(68.1%)、ブライダル(56.9%)、旅行(52.0%)だった。

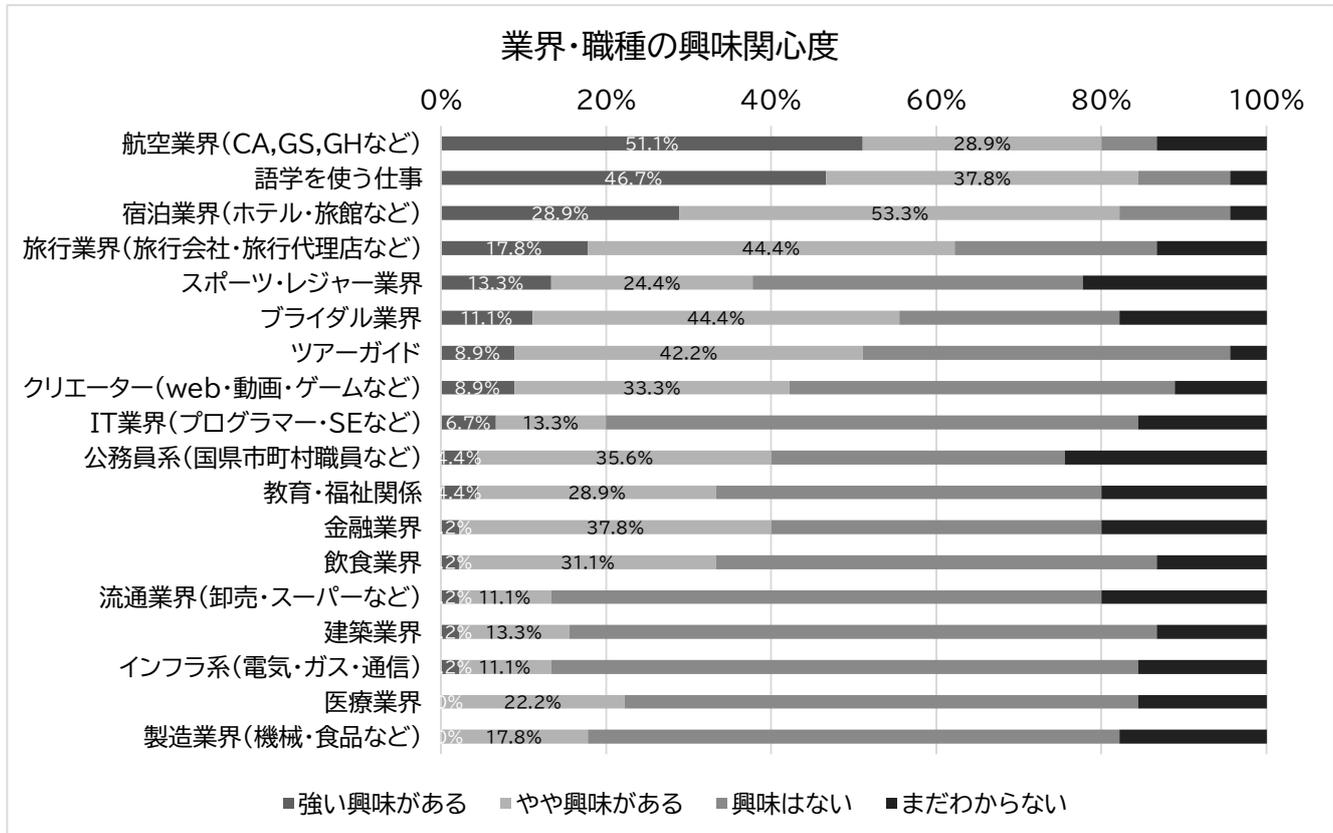
まだわからないのは、スポーツ・レジャー22.5%、クリエイター20.1%が高く、これから「興味がある」に変化する可能性がある。



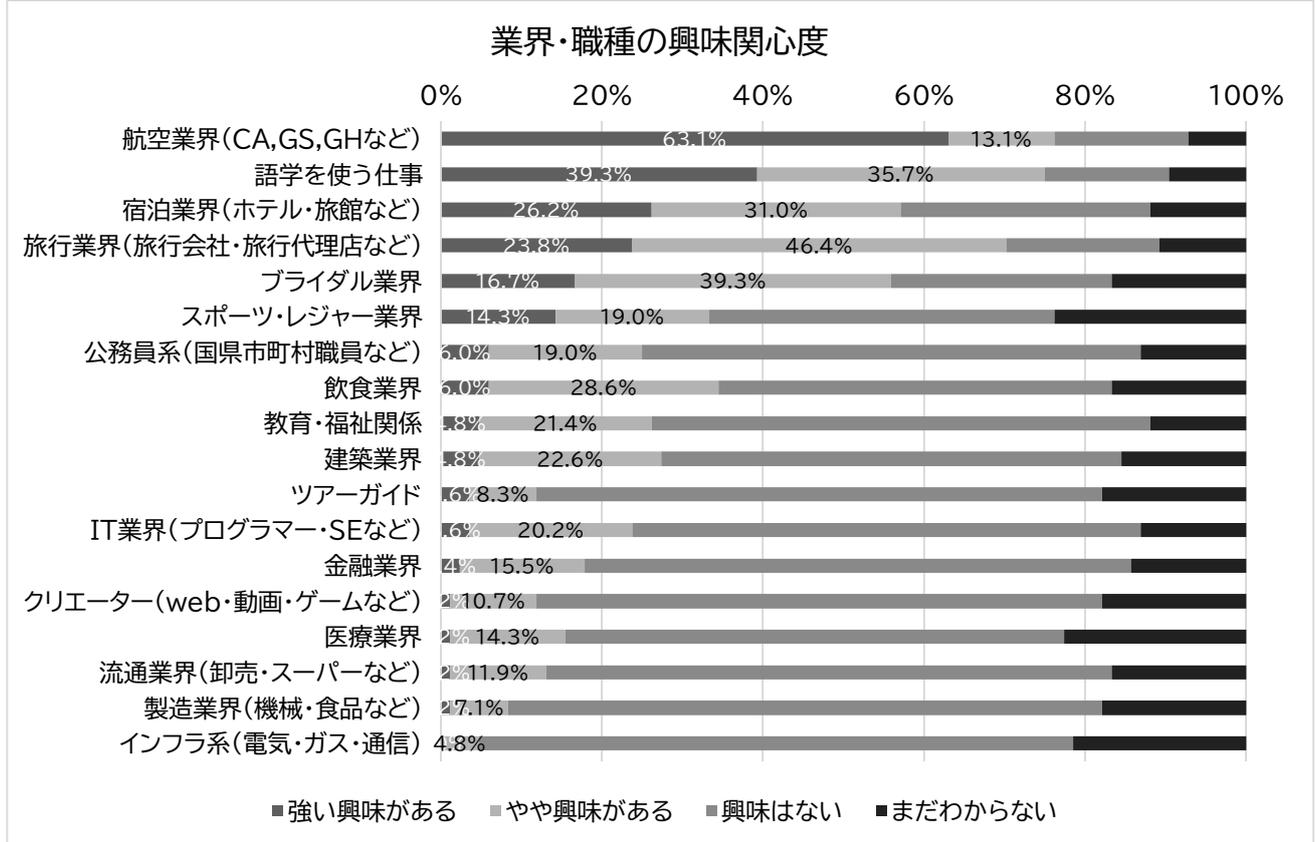
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校



沖縄キリスト教学院大学



Irc インターナショナルリゾートカレッジ



沖縄キリスト教学院大学は、「航空」「語学」「宿泊」に興味がある学生が80%を超えており、「旅行」「ブライダル」「ツアーガイド」が50%を超えた。職業選択の幅が広いことがわかる。

静岡インターナショナル・エア・リゾートは、「宿泊」が80%を超え、「語学」「航空」「ブライダル」が50%を超えた。

インターナショナルリゾートカレッジは、80%を超えたものではなく、「航空」「語学」「宿泊」「旅行」「ブライダル」が50%を超えた。

逆に70%以上の学生が興味のない業界は、インターナショナルリゾートカレッジは「インフラ」「製造」「流通」「クリエイター」「ツアーガイド」の5業界、静岡インターナショナル・エア・リゾートは「インフラ」「建築」の2業界、沖縄キリスト教学院大学は「インフラ」「建築」の2業界だった。

多様な業界・職種に対する柔軟性(興味度)は、沖縄キリスト教学院大学、静岡インターナショナル・エア・リゾート、インターナショナルエアリゾートカレッジの順に高かった。

3.4.6 自覚している「社会人基礎力」と「キャリア形成力」

※1～11のアンケート項目は、経産省が2006年に発表した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である「社会人基礎力」を採用している。12～15のアンケート項目は、文科省が掲げる「キャリア形成力」のうち1～11の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

「社会人基礎力」は、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)の3分野からなる。

この3分野と「キャリア形成力」に対応する質問項目は以下の通り。

前に踏み出す力(アクション)

人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力(主体性)
 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力(働きかける力)
 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力(実行力)

考え抜く力(シンキング)

目標を達成するために解決すべき問題を見つける力(課題発見力)
 目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力(計画力)
 解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力(創造力)

チームで働く力(チームワーク)

自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力(発信力)
 人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力(傾聴力)
 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力(柔軟力)
 グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力(状況把握力)
 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力(規律力)

キャリア形成力

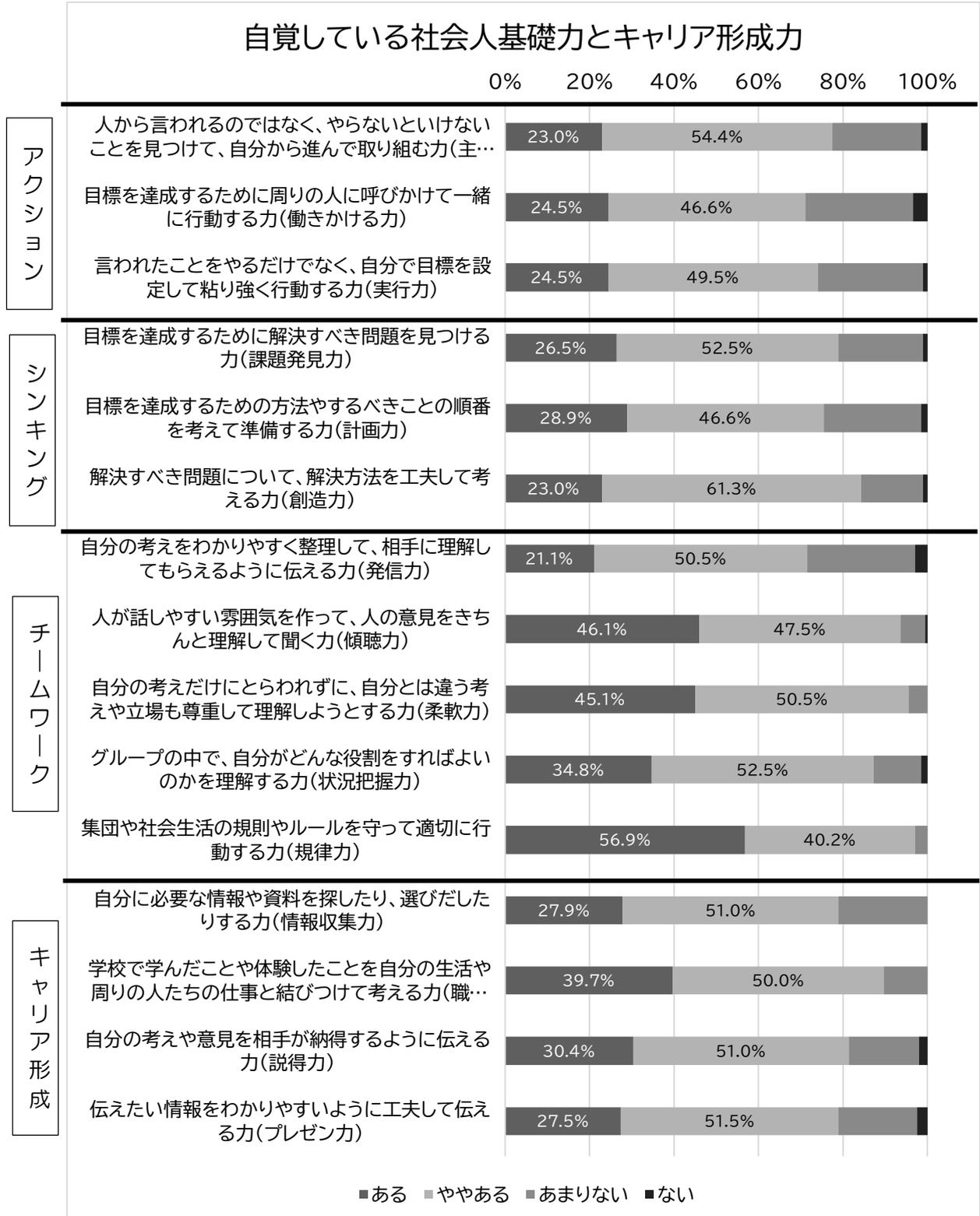
自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力(情報収集力)
 学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力(職業理解力)
 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力(説得力)
 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力(プレゼン力)

<社会人基礎力とキャリア形成力>

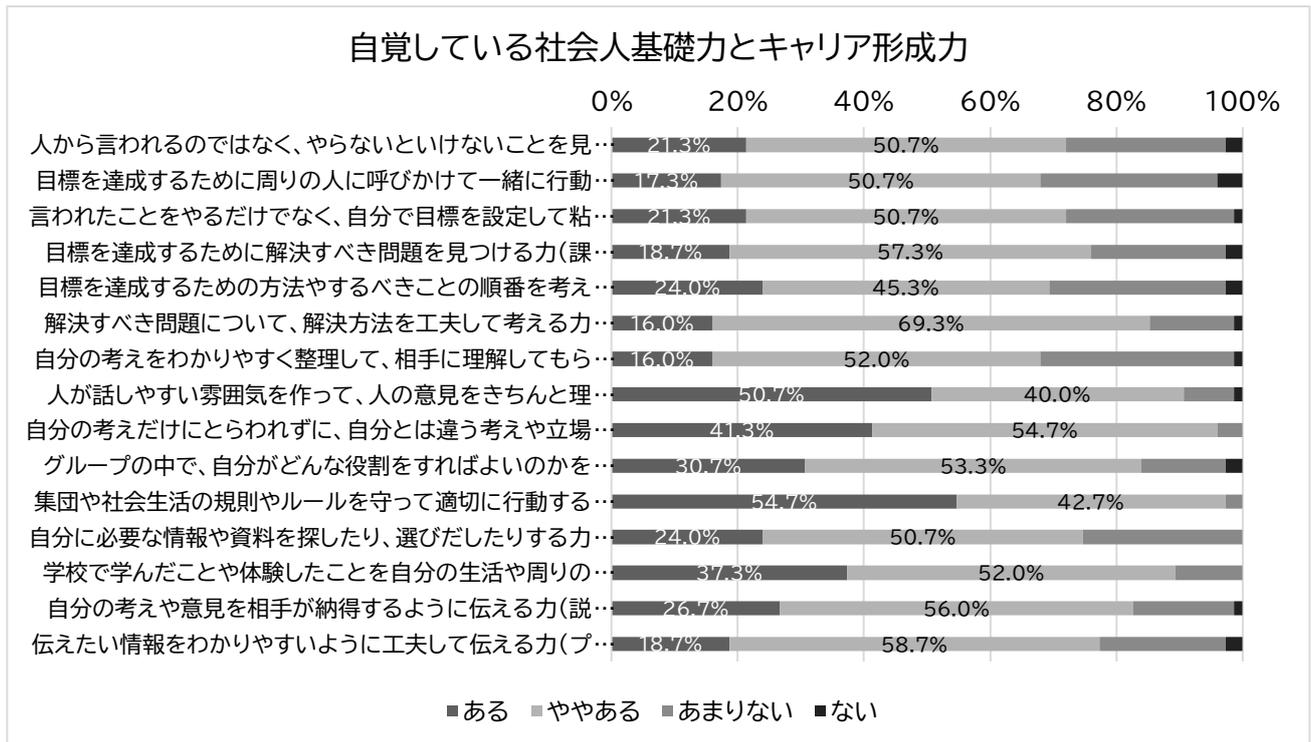
自覚している社会人基礎力とキャリア形成力は、「前に踏み出す力(アクション)」と「考え抜く力(シンキング)」が低く、「チームで働く力(チームワーク)」が相対的に高い。

特に低い基礎力は、「発信力」「創造力」であった。また、高い基礎力は、「規律力」「傾聴力」「柔軟力」「状況把握力」「職業理解力」だった。これは、高校までのチーム学習の成果が現れであろう。

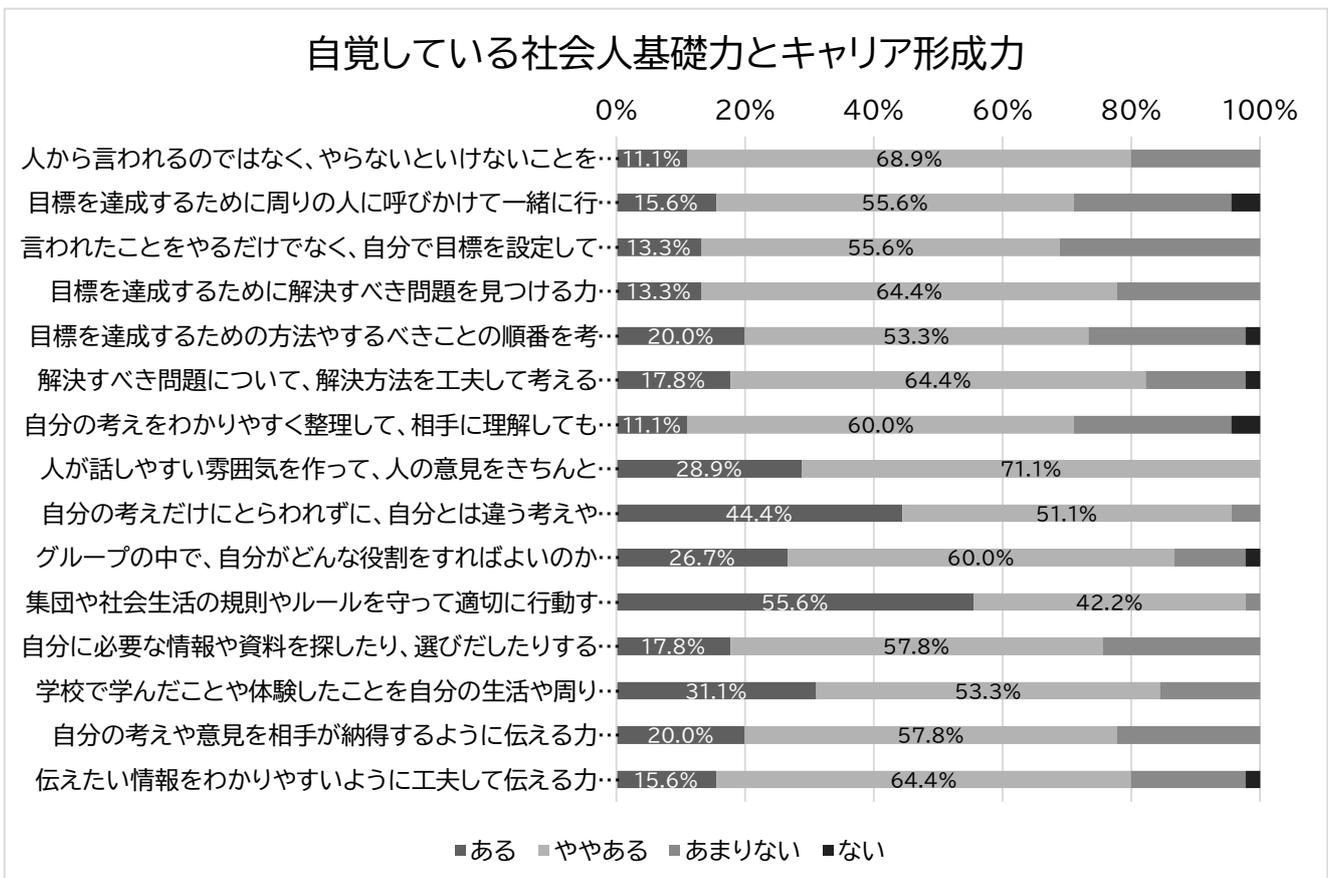
今後、「前に踏み出す力(アクション)」と「考え抜く力(シンキング)」をいかに身に付けるかが教育課題になるであろう。



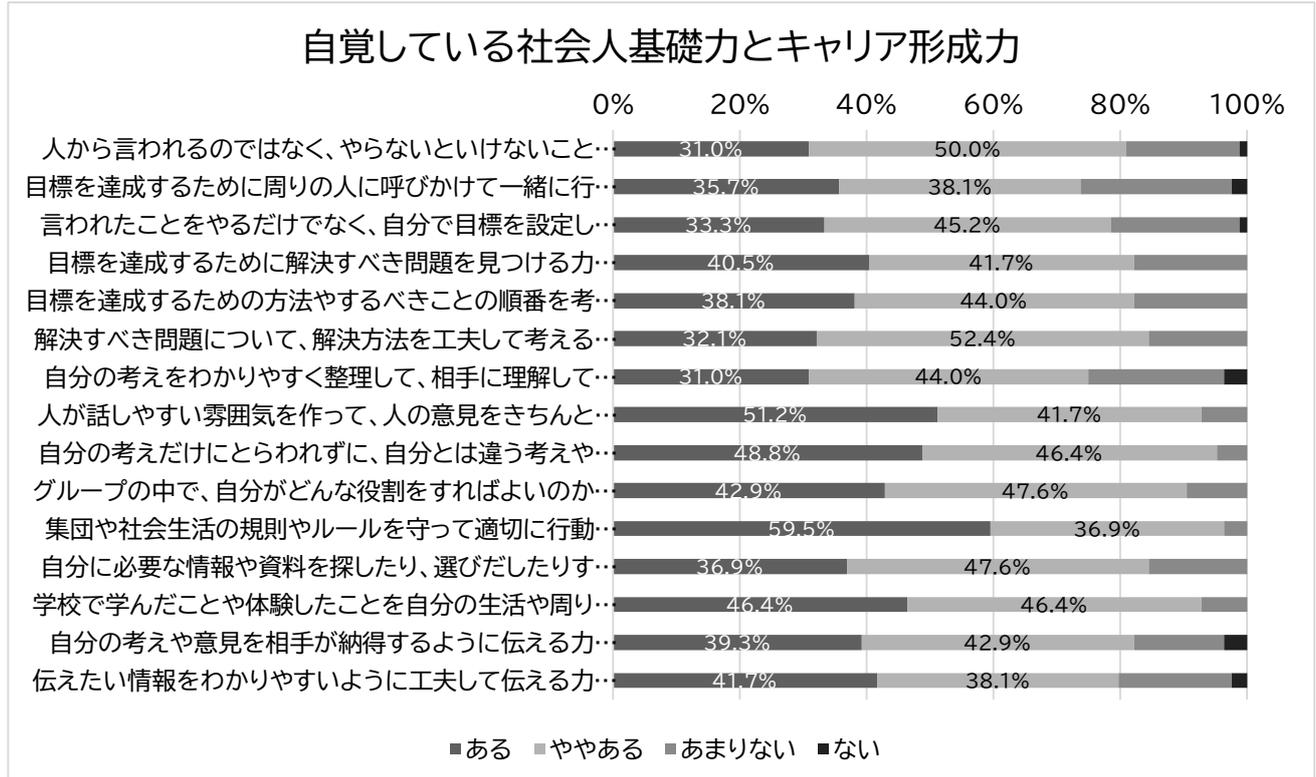
静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校



沖縄キリスト教学院大学



Irc インターナショナルリゾートカレッジ



インターナショナルリゾートカレッジは、「能力がある」と回答した学生の比率が他と比べて多く、自己肯定感の高い学生が多い。

ただし、項目間の差が他より少ないため、自らの正しい能力を認知する「メタ認知」に課題があることを示唆している。

3.5 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校アンケート調査結果

3.5.1 調査概要

日時 令和6年9月4日～18日

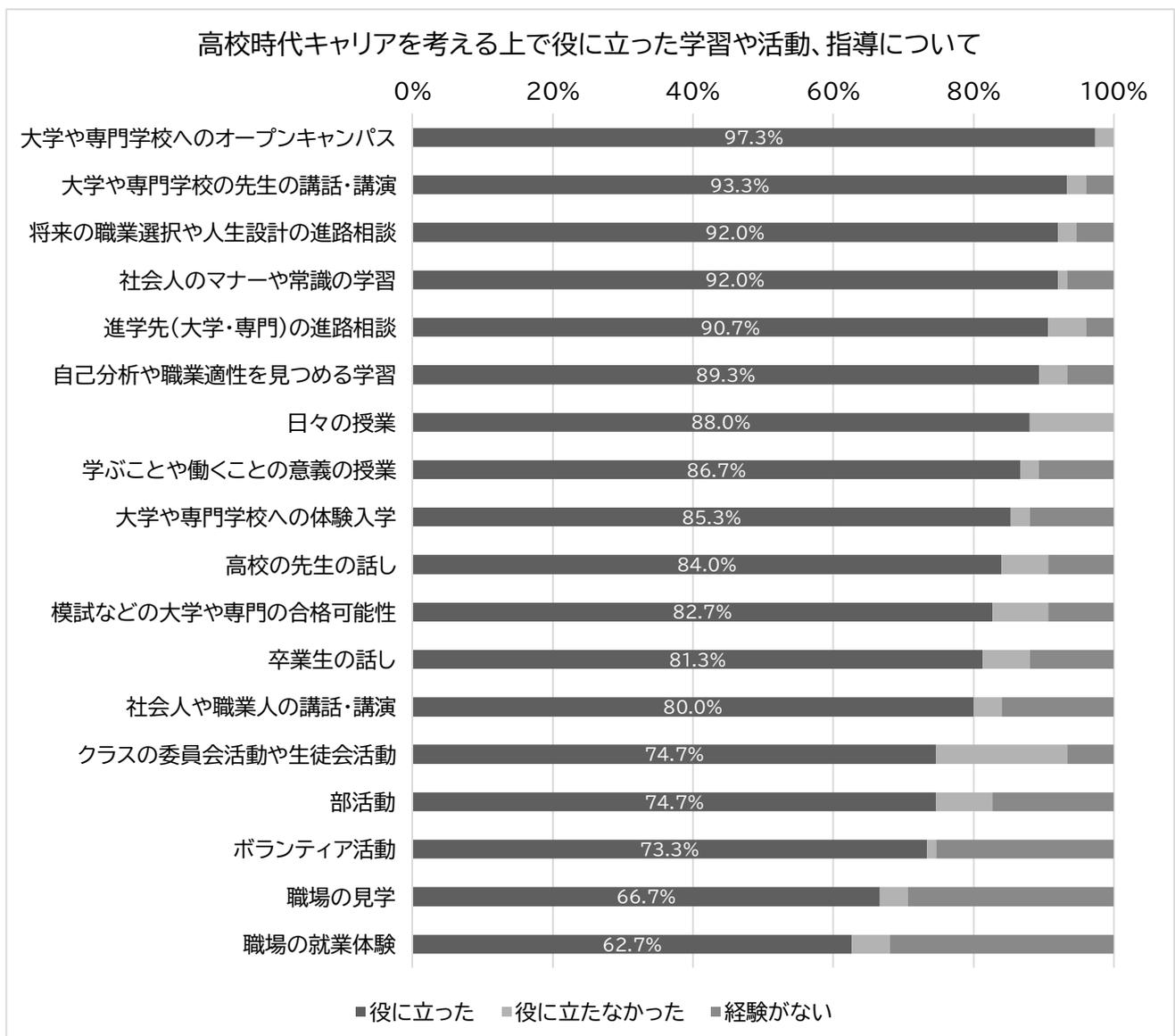
方法 web 調査

対象 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 1年生

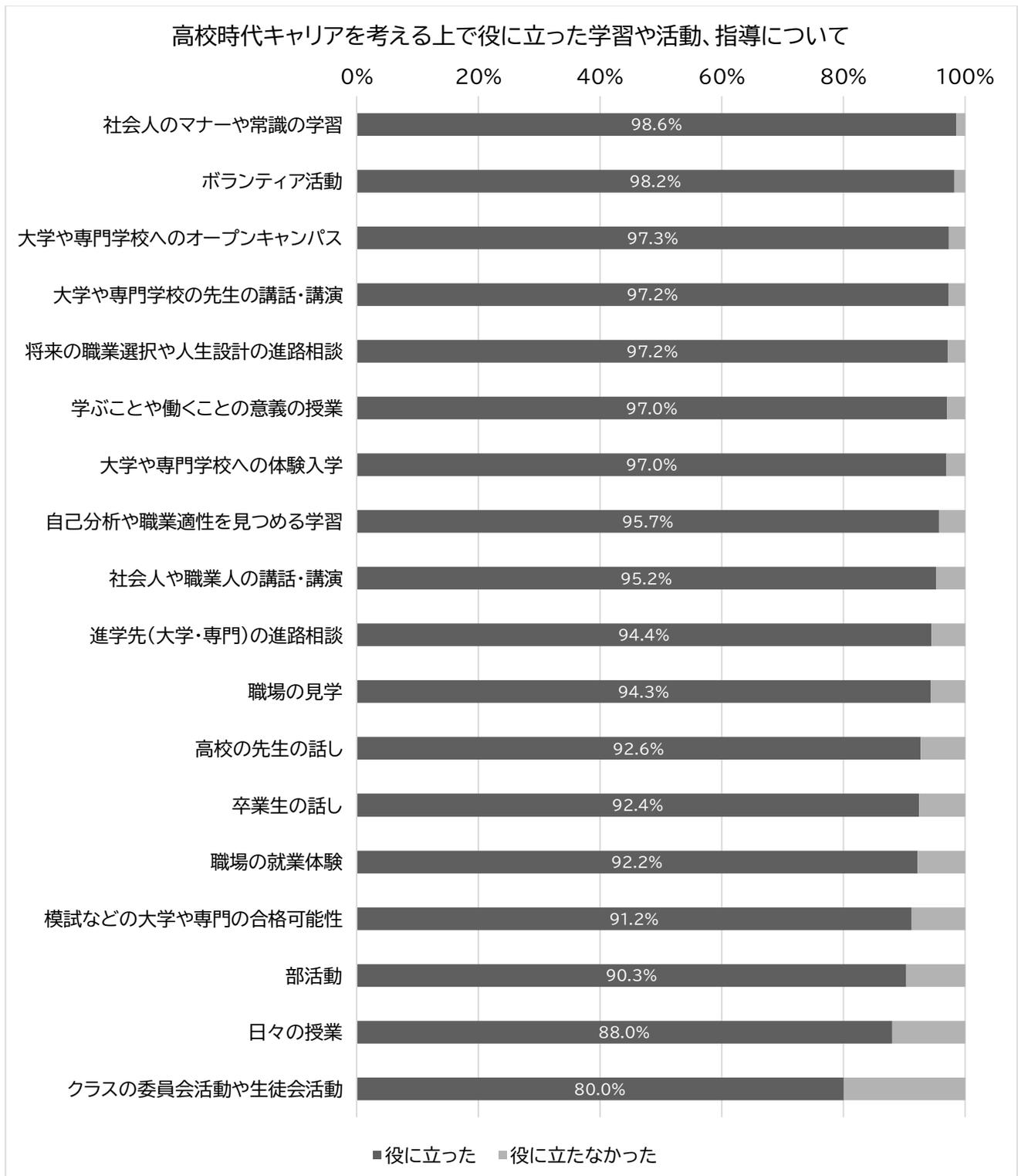
人数 75名

3.5.2 高校時代に、キャリアを考える上で役に立った学習や活動、指導などの体験

オープンキャンパスは学生全員が体験しており、97.3%の学生が役に立ったと回答した。

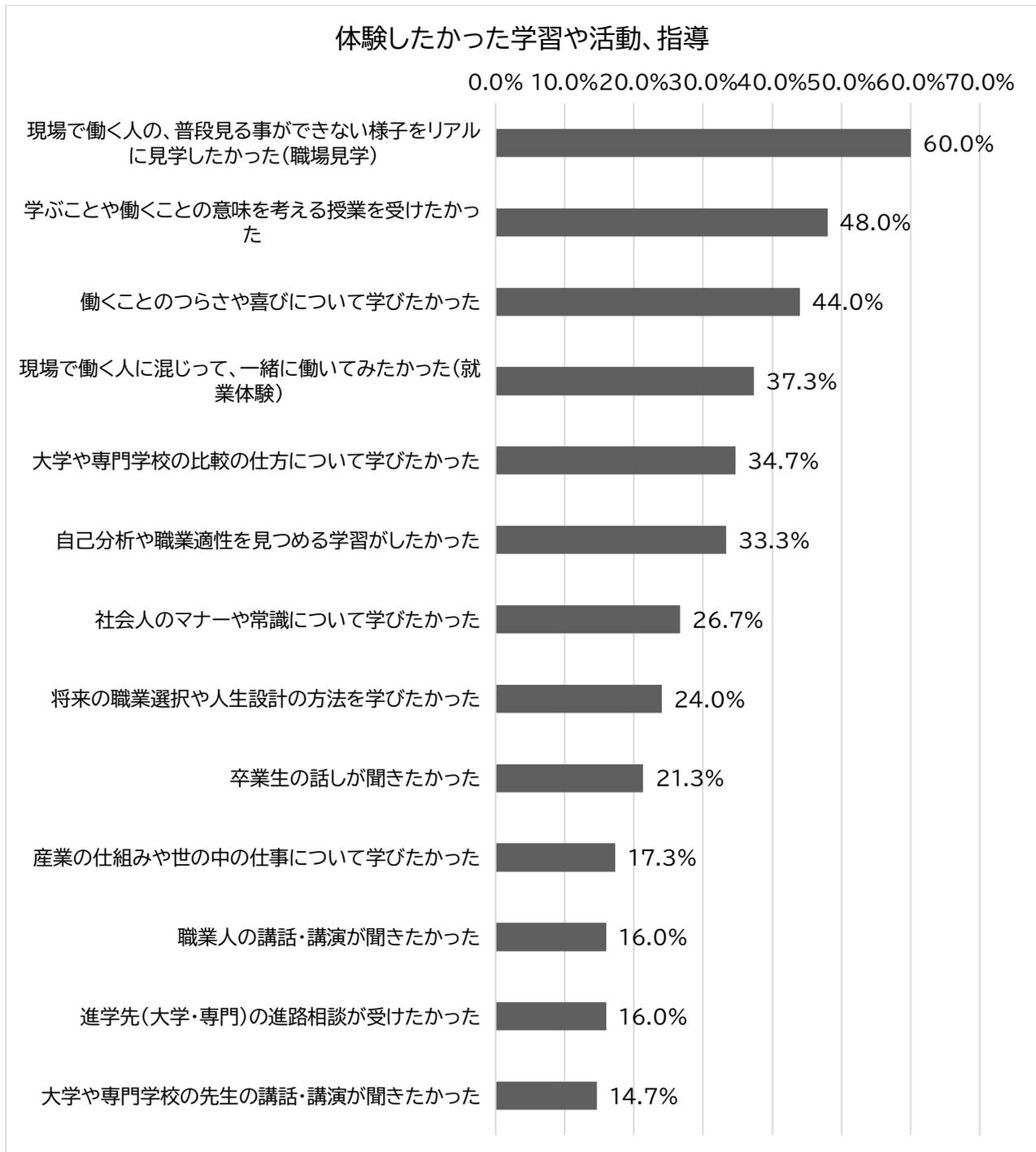


未体験のものを除いた「役に立った-役に立たなかった」比率は、以下の通りになった。



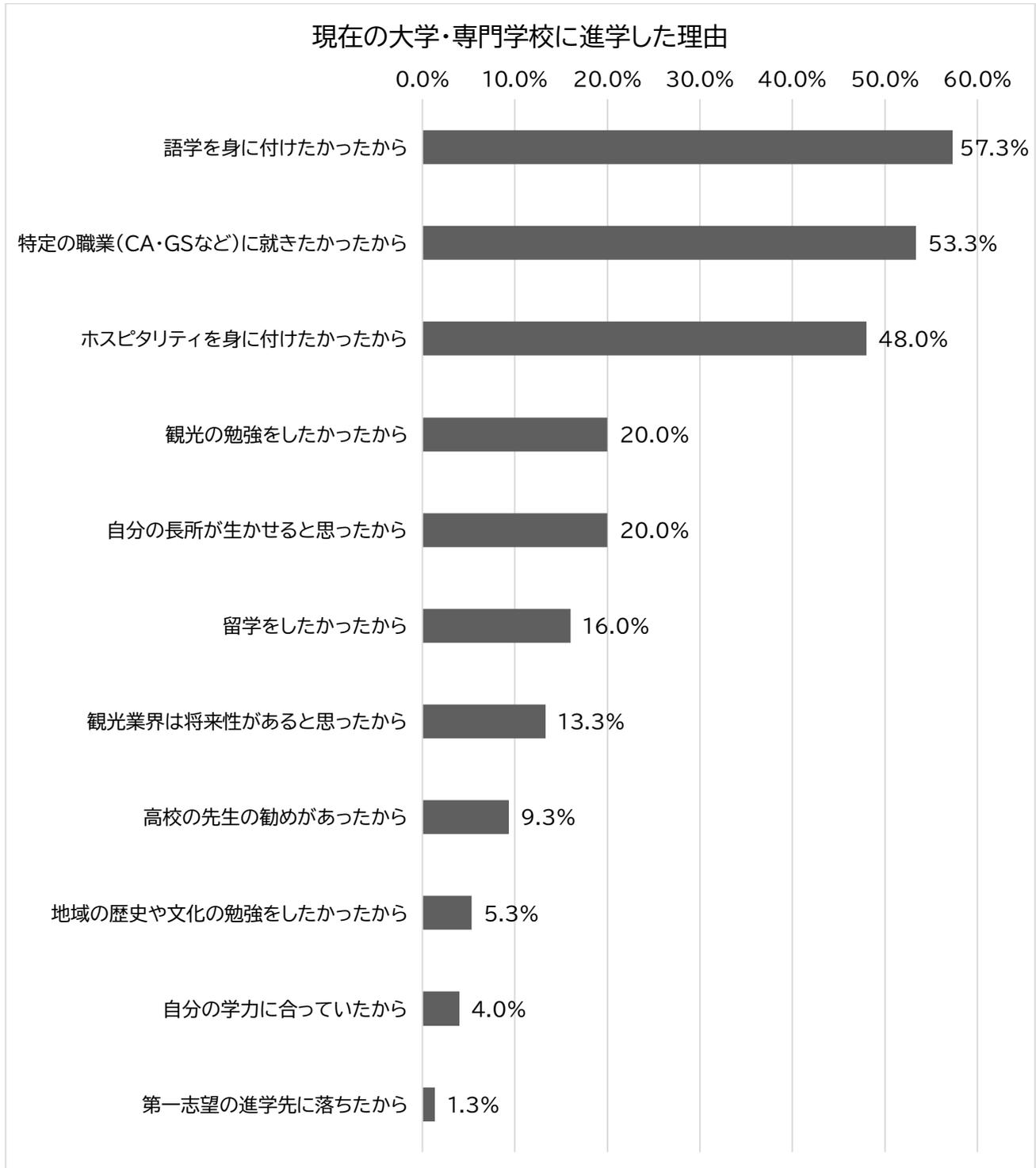
3.5.3 高校時代に、キャリアを考える上で体験したかった学習や活動、指導(複数選択)

「職場見学」が最も多く、60.0%の学生が挙げた。次いで、「学ぶことや働くことの意味(48.0%)」、「働くことへのつらさや喜び(44.0%)」を学ぶ活動を挙げた。



3.5.4 現在の大学・専門学校に進学した理由(複数選択)

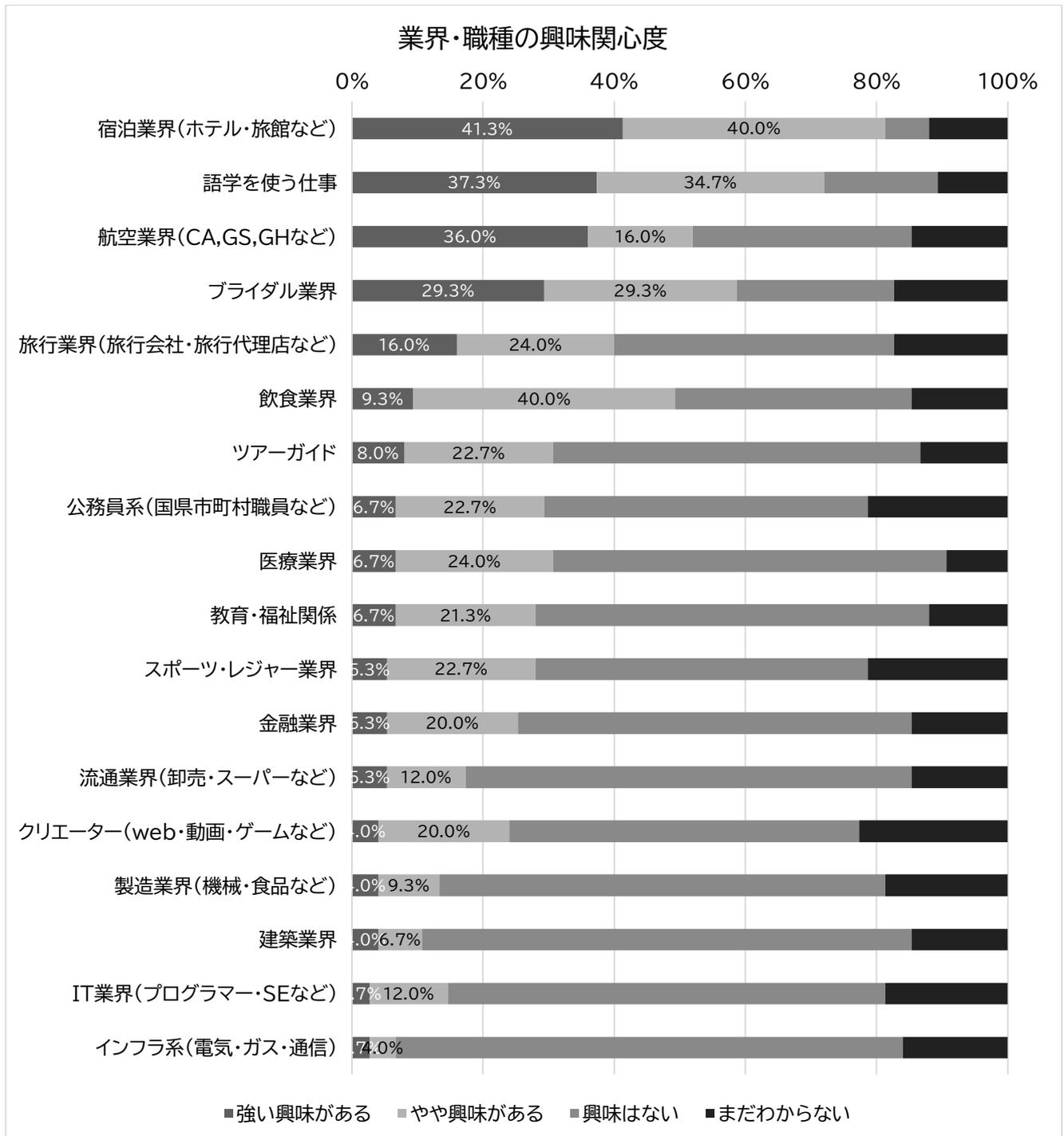
半数以上の学生が、「語学(57.3%)」「特定の職業(53.3%)」、ほぼ半数の学生が「ホスピタリティ(48.0%)」を挙げた。



3.5.5 就職先として興味のある業界・職種

「強い希望がある」が10%を超えた業界・職種は、宿泊(41.3%)、語学(37.3%)、航空(36.0%)、ブライダル(29.3%)、旅行(16.0%)だった。

「やや興味がある」を合わせると、宿泊(81.3%)、語学(72.0%)、ブライダル(58.7%)、航空(52.0%)、飲食(49.3%)、旅行(40.0%)だった。



3.5.6 自覚している「社会人基礎力」と「キャリア形成力」

※1～11 のアンケート項目は、経産省が2006年に発表した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である「社会人基礎力」を採用している。12～15 のアンケート項目は、文科省が掲げる「キャリア形成力」のうち1～11 の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

「社会人基礎力」は、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)の3分野からなる。この3分野と「キャリア形成力」に対応する質問項目は以下の通り。

前に踏み出す力(アクション)

人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力(主体性)
 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力(働きかける力)
 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力(実行力)

考え抜く力(シンキング)

目標を達成するために解決すべき問題を見つける力(課題発見力)
 目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力(計画力)
 解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力(創造力)

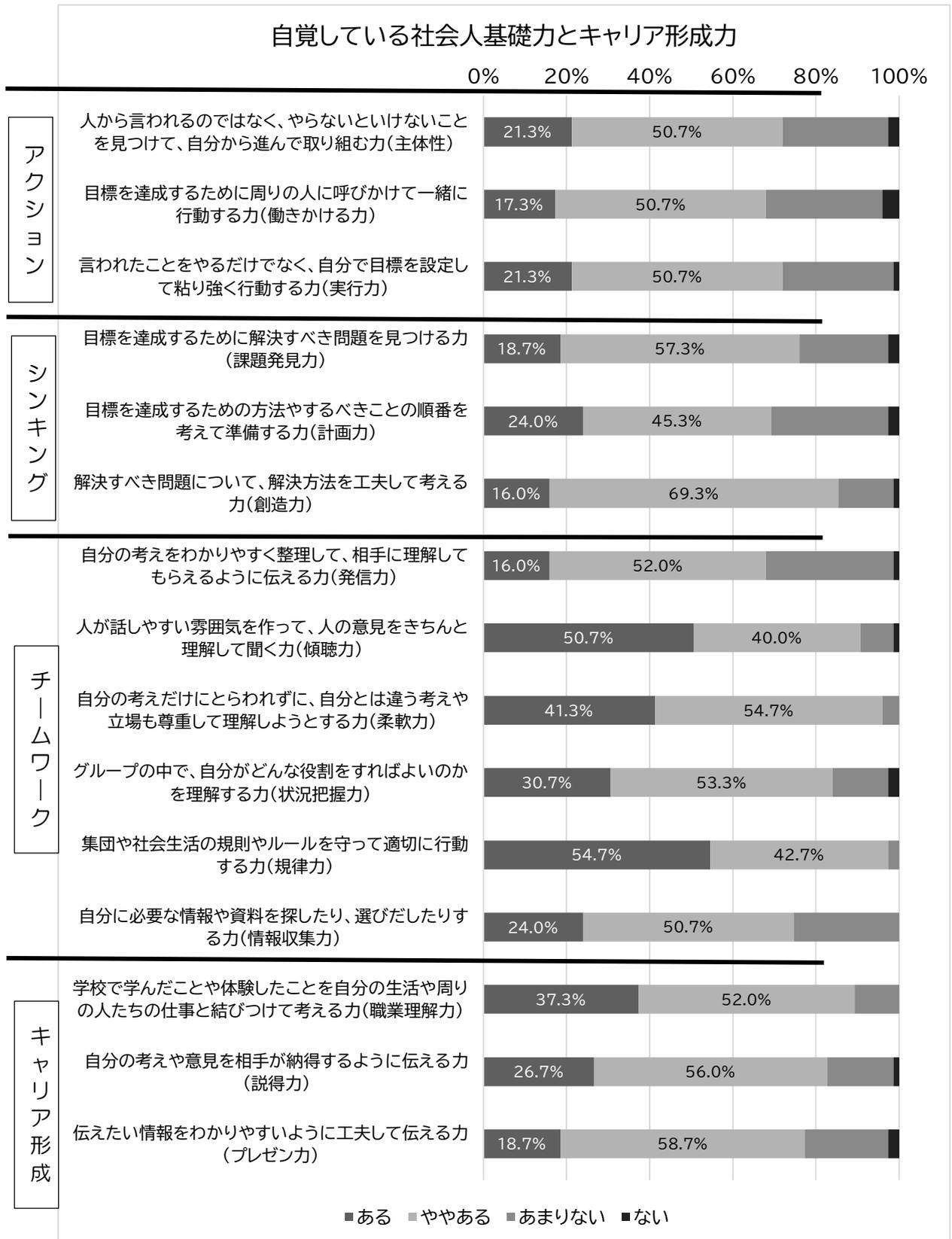
チームで働く力(チームワーク)

自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力(発信力)
 人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力(傾聴力)
 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力(柔軟力)
 グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力(状況把握力)
 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力(規律力)

キャリア形成力

自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力(情報収集力)
 学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力(職業理解力)
 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力(説得力)
 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力(プレゼン力)

<社会人基礎力とキャリア形成力>



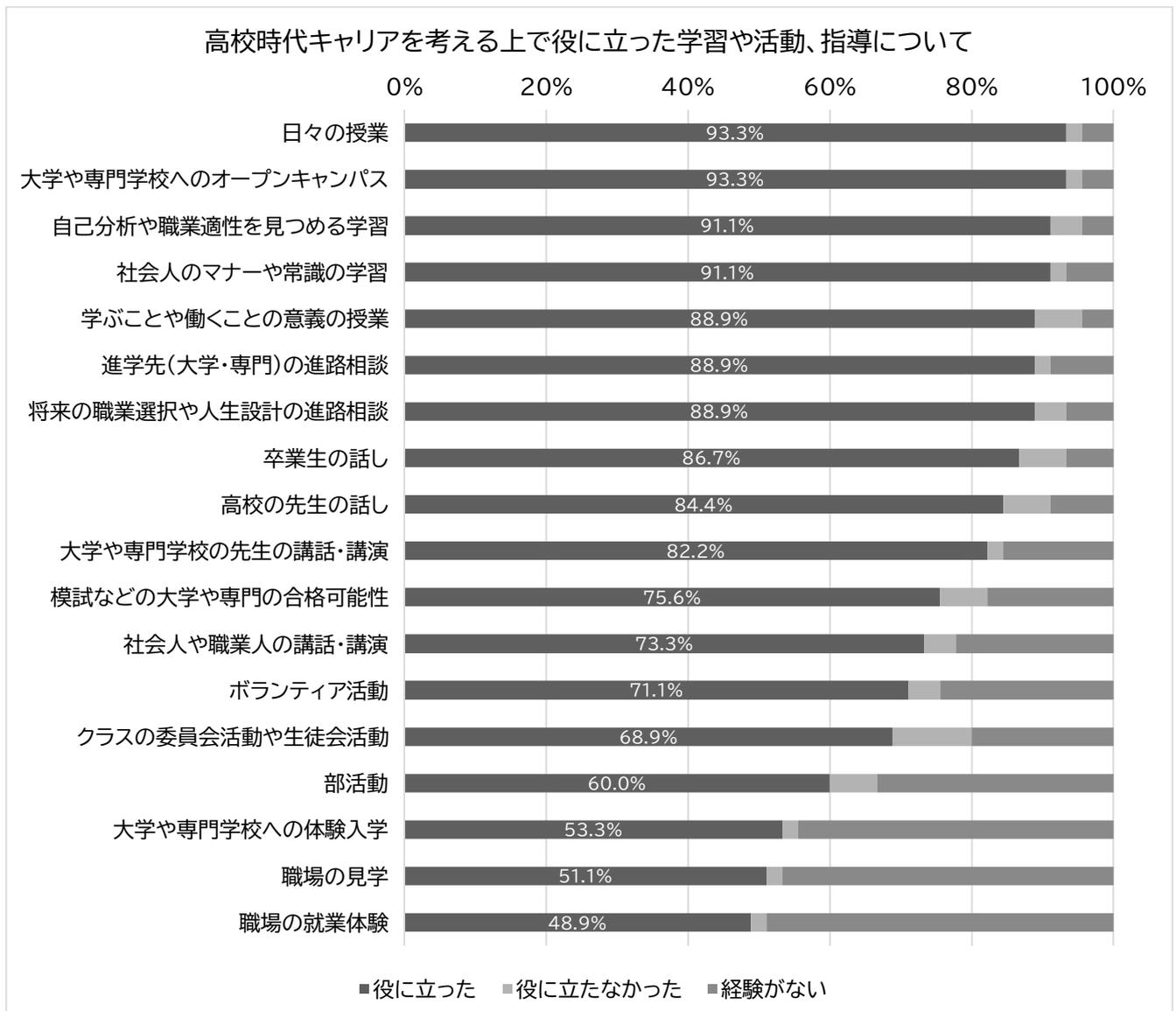
3.6 沖縄キリスト教学院大学 アンケート調査結果

3.6.1 調査概要

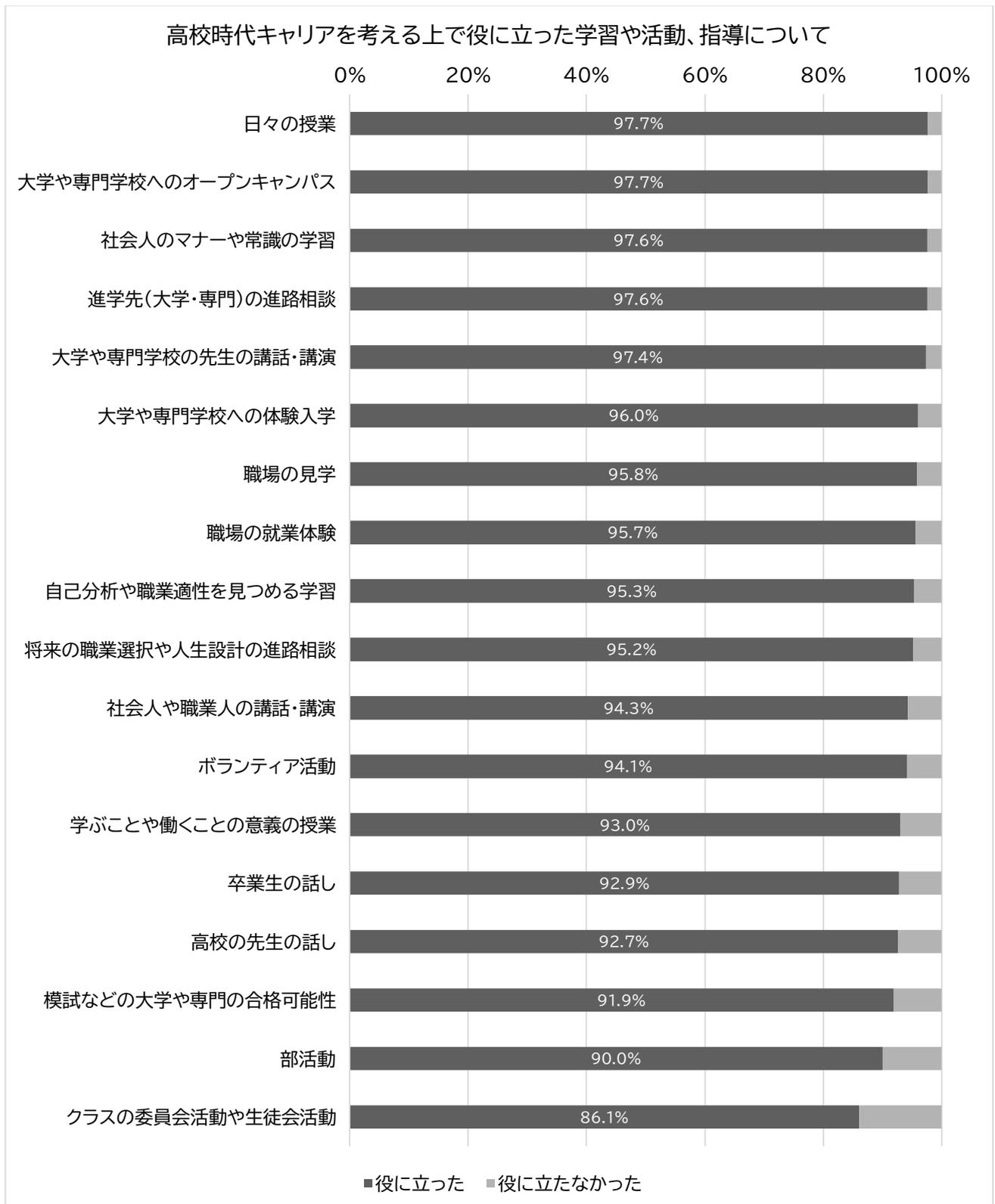
日時 令和6年10月21日
 方法 web 調査
 対象 沖縄キリスト教学院大学 1年生
 人数 45名

3.6.2 高校時代に、キャリアを考える上で役に立った学習や活動、指導などの体験

オープンキャンパスは学生全員が体験しており、93.3%の学生が役に立ったと回答した。
 一方、職場の就業体験、職場の見学、大学の体験入学の経験がない学生が40%を超えた。

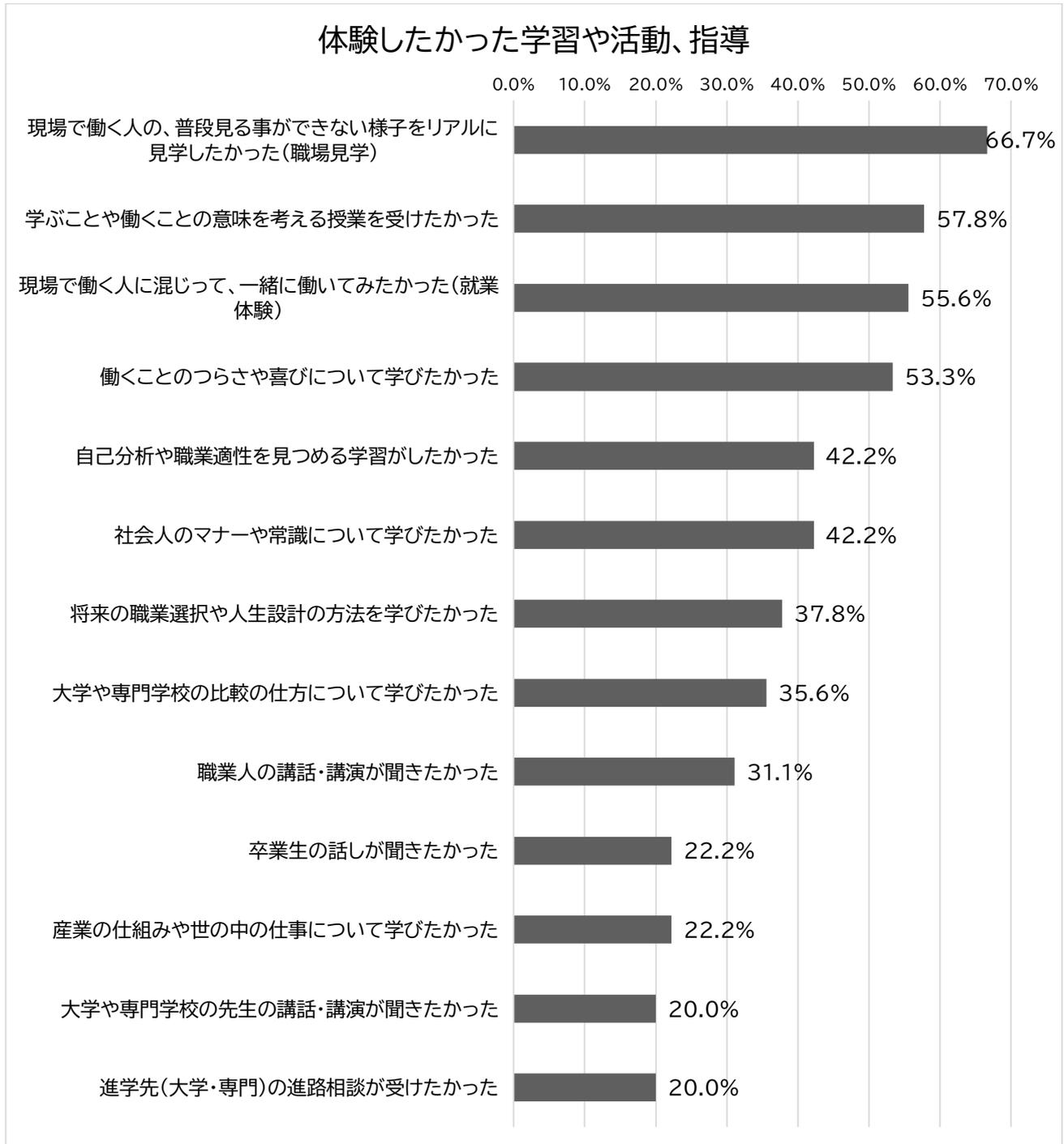


未体験のものを除いた「役に立った-役に立たなかった」比率は、以下の通りになった。



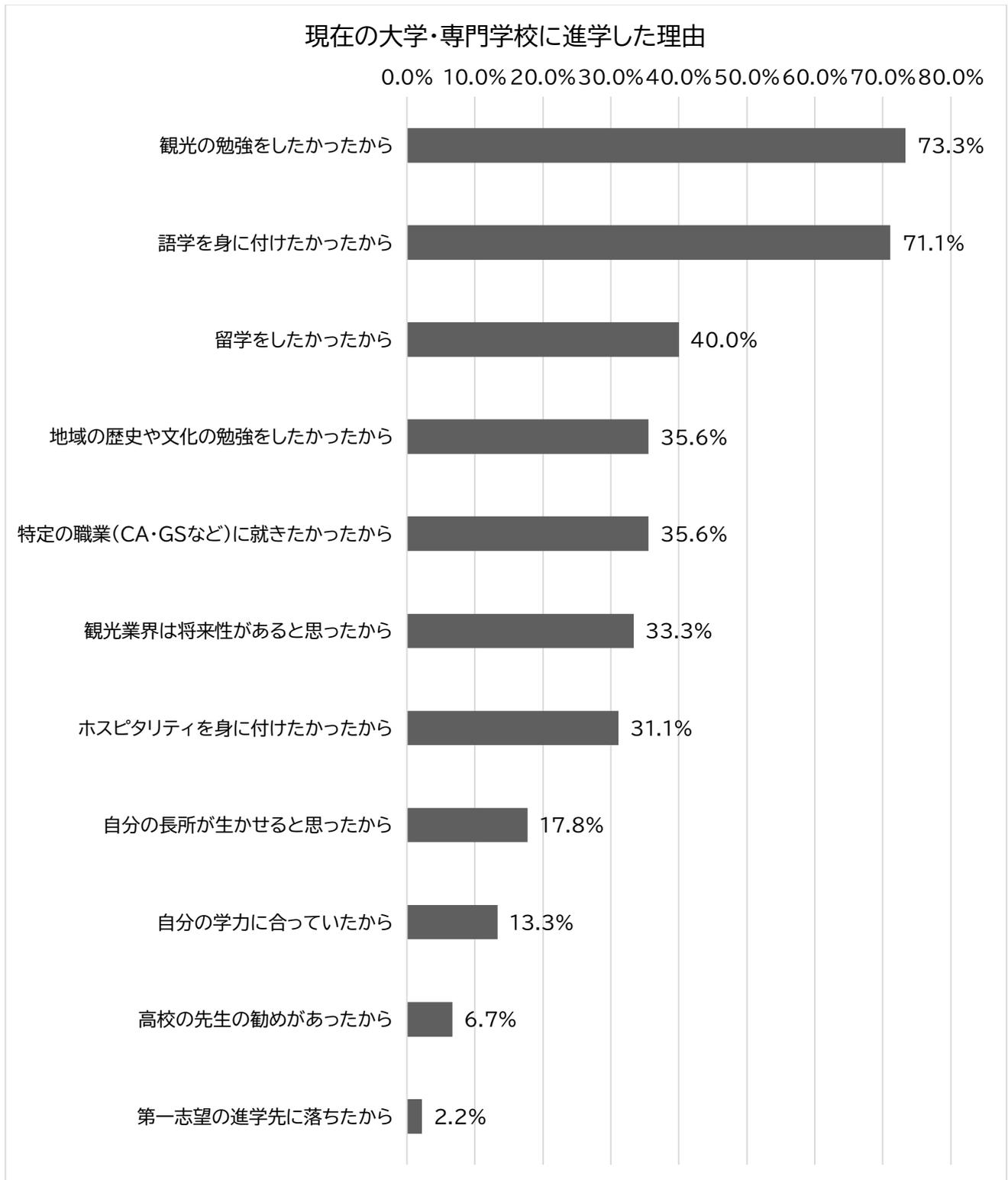
3.6.3 高校時代に、キャリアを考える上で体験したかった学習や活動、指導(複数選択)

「職場見学」が最も多く66.7%の学生が挙げた。次いで、「学ぶことや働くことの意味」57.8%、「就業体験」55.6%、「働くことのつらさや喜び」53.3%を挙げた。



3.6.4 現在の大学・専門学校に進学した理由(複数選択)

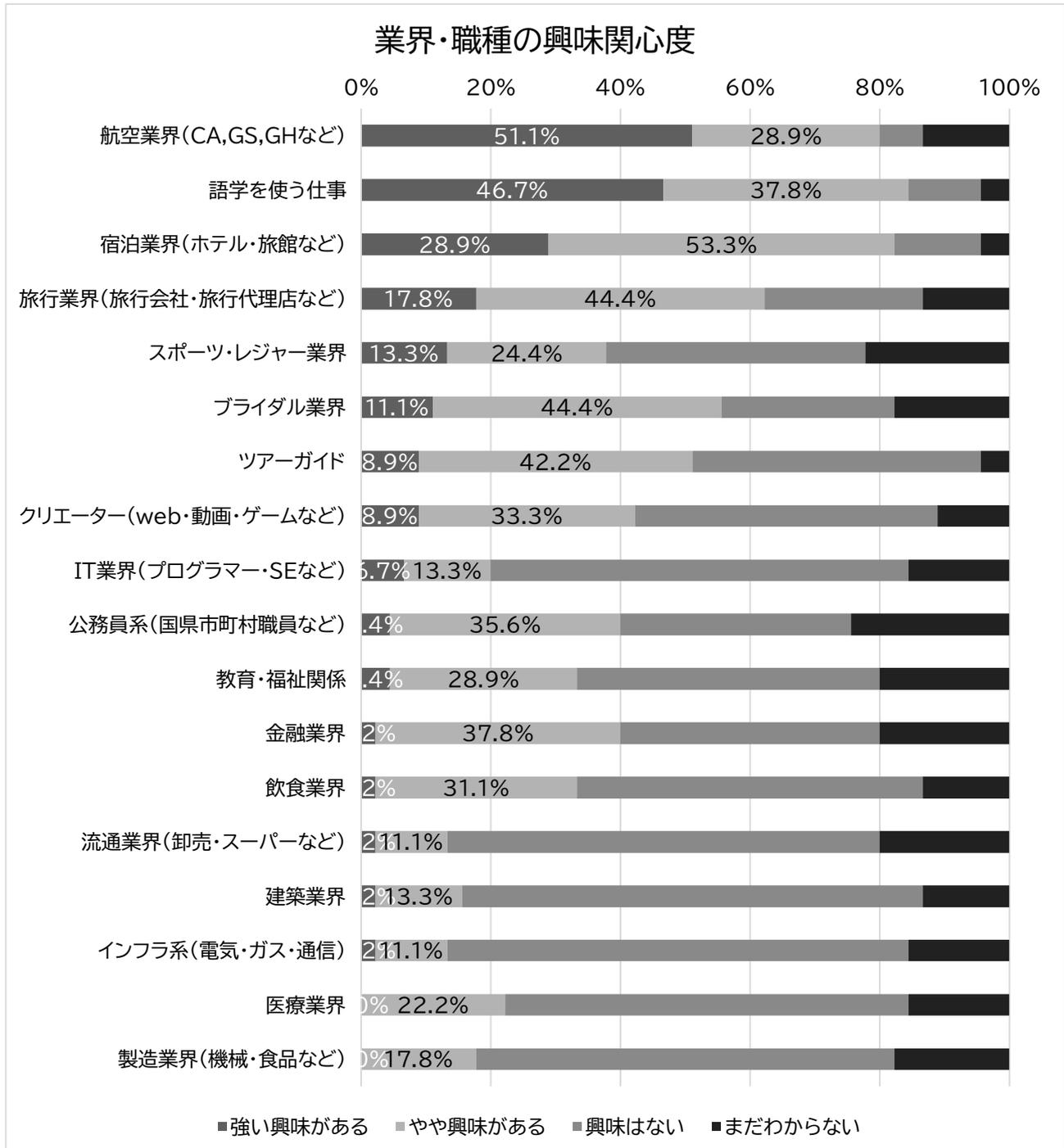
70%以上の学生が、「観光の勉強をしたかったから」「語学(71.1%)」をあげた。



3.6.5 就職先として興味のある業界・職種

「強い希望がある」が10%を超えた業界・職種は、航空(51.1%)、語学(46.7%)、宿泊(28.9%)、旅行(17.8%)、スポーツ・レジャー(13.3%)、ブライダル(11.1%)だった。

「やや興味がある」を合わせると、語学(84.4%)、宿泊(82.2%)、航空(80.0%)、旅行(62.2%)、ブライダル(55.6%)、ツアーガイド(51.1%)だった。



3.6.6 自覚している「社会人基礎力」と「キャリア形成力」

※1～11 のアンケート項目は、経産省が2006年に発表した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である「社会人基礎力」を採用している。12～15 のアンケート項目は、文科省が掲げる「キャリア形成力」のうち1～11 の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

「社会人基礎力」は、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)の3分野からなる。

この3分野と「キャリア形成力」に対応する質問項目は以下の通り。

前に踏み出す力(アクション)

人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力(主体性)
 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力(働きかける力)
 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力(実行力)

考え抜く力(シンキング)

目標を達成するために解決すべき問題を見つける力(課題発見力)
 目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力(計画力)
 解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力(創造力)

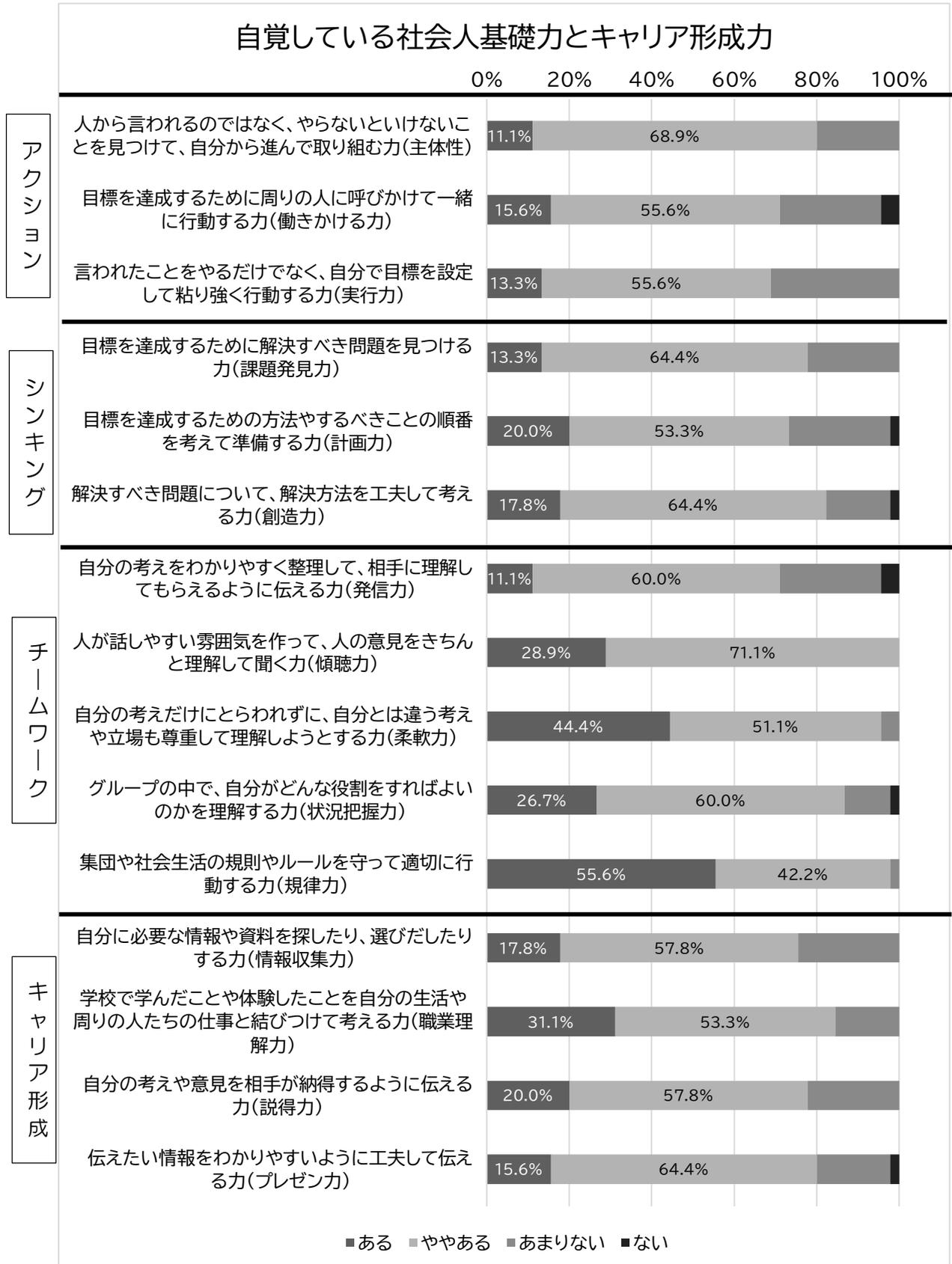
チームで働く力(チームワーク)

自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力(発信力)
 人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力(傾聴力)
 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力(柔軟力)
 グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力(状況把握力)
 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力(規律力)

キャリア形成力

自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力(情報収集力)
 学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力(職業理解力)
 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力(説得力)
 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力(プレゼン力)

<社会人基礎力とキャリア形成力>



3.7 Irc インターナショナルリゾートカレッジ アンケート調査結果

3.7.1 調査概要

日時 令和6年11月5～7日

方法 web 調査

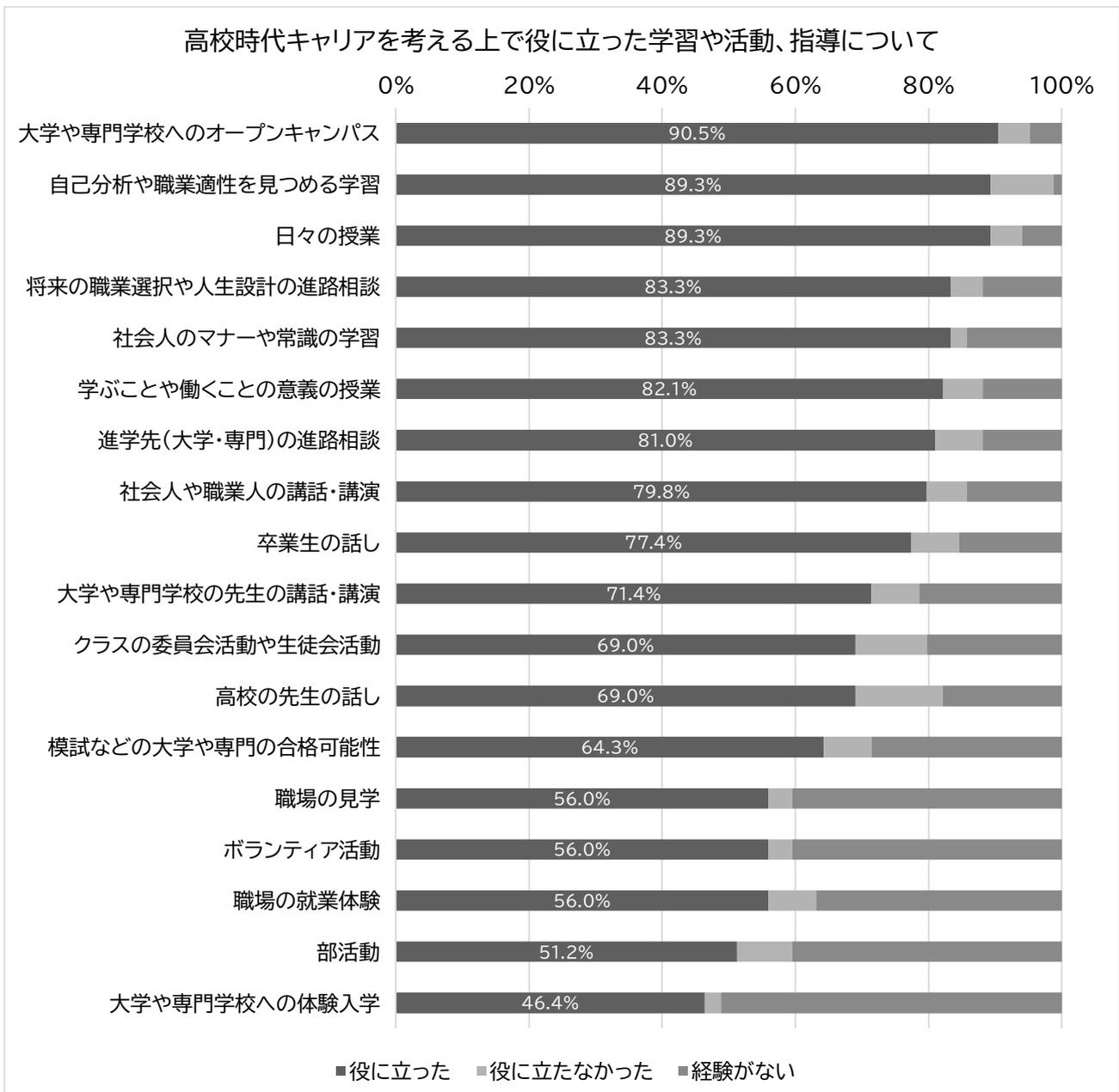
対象 irc インターナショナルリゾートカレッジ 1年生 32名 2年生 28名 3年生 2名

人数 62名

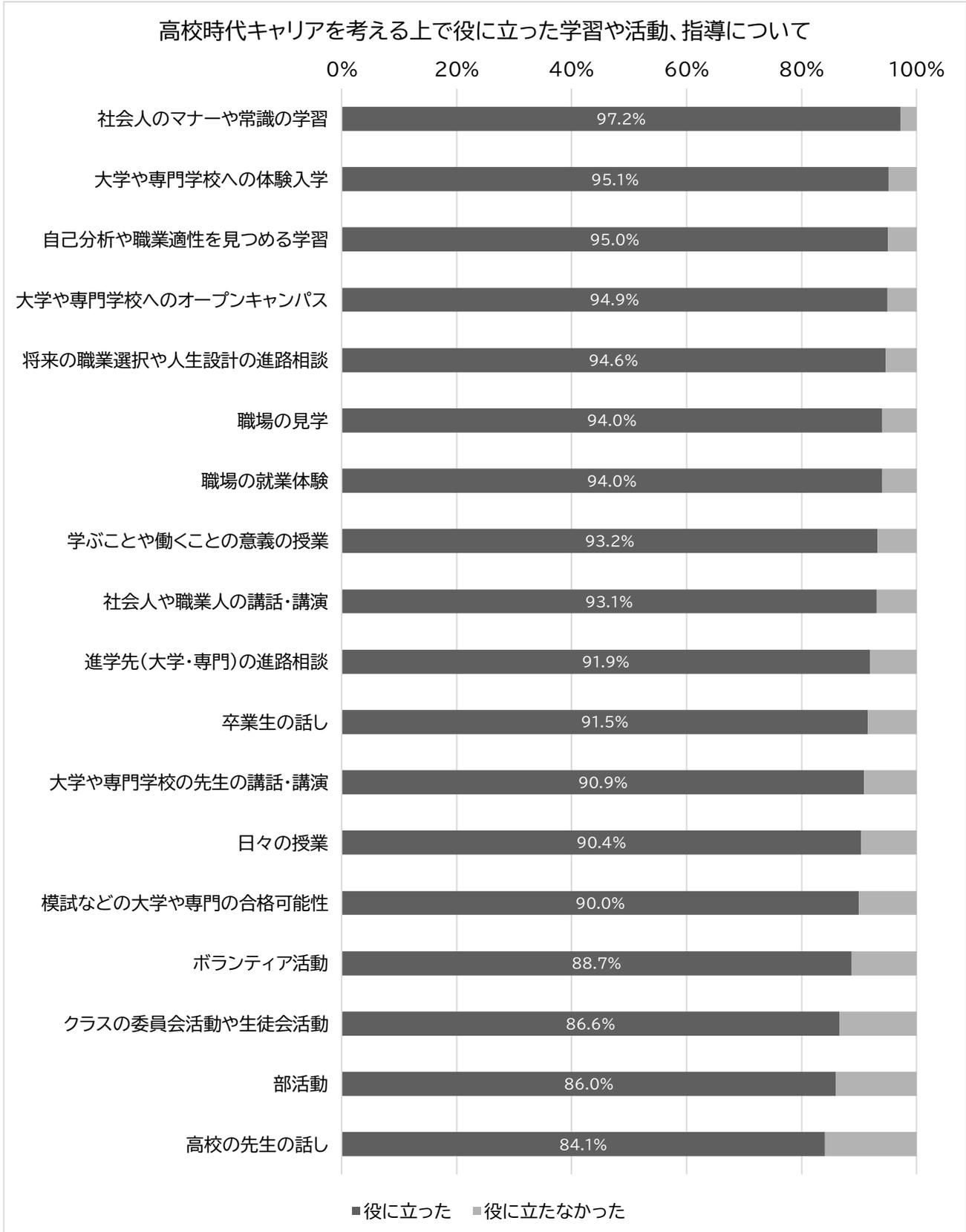
3.7.2 高校時代に、キャリアを考える上で役に立った学習や活動、指導などの体験

オープンキャンパスは学生全員が体験しており、90.5%の学生が役に立ったと回答した。

一方、大学や専門学校の体験入学、ボランティア活動、職場の見学、部活動の経験がない学生が40%を超えた。

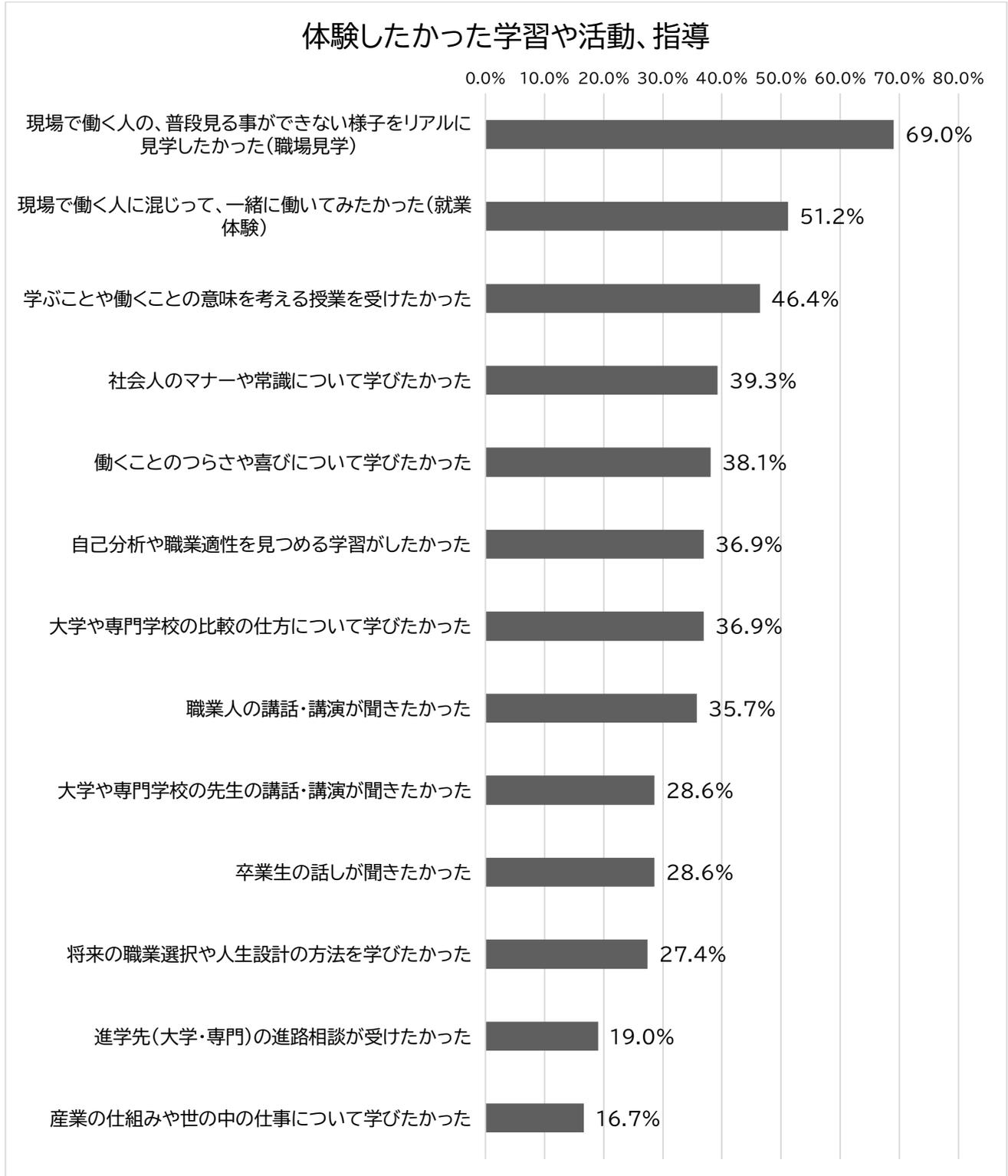


未体験のものを除いた「役に立った-役に立たなかった」比率は、以下の通りになった。



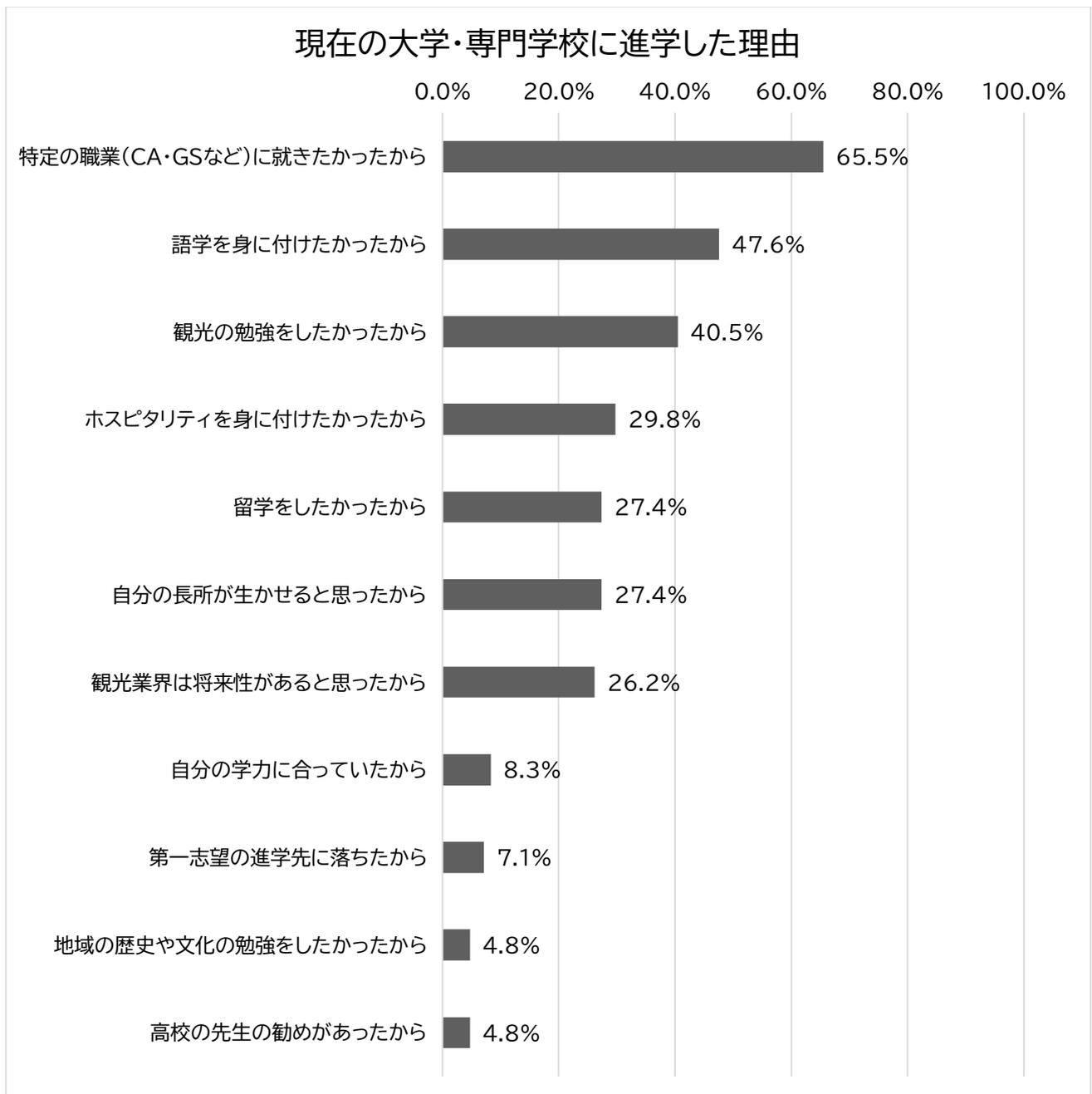
3.7.3 高校時代に、キャリアを考える上で体験したかった学習や活動、指導(複数選択)

「職場見学」が最も多く69.0%の学生が挙げた。次いで、「就業体験」51.2%、「学ぶことや働くことの意味」が46.4%だった。



3.7.4 現在の大学・専門学校に進学した理由(複数選択)

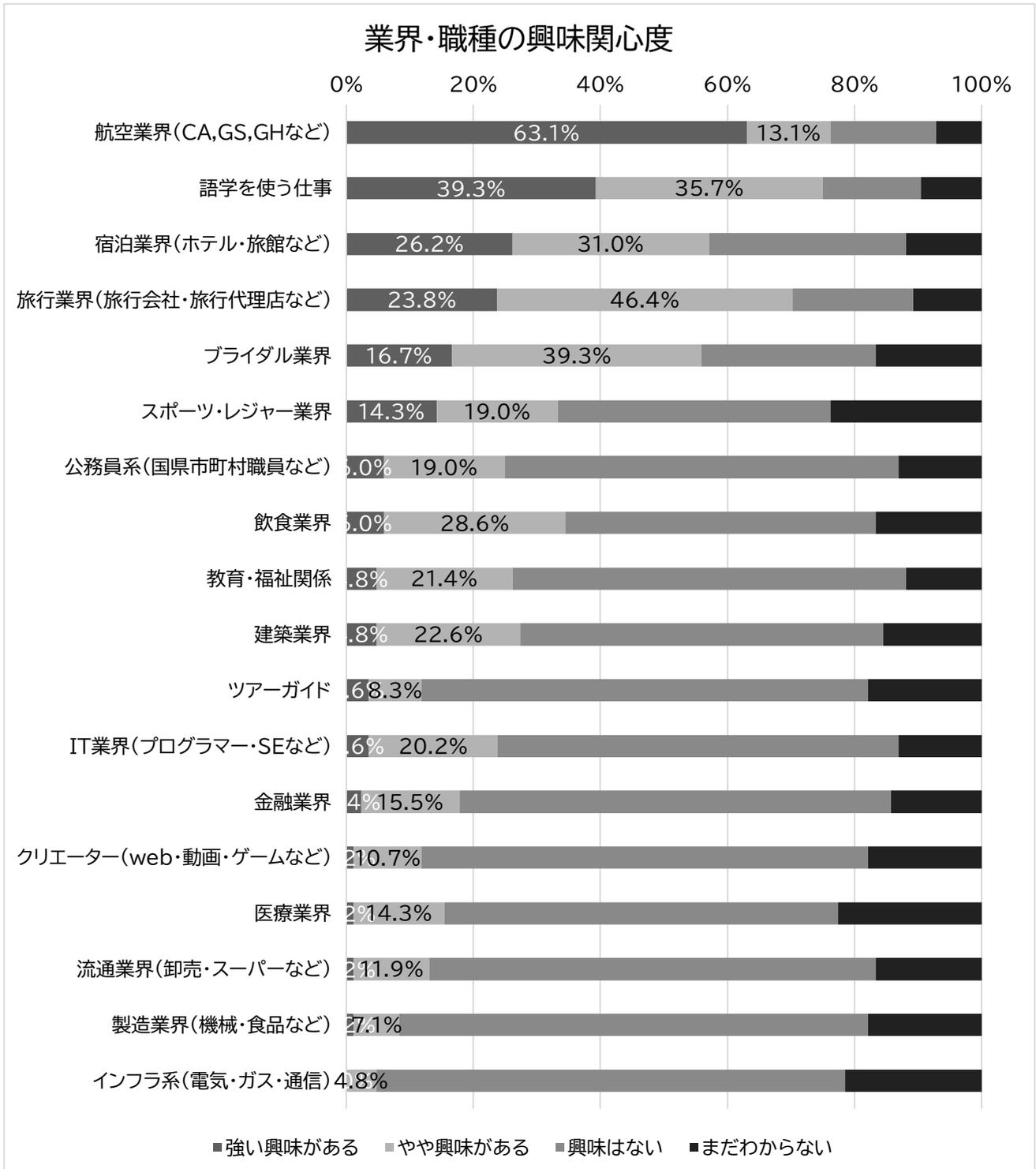
60%以上の学生が、「特定の職業に就きたかったから(65.5%)」をあげた。



3.7.5 就職先として興味のある業界・職種

「強い希望がある」が10%を超えた業界・職種は、航空(63.1%)、語学(39.3%)、宿泊(26.2%)、旅行(23.8%)、ブライダル(16.7%)、スポーツ・レジャー(14.3%)だった。

「やや興味がある」を合わせると、航空(76.2%)、語学(75.0%)、旅行(70.2%)、宿泊(57.1%)、ブライダル(56.0%)、飲食(34.5%)、スポーツ・レジャー(33.3%)だった。



3.7.6 自覚している「社会人基礎力」と「キャリア形成力」

※1～11のアンケート項目は、経産省が2006年に発表した職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力である「社会人基礎力」を採用している。12～15のアンケート項目は、文科省が掲げる「キャリア形成力」のうち1～11の項目に含まれない能力を採用している。いずれも、学校等で行われる試験で数値化が困難な「非認知能力」である。

「社会人基礎力」は、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)の3分野からなる。

この3分野と「キャリア形成力」に対応する質問項目は以下の通り。

前に踏み出す力(アクション)

人から言われるのではなく、やらないといけないことを見つけて、自分から進んで取り組む力(主体性)
 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力(働きかける力)
 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して粘り強く行動する力(実行力)

考え抜く力(シンキング)

目標を達成するために解決すべき問題を見つける力(課題発見力)
 目標を達成するための方法やすべきことの順番を考えて準備する力(計画力)
 解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力(創造力)

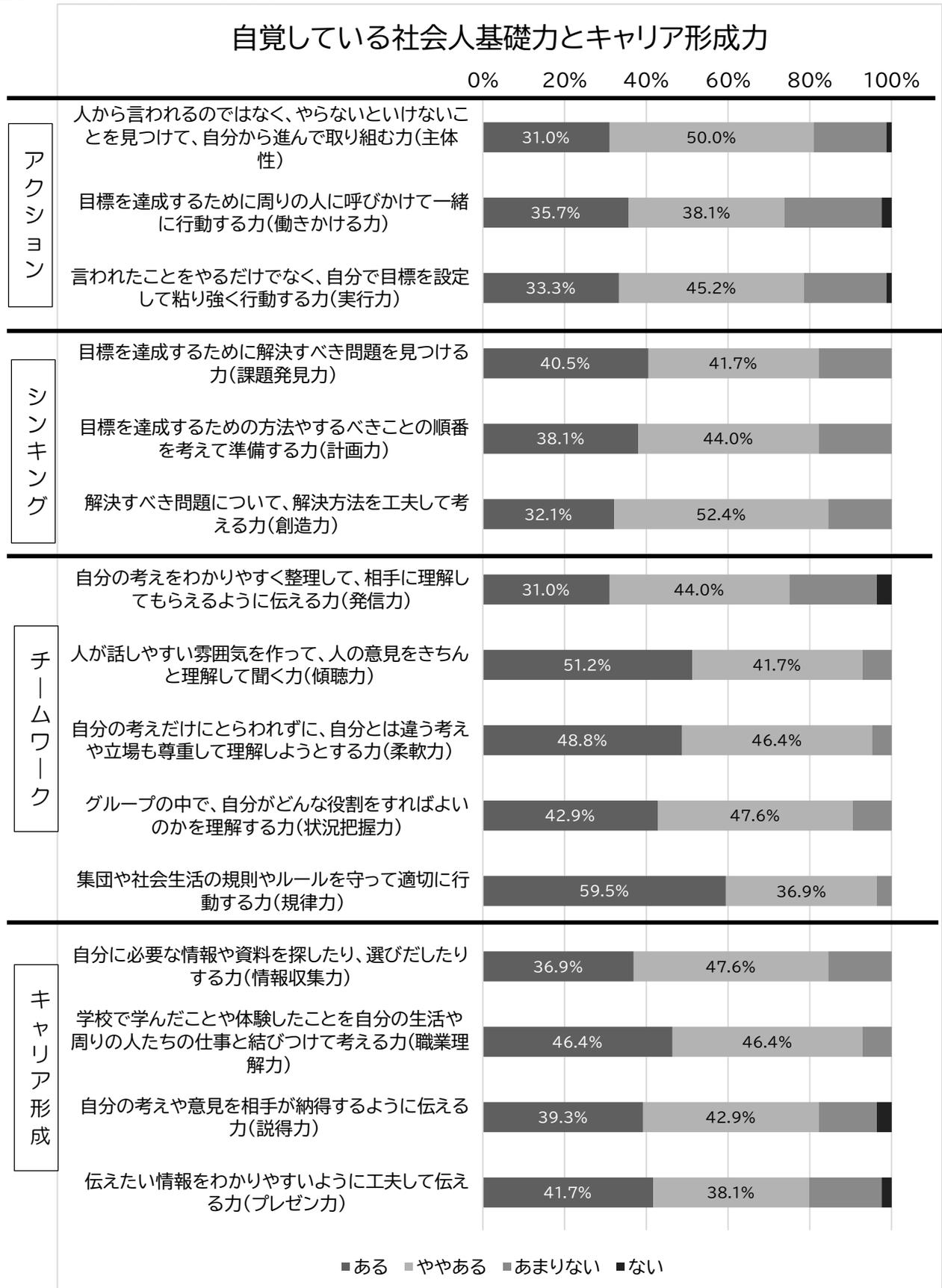
チームで働く力(チームワーク)

自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力(発信力)
 人が話しやすい雰囲気を作って、人の意見をきちんと理解して聞く力(傾聴力)
 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考えや立場も尊重して理解しようとする力(柔軟力)
 グループの中で、自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力(状況把握力)
 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動する力(規律力)

キャリア形成力

自分に必要な情報や資料を探したり、選びだしたりする力(情報収集力)
 学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人たちの仕事と結びつけて考える力(職業理解力)
 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力(説得力)
 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力(プレゼン力)

<社会人基礎力とキャリア形成力>



3.8 委員意見

<事業報告に関して>

- ・キャリア育成に対し、より効果を得るためにはホテルやブライダル、旅行といった業界が連携して初めに職場見学、次に職業のやりがいを知る講話、ジョブシャドウイングといったように段階的にプログラムへ反映すると良いと思う。
- ・生徒との打ち合わせでは見どころをあえて説明している。現場ではお客さまだけではなく、職員から「ありがとう」と言われた回数も数えてもらう。
- ・教職員全員が業界出身者でありプロフェッショナルとしてのマインドを含め、毎年ブラッシュアップの研修を企業に協力してもらい実施している。教職員1人ひとりが大学との住み分け、また専門教育に集中していく意識を持って授業・広報活動を行っている。
- ・アンケート結果は「入り口」であり、この意識が卒業時にどう変化しているか。興味があり、希望する業界で就職しているかを比較できればより精度の高い結果がわかると思う。
- ・業界、職種の興味や関心という点で、語学を使う仕事は2番手となっている。飲食やツアーガイドなど語学を使用する職業は多様性がある。ホテル業界において、語学は出来るに越したことはない。翻訳アプリなどを使うことで対応できることも増え、かなり改善されストレスは減ったもののお客さんの安心感は全く違う。少なくとも英語、ある程度で構わないので第二外国語ができる方は間違いなく望ましい。インバウンドも増え続け、現場からも声が上がりつつある。
- ・コロナ禍により、語学が求められる結婚式が一気に無くなった。以前の採用では英語や中国語の求める基準があったが、今は全くない。観光業界ではインバウンドが戻ってきているが、ウエディング分野には依然戻ってきておらず、語学を發揮できる場がない。
- ・空港業界は語学力は必要。国際線を希望する人は語学に強い方が多い。意外と国内線でも外国語を使用することが多く、学んでおけばよかったという声も上がっている。

<事業全体に関して>

- ・職場や学校の見学は機会がなければなかなか行くことができない。中学や高校を含め、こういった機会をできる限り早いうちで用意できれば良いと思った。本校も依頼があった場合には快く協力できる環境を整えたい。
- ・アンケートの結果に「今どきの若者」という感覚が表れていると感じた。以前に比べてお利口な子が増え、自分からグイグイ来るタイプが減っていると感じている。
- ・学生たちからは職場見学やインターンシップが勉強になった、希望したい、といった結果だったがコロナ禍から進学校を中心にインターンシップのプログラムが削られている。これは逆行であり、学校は止めてほしくない。とても重要なプログラムである。商業高校など専門高校だけではなく、普通高校にもこのようなプログラムは必要だと改めて感じた。
- ・現場で働く普段のリアルを見学したい、一緒に働いてみたい、といった声は我々が業界で提供できるインターンシップの1つだと思う。また働くことの辛さや喜びについて学びたかったという部分まで考えている事に感心した。
- ・「常に人からどう見られているか意識すること」という数字が高かった。この世代は自分の意見をあまり言わない人が多いが、改めて現場で働くスタッフを見て「やらなければいけない」と思ったと感じた。
- ・沖縄の観光産業を含め、人を育てるには体験学習や職場体験といった授業が高校でも必要だと強く感じる。今後、当社でも職場体験の回数を増やした方が良いと感じた。
- ・観光分野はコロナ禍で大きな打撃を受け、学生たちのイメージにもいろいろな変化があった。盛り返してきている実感があり、今後もイメージは大きく変化すると思う。
- ・アンケートで航空業界の数値が高かったのは嬉しい。反面、シフトの形態などで3年目に転職を考えてしまう現状もある。いかに長く勤めてもらえるかを考えないといけない。
- ・今回は対象が高校生だったが、中学生の声も聞いてみたいと思った。以前、中学生の職場体験を受け入れた際、保護者を招いた発表会があった。その発表を通じて、コロナ禍後の様子を知ってもらえた。空港関係の仕事はもう無いという認識が保護者に広まり、航空業界を希望する子どもの進路に不安を持つことがある。このような場を増やし、学生や保護者に観光業に対する安心とこれからの未来を知ってもらいたい。

4 第三回連携プログラム開発検討委員会

令和6年度事業報告と令和7年度事業計画、事業後半に向けた観光人材育成に関する意見交換を行った。

4.1 観光系大学専門学校生のキャリア教育実態調査結果

4.1.1 沖縄キリスト教学院大学 グループ面接調査結果

調査概要

日時 令和6年11月11日 15:00~16:00

方法 グループ面接

対象 沖縄キリスト教学院大学 1年生

人数 9名(3名1グループ×3)

面接 仲宗根、広原

4.1.2 高校時代に、キャリアを考える上で一番役に立った学習や活動、指導などの体験

地域活動です。中城の津覇に根ざした伝統文化(津覇エイサー)を守る活動に参加し、進学して伝統文化について学びたいと思いました。

--

オープンキャンパスです。他学科の先輩と話して大学で何を学ぶか、自分は何を目指しているのかを固める事ができました。

--

高校の授業です。英語が好きだったので外国人に向けて「OKINAWA」をどう伝えていけばよいか、観光に興味を持ちました。

--

総合の時間でやっていた色々な職業に就く人のお話を聞く職業講話が一番役に立ちました。普段みることのない、知らなかった仕事を知る事ができてよかったです。

--

家族旅行です。旅行で宿泊するホテルによって特徴や印象が違いとても興味をもつことができました。それで、人を笑顔にする仕事や観光を勉強したいと思い進学しました。

--

オープンキャンパスです。グループで先輩の話を聞いて大学の雰囲気を知ることができました。また、大学の先生の体験講義を受けて、とてもわかりやすく、おもしろい！と思いました。

--

高校の授業です。もともと法律や経済系がいいかなどなんとなく思っていたのですが、政経の授業を受けてみて違うなと思いました。それで、少しでも興味がわきそうな学部を考えました。

--

高校のフィールドワークで行った勝連城跡などで沖縄の歴史を学ぶうちに観光に興味を持ちました。

--

校内活動では職業講話、校外活動ではオープンキャンパスやフィールドワーク、個人活動では地域活動や旅行などが挙げられた。校外活動に共通することは、「体験」による体感刺激でありキャリア形成に大きなインパクトを与えている。

4.1.3 高校時代に、キャリアを考える上で一番体験したかったこと

クラスでなりたい職業の希望を聞いて、その職業に就いている人の話を聞ける時間があつたらいいなと思います。

--

オープンキャンパスで、ホームページやパンフレットに載っていないような講義の雰囲気や進め方、大学や学生の雰囲気を在学中の先輩から聞きたかったです。

--

できるかどうかは別にして、高校に各大学の人が集まって一度に比較できるような会があればいいなと思います。

--

希望する仕事現場の見学や体験をしたかったです。

--

全ての大学のオープンキャンパスに行ってそれぞれの大学の比較をしたかったです。

--

総合の時間で適職診断とか自己分析などをやりましたが、あーそうなんだと思っただけで、結果を次につなげる活動がなかったのが残念です。できれば、診断や分析結果を一步深める職場見学や職業調べなどがあればよかったです。

--

例えば、ホテルで働くことの良い点(やりがいとか)だけでなく、悪い点(きつき、つらさなど)を働いている人から直接聞きたいです。これは、高校の時だけでなく今でも聞きたいです。

--

進路を決定するときは進路先の体験、キャリアを選択するときは職業人による講話や見学などの体験を求めている。これらは、情報を「自分ごと」に落とし込む体験、つまり、『未知の世界に自分を置く追体験』を求めているといえる。

4.1.4 これからの大学生活でジョブシャドーイングをしたら、どんな職業で体験したいですか

ツアーガイドさんについてシャドーイングがしたいです。コミュニケーションの取り方や専門知識の深さ、大変さ、楽しさやおもしろさなどを肌で感じてみたいです。

--
企業や官庁、消費者にモノやサービスを売る、営業職がみてみたいです。管理職の仕事などにも興味があります。

--
ホテルや旅行者などだいたい何をしているか想像がつく仕事ではなく、観光地を裏から支えている普通見ることができない職業を見てみたいです。

--
CAに興味があるので、機内での仕事以外の地上での仕事を見てみたいです。

--
CA以外の空港に関連する仕事や通訳ガイドの職業を見てみたいです。

--
バスガイドやツアーガイドの仕事を見て、おもてなしの心がどう行動に表れているかを観察したいです。

--
リゾートホテルのフロントやベルマンがアルバイトでは体験できないと思うのでシャドーイングがしてみたいです。

ツアーガイド、ホテル(フロント・ベルマンなど)、CAの地上業務、観光地を支える職業、ガイドなど、幅広い職業が挙がった。

4.1.5 これからの大学生活でインターンシップをしたら、どんな職業で体験したいですか

ホテルの仕事は是非経験したいです。とくに裏を知りたい。

--

GSを経験したいです。

--

リゾートホテルに興味がありますが、家から近い場所がいいです。

--

もともと広告に興味があったので、広告代理店や印刷会社でインターンシップしてみたいです。

--

ホテル、GS、ホテル、広告代理店が挙がった。

4.1.6 その他(就職をする際に重視したいことを3つ教えてください)

安定性、給料、将来性です

--

仕事内容、職場の雰囲気、給料です

--

働きやすさ(雰囲気や福利厚生)、休みや残業、キャリアアップです。

--

やりがい、給料、福利厚生です。

--

給料、仕事の楽しさ、場所(沖縄県内のみ)です。

--

ひとつのところで長く続けたいと思っているので長く働けそうなところ、場所(日本国内)、給料です。

--

4.2 インターナショナルリゾートカレッジ グループ面接調査結果

調査概要

日時 令和6年12月13日 13:15~14:20
 方法 グループ面接
 対象 インターナショナルリゾートカレッジ 1年生
 人数 9名(3名1グループ×3)
 面接 仲宗根、広原

4.2.1 高校時代に、キャリアを考える上で一番役に立った学習や活動、指導などの体験

オープンキャンパスです。学校の雰囲気を感じることができました。先輩の生の声が聞いてよかったです。

--

ホテルにいろいろな大学が集まって話しが聞ける機会と、OCではなく個別相談会が役に立ちました。パンフやSNSだけではわからない雰囲気がよくわかりました。先生の学生の近さとか日常感がわかります。

--

オープンキャンパスや空港見学です。CAに関する職業内容もよくわかりました。

--

OCが役に立ちました。もともとブライダルやホテルに興味があったのでOCにいくつか行きました。OCでは先生と生徒の仲の良さ、充実した設備など専門学校の雰囲気を知ることができました。

--

航空業界に興味があったのでネットで調べたことが役に立ちました。いろいろなところを調べました。

--

OCです。私はブライダルに興味があったのでOCにきて設備にびっくりしました。

--

OCです。県外の専門学校を探していて3箇所くらい候補を絞ってOCに参加しました。

--

OCが役に立ちました。OCでは施設の見学ができてよかったです。

キャリアを考える上では、印刷物や動画から視聴するものよりも、その場の雰囲気がわかる生の体験が重要であることがわかった。自分をその場に置く(臨場感を感じる)体験が役立っている。

4.2.3 高校時代に、キャリアを考える上で一番体験したかったこと

自分の興味のある業界が勉強できる授業があればよかったなと思います。たとえば、実際の見学をして雰囲気を感じることができたらよかったと思います。

--

業界や職場の現実がわかる見学があればよかったです。

--

高校時代は見学して雰囲気を知ったりしたかったです。

--

自分がやりたいことがわからない人のために企業研究をする前に世の中の仕事や企業について知る機会があればよいと思います。

--

キャリアとは少し違いますが、進学する高校によって将来の職業の選択肢が大きく変わってきます。ですので、中学で高校を選ぶときに大まかな進路を考えるような勉強があるといいと思います。

--

私の通った高校はみんなが大学に行くのが当たり前の高校だったので、キャリアや職業を考える授業がありませんでした。少しでもあったらよかったです。進路指導室にも大学の資料しかありませんでした。

--

高校時代は、敬語の使い方などのマナー研修が役に立つと思います。

--

進路がしぼれない層への対応を望む声があった。

4.2.4 これからの学生生活でジョブシャドーイングをしたら、どんな職業で体験したいですか

アパレルの仕事を体験したいです。話し方とか、お客様への商品のおすすめの仕方などコミュニケーションの取り方を学びたいです。

--

GSをしたいです。幅広い年代の方々へのコミュニケーションを学びたいです。

--

CAをしたいです。地上勤務を見てみたいです。

--

すでに志望する職業に関する多くの現場を体験させてもらっているので特に希望はありません。

4.2.5 これからの学生生活でインターンシップをしたら、どんな職業で体験したいですか

CAを経験したいです。自分に足りないところを知りたいです。

--

ブライダル業界でインターンシップをしたいです。どう人を喜ばせ、どう感動をどう与えているのか体験したいです。

--

すでに志望する職業に関する多くの現場を体験させてもらっているので特に希望はありません。

多くは希望する職種を希望したが、業界は異なるがホスピタリティや接客が共通するアパレルやブライダルを希望する声もあった。

4.2.6 その他(中学生・高校生の時に行った職場体験を教えてください)

中学1年のときにモスバーガーにいきました。衛生面に気をつけながら自分用のハンバーガーをつくりました。実際に厨房に立ったのは2時間くらいだったとおもいます。

--

中学1年のときにモスバーガーに3日間いきました。印象に残っているのは挨拶をしっかりとすることです。

--

中学校で、保育園にいきました。園児と一緒に過ごし、散歩をしたり、給食を食べたりしました。お昼寝の時間は、イベントの準備をしました。

--

映画館に3日間いきました。1日目は実際に映画を見て客として映画館を体験して、2日目と3日目は、清掃や商品の陳列、接客など従業員の人について仕事を体験しました。

--

同じく中学1年のときにエンダーに3日間いきました。実際にパテを焼いたり、ハンバーガーをつくったり、お客様に商品をもっていったりしました。

--

私は中学校では保育園に3日間、高校でモスに3、4日間いきました。よかったことは、私には保育士はできないことがわかったことです。

職場体験は中学一年のメインイベント、中学2年は修学旅行、中学3年は受験のような流れで、楽しむイベントになっていたため、将来の仕事選びに影響はしなかったです。

--

高校の時は、動物病院の見学を1日しました。電話対応や窓口対応、診察室以外の見学をしました。

中学の職場体験は1年生の行事で、調査した中ではバーガーショップと保育園しか挙がらなかった。高校の職場体験は行われていない学生が多かったが、これはコロナの影響であろう。

中学高校の職場体験は、特別活動の行事として印象に残っており、その後の職業観やキャリア形成に大きな影響を与えていないことがわかった。

4.3 R6年度の事業総括と R7年度事業に向けた意見交換

- ・体験することの大切さを感じた。昨日沖縄女子短期大学の学生をジョブシャドウイングで受け入れた。職場体験より働く従業員を見てもらうことを重視し、子育てをしながら働く女性マネージャー等 3 名のキャリアを見てもらった。
- ・報告から積極的に自分の将来について真剣に向き合っていることが分かった。昨年から就職のプロセスや動向を把握するために県内の大学を訪問している。進路や就職活動の方法はパンフレットや動画を信頼しきって行っていると伺った。観光系学生は積極性が高いと知った。
- ・アンケート結果では航空業界への興味や関心が高く、強い希望があるという数字が 50%を超えているが実際に説明会を行うとブースに来る学生は少ない。
- ・今回のアンケート実施先が観光系に興味が高い学生が多い点が結果に出たと思う。高校生が接する「大人」は家族や先生など限られる。空港等で働く親戚などがあると興味が寄っていくと思う。中学生あたりまで広げて世の中の仕事を もっと知るきっかけ作りが必要だと感じる。
- ・アンケートの回答者は将来の進路を考え、専門的知識をある程度持っていると思う。「自身の将来を考える場合、どのような機会があると良いか」といったアンケートを高校生に対して実施しても良いのでは。現実的なヒントに近づくと感じる。
- ・一定の知識や経験が無いと想像やイメージすることが難しい。体験することの大切さを感じる。我々も学校だけでなく、企業の力を借りてより実践に沿った授業を進めることが大切。
- ・「何も知らない」ということを前提にして授業やキャリア教育を行うことが大事だと実感した。コロナ過の影響で自身も子どもたちをどこへも連れていくことが出来なかった。彼らは携帯電話等を通じて多くの情報を得ているが自分自身の体験ではない。このような「生きた体験」をさせたい。
- ・コロナ過の影響で職場見学は中止になっている。なかなか受け入れ先が難しいといった理由もあると思う。インターンシップに代わるものを各高校で取り組んでいる。リゾート観光科の生徒ではあるが、半数以上が観光系に就職するわけではない。週末にホテルでアルバイトしている生徒もいるが、高卒就職する子はそこまでいない。多くは専門学校や大学へ進学する。就職希望の生徒には応募前に企業見学を行っている。実際に雰囲気を見てから応募を決めている。これがジョブシャドウイングに近いのではと感じる。
先日、観光系の会議に参加した際に県やコンベンションビューローがさまざまな企画を行っていることを知った。これら情報を取りまとめて高校へ伝えてもらえると進路指導がやりやすい。私たちまでそのような情報の共有ができていない。

- ・委員会で報告される細かい調査結果は、とても良い内容で自身の学びにもなる。せっかくの良い取り組みが縦割りで横の連携が繋がっていないと思う。単発で終わらず業界にも共有して巻き込んで次年度も観光人材の育成に繋がってほしい。
- ・今月、コンベンションビューローの依頼で中学2年生を対象に職業紹介の依頼を受けた。このような情報を連携し、多くの業界で実施出来れば良い。高校生だけではなく、中学生にも職業を知ってもらう機会をもっと増やしていきたい。空港での体験は難しい部分もあるが、なるべく受け入れられるように実施していきたい。
- ・生徒たちには近い先輩たちから多くの情報を得ている。コロナ過により就職がほぼ無かった時期がある。少し上の世代が楽しく働いているプラスで前向きな情報を多く発信してもらえると嬉しい。先輩インタビューの動画教材はとても良い。生徒たちにも伝えたいので教材開発をお願いしたい。

5 第三回連携プログラム開発検討委員会以降に実施した実証授業・職業意識調査報告

5.1 具志川商業高校職業意識プログラム調査

プログラム前

日時 R6年5月29日
対象 リゾート観光科 2年生
人数 38名(男1女37)

プログラム後

日時 R7年1月17日
対象 リゾート観光科 2年生
人数 36名(男1女35)

5.1.1 将来の生き方や進路についての保護者との会話

将来の生き方や進路について保護者と「よく話し合っている」「ときどき話し合っている」と回答した割合は約8割だった。また、全国と比較すると「よく話し合っている」がやや低かった。
※全国データは、高校2年生女子のデータ(以下同じ)

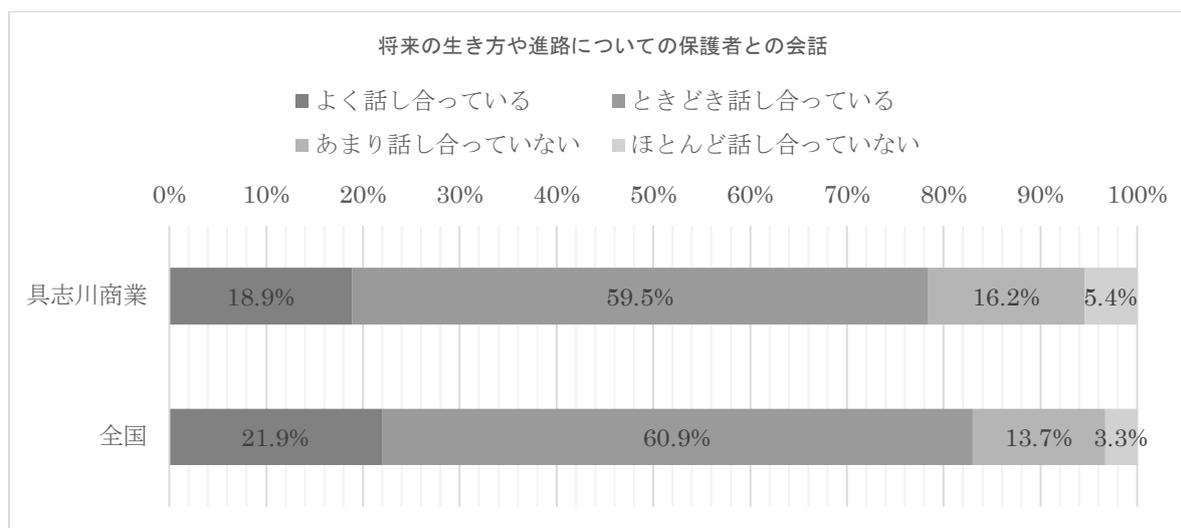


図1 将来の生き方や進路についての保護者との会話

5.1.2 将来希望する職業を決めているか

将来希望する職業を、「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と回答した割合は43.2%だった。全国の半数以上(52.2%)に対し低かった。

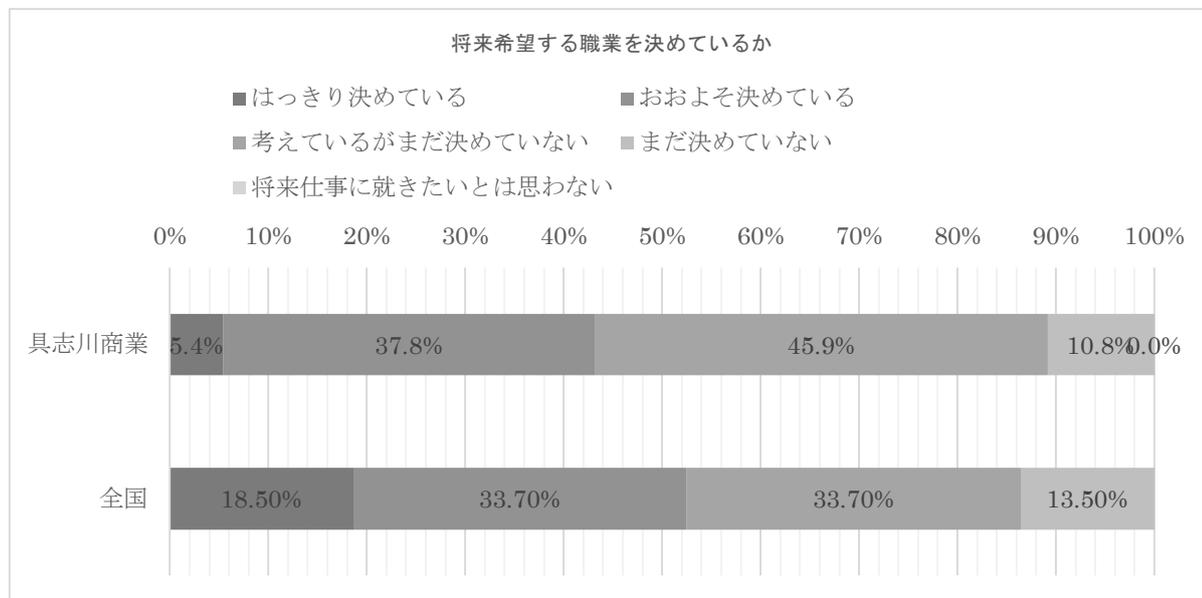


図2 将来希望する職業を決めているか

5.1.3 「仕事」「働くこと」のイメージ

「楽しい」について、「とてもそう思う」が84.2%で全国(75.8%)と比較すると多い。

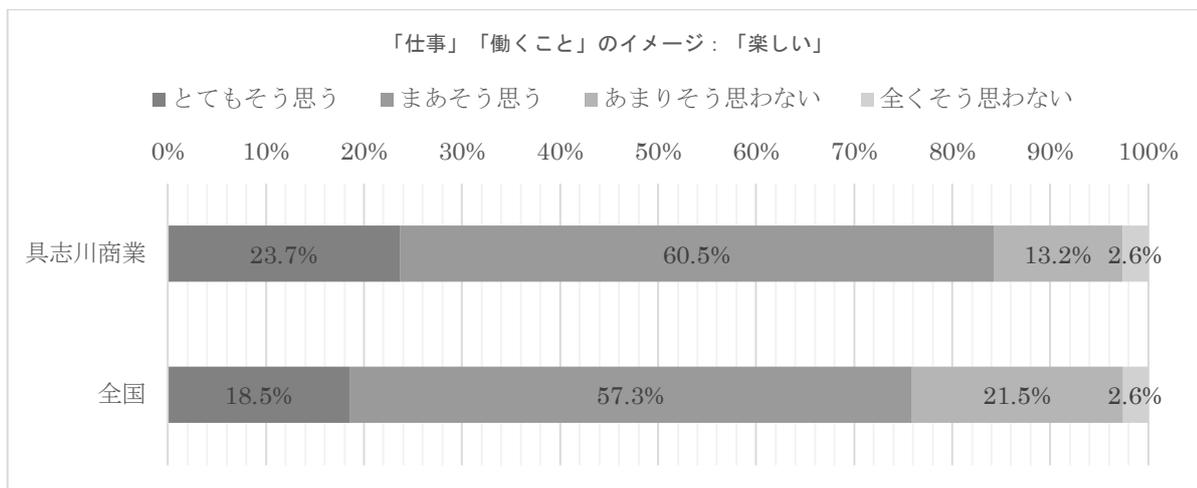


図3 「仕事」「働くこと」のイメージ：「楽しい」

「苦しい」について、「とてもそう思う」が73.7%で、全国(87.9%)と比較すると少なかった。

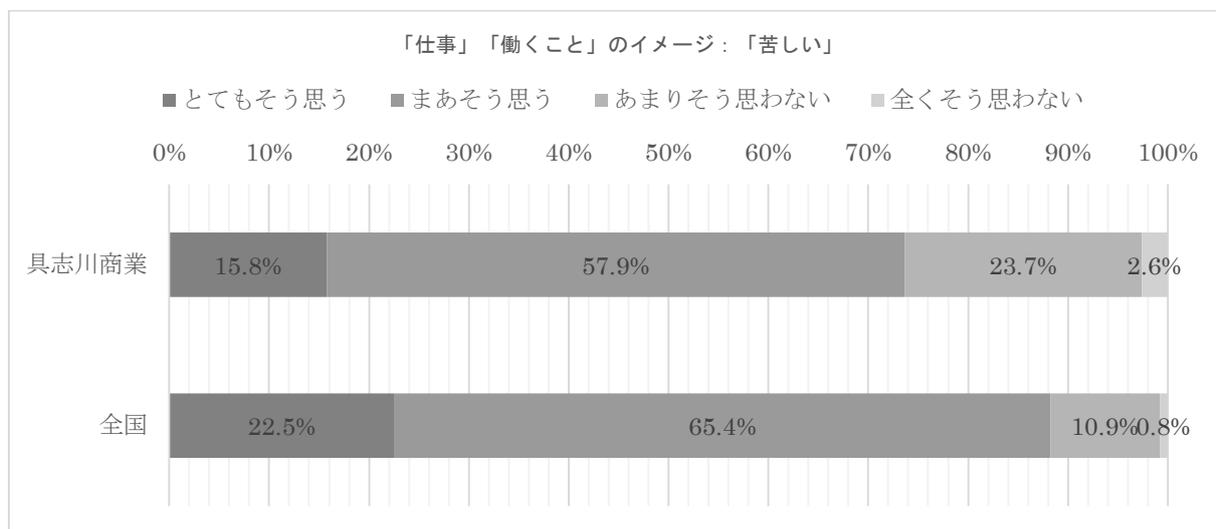


図4 「仕事」「働くこと」のイメージ：「苦しい」

「やりがいがある」について、「とてもそう思う」が全国と比較すると10%高かった。

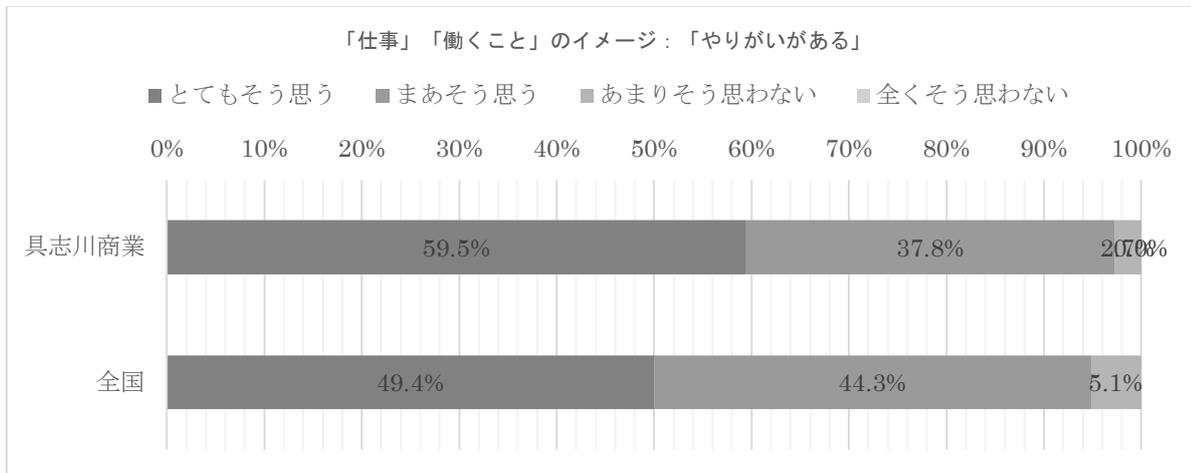


図5 「仕事」「働くこと」のイメージ：「やりがいがある」

「つまらない」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が29.7%で、全国の23.9%より高かった。

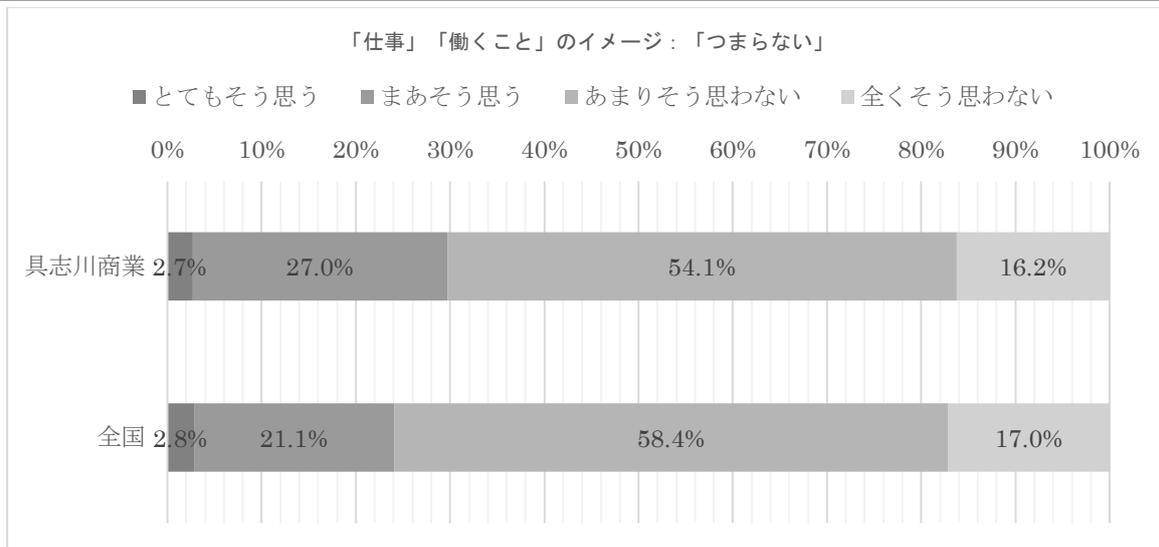


図6 「仕事」「働くこと」のイメージ：「つまらない」

「生活のため」について、「とてもそう思う」が8割を超え、全国より多かった。

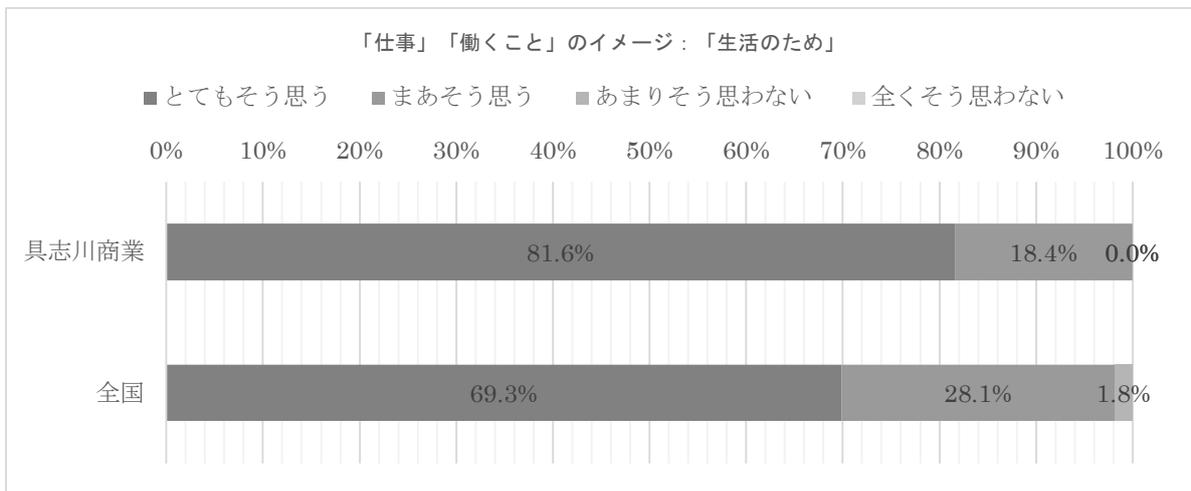


図7 「仕事」「働くこと」のイメージ：「生活のため」

「社会人としての義務」について、「とてもそう思う」が44.7%で全国よりも高かった。

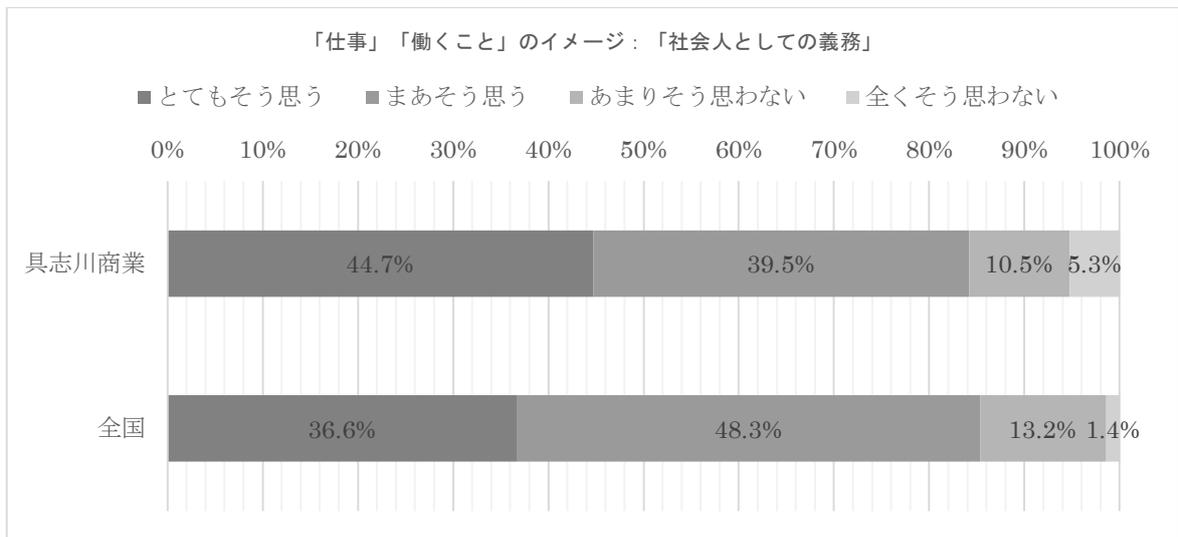


図8 「仕事」「働くこと」のイメージ：「社会人としての義務」

働くことのイメージの6項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

ほぼ全国と同じ傾向だったが、「とてもそう思う」の回答数が全国より多く、はっきりとしたイメージを持っていることがわかった。

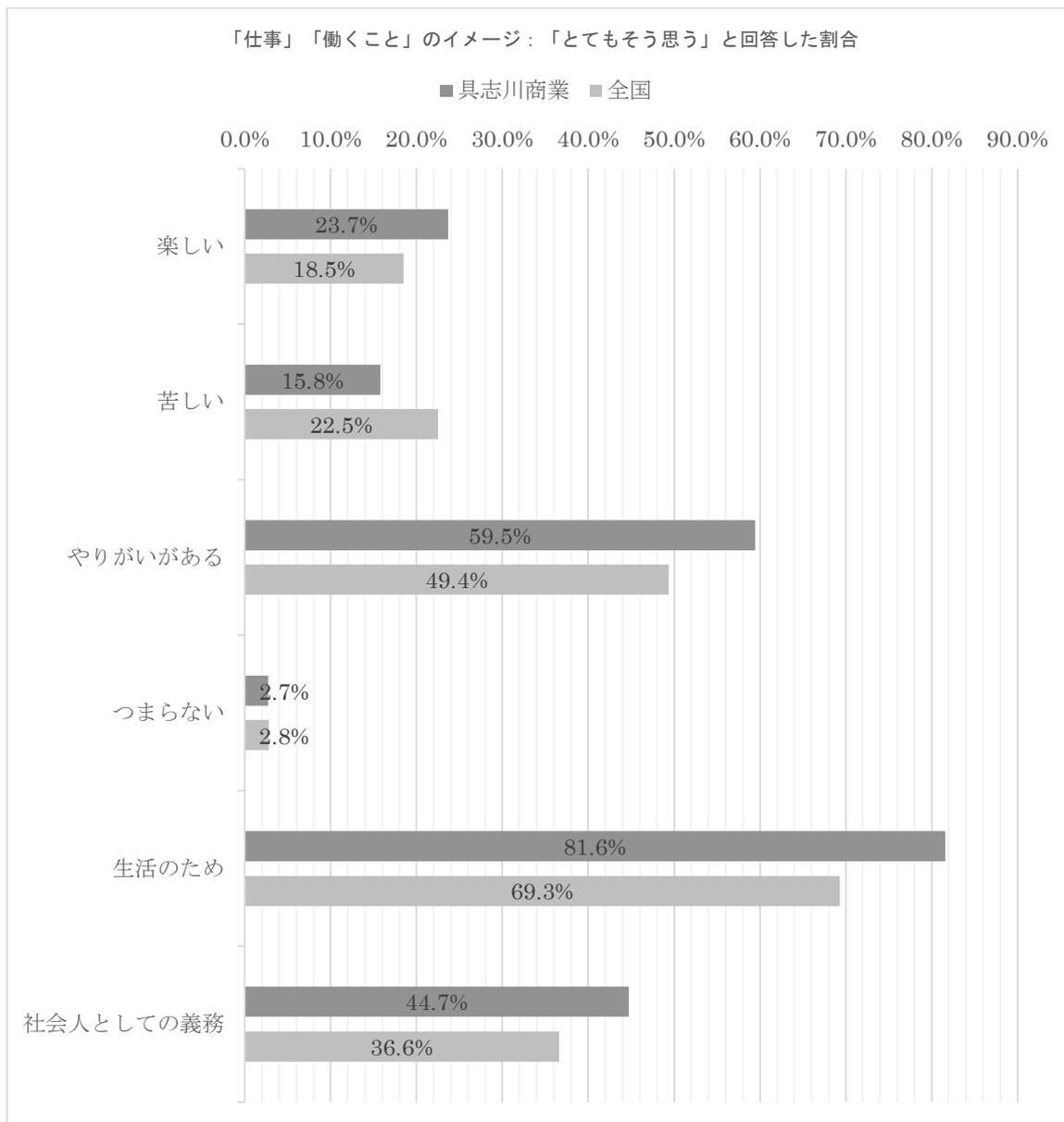


図9 「仕事」「働くこと」のイメージで「とてもそう思う」と回答した割合

5.1.4 職業を選ぶにあたって重視すること

「収入」について、「とてもそう思う」が全国(55.9%)と比較すると高かった。

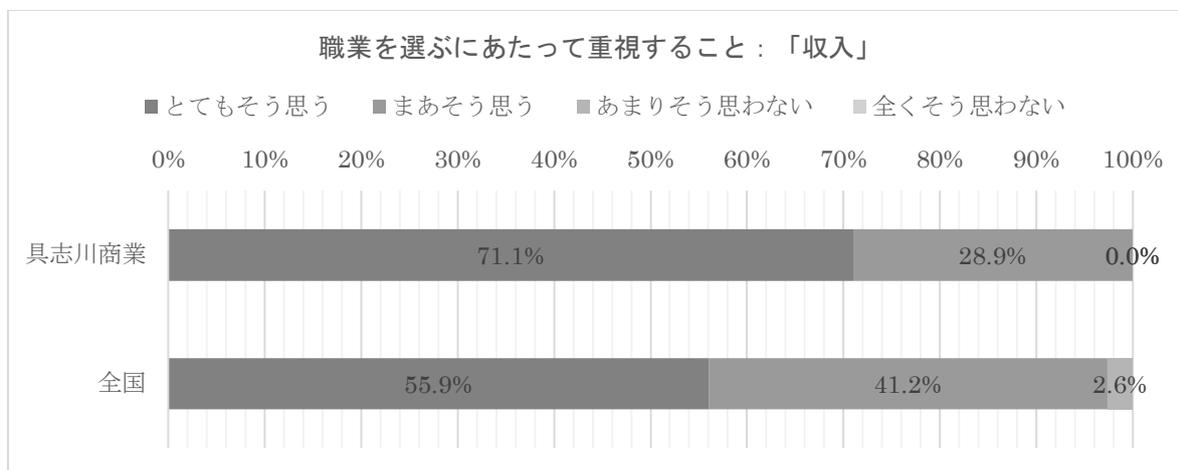


図 10 職業を選ぶにあたって重視すること：「収入」

「社会的地位」について、「とてもそう思う」が 18.4%で全国(8.8%)と比較すると約 2 倍多かった。

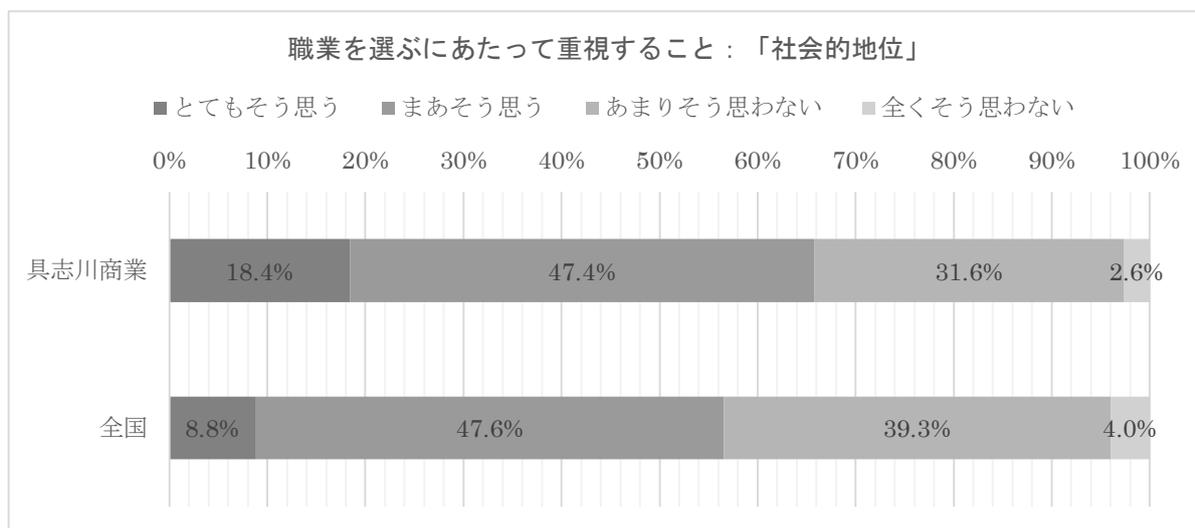


図 11 職業を選ぶにあたって重視すること：「社会的地位」

「安定性」について、73.7%で全国(67.7%)と比較すると高かった。

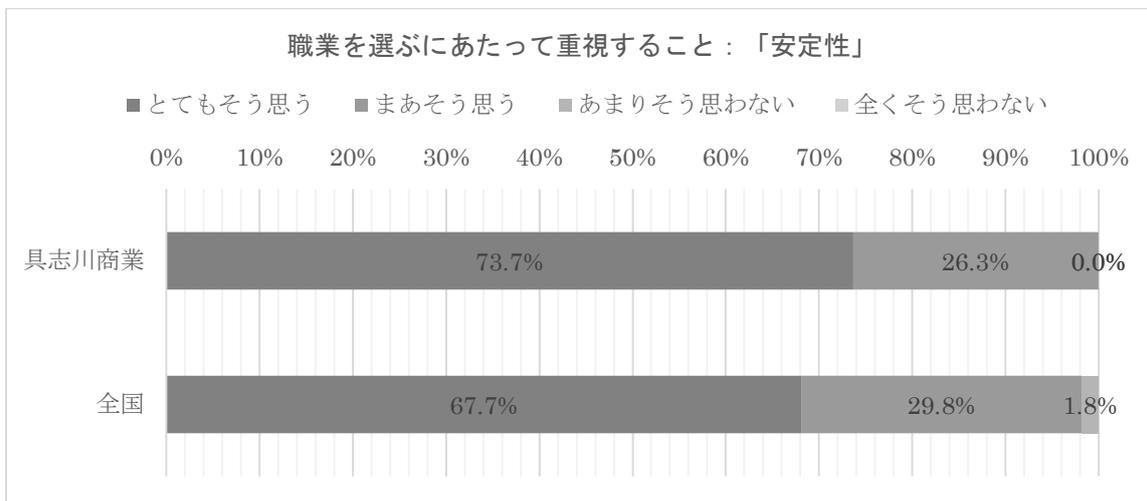


図 12 職業を選ぶにあたって重視すること：「安定性」

「仕事の内容ややり方を自分で決められる」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が78.9%で、全国(72.3%)と比較すると高かった。

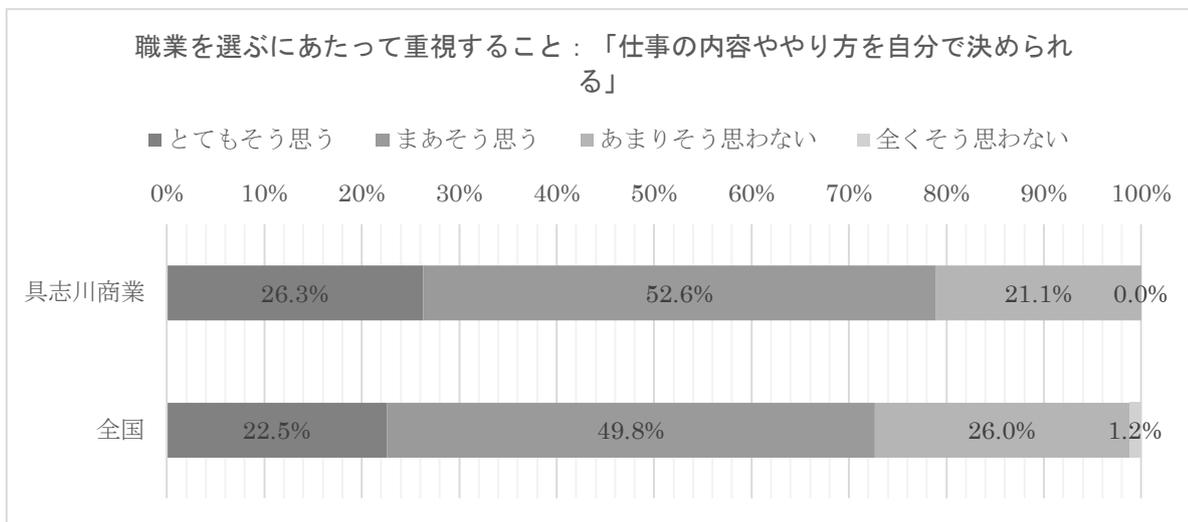


図 13 職業を選ぶにあたって重視すること：「仕事の内容ややり方を自分で決められる」

「自分の興味や好みに合っていること」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」共に全国と同程度だった。

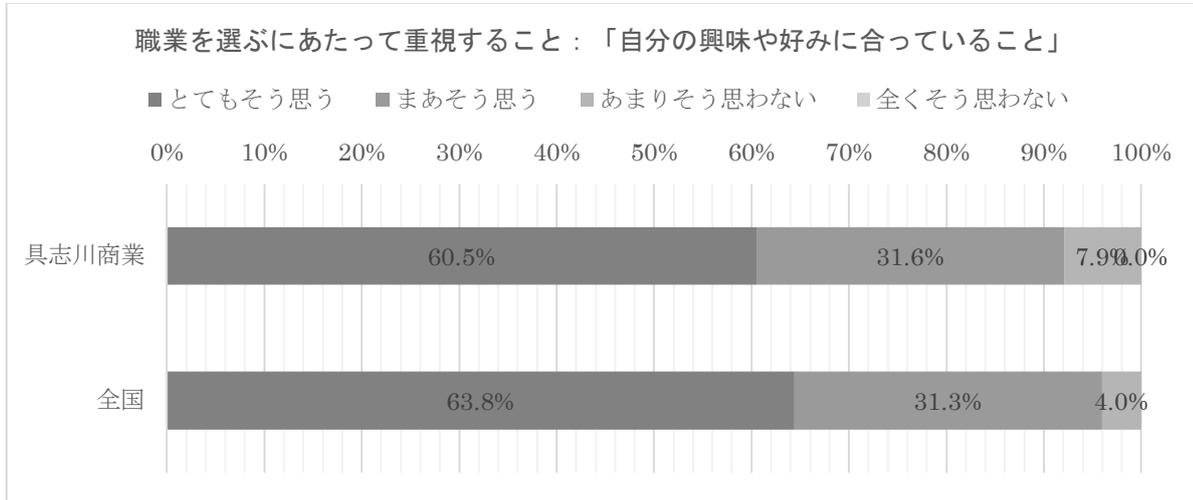


図14 職業を選ぶにあたって重視すること：「自分の興味や好みに合っていること」

「働く時間を自由に決めること」について、「とてもそう思う」が全国(38.0%)と比較して低かった。「あまりそう思わない」は全国の2倍以上だった。

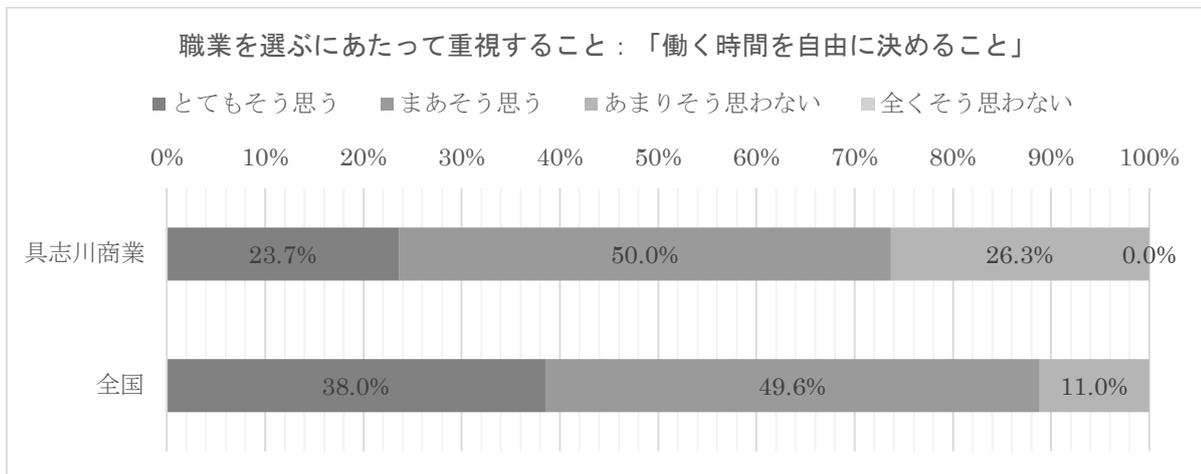


図15 職業を選ぶにあたって重視すること：「働く時間を自由に決めること」

「能力を発揮できること」について、「とてもそう思う」が全国(42.2%)と比較して若干低かった。

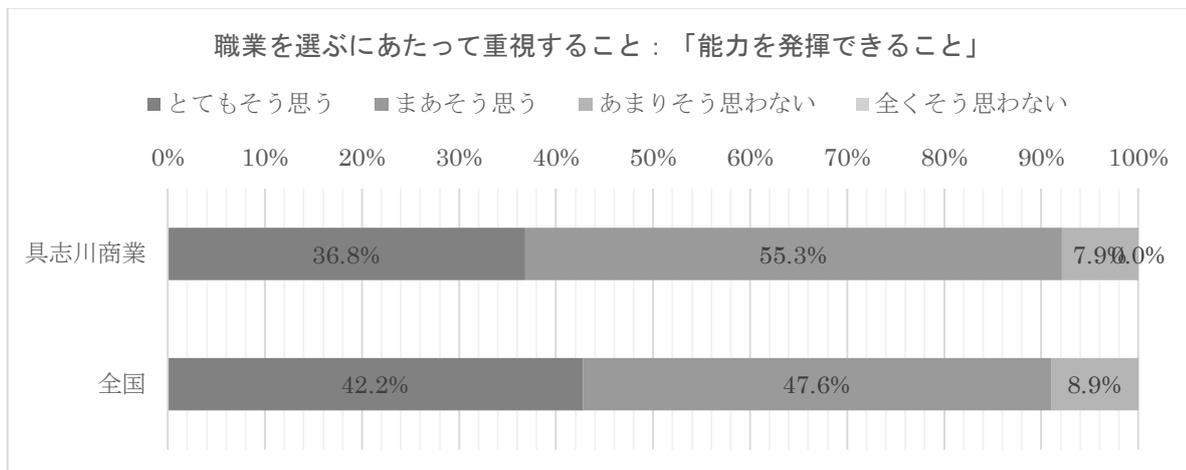


図16 職業を選ぶにあたって重視すること：「能力を発揮できること」

「社会や人のために役立ち貢献できること」について、「とてもそう思う」が47.4%で全国と似た傾向だった。

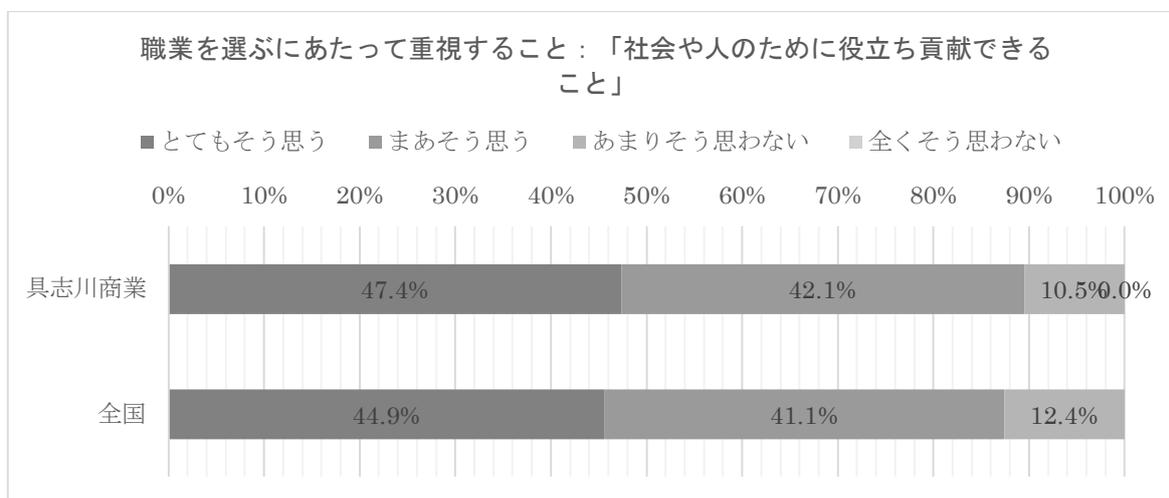


図17 職業を選ぶにあたって重視すること：「社会や人のために役立ち貢献できること」

「働きやすいこと(仕事の環境)」について、「とてもそう思う」が86.8%で、全国(71.5%)より高かった。

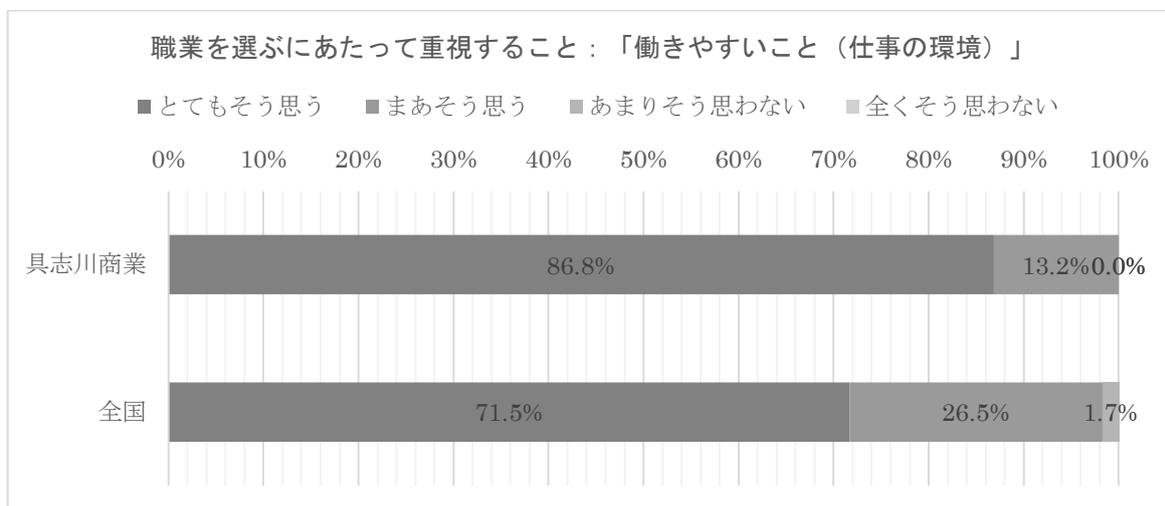


図18 職業を選ぶにあたって重視すること：「働きやすいこと（仕事の環境）」

「新しいことにチャレンジできること」について、「とてもそう思う」が全国(23.4%)と比較して若干高かった。

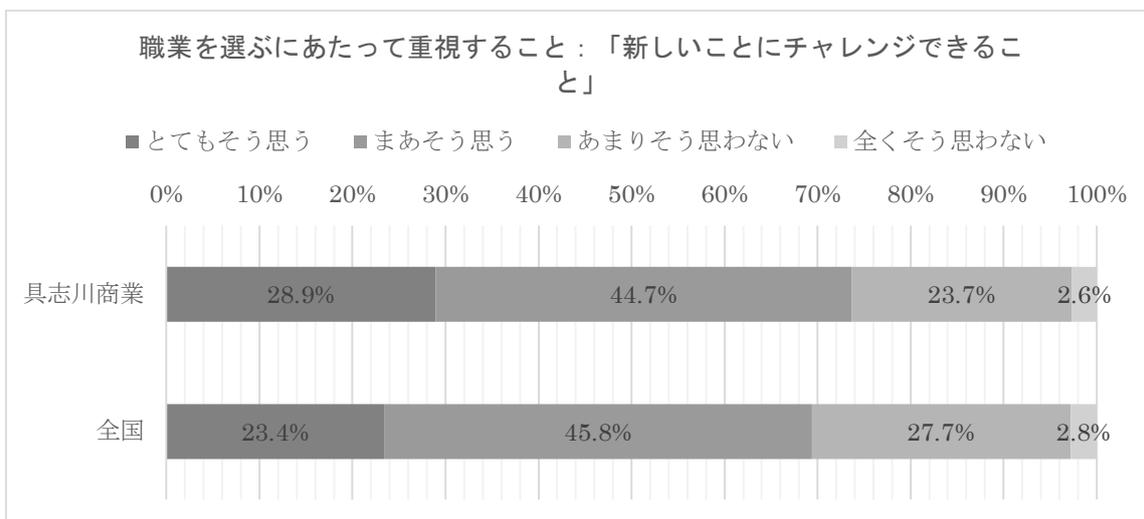


図19 職業を選ぶにあたって重視すること：「新しいことにチャレンジできること」

「勤務地の場所」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」と合わせると9割を占めた。

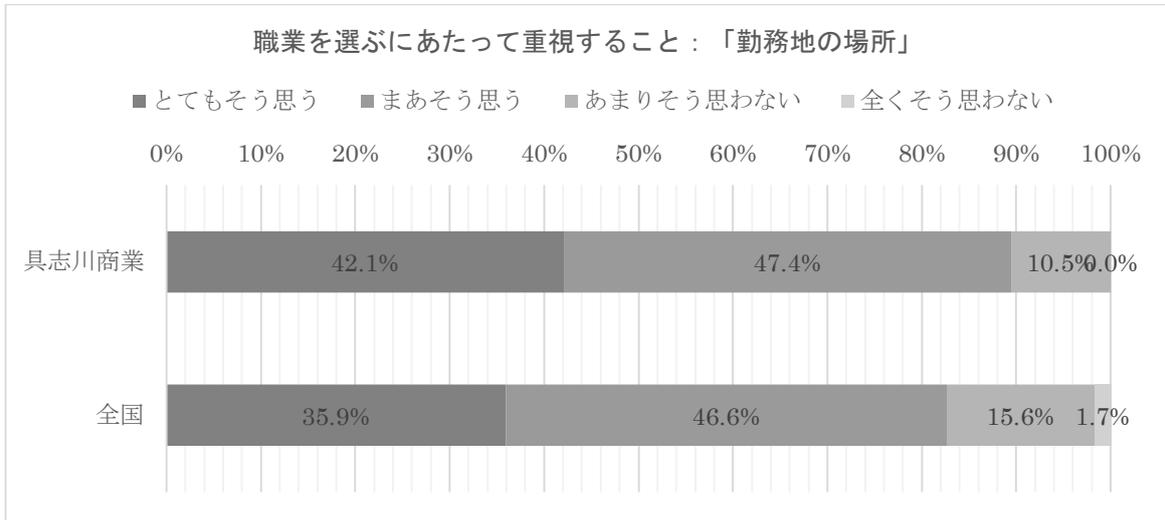


図 20 職業を選ぶにあたって重視すること：「勤務地の場所」

職業を選ぶ際に重視することの11項目について、「とても重要」と回答した割合をまとめた。

「働きやすいこと」が一位で、全国を15%上回った。他に全国より高かったのは、「収入」や「社会的地位」だった。全国より下回ったのは、「働く時間を自由に決める」「能力を發揮できる」だった

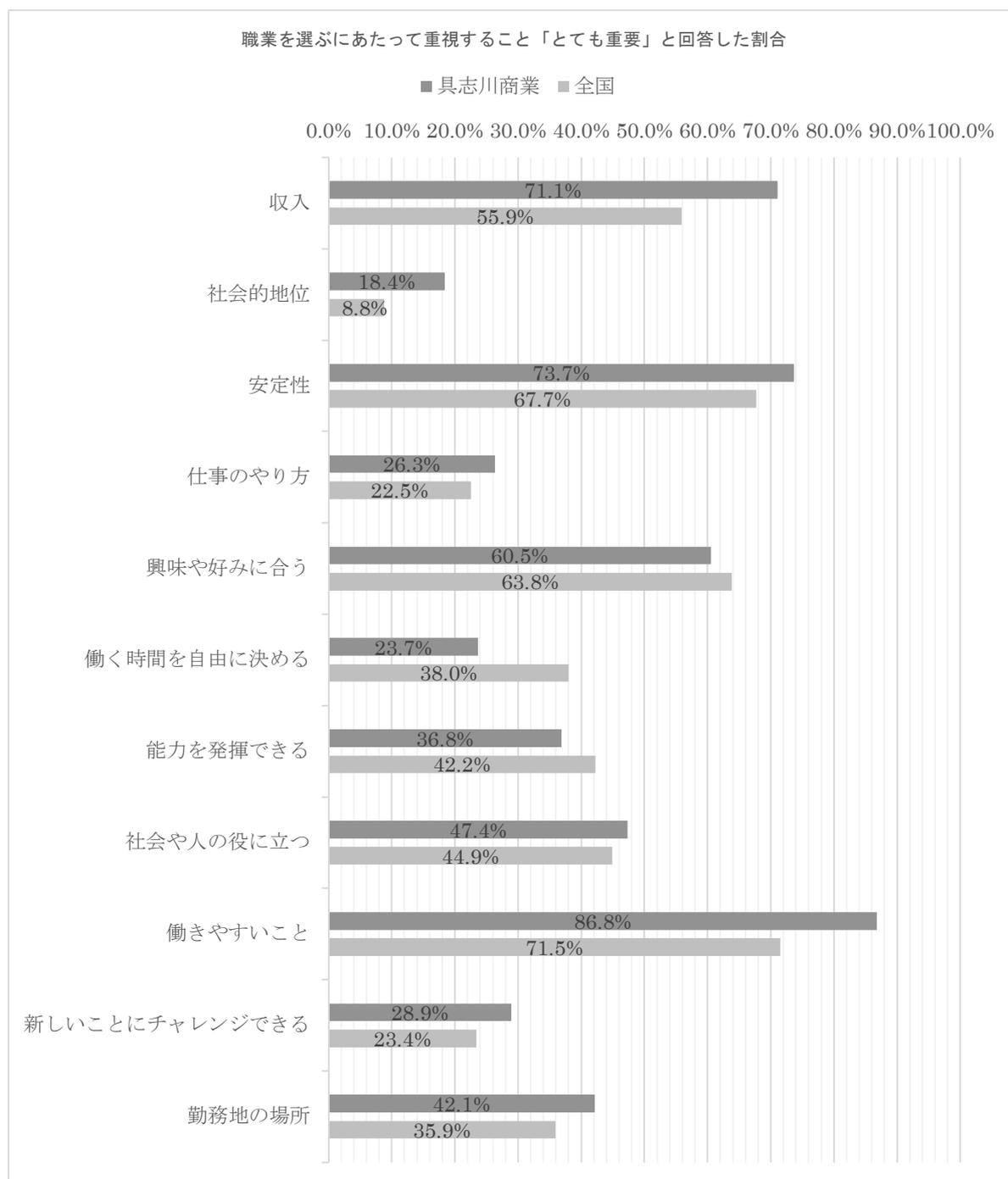


図 21 職業を選ぶにあたって重視することで「とても重要」と回答した割合

5.1.5 希望する勤務地

「希望する勤務地」について、「今住んでいる市町村」はゼロで、「県内の市町村」が7割を超えた。全国と比較して県内志向(59.5%)が強い。
 ※全国データは、男女比調整データ

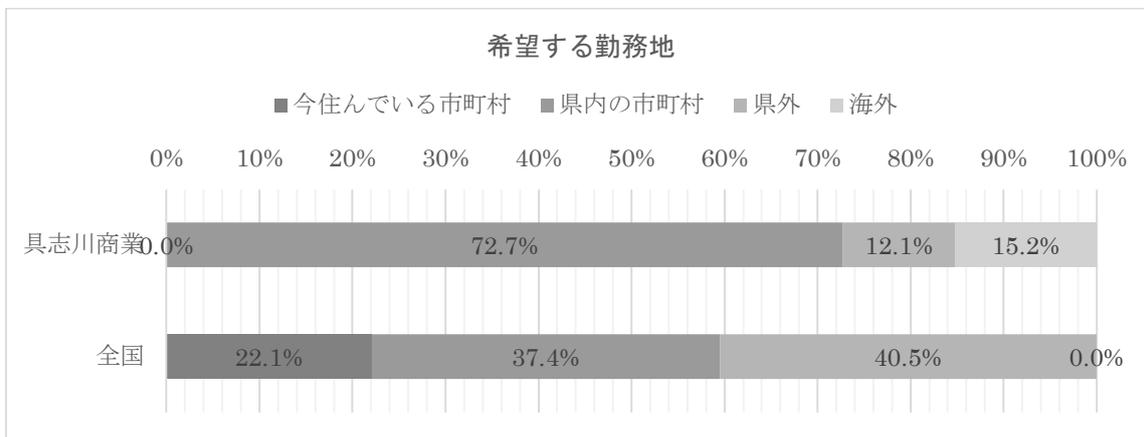


図 22 希望する勤務地

5.1.6 仕事に関する意識・考え

「やりたいことに困難があっても挑戦したい」について、「とてもそう思う」が36.8%で、全国(20.5%)の1.5倍だった。

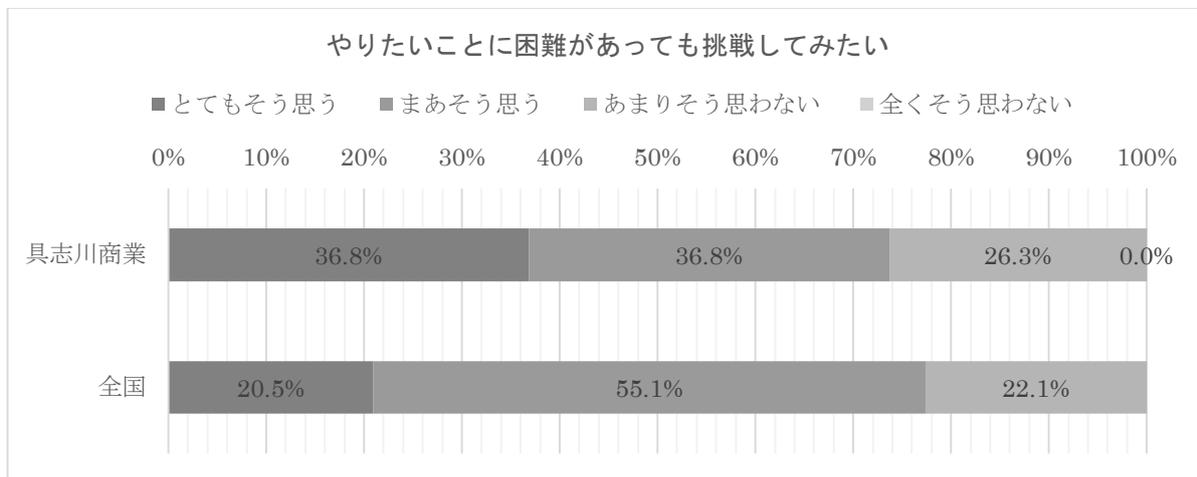


図 23 やりたいことに困難があっても挑戦したい

「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」について、「とてもそう思う」が42.1%で、全国(31.3%)の1.4倍だった。

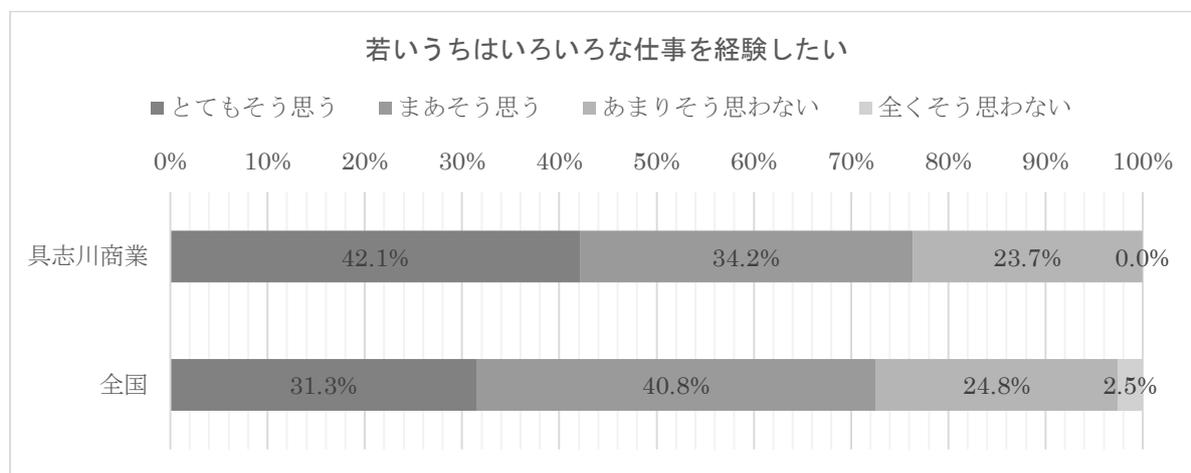


図 24 若いうちはいろいろな仕事を体験したい

「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」について、「とてもそう思う」が65.8%で、全国(49.0%)の1.3倍だった。
 ※全国データは、男女比調整データ

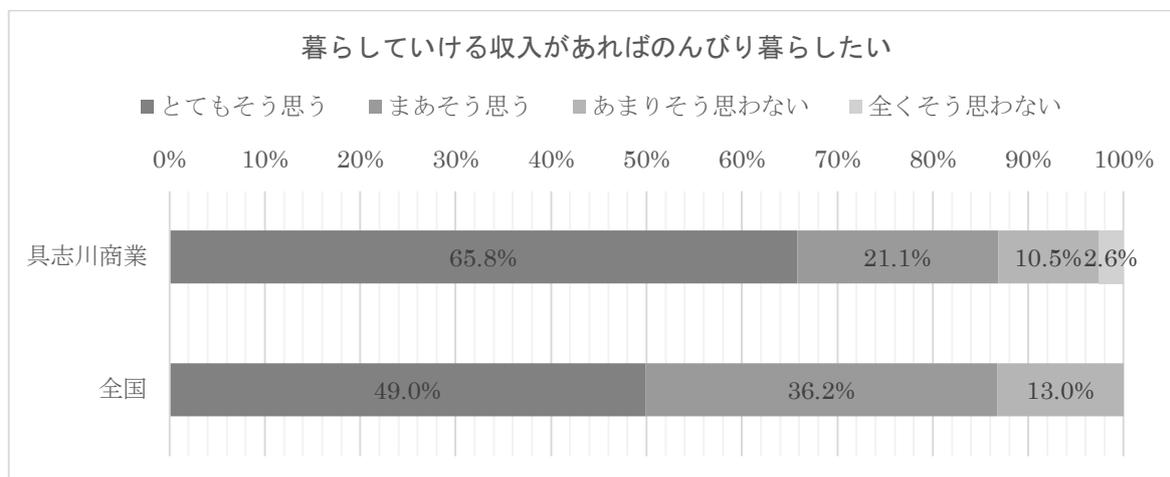


図 25 暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい

「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」について、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が28.9%で、全国(17.5%)の1.7倍だった。
 ※全国データは、男女比調整データ

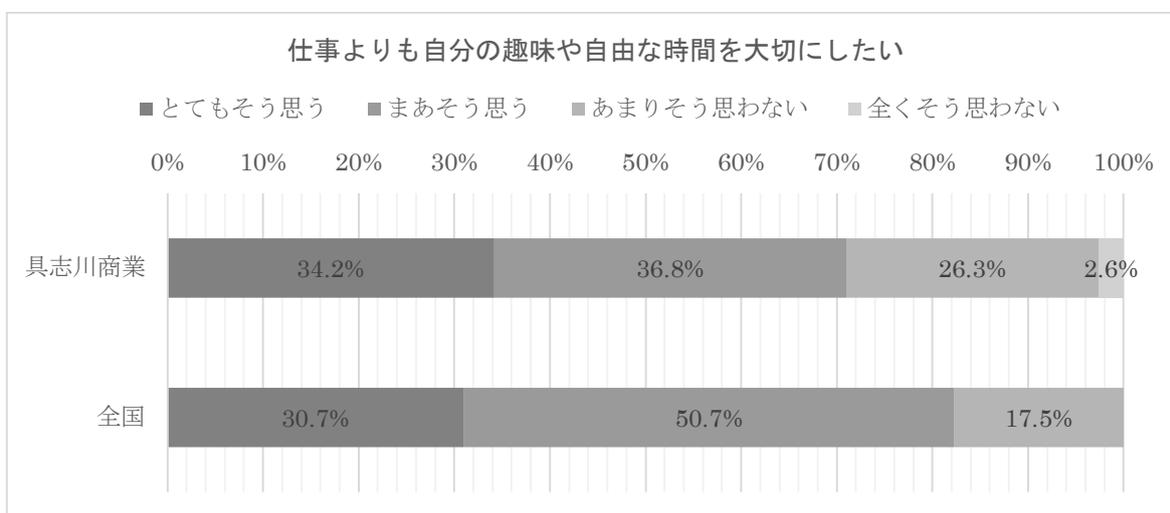


図 26 仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい

「自分の会社や店を作りたい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が39.5%で、全国(17.7%)の2倍以上だった。

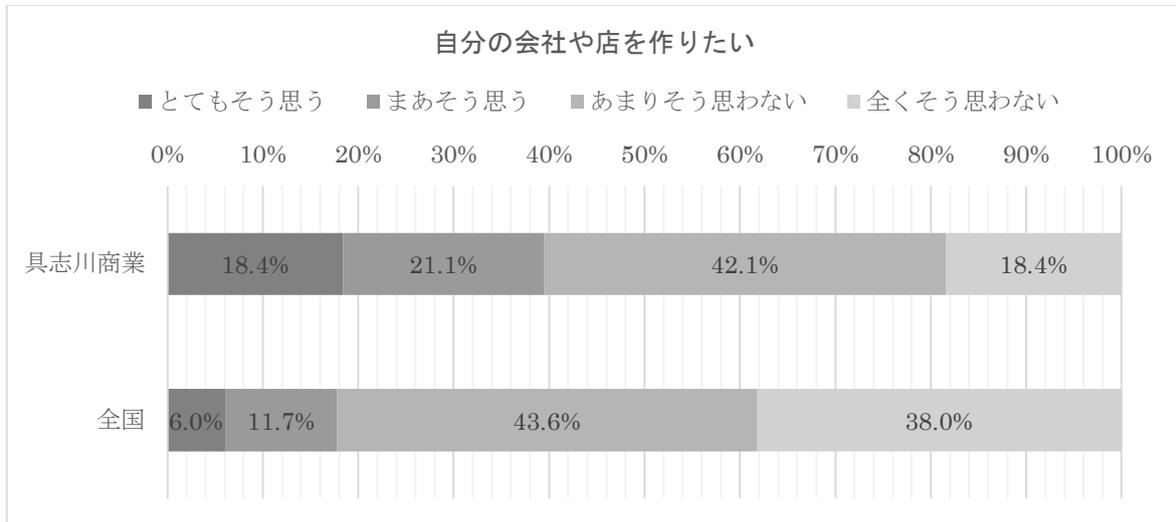


図 27 自分の会社や店を作りたい

「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」について、「とてもそう思う」が36.8%で全国(26.7%)を上回った。

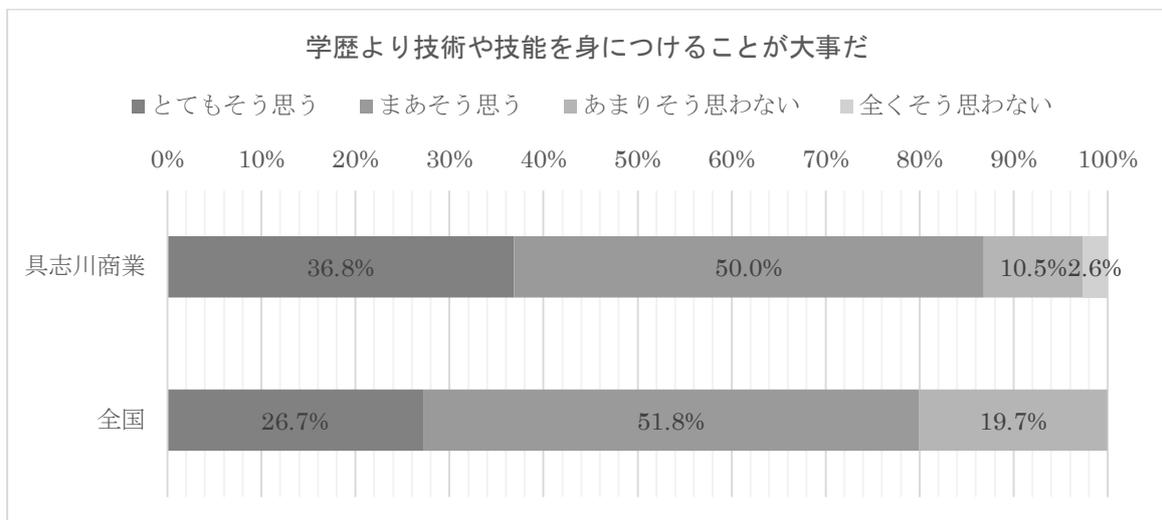


図 28 学歴より技術や技能を身につけることが大事だ

「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」について、「とてもそう思う」が39.5%で、全国(26.8%)の1.5倍だった

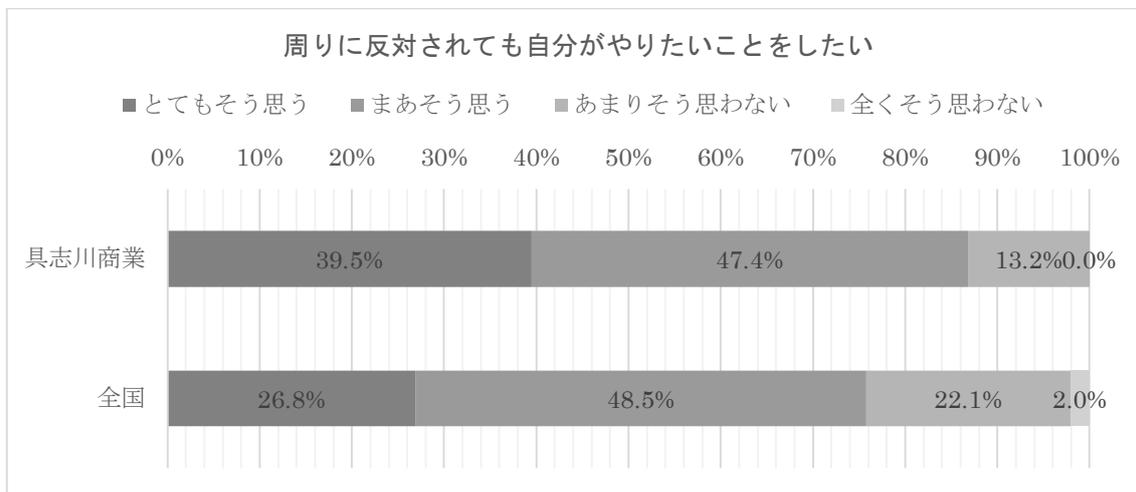


図 29 周りに反対されても自分がやりたいことをしたい

「地元で仕事や生活をしたい」について、全国と同じ傾向だった。

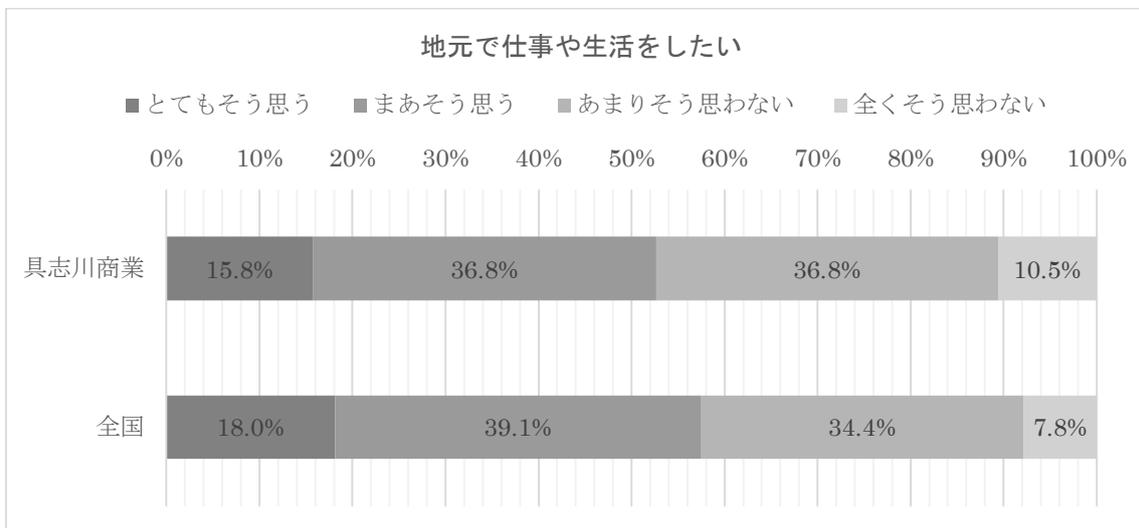


図 30 地元で仕事や生活をしたい

「社会に役立つ仕事をしたい」について、「とてもそう思う」が31.6%で、全国(41.2%)の4分の3だった。

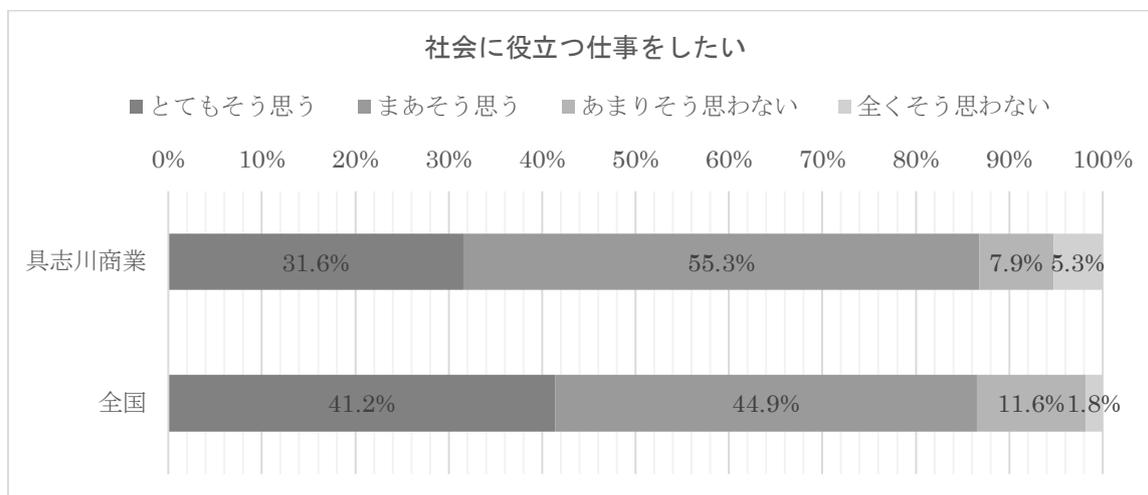


図31 社会に役立つ仕事をしたい

「できるだけ高い地位につきたい」について、「とてもそう思う」が23.7%で、全国(8.3%)の2.9倍だった。

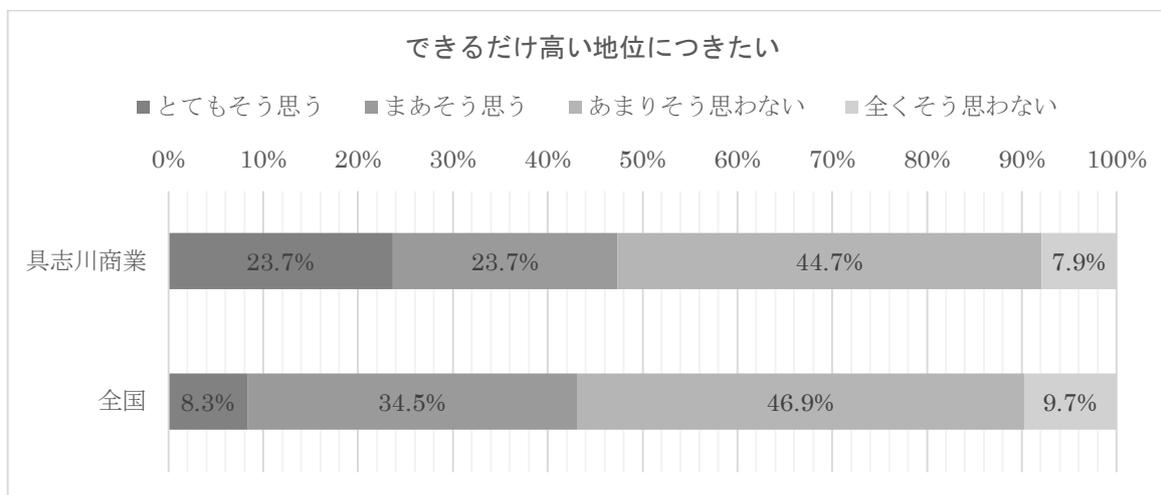


図32 できるだけ高い地位につきたい

「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」について、「とてもそう思う」が31.6%で、全国(22.6%)の1.4倍だった。

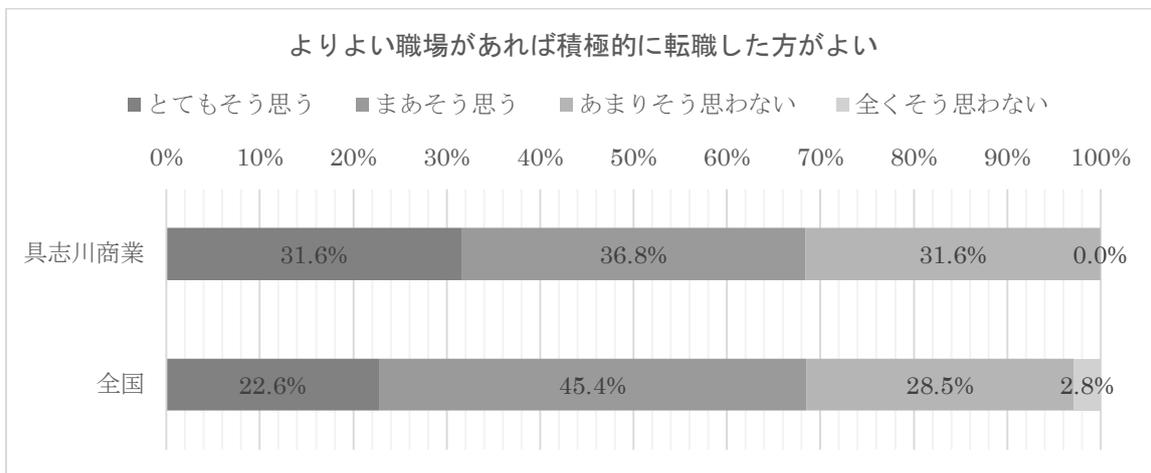


図 33 よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい

「望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ」について、「全くそう思わない」が15.8%で、全国(21.4%)より低かった。

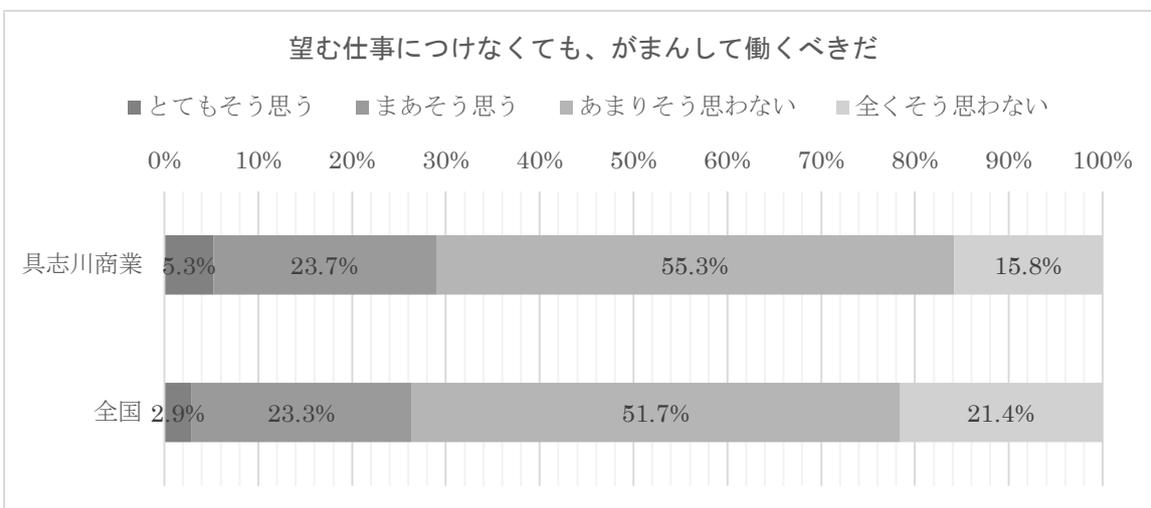


図 34 望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ

仕事に関する意識・考えの12項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

「自分の会社や店を作りたい」、「やりたいことに困難があっても挑戦したい」、「できるだけ高い地位につきたい」が全国平均と2倍近い差があった。
 「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」、「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」、「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」、「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」が全国より高かった。
 「社会に役立つ仕事をしたい」は全国より低かった

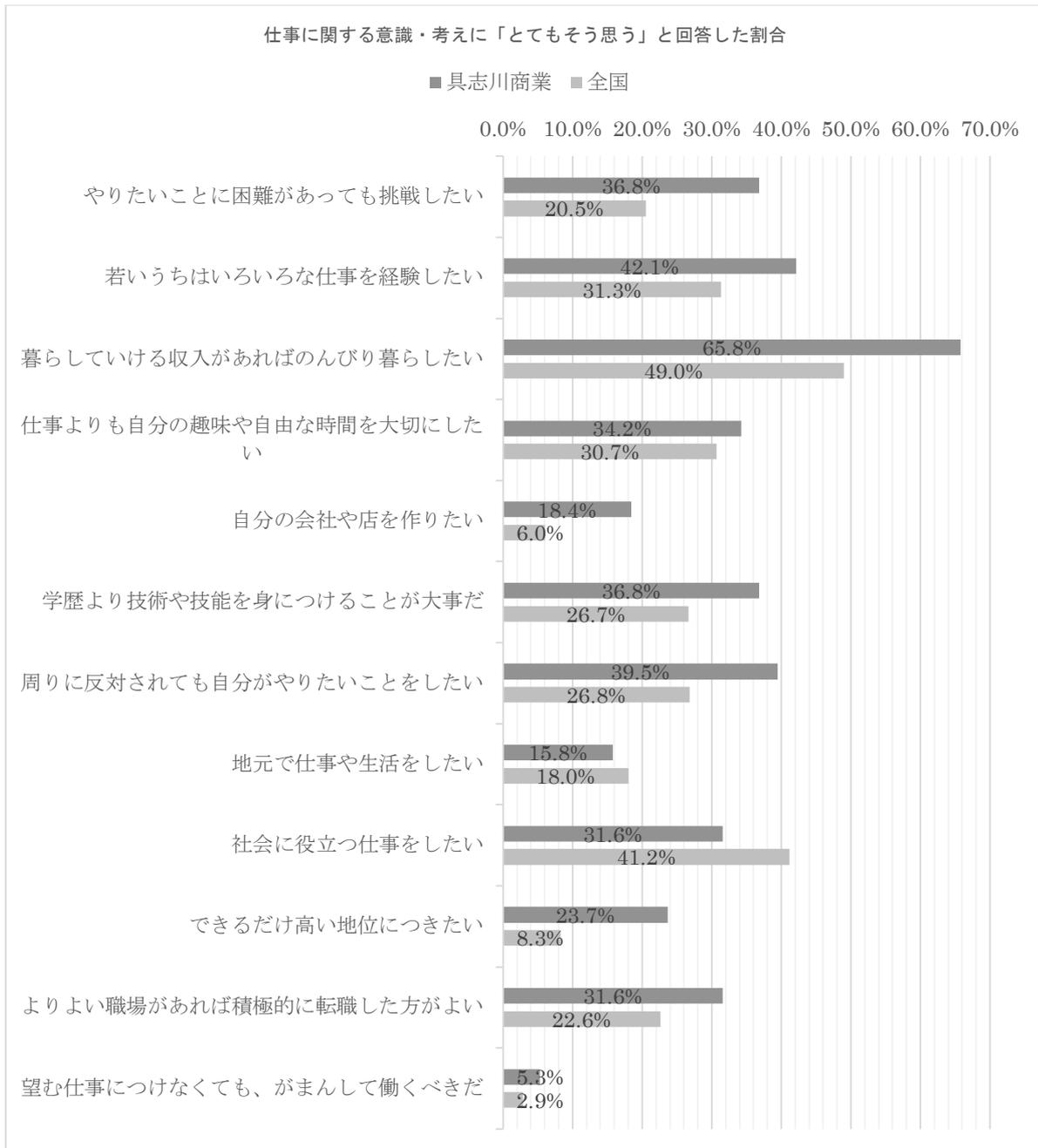


図 35 仕事に関する意識・考えで「とてもそう思う」と回答した割合

5.2 インターンシップ・ジョブシャドウイング受入企業調査

5.2.1 株式会社 グッドラック・コーポレーション

グッドラック・コーポレーションは、「世界中を幸せに」をコンセプトにハワイ・グアム・バリ・沖縄に、ウエディング施設を企画・運営をしている。

沖縄には2024年にリニューアルしたザ・ギノザリゾート美らの教会、瀬良垣島教会、白の教会、ザ・ビーチチャペル、太陽が彩る自然の教会、宮古島チャペル、奏の教会がある。

本社は東京都目黒区、従業員311名。



日時:2025年1/20(月)13:00~13:40

場所:沖縄県国頭郡宜野座村 株式会社 グッドラック・コーポレーション

お伺いした方:

グッドラック沖縄トレーニングチーム チーフ宍井様、崎原様

①インターンシップの受け入れ状況について

Q:受け入れをされている学校・大学数を教えてください。

今年は、専門学校は6校、大学は4大学受け入れました。

Q:受け入れ時期はいつごろでしょうか。

実際にお客様の打ち合わせや準備、挙式、披露宴といった生の現場でシャドウイングをしていただいておりますので、挙式が多い9月から11月が多いのですが、2月3月、5月の受け入れ実績もありますのでご希望があれば対応させていただきます。

Q:受け入れ期間はどのくらいでしょうか。

3日間の方もいらっしゃいますし、3週間や1カ月、2カ月の方もいらっしゃいます。

Q:1年間の受け入れ人数はどのくらいでしょうか。

コロナ前は1年に20人くらい、コロナ後は10人くらいでしょうか。

Q:対象となる学年は何年でしょうか。

大学だと、2、3年です。専門学校生は1年からやっています。

②インターンシップの内容について

Q:一回のインターンシップでは何人の受け入れをされていますか。

1対1で行っているのですが、一度に2、3人です。どのチャペルにシャドウイングができるベテラン社員(入社3年以上)がいるかも年によって違うので、そのあたりは変動することがあります。

というのも、入社1年の社員にシャドウイングをしてもらおうと、その社員が緊張したり、いつもと違ってしまったりすることがありますので、ある程度経験を積んだ社員に担当してもらっています。

Q:お客様がいらっしゃる現場を直接体験できるのでしょうか。

はい。お客様との打ち合わせやアイスブレイクの現場や、実際の挙式、披露宴を基本的に社員1人に対して学生さん1人がずっと後ろで体験していただいています。

Q:1対1でずっとシャドウイングをされるのは驚きました。

ウェディングは、実際に式を体験していただかないと、良さが伝わらないこともあるのでこのスタイルで行っています。

Q:参加された学生の反応はどうでしょうか。

授業だけでは、実際のお客様のお声とか社員の対応などを学べないので、新郎新婦様とお会いすることができてよかったですなど、現場を体験できてよかったですというお声をいただいております。

③中高生の職場見学、職場体験について

Q:中学生や高校生の受け入れはありますか。

高校生の新卒採用は行っていないこともあって、高校生のインターンシップは行っていません。もちろん高卒の中途入社社員もおりますが、他のお仕事を体験されてからの入社になります。

Q:インターンシップは就職に結びつけていらっしゃるということでしょうか。

はい。インターンシップ＝就職エントリーという位置づけで考えています。

Q:高校生は職場見学などありませんか？

チャペルなど会場を見学するだけというのがありますが、お仕事を見学してもらう、いわゆるインターンシップは行っていません。

見学としては、専門学校さんが沖縄に研修旅行にいらっしゃったときに、沖縄のいくつかのチャペルを見学されることがありますが、その中のひとつとして私共の会場を見学されることはあります。



④インターンシッププログラムについて

Q:受け入れの要請は学校から直接ありますか？

以前は学校や大学からの依頼に直接対応していましたが、現在は東京本社の人事部で一括対応し、時期や内容、人数などを本社と打ち合わせしたのちに、学生さんを受け入れています。

Q:学校や大学との事前打合わせはありますか？

インターンシップの目的や学生さんの履歴書をメールで共有するくらいで、基本的に対面などでの打合わせは行っていません。
学校や大学からは、企業理解と現場の体験の要望をいただいています。

Q:インターンシップで実際にエントリーされる方はどのくらいいらっしゃいますか？

だいたい7割くらいは面接を受けていただいています。現場で働く姿をみてこの仕事に魅力を感じていただけたのではないかと考えています。

Q:インターンシップ終了後の評価はどうされていますか？

昨年度から評価シートを作成しています。これは、弊社の内部資料として学生さんのインターンシップでの評価を残し、面接のときの参考にしていきます。参加された学生さんに対する評価というものは行っていません。

Q:インターンシップ終了後の学校からのフィードバックはありますか？

学生さんが書かれた実習レポートを共有していただきたいと思っています。特にインターンシップでどんな学びがあったのか、イメージしていた仕事と現実のギャップが知りたいと思います。

⑥その他

Q:高校生に働く意義を伝える方法に苦労をしているところですが、何かヒントをいただけませんか？

私たちが新入社員に対してしっかりとした考えをもってもらいたいと思っていますが、なかなか難しいですね。

グッドラック・コーポレーションでは、企業理念として世界中を幸せにというものをもっています。世界中を幸せにするには、まず、働く自分たちも幸せでないといけないという共通した考え方をもっています。

自分たちが幸せになるために必要なことは、働くことと遊ぶことのバランスいわゆるワークライフバランスをとることではなく、自分が心を熱くすることを持つことだと思っています。スタッフによって、チームで働くことに幸せを感じたり、お客様の笑顔を見ることに幸せを感じたり、いろいろあっていいというスタンスでいます。それが働く意義につながるのではないかなと思います。

Q:シャドウイングを担当された社員さんにはどのような気づきがありますか？

学生ならではの視点で、私たちが気づかされることも多いです。私たちでは当たり前になっていることも、第三者目線で素直な質問を受けることで、自分たちがやっていたことは特別なことで、誇りをもっていいんだと感じることもありますし、学校で学んでいるブライダルの知識が年々アップデートされているので、私たちが最新の流行を学ばせてもらっていることもあります。

Q:KBC 学園では小中学生に職場体験をしていただく取り組みも行っています。ブライダル業界の職場体験のアイデアとしてどんなことがあるでしょうか。

例えば、弊社のチャペルに来ていただいて、ドレスを着ていただいたり、仕事の説明をさせていただくといったことができます。

<まとめ>

受け入れ実績

インターンシップ:専門6校、大学4大学

職場見学:中学、高校 なし

受け入れ時期

9月、10月、11月がメインで、2月、3月、5月も可能

受け入れ期間

3日間、3週間、1カ月、2カ月など要望に応じる

年間受け入れ人数

約10人

インターンシップ内容

1対1のジョブシャドウイング

専門学校や大学との事前打ち合わせの有無

インターンシップの目的や学生さんの履歴書をメールで共有のみ

インターンシップ終了後の学生評価フィードバック

なし。面接時に使用する内部資料として評価シートあり。

インターンシップ終了後の学校からのフィードバック

お礼はあるが、評価的なものはなし。

インターンシップへの要望

実習レポートの共有を望む。

インターンシップでの学びやイメージと現実の仕事のギャップが知りたい。

5.2.2 ANA 沖縄空港株式会社

ANA グループの戦略空港である『沖縄・那覇空港と新石垣空港、宮古空港』にて、ANA グループおよび国内外の航空会社の旅客ハンドリング事業から、お荷物を運ぶ貨物運送事業、機器・車両の整備・保守を行う自動車整備事業まで、空港オペレーション全般を担う。従業員数 1269 人

那覇空港・宮古空港・新石垣空港の3つの空港で、安全運航・サービスを支えます。
スペシャリスト達が責任と誇りを持って、それぞれの使命を果たしています。



旅客業務



ランプサービス業務



GSE管理・整備業務



オペレーション業務

日時:2025 年 1 月 20 日(月)17:00~17:35

場所:沖縄県那覇市 那覇空港旅客ターミナル

お伺いした方:森島様

Q:職場見学やインターンシップを受入れている学校を教えてください。

小中学校は基本的にないですが、たまに従業員のお子様が職場見学をするということはあります。
高校生は、昨年の南部商業様以外には実施した記憶がございません。
やはり専門学校や大学が中心になっています。

Q:専門学校や大学は何校くらい受け入れていらっしゃいますか？

専門学校は県内の学校で3校です。大学は3大学です。
受け入れ時期は、10 月、11 月、1 月あたりが多いです。

どちらかというと、わたしたちはインターンシップイベントを全国規模で募集し全国から来ていただいています。ですので、学校単位ではあまり行っていません。
インターンシップというと5日間以上のものでないと名乗れないので、私たちはオープンカンパニーというイベントで行い、働くイメージをつけてもらっています。

マイナビで募集をかけ、1回あたり30人で、夏休み時期と冬休み時期に行い、年間約120名ご参加いただいています。



Q:オープンカンパニーという取り組みは初めてお聞きしました。

コロナ前は航空業界はエントリーを開始するとほんとに多くの学生さんにエントリーいただいていたのですが、コロナ以降は空港で働く仕事の魅力が伝わりにくくなりエントリー数が激減しました。

学生さんもコロナ禍以降慎重に会社を選ばれていることもありますし、我々としても就職後のミスマッチによる退職を極力少なくしてあげないといけないという思いもあって、オープンカンパニーを通じて働くイメージをもっといただく機会を設けています。



Q:オープンカンパニーの参加者の中でどのくらいエントリーされていますか。

半分行くか行かないかです。

航空業界の仕事にあこがれていても、見学をしてちょっと違うとか感じられる学生さんが少なからずいらっしゃるんだと思います。

それはそれで、やってよかったと考えています。これが、入社をした後に気づいてしまうと退職しかない、それを避ける意味でも意味があると思っています。

Q:どのようなプログラム内容でしょうか。

じっくり仕事の体験をしていただく1dayプログラムと、1dayプログラムを受けられた方の中からさらに深く体験をしていただく2daysプログラムを用意しています。

※対面開催※ 航空業界を“地上から”支えるANA沖縄空港の1DAYお仕事体験

仕事体験



当社は那覇空港、新石垣空港、宮古空港において、ANAグループ便をご利用されるお客様のサポートを行う【旅客ハンドリング】と、お預けいただいたお荷物の管理や運搬、飛行機などを行う【グランドハンドリング】業務を行っている会社です。

こちらの1DAYお仕事体験は旅客ハンドリングとグランドハンドリングの両方の業務を知っていただく内容となっております。

普段飛行機を利用する際、何気なく見ている旅客サービススタッフの業務も、意外と奥が深いです。グランドハンドリング業務もなかなか間近で見える機会も少ないと思いますので、この機会にぜひ当社の業務の奥深さを体感してください！

<当日のプログラム（予定）>

- ・会社説明
- ・空港内見学（旅客ハンドリング・グランドハンドリング・貨物ハンドリング・オペレーションマネジメント
各部門の業務内容をご紹介しながら普段なかなか見ることの出来ない部分まで一通り見学頂けます！）
- ・旅客ハンドリング業務のシミュレーション
→旅客ハンドリング業務の一部を体験頂きます。
グランドスタッフが実際に訓練で使用する訓練室（トレーニングルーム）での一部
手続きシミュレーションや接客対応などについて体験頂きます。
※内容は変更になる場合もございます。
- ・グランドハンドリング業務の見学会
→航空機の駐機エリアに実際に行き、中々間近で見ることの出来ない特殊車両や業務について
見学して頂きながら現場で活躍する社員が詳しくご案内させていただきます。
- ・座談会

Q:2days プログラムの内容は1day とどう違うのでしょうか。

2days プログラムでは、2日間にわたって、現場の社員の横について過ごしてもらいます。ですので、10名弱くらいの少数で行います。

朝の朝礼(ブリーフィング)から午前の仕事、昼食、午後の仕事とずっと一緒について2日間体験・体感していただきます。

The diagram illustrates the integration of three airports: OKA (Naha Airport), ISG (Nishihara Airport), and MMY (Miyako Airport). These three airports are connected to a central box labeled 'ANA OKINAWA AIRPORT'. The background features a map of the Okinawa region with markers for Hong Kong, Taipei, and Naha. Below the diagram, a blue banner contains the text: '3 空港一体となり、沖縄地区における ANA の運航・サービスを支える' (Three airports integrated to support ANA's operations and services in the Okinawa region). Below the banner, a small text block states: '私たちANA 沖縄空港株式会社は、那覇空港・新石垣空港・宮古空港の顔として、旅客サービスや搭降載業務などの空港地上ハンドリングを担っています。安全第一に、沖縄らしいおもてなしで高品質なサービスを提供しています。' (We, ANA Okinawa Airport Co., Ltd., are the face of Naha Airport, Nishihara Airport, and Miyako Airport, responsible for passenger services and ground handling operations. We provide high-quality services with a warm Okinawan touch, prioritizing safety first.)

Q: 高校生の職場見学を行うのは可能でしょうか。

基本的に就職活動の一環としてプログラムを行っていますので、専門学校生や大学生が中心になります。高校生の見学はオープンカンパニープログラムの合間ということになると思います。時期でいうと、10、11月、1月くらいになると思います。

Q: 内容に関してはどうでしょうか。

見学だけであると、何十人でも受け入れができてと思います。ただ、社員とペアになって行うシャドウイングのような内容はやはり人数が絞られると思います。

私どもの仕事を行うには資格が必要ですので、実際のオペレーションを行うとか、飛行機を触るなどはできないので、どうしても、見学やシャドウイングになってしまいます。

Q: 例えば1時間だけのシャドウイングは可能でしょうか。

人数次第です。数人ですと可能だと思います。

Q: 学校単位でインターンシップを行う場合、学校と事前打合わせはされるでしょうか。

学校単位の時は、行います。
打ち合わせ内容は、主に服装や身だしなみに関する注意点です。
インターンシップの時に社名が入った反射ベストを着用します。一般のお客様の前にもベストをつけて出るので、金髪やピアス、ふさわしくない身だしなみなどをされると、お客様によっては新入社員と思われることもあるので、そこはお客様からみて違和感のない身だしなみをしていただきたいということです。

Q: インターンシップを行った後、学校からフィードバックなどはあるでしょうか。

お礼等はいただきますが、フィードバックなどは特にはないです。

Q: 観光系の学科の学生さんは観光を通して沖縄の発展だったり、お客様に幸せになっていただきたいという気持ちをもっている学生が多いのですが、他の学科の学生さんはどうでしょうか。

大学生に多いのですが、給料の高さや休みの多さなどで選ぶ学生がやはりいらっしゃるように思います。それがだめだというわけではないのですが、それだけで会社を選んでいくともったいないんじゃないかと思います。やはり、そこはその仕事のやりがいなどを感じていただいて選んでいただきたいなと思っています。

Q: 南部商業の見学の時に、風が強く、ジェット機の轟音の中皆さんが働いている姿を見て高校生たちはすごいと言っていました。

そうですね。それが大事だと思います。そのような決して快適ではない環境の中で、それでもやり続けている社員がいて、なぜそれがやり続けられるのか、などと感じ心を動かされて入社してきた社員もいます。

そのようなことを専門学校や大学ではなく、中学生や高校生の時に触れていけば、進路選択の幅も広がることは間違いないと思います。

専門学校や大学を進学する際に見学が活かされるのであれば、ぜひ我々としても取り組んでいきたいと思っています。

Q: 高校生にどこの仕事を見学していただきたいでしょうか？

是非、普段触れることのない、カウンター以外の仕事を見ていただきたいと思います。ハンドリングや貨物の仕事はなかなか認知されていなくて、カウンターの仕事以外の仕事のおもしろさを紹介したいです。

Q: ほんとうの裏側の仕事ですね。

日頃目にすることがない、まさにここに来ないと体験できない仕事です。

私たち人事が仕事の話をするよりも、現場の社員に話してもらうことで、高校生もより興味がわくでしょうし、社員のリフレッシュになるしモチベーションも上がります。

石垣島
開催日：2024年11月9日(土)・11月10日(日)
開催場所：石垣市中央運動公園総合体育館
申し込み締め切り：10月20日(日)
参加費：無料

沖縄本島
開催日：2024年12月14日(土)・12月15日(日)
開催場所：那覇市民体育館メインアリーナ
申し込み開始：10月15日(火)～
参加費：無料

宮古島
開催日：2025年2月8日(土)・9日(日)
開催場所：JTAドーム宮古島
申し込み開始：決まり次第お知らせします！
参加費：無料

<まとめ>

受け入れ実績

インターンシップ: 専門3校、大学3大学
職場見学: 中学なし、高校は今年南部商業で初実施。
基本的に、オープンカンパニーで全国募集が中心。

受け入れ時期

夏、冬の時期、高校生は10月、11月。

受け入れ期間

1day は職場見学や体験。2days はシャドウイング。

年間受け入れ人数

オープンカンパニーは約 120 人

専門学校や大学との事前打ち合わせの有無

実習にあたっての服装みだしなみについての注意事項

インターンシップ終了後の学生評価フィードバック

なし。

インターンシップ終了後の学校からのフィードバック

お礼はあるが、評価的なものはなし。

職場見学への要望

是非、カウンター業務以外(グランドハンドリング)の仕事を知っていただきたい。

5.2.3 琉球ホテル&リゾート

2025年1月21日(火)11:00~11:30

沖縄県糸満市 琉球ホテル&リゾート

お伺いした方 仲宗根様

Q:職場見学やインターンシップの受入状況を教えてください。

小学校、中学生、高校生に関しては、職場見学もインターンシップもありません。依頼自体がないです。ただ、地元の小学校から職業講話の依頼があり、ホテルの仕事内容などお話をさせていただいています。高校への就職説明会などでお話をさせていただくことがあります。

インターンシップとしては、専門学校生、大学生を受け入れています。

Q:1年に何校くらい受け入れをされていますか？

専門学校は調理専門学校を入れると5校です。大学は1大学です。

Q:受け入れ時期はいつでしょうか？

学校の夏休み期間(9月)、冬休み期間(2月3月)になります。

Q:受け入れ期間はどのくらいでしょうか。

一番短くて5日間、長いものは11カ月です。私たちは、無償インターンシップと有償インターンシップを行っていきまして、有償インターンシップはお給料が支払われるタイプで期間も長くなっています。



Q:無償インターンシップと有償インターンシップに関して詳しくお聞かせください。

お給料が発生しないタイプの無償インターンシップは最短5日間、最長で2週間です。
有償インターンシップは、時給正社員という雇用形態をとり、3か月以上最長11か月間来ていただいています。

Q:無償インターンシップの内容を教えてください。

期間によって異なりますが、例えばゲストサービスでは、社員についてお客様をお迎えしお荷物をお持ちしてフロントにご案内したり、お部屋までのご案内をしたりします。もちろん当社の制服を着用して行きます。

また、ハウスキーピングでは、ベッドメイキングの方法なども行うのですが、シーツを取ったりごみをまとめたりなど、ハウスキーパーがすぐにできる下準備をお願いしたりしています。

Q:例えば5日間だとすると日替わりで様々な部署を体験するという形ですか？

受け入れをするときに面談をさせていただき、なぜ当ホテルでインターンシップがしたいと思ったのか、ホテルにはいろいろな仕事がありますが、その中でどの仕事を体験したいですかなどの希望をお聞きした上で、希望に沿う内容にしていますので、日替わりで部署を体験していただくというスタイルはとっていません。



Q:有償インターンシップの内容を教えてください。

有償の方は、3カ月宿泊部門、3カ月料飲部門など、なるべく多くの部門を経験していただいています。私たちがインターンシップから将来的には当社で働いていただきたいと思っていますので、様々な部門を通してホテルで働く魅力ややりがいを感じていただきたいと思っています。

Q:有償インターンシップを経験された学生さんからのエントリー率はどのくらいでしょうか。

だいたい7割くらいです。

Q:無償インターンシップからのエントリー率も同じくらいでしょうか。

無償の方は、半々くらいです。期間が短く中にはインターンシップをやるのが目的になってしまうこともあったり、他で内定をもらっている中で受入れをしたこともありました。



Q: インターンシップを行う際、学校側からこういう事を学ばせてほしいなど、要望はありますか？

学校からの要望は特にありません。ただ、学生さんの学びたい気持ちにこたえるために、繁忙期に学生さんを受け入れると学生さんにていねいに仕事を伝えきれないこともあるので、少し落ち着いた時期に来ていただいてしっかり学んでいただけるように配慮をしています。

Q: 学生さんにインターンシップのミスマッチのようなものはないでしょうか。

専門学校の場合は、観光にかかわる学校ということで観光の勉強やこの業界で働くやりがいをよく理解していただいており、将来働きたいと考えている学生さんなので、ミスマッチはありません。

大学の場合は、いろいろな職業を体験することが目的である方もいてホテルの後は行政等でインターンシップをする学生さんもいらっしゃいますので、最終的にホテル業界に志望しない場合はミスマッチといえはミスマッチになります。

ホテルのバックオフィスでは営業部門やマーケティング部門もあり様々な職種がありますが、インターンシップをされる学生さんは接客業の体験としてホテルに来られる方が多いです。そういう意味ではホテル＝接客というイメージを固定してしまっているインターンシップになっているのが残念です。



Q:どんな学生さんにこの業界に就職してもらいたいですか。

就職先をどこにするか決める時に、給与や休みなどの待遇面を重要視する学生が増えているという話を学校の先生からは聞いています。

たしかにそれも大事ですが、「人が好き」とか、「人に何かをして差し上げることにやりがいを感じたり」とか、「観光業を通して沖縄をよくしていきたい」など、待遇面だけではなくホスピタリティ業界でやりがいを感じられる人が就職するのではないかと思います。また、そんな人が集まっているのがホテル業界だと思います。

Q:高校生の1日シャドウイングプログラムを考えているのですが受け入れは可能でしょうか。

可能ですが、先生からすすめられてきたという子ではなく、ホテル業界の仕事について自分で調べ、その中で当社でシャドウイングがしたいという高校生ならば受け入れたいと思います。



<まとめ>

受け入れ実績

インターンシップ: 専門 5 校、1 大学
職場見学: 小中高なし
小中高に関しては、職業講話を行っている。

受け入れ時期

夏休み期間(9月)、冬休み期間(2・3月)

受け入れ期間

無償インターンシップは、5日間～2週間程度
有償インターンシップは、3ヵ月以上11ヵ月まで

無償インターンシップの内容

事前に希望業務を聴き取り、希望に沿う業務を体験する

有償インターンシップの内容

3ヵ月毎にさまざまな部門(宿泊部門・料飲部門など)を経験してもらう

専門学校や大学との受け入れに際する要望

現場を体験する以外に特に要望なし

インターンシップ終了後の学生評価フィードバック

なし

インターンシップ終了後の学校からのフィードバック

お礼はあるが、評価的なものはなし。

高校生の職場見学への要望

先生からすすめられてきた、という生徒ではなく、自分でホテル業界を調べ、その中で当社の見学がしたいという高校生ならば受け入れ可能

5.2.4 JAL スカイエアポート沖縄株式会社

那覇、石垣、宮古、久米島、与那国、多良間、南大東、北大東の沖縄県の8空港で、JALグループの運航する全てのフライトの旅客サービス業務、ステーションオペレーション業務、ランプ・貨物サービス業務を担うとともに、多くの外国航空会社のフライトハンドリング業務を受託している。従業員1161人(2024年4月1日時点)。



2025年1月22日(水)10:30~11:15

沖縄県那覇市 那覇空港旅客ターミナル

お伺いした方:城間様、大城様

Q:小中学校の職場見学の受入状況を教えてください。

採用担当者として、小学生や中学生を対象とした職場見学はこれまでにご依頼や受入れを行ったことがございません。ただし、弊社では地域連携推進室の担当者にて、小学生への航空教室の実施や、中学生を対象とした職場体験を実施しています。(過去には小学生を対象に、JAL キッズエアポート OKINAWA を実施しました。)

※地域連携推進室の実施する内容の一部は、有償でご案内しております。

Q:高校生対象の職場見学やインターンシップはどうでしょうか。

弊社では、高卒採用を行っており、高校生を対象に職場見学・説明会を実施しています。また、学校からのご要望がございましたら、お時間を調整し、ご希望の時間で見学を行っています。

Q:今年度は何校くらい受け入れをされていますか？

7、8校の高校生の職場見学・説明会を行いました。

Q:受け入れ人数はどのくらいでしょうか？

高校によって異なりますが、学科での参加として20名とまっていらっしゃるところや、学校から1名受け入れをさせていただくこともございます。

Q: 専門学校の職場見学やインターンシップはどうでしょうか。

専門学校は、職場見学ではなくインターンシップ生の受入れを行っています。弊社では専門学校卒採用を行っており、基本的には、10月に早期入社をするため、夏休み期間にインターンシップ受入れのご要望をいただくことが多くございます。

受入れする専門学校数は、県内の専門学校を中心として2～3校から受入れを行い、実働5日間でインターンシップを実施しています。事前にどの部署(旅客かランプか)やどの空港での業務を体験したいかというご希望をヒアリングしたうえで調整いたします。

Q: 大学のインターンシップはどうでしょうか。

大学は、夏休みや春休みの時期に受け入れることが多くございます。

県内の大学からは2～3校、県外からは1～2校の受入れを行っています。

また、インターンシップのほかには説明会や会社見学、先輩社員との座談会等を行っています。

Baggage

手荷物受託

旅に欠かせない、お客さまの大切なお手荷物をお預かりします。お客さまのお手荷物にはさまざまな想いが詰まっています。例えば、思い出の詰まったお土産や仕事道具などには特別な包装や取扱注意タグを使って、細心の注意を払うようにします。そんな大切なお手荷物を、確実に、安全に目的地へお運びできるようにするのが手荷物受託の仕事です。



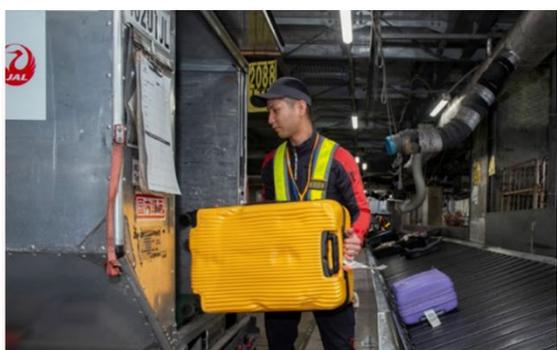
Q: 大学や専門学校のインターンシップの内容について教えてください。

社員が学生と1対1につき、業務をみながら実習生自身でも可能な範囲内の業務を体験していただきます。

旅客業務については、自動チェックイン機や自動手荷物預け機も導入され、新たにロビー業務として、機械の操作等でお困りのお客さまのサポートをする業務を経験してもらったり、お荷物をいれるボックスを補充してもらったりしています。また、ゲート業務ではお客さまの搭乗券をかぎす補助業務などを体験させています。

ただし、航空業務には制限エリアがあるため、一部業務体験の内容が限定されますが、体験可能な業務をメインに、社員に教わりながら業務体験をしていただきます。

ランプサービス業務に関しても、危険が伴うものや制限があるものを除いて、社員が教えながら、業務体験をしていただきます。



Baggage Handling

手荷物仕分け

お客さまからお預かりしたお手荷物を目的地別に用意されたコンテナへ仕分けて積み込む業務です。

このお手荷物の仕分け業務が遅れてしまうと航空機への搭載が遅れて、出発遅延に繋がります。そのため手荷物カウンタースタッフとの連携を大切に、正確に、そしてスピード感をもって取り組みます。

Q: 5日間ずっと同じ社員についてインターンシップを行うのでしょうか。

1対1で社員が学生について教えるのですが、少しでも多くの仕事を体験していただきたいので、部署は毎日変わるように調整しています。また、社員はシフトで動くので同じ社員がずっとついていてはならず、日によって指導担当の社員が変わります。

Q: インターンシップ後の学生へのフォローはどうされていますか？

基本的に学生は学校から課されている実習日誌をまとめて振り返りを行います。また、弊社では最終日に成果発表会を設け、学んだことを簡単にまとめて発表していただきます。

Q:高校生対象の職場見学のフォローはどうされていますか？

職場見学のみの実施となっているため、その後のフォローに対しては課題だと認識しております。

Q:インターンシップの改善点があるでしょうか。

参加される学生さんに対して

インターンシップには自主性とコミュニケーション能力が求められます。積極的に自ら考え、わからないことがあれば積極的に社員へ聞いたり、隙間時間には他にできる業務がないか相談するなど、自主性と積極性をもって参加していただけたら嬉しく思います。

学校に対して

インターンシップ生の評価シートを記入し、学生を指導した社員が評価をする際に、会社としての評価やコメントができていないかというところもまだ至らないところもあると感じております。

また、イレギュラーや繁忙時には評価シートがその日のうちに記入できないこともあり、先輩社員もシフト制で働いていることから、後日記入をすることが難しい場合がございます。今後は、もう少し評価シートが簡素化できればと思っております。

また、インターンシップ生が体験する仕事も変わりますし、当日の指導担当社員が日替わりで変わるため、5日間を通してインターンシップ全体の総合評価を誰がどのように行うべきか難しく感じる部分がございます。現状としましては、その日ごとに、指導する社員が違うため、私ども人事を含め対象学生の総合評価を行っております。



チェックイン

チェックインカウンターでは、お客さまのフライトの始まりをサポートします。座席指定など搭乗手続きはもちろんのこと、お客さまとの会話や表情から気持ちを汲み取り、安心してご搭乗いただけるようなお声がけを心がけています。「JALグループ便に搭乗すると気持ちよく、安心できる」そんなフライトのお手伝いをするのがチェックインカウンターの仕事です。

Q:現状ではインターンシップの総評はどうされていますか。

最終日に成果発表会を実施し、インターンシップ生が学んだことを聞き、その発表内容を含め、インターンシップの窓口である人事・採用担当者にて評価をしております。

Q:高校生の職場見学のフォローも含めたプログラムは実現可能でしょうか。

弊社でも高校生を対象に航空業界や弊社の魅力をお伝えする機会を増やしたいと考えており、私たちも高校に足を運んで、多くの学生へお仕事の内容をお伝えできればと考えております。そのため、実施内容や時間、人数にもよりますが、実現できる見込みはあると感じております。

Q:2時間程度の見学コースは可能でしょうか。

例えばランプサービスには、ランプハンドリングや貨物ハンドリングがあり航空機の駐機を誘導したり、出発の際にはプッシュバックを行ったり、その他にも荷物の仕分けや荷物の積み込みなどさまざまな仕事があります。

また、イレギュラーや遅延の可能性もございますが、2時間あれば説明を含め1機の到着からお荷物の積み込みまでの流れを見学していただけたと思います。

仕事内容はもちろんですが、現場の音や風、雰囲気などを体感していただくことができると思います。



Guidance

誘導

誘導の主な作業は、マーシャリング・プッシュバックなどです。マーシャリングとは、到着した航空機を決められた停止位置に停止するよう、パイロットの目となり、的確な指示を出す業務です。指示を間違えると、航空機同士の接触などに繋がるため、緊張感をもって臨みます。

<まとめ>

受け入れ実績

インターンシップ: 専門 2、3 校、大学は 2、3 大学。

職場見学: 高校生は、7、8 校で職場見学や説明会を行っている。

小中に関しては、地域連携推進室の担当者にて仕事に触れる機会を提供している。

受け入れ時期

大学は夏休み期間や春休みの期間に受入れをすることが多く、専門学生は 10 月からの早期入社に伴う就職活動が冬頃から開始するため、夏休みの期間に実施している。

インターンシップの内容

基本的に体験する部署は毎日変わるよう工夫している。旅客は体験が可能な範囲内で実際にお客さまのサポートを行うことがある。ランプ業務は危険が伴うものや制限があるものを除き、先輩社員と一緒に体験してもらう。

インターンシップ担当社員について

部署が変わり、シフトで社員も働いているため、日によって担当社員が変わる。

専門学校や大学との受け入れに際する要望

現場を体験する以外に特に要望なし。

インターンシップ終了後の学校からのフィードバック

後日、インターンシップ生からのレポートを共有していただくことがある。

インターンシップの改善点

貴重な体験の機会になるため、自主性を持って行動することが望ましい。

日ごとに指導する社員が変わるため、学校から求められる総合評価が難しい。

現在は成果発表会をみたインターンシップ窓口である人事・採用担当者が評価をしている。

高校生の職場見学のフォローやフィードバック

見学のみに対応となっているため、今後の課題と感じている。

高校生の職場見学の可能性

1～2名ずつではなく、ある一定のまとまった人数で職場見学を行いたい。

内容的に2時間の見学コースは十分可能。

5.2.5 琉球通運株式会社

国内物流(陸送、海上輸送、航空輸送)、国際物流(国際輸送、通関、米軍貨物)、引越移転、特殊輸送サービス、物流アウトソーシングを行う。

常温倉庫2棟、冷凍倉庫2棟、定温定湿倉庫1棟を備え、コンビニエンスストア、卸売業者、学校給食などの物流を支える県内有数の総物流企業。従業員 550 人。



2025年1月24日(金)10:00~10:30

沖縄県那覇市 琉球通運本社

お伺いした方:山入端様

Q:小中学校の職場見学の受入状況を教えてください。

小学生、中学生ともに、従業員の子どもが通学する学校の要望に応じて、社会見学や職場見学の一環として行っており広く募集をかけてやっています。

件数は年間に2,3件程度です。

荷物の到着や倉庫での作業の様子を見学していただいています。



Q: 高校生の職場見学の受入状況を教えてください。

高卒の新卒採用を行っていますので、合同説明会などで本人から要望があれば職場体験を行っています。

期間は、1～3日程度です。3日の場合は、半日を3日続けて行っています。

内容としては、様々な仕事を体験するというより、特定の部署(物流関連業務、倉庫関連業務、車両運行管理業務など)の社員について、できることを体験していただいている感じです。



Q: 職場体験に来られる高校生の印象はどうか。

これは沖縄県の特徴なのかもしれませんが、割と内向的な生徒さんが多く、人とのコミュニケーションをあまりとらず、黙々と仕事をこなす生徒さんが多いような気がします。

もちろん最初はそのような生徒さんも、入社後はコミュニケーションを取れるようにはなってきます。

Q: 専門学校はどうでしょうか。

専門学校は、県内3校から受け入れをしています。

内容は職場見学ではなく、実務を体験していただいています。期間は、9時から5時まで5日間のインターンシップです。1人の社員についてもらって、希望する部署を経験していただいています。



Q: 専門学校のインターンシップに来た学生のイントリー状況はどうでしょうか。

ほとんど就職されています。

インターンシップに来られる時点で就職を前提にして来ていただいていますのでミスマッチもありません。

Q:大学の方はどうでしょうか。

内容は専門学校とほぼ同じです。

ですが、大学生は多くの職業を体験されに来ている場合もあり、専門学校のようにインターンシップ＝エントリーではありません。だいたい2、3割くらいでしょうか。

Q:受け入れをされている時期はいつでしょうか。

特に繁忙期などに関わらず、随時行っています。



Q:受け入れ校との打合せはされていますか。

1日の業務の流れを説明させていただいて、インターンシップを行う業務の希望をお聞きしています。

Q:受け入れ担当の社員の方の経験年数は

だいたい3年以上経験のある社員に担当していただいています。

Q:インターンシップが終わった後、学生の評価はされていますか。

特に行っていません。

Q:受け入れ担当の社員の方のインターンシップ後のモチベーションの変化などを感じられることはありますか。

専門学校からのインターン生を受け入れる際、実際に業務をレクチャーする事により、自身の業務習熟度を確認できるだけでなく、実際に新入社員の指導を行う前のシミュレーションを行う事が出来るようになった。

Q:インターンシップ後、学校からの学生に関する情報共有などのフィードバックはありますか。

専門学生からインターン後に日報と感想をいただいております。

インターン生が職員の仕事に触れ何を見て何を感じ、物流業に対してどういった印象を持ったのか知ることは今後のリクルート活動や職員のモチベーションアップに多いに役立つと考えております。

Q:インターンシップの改善点

我々の仕事現場は、結構体力を使うことがあり、安全性の問題等でどこまで体験していただくことがいいのか悩むところがあります。

特に高校の場合は職場見学や職場体験の目的は生徒さんの成長ですので、そこに結びつく仕組みが作っていただければと思います。



<まとめ>

職場見学

小中に関して学校単位では行っていないが、要望があれば行っている。年に2, 3回。

高校生の職場体験

合同説明会などで希望があれば行う。期間は1～3日程度。特定の部署の社員について仕事を体験してもらう。

大学・専門学校のインターンシップ

専門学校は、県内3校から受け入れている。期間は5日間。希望する部署を体験してもらっている。大学も専門と同じ方法で行う。

インターンシップ後のエントリーについて

専門学校はほとんど当社にエントリーしてもらっているが、大学は2, 3割程度のエントリーしかない。

専門学校や大学との受け入れの時の打合せ

1日の業務の流れを説明し、インターンシップを行う業務の希望を聞いている。

インターンシップ終了後の学生評価

特にやってない。

インターンシップ終了後の学校からのフィードバック

特にない。

インターンシップの改善点

学校からのフィードバックがあるとよりよい形で受け入れができると思う。
現場は危険を伴うこともあるので、どこまで体験してもらったらよいか悩む。
高校の職場見学の目的は生徒の成長だと思うので、それに結びつく仕組みが作ればよい。

5.2.6 インターナショナルリゾートカレッジ

2025年1月24日(金)16:30~17:00
沖縄県那覇市 インターナショナルリゾートカレッジ
お伺いした方:宮城様

Q:専門学校生のインターンシップ状況を教えてください。

コースにもよりますが、基本的に1年次から職場見学、職場体験、インターンシップを取り入れて、現場の様子、仕事の流れ、概要、職場の雰囲気を経験しています。
また、最終学年の10月からは実際に企業に出勤し入社前研修を行います。



Q:インターンシップのミスマッチはありますか。

事前に学生の希望を聞き、職種に対する心構えも日頃から身につけているので、特にミスマッチのようなものはありません。

できる限り学生の希望に沿う形で送り出していますが、ただ、全員が希望するインターンシップ先や部署に行けるとは限らないので、その場合は納得して行っていただいています。

Q:就職後にイメージと違うなどのミスマッチが起こりにくいと思いますが。

学生が就職する前に職場を体験することができるのでミスマッチは少ないと思います。もし、インターンシップに行って自分のイメージと違った場合は、自身のキャリアを見直すきっかけにもなると思います。

ただ、実際に入社してみて初めて分かることもあるので、ミスマッチが全く起こらないわけではありませんが、起こりにくくなっているのは確かだと思います。



Q:インターンシップの学生評価はどのようにされていますか。

基本的に学生が提出する実習簿をもとに評価をしています。

Q:インターンシップ後の企業へのフィードバック状況を教えてください。

航空系のインターンシップの場合は、昨年からは学生と企業担当者による報告会を実施しています。



文部科学省事業 令和6年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」	
第1回 プログラム検討委員会 議事録	
開催日時	2024年7月19日(金) 15:00~17:00
会場並びに開催方法	インターナショナルリゾートカレッジ 701教室 (一部、ZOOM利用によるリモート方式)
出席者	<p>(プログラム検討委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県教育庁県立学校教育課 産業教育班 指導主事 上里 勝紀 ・学校法人 静岡理科大学 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長 立石 公平 ・学校法人KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ 事務局長 永村 勇樹 教務部長 田村 明子 教務課長 新里 玲子 教務課長 吉原 亜矢子 就職担当 宮城 良之 ・株式会社国際旅行社 取締役総務部長 山城 秀康 ・タピック沖縄株式会社 ユインチホテル南城 サポートチーム 戦略人事 次長 高橋 俊博 ・沖縄ワタベウェディング株式会社 社長室 室長 上本 貴史 ・学校法人KBC学園 地域創生室 支援部 部長 國仲 陵太郎 仲宗根 真 玉城 薫 東 知範 <p>(教材制作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社 穴吹カレッジサービス 広原 敬幸 (議事録作成) ・学校法人KBC学園 地域創生室 支援部 仲宗根 真
議題	<p>議事</p> <p>議題1 令和5年度 事業報告 について</p> <p>議題2 令和6年度 事業計画について</p>
配布資料	<p>配布資料</p> <p>資料① 2024年度 第1回【観光系】プログラム検討委員名簿</p> <p>資料② 令和5年度実績報告書(高専接続)</p> <p>資料③ 令和6年度事業計画書(高専接続)</p>
会議概要	<p>永村の挨拶後、仲宗根よりスケジュール、配布資料の確認をして新しく入った上里委員を紹介。議題1にて仲宗根より令和5年度実績報告を行った。議題2で仲宗根より令和6年度事業計画、広原氏よりキャリア教育追跡調査について説明し、委員より意見や感想を伺った。最後に仲宗根より今後の予定を確認、永村よりお礼を述べて終了。</p>

目 次	<p>議題 1：令和 5 年度実績報告書（高専接続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲宗根より資料②を使い報告 <p>感想・質問等</p> <p>（上里委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象校が中部商業高校、具志川商業高校、南部商業高校だが、観光コースのある浦添商業高校が入っていないのはなぜか。 <p>（仲宗根）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方は多くの業務を抱えているなかで、なるべく負担にならないように配慮している。毎年、実績を踏まえてきているので、今後は浦添商業にも「このような授業ができますよ」という形で負担のない範囲内で導入を検討頂きたい。 ・先ほど上里委員よりあった観光ビジネスというものが商業高校でもできれば、例えば那覇商業でもそのようなものをやってみたいとあれば、ぜひ検討させてもらいたい。そのような声が浦添商業や那覇商業からありましたら、すぐに学校へ何うので教えてもらいたい。 <p>議題 2：令和 6 年度事業計画書（高専接続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲宗根より資料③を使い説明 ・広原氏よりキャリア教育追跡調査について説明 <p>質疑・応答等</p> <p>（高橋委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先日、事前となる「キャリア教育のすすめ」にあたり、企業の代表として高校生に講話を行った。事前準備は非常に大事だと思っている。4年目になるが何気なくやってくる生徒に比べて、明らかに質が違う生徒たちが来る。現時点でカリキュラム開発の部分は、どのような方向性で考えているのか気になった。 <p>（仲宗根）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋委員の意見をお聞きしたうえで、例えば高度人材のインターンシップ生たちが事前にどのようなことを調べたか、どのようなプロセスでここに来ているのか。といったあたりがおそらく大きなヒントになるのではないかと考えている。 ・何かがきっかけとなり、それが自分にとって大事だと分かる段階があり、次に職業を選ぶために自分が何をすればよいかを考える。ネットで調べればよいか、先生に聞けばよいか。そういえばインターンシップがあるって言っていたな。といった感じで連動していくプログラムが必要だと思っている。 ・私たちが高校で行う講話も「仕事の大切さ」だけの話ではなく、その後の進め方やインターンシップ後、もしもう1度行けるとしたら何が必要だと感じたかといった形で、小さな火種を大きな炎にしていく、1度ついた火を消さないといった部分が大切なというイメージを持っている。 <p>（高橋）</p>
-----	--

・まさにその通りである。先日、企業側の思いや、なぜ働くのかといった動機部分の火をつけてくれないかという依頼を受けて、急遽行ってきた。話のあったように火をつけるプログラムが大事だと感じている。

(立石委員)

・インターンシップやジョブシャドウイングの期間によって学んでくることも違う。やはり送り出す側の事前指導によって、何を学んでくるのかを明確化していく。アンケートにもあったよう、基本的なものやマナーの必要性といった社会人としての重要性もわかるが、さらに一步踏み込み、観光人材となった場合や、送り出す側と受け入れ側の打ち合わせ、何のために実施するのかといった計画の部分が必要になってくると思う。インターンシップを通し生徒たちに何を学んでほしいかを明確化していくことが重要かと思う。

・若者の進路選択が早まる点で言うと、私にも高校2年の娘がいて進学のことを考える。中学3年ごろから将来の職業を問う面談が始まる。ホテルでの就職を目指しているが、私自身がホテルでの仕事が長かったのでその影響を受け、将来そちらの方向へ行くという「親の影響」が非常に働くと感じる。子どもたちだけではなく、親の業界に対する理解も重要になると思う。

(仲宗根)

・インターンシップ前に行う生徒への動機づけなど注意して行っていることについて教えてほしい

(立石)

・コロナ禍が明けて、インターンシップの再構築を行っている。コロナ禍前でいうと事前学習に3コマ程度とっていた。事前学習用の冊子を作り、言葉使い、会社での過ごし方、得た情報、配られたプリントなどの処理、仕事後に先輩らと食事に行った際にお客様について話をしないといった会話内容といったさまざまな内容で事前学習を行っている。

・個人面談では目標シートを作り、インターンシップでつきたい力などの目標を記入して、人事を通して現場のマネージャーに渡してもらっている。マネージャーとも現場に受け入れた子たちが目標通り前向きに頑張っているかを確認しながら、ワンオンワンや仕事に関するフィードバックしてもらっている。1カ月を基本とし、企業側のお世話になっている。マネージャーからスコアやコメントを書いてもらった目標シートを返却してもらったら、今度は私たちが面談を行い今後どうするかを話す。

・学校側と企業側の意図する点が異なると思う点がある。私たちは教育的視点でお願いしており、企業側とも話をを行い教育の一環として現場の方にも受け入れてもらっている。

(仲宗根)

・高校でインターンシップに行く前の準備期間や内容について教えてほしい

(上里)

・昨年度までいた那覇商業高校では2年生の全クラスで一学期は全てインターンシップに向けて行っていた。立石委員からもあったよう、冊子を作り、マナーや挨拶の方法、メモの取り方など全般を7月の開始に合わせて、だいたい5月から実施していた。課題研究という授業が多い学科で週二時間、少ない学科でも一時間あったので、この時間で準備する。

・マッチングによって全てが決まると感じる。高校生は幼く、行きたくない時は態度に出てしまうのでこの点はしっかりやらなければと思う。高校生と専門学校生の違いを感じた。来年からはインターンシップが全校必須でなくなる。選択になるので普通高校は少なくなると思う。

(仲宗根)

・高校でも以前に比べて取り組みが進んでいるようだが、体験した生徒の様子はどうか

(上里)

・普通高校についてはわからないが、商業高校なのでマナー等は行う。高校生が一番ショックを受けてくるのは「仕事内容」である。思っていたものと違う、本当に忙しいという点を肌で感じてくる。とても良いことだと思う。受け入れる大人も理想と現実はしっかりさせ、ウェルカムではなく、しっかりとした気持ちを持って、子どもたちにはインターンシップに臨ませることが良いと思う。付いて見るジョブシャドウイングとは違う。修学によるインターンシップで実際に働いてみて、自身の進路選択で判断材料にしてくれたらいいと思う。

(仲宗根)

・企業側の経験等も教えてほしい

(高橋)

・多くの受け入れを行っているホテルだと思う。プログラムがセット化しているところがあり、私が中心に行っている。高校生をすぐに現場へ入れることはせず、はじめに説明を行う。フロントはジョブシャドウイングで忙しい様子を見せてもらう、レストランでは就業体験をってもらう、できればこのような仕事をしている様子を見せてほしい、といった点を含めて対応している。終了後も私が振り返りを行う「インターンシップパック」といったなかでフォローはできていると思う。

・過去に比べ学生たちの質が良くなっている。逆に素直になりすぎているので、もうちょっとやんちゃな部分を見せてくれてもいい感覚もある。すごくお利口だところ最近感じている。

(上本委員)

・そんなに多く受け入れているわけではないが、見ていてあまりアクションなく帰っていくパターンを多く感じる。これからのカリキュラム編成にあたりアンケートを取ることもあるだろうが、アンケートに答える側はツール等による自己分析をしているのか。実際の状況はどうなっているのか。

(仲宗根)

・先ほどのK P Iの部分で、このアンケートは2年生に行ったが、将来の仕事を決めているか、家族と話しているか、という点では2年生の1学期では、進路についてしっかり考えている生徒がかなり少ない。全国に比べても沖縄は少ない。しかし以前は進路を決めないうま高校を卒業してしまう子もかなりいたが、劇的に改善されている。どこかにぐっと上がる、考えるタイミングがあると個人的に印象を受けている。

(上本)

・リクナビなどに登録を行うと無料の自己診断ツールがついてくる。それによりリクルートにはどんどんデータが蓄積されていく。自分自身を解って答えた方が解答の精度が高まると思った。私たちが新入社員に対し、1,500円程するストレングスファインダーという本を買い、自分の結果をみんなと話し合い、自分の得意分野を伸ばしていく方法をとっている。費用はかかるが、自身の気づきとなる機会を入れられると良いと思う。

全体を通しての感想等

(上本)

・以前、西原高校で行ったアンケートで観光系を希望する子が 145 名中 2 名しかいないという衝撃的な結果を聞いたが、今回も同じような結果が出ていた。給与、所得面を上げていくことも同時にやらないといけない。また、そういった意識を向けてもらえるように頑張らないといけないことを改めて思った次第である。

(仲宗根)

・昨日、ある大学で観光系学科の学生が、学年が上がるにつれて観光系の職種を目指す割合が減っていくという話を聞いた。まずは現実を受け止め、しっかり魅力を伝えられるプログラムと一緒に考えて頂きたい。

・減ってしまう理由として、給与を含めた条件面が考えられる。またそれ以外の面で耳にすることは、正しくない情報、イメージによって判断しているのではないだろうかという印象を持った。時間はかかると思うが、高校生や大学生、またその親御さんに対して情報を伝えることが大切だと思う。

(高橋)

・年々プログラムが学校に落とし込まれ、実装に向かっていっているところが見え始めた。実際に生徒に向けた授業も行い非常に楽しみなプログラムだと感じている。

・観光業界へ行きたがらない様子を身に迫るようになってきている。先日小中学校でマナー講習を頼まれ、とにかく楽しそうな大人を演じた。「なぜいつもニコニコしているのだろう」といった感じの部分をとにかく伝え続ける。インターンシップに来た学生にも必ずこの仕事のよいところ、お客様の笑顔のお手伝いをする仕事だから、世界一楽しい仕事であること、平日は映画館に並ばず観られるといった土日が休みでないことは悪いことではない、といった言葉を変えながら伝えている。

・まずは地域、ホテル周辺の子どもたちだけでも良い印象を持ってもらいたいと思う。非常にフィールド解決型に期待している。去年、一昨年と佐敷中学校の P B L 授業でユインチホテルのお客さんを増やすにはどうすればよいか、2 年目はどうやったら南城市を加えられるかを考えてもらった。さとうきびを農家から買って、ホテルで絞る体験をするというプランが出た。さすがにできなかったが、いろいろと地域の子どもたちに落とし続ける、一緒に考えると観光業やこの地域は楽しいと絶対思ってもらえる。こういった授業が膨らみ、誇りを持ってもらえるようなプログラムになる事を望んでおり、協力させてもらいたい。

(山城)

・アンケートの結果より、企業と学生の思惑がどのように違う所がある点が参考になった。また 34 名中 10 名ほどが公務員や I T といったなかで、旅行が残っていてよかったと思った。なぜ公務員が 1 番にあるのか、I T なのかといった彼らの持っている情報はどこで蓄積し、このアンケート結果になったのか興味を持った。

・浦添商業高校の国際観光科を卒業して台湾の大学に留学した子や、今後も沖縄国際大学の学生などからインターンシップに来る。来る目的や学んできた内容、将来目指すものが違うなかで企業と学生の思惑をどのようにすり合わせるか、うまく職業教育、キャリア教育、観光の人材として我々がどのようにお手伝いできるかなどを改めて考える内容だった。

(上里)

・初めて参加したが素晴らしいプログラムと思った。特に授業のコンテンツが充実しており、私も那覇商業高校にいたらやりたかったと思う。嬉しかったのは「キャリア教育」という言葉が出ていたことが本当に印象的であった。

・現在、就職を担当しており産業教育課でキャリアビルドアップという事業を行っているが、まさにその1つである。おそらく高橋委員が行っている高度人材のものは仲村主事かと思う。これら4つの事業をリンクさせて、キャリア教育をしっかりとさせていこうとしている。これまでは1、2年生はまだキャリアが全然発達しておらず3年生から動き始めて、就職もぜんぜんできないという流れがあった。この事業を令和4年度から実施して今年で3年目になるが、どのようになっていくか楽しみにしている。この場でもキャリア教育の大切さが出ており、やはり沖縄県の課題と改めて感じ、再確認できた。

・私自身も商業高校出身なので、ぜひこのプログラムを広げ、観光に従事する人材を育てたいと思った。これまでに1年間ではあるが、ホテルの予約課で働いていた。結構華やかで楽しかったことを授業でも話をしていた。第二回も楽しみにしている。

(立石)

・観光業界の仕事に対するイメージの誤解を解くことはすごく大事だと思った。また高橋委員が話していた、業界に関わる人間が自分の仕事に誇りを持ち、楽しく仕事をしているところを見せていくことはすごく大切と思った。私も賛成である。コロナ過が明け、観光業界を目指す人材が足りていない点は全国規模の問題になっている。まず、この沖縄での取り組みが全国に先駆けるものとして解決の糸口になればいいかと思っている。

・今後の予定について (仲宗根)

第2回 プログラム検討委員会

日程：2024年11月15日(金) 15:00~17:00

会場：インターナショナルリゾートカレッジ

第3回 プログラム検討委員会

日程：2025年1月17日(金) 15:00~17:00

会場：インターナショナルリゾートカレッジ

その他：本日の参加お礼(永村)

以上 委員会を終了する。

Zoomにて参加した委員と、会場の様子



文部科学省事業 令和6年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」	
第2回 プログラム検討委員会 議事録	
開催日時	2024年11月15日(金) 15:00~17:00
会場並びに開催方法	インターナショナルリゾートカレッジ 701教室 (一部、ZOOM 利用によるリモート方式)
出席者	<p>(プログラム検討委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校法人 静岡理科大学 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長 立石 公平 ・学校法人 KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ 事務局長 永村 勇樹 教務部長 田村 明子 就職担当 宮城 良之 ・株式会社国際旅行社 取締役総務部長 山城 秀康 ・タピック沖縄株式会社 ユインチホテル南城 サポートチーム 戦略人事 次長 高橋 俊博 ・沖縄ワタベウェディング株式会社 社長室 室長 上本 貴史 ・JALスカイエアポート沖縄株式会社 地域事業推進室 室長 金城 かおり ・学校法人 KBC学園 地域創生室 支援部 部長 國仲 陵太郎 東 知範 <p>(教材制作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社 穴吹カレッジサービス 広原 敬幸 <p>(議事録作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校法人 KBC学園 地域創生室 國仲 陵太郎
議題	<p>議 事</p> <p>議題1 令和6年度 事業実施 中間報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証授業 職業イメージ変容調査報告 ・職場見学 実施報告 ・観光系学生キャリア教育 アンケート報告 <p>議題2 事業に関する意見交換</p>
配布資料	<p>配布資料</p> <p>資料① 2024年度 職業イメージ変容調査報告 ダイジェスト版</p> <p>資料② 2024年度 職場見学 実施報告</p> <p>資料③ 2024年度 観光キャリア教育アンケート ダイジェスト版</p>
会議概要	<p>國仲の挨拶後、永村よりスケジュール、配布資料を確認。議題1にて広原氏より資料①～③を使い令和6年度 事業実施の中間報告、途中で休憩をとり委員より質疑等を受けた。議題2では事業に関して委員と意見交換、感想等を承った。最後に永村より今後の予定を確認、國仲よりお礼を述べて終了。</p>

目 次	<p>議題 1：令和 6 年度 事業実施 中間報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広原氏より資料①～③を使い報告 ・田村より実証授業、職場見学の感想等を報告 <p>感想・質問等</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎実証授業 職業イメージ変容調査報告 ◎職場見学 実施報告 <p>(田村委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア育成に対し、より効果を得るためにはホテルやブライダル、旅行といった業界が連携して初めに職場見学、次に職業のやりがいを知る講話、ジョブシャドウイングといったように段階的にプログラムへ反映すると良いと思う。他の委員からも意見を伺いたい。 <p>(高橋委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内でキャリア教育を担当し、そういった「仕掛け」もやっているつもり。生徒との打ち合わせでは初めに私に対応し、当社の見どころをあえて説明している。現場ではお客さまだけではなく、職員から「ありがとう」と言われた回数も数えてもらう。この職業で 1 番のやりがいは「人から喜ばれること」であり、チームで働く点を意識してもらっている。 ・また自分事として捉えがちなので、従業員がどのような顔をして働いているか見るように伝え、最後に意見をもらうようにしている。事前の仕掛けは現場でもできる範囲であると思う。必ずその点を伝えてからスタートしている。 <p>(山城委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備品や制服などを見ても「旅行」というイメージは湧きにくい。高橋委員の話聞いて「なるほど」と感心した。また旅行も空港やホテルなど何かと関連づけることでイメージしやすくなるのではと田村委員の話聞いて感じた。 <p>(高橋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マナー講話など事前準備として学校へ呼ばれることがある。その際に仕事のやりがいなどを話すようにしている。そういった意味で段階の部分ではできていると思うが、先ほど話した「視点」まで踏み込んでいる公立の学校は少ないと思う。田村委員や山城委員の考えは非常に良いと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ◎観光系学生キャリア教育 アンケート報告 <p>(永村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 校共に「オープンキャンパス」の項目が高く、特に静岡は「体験入学」も高い。内容を分けて行っているのか？ 内容等についても教えてほしい。 <p>(立石委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の違いだけで、同内容と考えている。法人としては「オープンキャンパス」で統一をしているところ。内容はコース説明、設立の経緯や学校が大切にしているビジョン、教職員が共通して持っている教育に対する思いなどを 30 分ほど説明。その後に希望の学科を 1 時間ほど体験。内容は座学や実技など毎回異なる。その中で学科のディプロマポリシーや学習・実習内容、取得する資格などを 20 分ほど説明する。最後に全体会場に戻り入試や就職の説明をして質問を受け
-----	--

る。サポート役の学生がおり、出迎えから案内、見送りまで1人ひとりの高校生・保護者をケアできるようにしている。

(高橋)

・アンケート結果にはコロナ禍の影響があると思うがどう考えているのか？

(広原氏)

・インターンシップは1～2年生で実施することが多いので中止になってしまった世代。おそらくそういった点も結果の数字に反映していると思う。

(永村)

・本校の希望者にはキリスト教学院大学への進路も考えている人も多い。授業や広報などで大学との差別化している点があれば教えてほしい。

(立石)

・当校への入学理由は主に「語学」「ホスピタリティ」「専門性」となっている。専門性の高さを大切にし、それらと同じく考えているものが語学とマナー教育。マナー教育のなかにホスピタリティ教育を入れている。この3つが当校の強みであり、基本となる2本柱で保護者と高校生に向けて広報している。

・教職員全員が業界出身者。プロフェッショナルとしてのマインドを含め、毎年ブラッシュアップの研修を企業に協力してもらい実施している。教職員1人ひとりが大学との住み分け、また専門教育に集中していく意識を持って授業・広報活動を行っている。今回の結果は私たちが狙っている部分であり、結果が目に見えてよかった。

(高橋)

・宿泊業界に関する興味について、専門的に学べる i r c が他の2校の80%以上に比べて57%と低くなっている。この点はどう考えているか？

(田村)

・当校の学生はエアライン科が中心という点が結果の数字になっていると思う。先ほどの意識調査にもあったが、やっと修学旅行などに行けるようになり、ホテルやブライダル、観光といったホスピタリティ業界に興味を持つきっかけができ、高校生からもそういった声が聞けるようになった。コロナ禍に比べて変わってきていると感じ、ここから増えていくと思う。

・このアンケート結果は「入り口」であり、この意識が卒業時にどう変化しているか。興味があり、希望する業界で就職しているかを比較できればより精度の高い結果がわかると思う。当校の学生は自身の希望する業界にやりがいを見出し、就職している点は間違いない。こういった人たちを集め、育てていくところまで繋げていきたい。コロナ禍の影響は大きく受けていると感じる。

(山城)

・業界、職種に興味や関心という点で、語学を使う仕事は2番手となっている。飲食やツアーガイドなど語学を使用する職業は多様性がある。1学年で語学を使う仕事のランキングが高いという点は職業へのイメージがまだ完成していない状況と考えているがどうか？

(立石)

・当校には英語を中心に中国語や韓国語といった第二外国語を学ぶグローバルビジネス学科があるが、他の学科に比べて一段階遅れていると感じる。分野は通関、貿易、カーゴ系で、主な就

職先は事務系やホテルや航空会社など接客系。語学を学びながら並行して職業観を養っている認識がある。

(國仲)

・語学に関し、企業が就職時に臨むレベルはどの程度か？

(高橋)

・ホテル業界において、語学は出来るに越したことはない。翻訳アプリなどを使うことで対応できることも増え、かなり改善されストレスは減ったもののお客さんの安心感は全く違う。少なくとも英語、ある程度で構わないので第二外国語ができる方は間違いなく望ましい。インバウンドも増え続け、現場からも声が上がりがつある。

(山城)

・旅行業の場合、旅行の管理や緊急対応といった場合で語学力は求められるが、旅先での交流といったシーンではジェスチャーのレベルでも良いと思う。当社が台湾の小学生を招いたハンドボール大会では教育機関とのやり取りなどで語学力が必要だった。また専門性が高い語学力が必要な事例として、海外で飛行機の乗り継ぎで遅延が発生した際、当社の職員が現地の航空会社と電話で直接やり取りしたことがあった。

(上本委員)

・コロナ禍により、語学が求められる結婚式が一気に無くなった。以前の採用では英語や中国語の求める基準があったが、今は全くない。観光業界ではインバウンドが戻ってきているが、ウェディング分野には依然戻ってきておらず、語学を發揮できる場がない。しかし確実に戻ってくるので対策は必要である。当社にはハワイやホテル分野にグループ企業があるので、語学を發揮したい職員はそちらで活躍してもらっている。

(金城委員)

・空港が職場となるので語学力は必要。国際線を希望する人は語学に強い方が多い。意外と国内線でも外国語を使用することが多く、学んでおけばよかったという声も上がっている。採用時に語学力を第一に求める人材像としているが、チームワークや明るくお客さまと接することができるといったマインドレベルも重視している。語学力は欠かせない。
・現在、ポケットクといった翻訳機を現場に導入し、語学ができないから仕事もできないという環境にしないようにしている。しかし職員と直接対話できたお客さまは安心して出発されるので、やはり語学力は欠かせない。

議題 2：事業に関する意見交換

質疑・感想等

(立石)

・100%の方がオープンキャンパスに参加しているなかで当校の魅力を伝えることもあるが、まずは職業の魅力をしっかり伝えていきたい。また多くの学校に足を運んで自身に合った学校を選んでほしい。これからも職業の魅力をしっかり伝えていきたい。

・職場や学校の見学は機会がなければなかなか行くことができない。中学や高校を含め、こういった機会をできる限り早いうちで用意できれば良いと思った。本校も依頼があった場合には快く協力できる環境を整えたい。

(高橋)

・アンケートの結果に「今どきの若者」という感覚が表れていると感じた。以前に比べてお利口な子が増え、自分からグイグイ来るタイプが減っていると感じている。

・学生たちからは職場見学やインターンシップが勉強になった、希望したい、といった結果だったがコロナ禍から進学校を中心にインターンシップのプログラムが削られている。これは逆行であり、学校は止めてはしくない。とても重要なプログラムである。商業高校など専門高校だけではなく、普通高校にもこのようなプログラムは必要だと改めて感じた。

(山城)

・資料③にあった現場で働く普段のリアルを見学したい、一緒に働いてみたい、といった声は我々が業界で提供できるインターンシップの1つだと思う。また働くことの辛さや喜びについて学びたかったという部分まで考えている事に感心した。学校とも連携し、限られた期間で伝えることができるかプログラムを検討したい。

(上本)

・アンケートの結果で「常に人からどう見られているか意識すること」という数字が高かった。この世代は自分の意見をあまり言わない人が多いが、改めて現場で働くスタッフを見て「やらなければいけない」と思ったと感じた。

・沖縄の観光産業を含め、人を育てるには体験学習や職場体験といった授業が高校でも必要だと強く感じる。

(金城)

・今後、当社でも職場体験の回数を増やした方が良いと感じた。また上本委員と同様、人から見られる意識に関して何も感じていないような社員もいるなか、学生たちがこういった点を持ち始めていることは驚いた。

・体験は座学に比べて与える影響が大きい。中学校からも職場体験の依頼があり、今後は増えると思う。空港という特殊な環境なので課題も多いが、できるだけ多く受け入れられるよう考えていきたい。

(高橋)

・観光分野はコロナ禍で大きな打撃を受け、学生たちのイメージにもいろいろな変化があった。盛り返してきている実感があり、今後もイメージは大きく変化すると思う。頃年でしっかり終了する事業は非常に良いと思う。コロナ禍が明けた今日、観光の意味を考える良い機会と感じる。

(山城)

・データを元に委員の方々と多くの意見やアイデア、情報を交わし具体的に対策を考えながら、より深く関わりたいと思う。

(上本)

・当社へ本島近隣や宮古島などから中学生がジョブシャドウイング来るが、その後の効果がどうだったか気になる。田村委員からあったよう、段階を踏まえて深堀していく機会があれば非常に良い。受け入れをしっかりと行いたいと感じた。

(金城)

・アンケートで航空業界の数値が高かったのは嬉しい。反面、シフトの形態などで3年目に転職を考えてしまう現状もある。いかに長く勤めてもらえるかを考えないといけない。

・今回は対象が高校生だったが、中学生の声も聞いてみたいと思った。以前、中学生の職場体験を受け入れた際、保護者を招いた発表会があった。その発表を通じて、コロナ禍後の様子を知ってもらえた。空港関係の仕事はもう無いという認識が保護者に広まり、航空業界を希望する子どもの進路に不安を持つことがある。このような場を増やし、学生や保護者に観光業に対する安心とこれからの未来を知ってもらいたい。

・今後の予定について (永村)

第3回 プログラム検討委員会

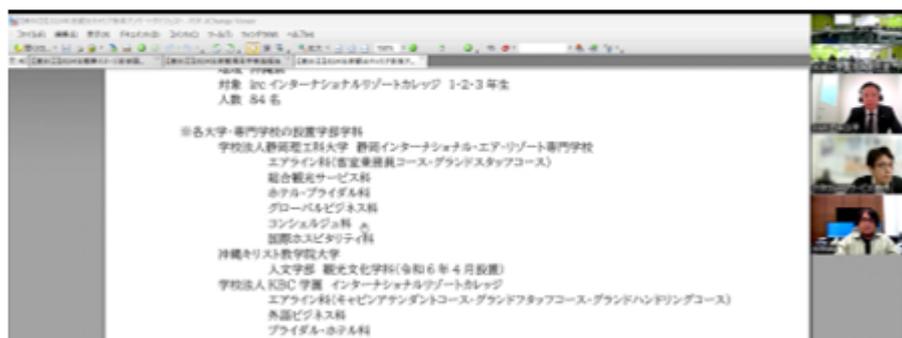
日程：2025年1月17日(金) 15:00~17:00

会場：インターナショナルリゾートカレッジ

その他：本日の参加お礼(國仲)

以上 委員会を終了する。

Zoomにて参加した委員と、会場の様子



文部科学省事業「令和6年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」」	
第3回「プログラム検討委員会」議事録	
開催日時	2025年1月17日（金）15:00～17:00
会場並びに開催方法	インターナショナルリゾートカレッジ701教室（一部、ZOOM 利用によるリモート方式）
出席者	<p>（プログラム検討委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県立具志川商業高等学校 教諭 大城 圭恵 ・学校法人 静岡理工科大学 静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校 教務課長 立石 公平 ・学校法人 KBC 学園 インターナショナルリゾートカレッジ 教務部長 田村 明子 ・学校法人 KBC 学園 インターナショナルリゾートカレッジ 教務課長 新里 玲子 ・就職担当 宮城 良之 ・株式会社国際旅行社 取締役総務部長 山城 秀康 ・タピック沖縄株式会社 ユインチホテル南城 サポートチーム 戦略人事 次長 高橋 俊博 ・沖縄ワタベウエディング株式会社 社長室 室長 上本 貴史 ・JAL スカイエアポート沖縄株式会社 地域事業推進室 室長 金城 かがり ・学校法人 KBC 学園 地域創生室 支援部 部長 國仲 陵太郎 ・ 東 知範 （教材制作） ・穴吹カレッジサービス 広原 敬幸 （議事録作成） ・学校法人 KBC 学園 地域創生室 支援部 仲宗根 真
議題	<p>議事</p> <p>議題1 観光系大学専門学校のキャリア教育実態調査報告書</p> <p>議題2 令和6年度事業実施報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証授業について ・制作教材について
配布資料	<p>配布資料</p> <p>資料① 2024年度観光系大学専門学校のキャリア教育実態調査報告書ダイジェスト版</p>
会議概要	<p>田村の挨拶後、仲宗根よりスケジュール、配布資料を確認して大城委員を紹介。議題1にて広原氏より資料①を使い観光系大学専門学校のキャリア教育実態調査結果を報告。委員より質疑等を受けた。議題2では仲宗根より令和6年度事業実施の報告を行い、委員より質疑、感想等を承った。最後に仲宗根より今後の予定を確認、田村よりお礼を述べて終了。</p>

目 次	<p>議題 1：観光系大学専門学校のキャリア教育実態調査報告書</p> <p>□・広原氏より資料①使い報告</p> <p>感想・質問等</p> <p>(高橋委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験することの大切さを感じた。昨日沖縄女子短期大学の学生をジョブシャドウイングで受け入れた。職場体験より働く従業員を見てもらうことを重視し、子育てをしながら働く女性マネージャー等 3 名のキャリアを見てもらった。観光に興味がない学生だったが、終了後はとても楽しかったと話していた。消極的な理由で来ていたがイキイキとした顔であった。 ・学校と繋がりながらこのような機会をもっと持ちたい。学生の視点が変わる事を感じた。今後も続けるべきだと身を持って体験した。 <p>(山城委員)</p> <p>□・報告から積極的に自分の将来について真剣に向き合っていることが分かった。昨年から就職のプロセスや動向を把握するために県内の大学を訪問している。進路や就職活動の方法はパンフレットや動画を信頼しきって行っていると同った。観光系学生は積極性が高いと知った。</p> <p>(上本委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就活フェアのような高校生を対象とした大学や専門学校が集まる場はあるのか？ □もっと気軽に自由に話を聞ける機会があったらよいと思った。 <p>(仲宗根)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテルの会場で各学校がブースを設けて話をする場や、直接高校の教室で行うこともある。 <p>(金城委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果では航空業界への興味や関心が高く、強い希望があるという数字が 50%を超えているが実際に説明会を行うとブースに来る学生は少ない。どちらが正しいのだろうかと感じてしまう。体験を希望する学生は多いので、内容やどのように興味を持ってもらうか毎年考える部分である。 <p>(仲宗根)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のアンケート実施先が観光系に興味が高い学生が多い点が結果に出たと思う。高校生が接する「大人」は家族や先生など限られる。空港等で働く親戚などがいると興味が寄っていくと思う。中学生あたりまで広げて世の中の仕事をもっと知るきっかけ作りが必要だと感じる。 <p>(大城委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校外での活動や体験はハードルが高く限られてしまう。フィールドワークなどはたくさん行いたいがなかなか難しいジレンマがある。 ・感想の中に「ホテルで働くことの良い点、悪い点を直接聞きたい」とあった。生徒の中にはアルバイトを通じて体感している子もいる。キツイと感じたらすぐに「ブラック」という発言をするが、やりがいも話してくれる。 ・高橋委員からあった沖縄女子短期大学との取り組みは、キャリア形成など将来を考える上でとても良い。大学や専門学校の学生から挙げたニーズは高校から少しずつ行っていくことで繋がる感じた。学校でも進路やキャリア形成活動で参考にしたい。
-----	--

(立石委員) ←

- ・アンケートの回答者は将来の進路を考え、専門的知識をある程度持っていると思う。「自身の将来を考える場合、どのような機会があると良いか」といったアンケートを高校生に対して実施しても良いのでは。現実的なヒントに近づくと感じる。←
- ・一定の知識や経験が無いと想像やイメージすることが難しい。体験することの大切さを感じる。我々も学校だけでなく、企業力を借りてより実践に沿った授業を進めることが大切。←
- ・「何も知らない」ということを前提にして授業やキャリア教育を行うことが大事だと実感した。コロナ過の影響で自身も子どもたちをどこへも連れていくことが出来なかった。彼らは携帯電話等を通じて多くの情報を得ているが自分自身の体験ではない。このような「生きた体験」をさせたい。←
- ・当校の学生もホテルや結婚式場で多くアルバイトをしている。アルバイト先での指導方法や意味については細かく説明してもらえないこともある。アルバイト先での経験と我々からのアドバイスでうまく活かせるのではと感じる。アルバイトは重要である。←

(仲宗根) ←

- ・立石委員からあったアルバイトの話はとても良い制度だと感じた。こういった情報を共有しながらプログラムに反映できそうな部分は導入していきたい。←

←

議題2：令和6年度事業実施報告←

- ・ 仲宗根よりP Pと制作教材を使用して事業実施とコンソーシアムの連携状況を報告←
- ・ 田村より実証授業の様子を報告←

←

質疑・感想等←

(高橋) ←

- ・中学校などから人材育成やキャリア教育等で要望があった際は、断らずに受けている。しかし繋がっていないのではと感じる。入社してほしい気持ちもあるが、観光人材が育ってほしい思いと観光業界は思っている以上に楽しいという点をとにかく伝えたい気持ちで行っている。私の授業を受けた子どもたちが当社の入社試験を受けに来てくれることを最終的な目標にしている。しっかり点と点が繋がり、線となる教育が本当に良いと体感している。←

(仲宗根) ←

- ・過去に本校の美容系教員が美容室の無い北大東島の小学生を対象に美容師の職業体験を行った。その体験をきっかけに美容師を目指し入学してきた経緯がある。高橋委員の思いは伝わっていると思う。←
- ・ジョブシャドウイングやインターンシップが大切だと考えプログラム構築を行っているが、近年インターンシップを実施する高校が減っていると聞いた。状況を教えてほしい。←

(大城) ←

- ・コロナ過の影響で3～4年は中止になっている。なかなか受け入れ先が難しいといった理由もあると思う。インターンシップに代わるものを各高校で取り組んでいる。←

- ・実施できていた頃は3日間という短い期間ではあるが、生徒たちも希望して行っていたのでイキイキとした顔であった。コーディネーターを通じて生徒自身で訪問先を選んでいく。興味があるのですごく勉強になるという生徒もいる。←
- ・リゾート観光科の生徒ではあるが、半数以上が観光系に就職するわけではない。週末にホテルでアルバイトしている生徒もいるが、高卒就職する子はそこまでいない。多くは専門学校や大学へ進学する。就職希望の生徒には応募前に企業見学を行っている。実際に雰囲気を見てから応募を決めている。これがジョブシャドウイングに近いのではと感じる。←
- ・本校では「総合的探究の時間」で具商デパートという取り組みを約30年行っている。生徒が入学時に1,000円を出資して株主となり当日は全員に役割がある。3年間積み上げることでインターンシップに代わる企画として取り組んでいる。←
 - ・先日、観光系の会議に参加した際に県やコンベンションビューローがさまざまな企画を行っていることを知った。これら情報を取りまとめて高校へ伝えてもらえると進路指導がやりやすい。私たちまでそのような情報の共有ができていない。←
- (高橋) ←
 - ・委員会では報告される細かい調査結果は、とても良い内容で自身の学びにもなる。せっかくの良い取り組みが縦割りで横の連携が繋がっていないと思う。単発で終わらず業界にも共有して巻き込んで次年度も観光人材の育成に繋がってほしい。←
- (山城) ←
 - ・この委員会では得た情報をどのように社内や業界へコミュニケーションをとりながら伝えるか取り組んでいる。採用に関してもプログラム構築がスタートした4年前に比べると変化していると実感している。アンケート結果からも観光業界への強い興味が出ている。旅行業からも働きがいや体験といった取り組みを形にしていきたいと考えている。←
- (上本) ←
 - ・先日、沖縄リゾートウェディング協会の企画で県外の専門学生4名を県内4社でインターンシップを行った。修学旅行の変更など体験が少ない世代であると感じた。中高生時に体験や多くの大人と関わることができると良いと改めて感じる。私たちも協力していきたい。←
- (金城) ←
 - ・委員会を通じ、生徒たちの考えや興味の有無を知ることができ有意義な場であった。また他業界での取り組みは今後の参考にしたい。←
 - ・今月、コンベンションビューローの依頼で中学2年生を対象に職業紹介の依頼を受けた。このような情報を連携し、多くの業界で実施出来れば良い。高校生だけでなく、中学生にも職業を知ってもらう機会をもっと増やしていきたい。空港での体験は難しい部分もあるが、なるべく受け入れられるように実施していきたい。←
- (大城) ←
 - ・観光業界で頑張してほしいという期待も込め生徒たちには人材が不足している点や、今学んでいる観光の知識が大切であることを話している。←

- ・生徒たちには近い先輩たちから多くの情報を得ている。コロナ過により就職がほぼ無かった時期がある。少し上の世代が楽しく働いているプラスで前向きな情報を多く発信してもらえると嬉しい。先輩インタビューの動画教材はとても良い。生徒たちにも伝えたいので教材開発をお願いしたい。←
(立石) ←
- ・積み重ねの大切さを実感している。得たデータ、人間関係が本当の宝になっていくと思う。昨年の12月から静岡県でも観光客を取り込む勉強会が始まった。そこでの課題も人材育成と確保をどうするかであった。委員会で得た経験をどのように伝えられるか感じている。←
- ・本校の学生は約8割県外へ就職する。県外で経験を積んだ卒業生との関係も引き継ぎたい。静岡県に戻り、再び県外へ転職する流れも少しずつできている。新卒だけではなく、中途採用からも人材確保に繋がると良いと思った。←
- ←
- ←
- ・令和7年度事業の予定について(仲宗根) □←
第1回□プログラム検討委員会←
□□□日程：2025年7月11日(金) 15:00～17:00←
□□□会場：インターナショナルリゾートカレッジ←
- ←
- その他：本日の参加お礼(田村) ←
以上□委員会を終了する。←

Zoomにて参加した委員と、会場の様子←



令和6年度文部科学省委託
「専修学校による地域産業中核人材養成事業による委託事業」

沖縄・観光分野における
有機的高専連携プログラム開発・実証事業

令和6年度 事業報告書

令和7年2月
学校法人KBC学園 インターナショナルリゾートカレッジ
〒901-0155 沖縄県那覇市金城 5-8-60